

秋田県文化財調査報告書第229集

曲田地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書II

——家ノ後遺跡——

1992・12

曲田地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

いとのうしろ
——家ノ後遺跡——

1992・12

序

本県には、先人の遺産である埋蔵文化財が数多く残されています。この埋蔵文化財を保護し、後世に伝えてゆくことは、私たちの務めであります。

このたび、曲田地区農免農道整備事業で路線の一部が、家ノ後遺跡を通過することになりました。このため本教育委員会は、工事に先立って道路工事にかかる部分の遺跡の発掘調査を実施いたしました。

調査の結果、縄文時代の土壙墓や粘土採掘坑などを検出し、捨て場からは多くの土器・石器などが出土し、当時の生活の一端を明らかにすることができました。

本報告書は、これらの調査成果をまとめたものであります。本書が埋蔵文化財の保護のために広く活用され、同時に郷土の歴史資料として役立てば幸いです。

最後になりましたが、本調査の実施並びに本報告書の刊行に当たり御援助、御協力をいただきました秋田県農政部、北秋田農林事務所、大館市教育委員会、比内町教育委員会をはじめ関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

平成4年12月1日

秋田県教育委員会

教育長 橋 本 頸 信

例　　言

1. 本報告書は、曲田地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書の2冊目の報告書である。
2. 本報告書は平成3年度に調査した大館市所在の家ノ後遺跡の調査結果を収めたものである。
3. 本書の執筆は、第4章第1節基本層序、第2節と第4節の土器・土製品、第6章の土器・土製品は柴田陽一郎が、それ以外を谷地薰が行い、小山内透、藤岡光男、石川真一の協力を得た。
3. 出土土器の胎土と土坑底面から採取した粘土の分析は秋田大学鉱山学部高島勲教授にお願いし、結果について玉稿をいただいた。
4. 発掘調査および遺物整理にあたって、下記の方々からご指導・ご助言を賜った。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略、五十音順）
秋本信夫　板橋範芳　及川良彦　可児通宏　上條朝宏　工藤利幸　酒井重洋　鈴鹿良一
高橋與右衛門　館野孝　千田和文　能登谷宣康　林謙作　藤井安正　八木光則

凡　　例

1. 各遺構に付している略記号は以下のとおりである。
S I(竪穴住居跡) S K(土坑) S D(溝状遺構) S N(焼土遺構) S X(性格不明遺構)
2. 遺構の番号は検出順に通し番号とした。精査段階で欠番となったものもある。
3. 土色の表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修　財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に掲載した。
4. 掘図中の遺物実測図と拓本は土器・土製品と石器類に分け、それぞれ通し番号とした。石器類の番号にはSを付した。図版中の遺物もそれにしたがった。
5. 石器観察表中の単位は、長さ、幅、厚さがcm、重さがgである。
6. 文章中および表中の法量の推定値は()で表示した。
7. 石器実測図の1点鎖線は、破断面を表している。
8. 掘図中のスクリーン・トーン、シンボルマークは以下のように使い分けた。これ以外のスクリーン・トーン、シンボルマークは各図中に凡例を示した。

	焼土		粘土	● 土器
	ベンガラ		石器の磨面	▲ 石器
	アスファルト		搅乱・石器の新しいキズ	

目 次

序

例言・凡例

目次・表目次・図版目次

第1章 はじめに		1
第1節 調査に至るまで		1
第2節 調査の組織と構成		1
第2章 遺跡の立地と環境		2
第1節 遺跡周辺の地形・地質		2
第2節 歴史的環境		3
第3章 発掘調査の概要		9
第1節 遺跡の概観		9
第2節 調査の方法		9
第3節 調査の経過		10
第4章 調査の記録		15
第1節 基本層序		15
第2節 遺物の分類基準		19
1 土器・土製品		19
2 石器類		27
第3節 検出遺構と遺物		31
1 整穴住居跡		31
2 土坑		45
3 溝状遺構		94
4 焼土遺構		107
5 性格不明遺構		112
第4節 遺構外出土遺物		128
1 掘て場出土遺物		128
2 表土及び捨て場以外出土遺物		201
第5章 自然科学的分析		229
第1節 粘土及び胎土の化学分析結果		229
第2節 家ノ後遺跡から産出した花粉化石		232
第3節 家ノ後遺跡より産出した大型植物化石		238
第4節 土器内底部から産出した植物遺体		240
第5節 放射性炭素年代測定		241
第6章 まとめ		242

図版

表 目 次

第1表 周辺遺跡一覧表	6	第13表 石器観察表(7) 円盤状石製品②	227
第2表 B類土坑遺物出土状況一覧表	50	第14表 石器観察表(8) 円盤状石製品③	228
第3表 B類土坑の推定頭位方向一覧表	51	第15表 家ノ後遺跡自然科学的分析一覧	230
第4表 層位別器種別石器類出土数一覧表	133	第16表 X線マイクロアナライザーによる土器及び原土の化学分析結果	230
第5表 分類別石器出土数表	134	第17表 原土(試料番号1~3)から石英20%	230
第6表 捨て場2 層別土器組成表	140	%を差し引いて再計算した化学分析値	230
第7表 石器観察表(1) 磨石①	221	第18表 家ノ後遺跡から出土した花粉化石の組成表	236
第8表 石器観察表(2) 磨石②	222	第19表 家ノ後遺跡より産出した大型植物化	
第9表 石器観察表(3) 磨石③	223	石一覧表	238
第10表 石器観察表(4) 磨石④ 凹石①	224		
第11表 石器観察表(5) 凹石②	225		
第12表 石器観察表(6) 凹石③	226		

円盤状石製品① 226

図 版 目 次

図版 1	1 遺跡遠景 道日本スキー場から (南→北)	3 S K58土坑 (北→南)
	2 遺跡遠景 道日本スキー場から (南→北)	4 S K59土坑断面土層 (西→東)
	3 遺跡近景 旧国道103号から (南西→北東)	5 S K59上坑炭化材出土状況 (南→北)
	4 遺跡近景 (南東→北西)	6 S K59土坑底面の粘土層 (南→北)
	5 段丘堆積物各層 (西→東)	7 S K61土坑断面土層 (西→東)
図版 2	1 調査区中央部のB類土坑群 (東→西)	8 S K61土坑底面の粘土層 (南→北)
	2 調査区東側 調査前 (西→東)	図版 9 1 S K63土坑遺物出土状況 (南西→北東)
	3 調査区東側のA類土坑群 (西→東)	2 S K64土坑遺物出土状況 (北→南)
	4 調査区西側 調査前 (東→西)	3 S K66・67上坑粘土層状況 (南西→北東)
	5 調査区西側のE類土坑群 (東→西)	4 S K66上坑 (南→北)
図版 3	1 S I95A堅穴住居跡 (南→北)	5 S K67土坑 (南→北)
	2 S I95A堅穴住居跡 (北→南)	6 S K68土坑 (南→北)
	3 S I95B堅穴住居跡断面土層 (西→東)	7 S K71土坑 (北→南)
	4 S I113堅穴住居跡 (北→南)	8 S K71土坑遺物出土状況 (北西→南東)
	5 S D138溝状構造 (西→東)	図版10 1 S K71土坑遺物出土状況 (南東→北西)
	6 S N129焼土遺構断面土層 (西→東)	2 S K71土坑遺物出土状況 (南→北)
	7 S X62性格不明遺構出土状況 (北→南)	3 S K89上坑 (北→南)
	8 S X107性格不明遺構出土状況 (北→南)	4 S K89上坑遺物出土状況 (南→北)
図版 4	1 S K01土坑器出土状況 (南西→北東)	5 S K99十坑遺物出土状況 (西→東)
	2 S K01土坑小型土器出土状況 (南→北)	6 S K109土坑遺物出土状況 (東→西)
	3 S K11土坑土器山上状況 (北→南)	7 S K109上坑 鉢の中の土器 (南東→北西)
	4 S K15十坑断面土層 (西→東)	8 S K119土坑断面土層 (西→東)
	5 S K32土坑 (南東→北東)	図版11 1 沢 (N RS1グリッド) 断面土層 (南→北)
	6 S K35上坑 (北→南)	2 沢 (N Q49グリッド) 断面土層 (南→北)
	7 S K44土坑 (北東→南西)	3 捨て場2 (NOライン) 上部の土層 (南西→北東)
	8 調査区東側のA類土坑群 (南東→北西)	4 捨て場2 (NOライン) 下部の土層 (南西→北東)
図版 5	1 S K36・37・38・39・54土坑 (北→南)	5 捨て場2 (5層) 遺物出土状況 (東→西)
	2 S K37土坑石製品出土状況 (西→東)	6 捨て場2 (5層) 遺物出土状況 (南→北)
	3 S K49土坑 (南→北)	7 作業風景 (南→北)
	4 S K53土坑 (北西→南東)	8 台風19号で倒壊したプレハブハウス (南東→北西)
	5 S K55土坑 (南西→北東)	図版12 家ノ後遺跡出土土器 (1)
図版 6	1 S K56土坑 (粘土探査坑) (西→東)	図版13 家ノ後遺跡出土土器 (2)
	2 S K56土坑 (粘土探査坑) (東→西)	図版14 家ノ後遺跡から産出した花粉化石 (1)
図版 7	1 S K56土坑からかき出されていた 粘土塊 (西→東)	図版15 家ノ後遺跡から産出した花粉化石 (2)
	2 S K56土坑中央部 (南西→北東)	図版16 家ノ後遺跡から産出した花粉化石 (3)
	3 S K56土坑底面の粘土層 (南→北)	図版17 家ノ後遺跡の大型植物化石
	4 S K56土坑底面の土器出土状況 (北→南)	図版18 試料No.10の表面写真と灰燼写真
	5 S K56土坑調査風景 (東→西)	図版19 試料No.11の断面写真と灰燼写真
図版 8	1 S K58上坑 (西→東)	図版20 試料No.12の表面写真と灰燼写真
	2 S K58土坑断面土層 (西→東)	

第1章 はじめに

第1節 発掘調査に至るまで

曲田地区農免農道は、大館市曲田・中山両地区の農業合理化を目的とした曲田字沢口から中山字児沢に至る全長3.3kmの道路である。

本農道の計画路線内には埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることから、県農政部北秋田農林事務所は、文化財保護法に基づき秋田県教育委員会に遺跡調査の依頼を行った。秋田県教育委員会はこれを受けて、平成元年度に計画路線内の遺跡分布調査を行い、路線内に係る周知の遺跡を1箇所確認した。さらに平成2年度に試掘調査可能な地点について分布調査を行い、新たに家ノ後遺跡と上聖遺跡の2遺跡を発見した。

この遺跡分布調査の結果を受けて、平成2年度には家ノ後遺跡と上聖遺跡の範囲確認調査を実施し、両遺跡の範囲内に計画路線が通ることが明らかになった。これらの遺跡の保存について、秋田県教育委員会は原因者と協議の結果、記録保存の措置をとることで合意し、平成3年5月13日～6月8日に上聖遺跡、同6月10日～11月15日に家ノ後遺跡の発掘調査を実施した。

第2節 調査の組織と構成

所 在 地 秋田県大館市曲田字家ノ後96-2外

調 査 期 間 平成3年6月10日～平成3年11月15日

調 査 面 積 2,800m²

調 査 主 体 者 秋田県教育委員会

調 査 担 当 者 谷地 薫（秋田県埋蔵文化財センター学芸主事）

柴田 陽一郎（秋田県埋蔵文化財センター文化財主任）

総 务 担 当 佐田 茂（秋田県埋蔵文化財センター主査）

（現 秋田県立農業科学館主査）

皆川 清（秋田県埋蔵文化財センター主査）

佐々木 真（秋田県埋蔵文化財センター主任）

調査協力機関 秋田県北秋田農林事務所

大館市教育委員会

比内町教育委員会

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡周辺の地形・地質

家ノ後遺跡が存在する大館市は秋田県の北東部に位置し、東は鹿角郡小坂町と鹿角市、南は北秋田郡比内町、南西は北秋田郡鷹巣町、西は北秋田郡田代町に接し、北縁は青森県との県境となっている。市域は大きくは標高200~800m前後の山地と標高40~100mの盆地とから成る。前者はいわゆる出羽山地の一部で、北西側に白神山地、東側に高森山地、南西側に摩当山地が存在する。後者は断層による陥没盆地で、内部には米代川・長木川・下内川・犀川等の河川が存在し、これらの河川の營力によって大館段丘地や低地が形成されている。

家ノ後遺跡は大館市南部の河岸段丘上にある。大館盆地周縁には米代川とその支流によって形成された段丘が発達し、高位から第1段丘~第5段丘に区分されている。遺跡は中位の第3段丘上に立地する。この段丘面は開上段丘とも呼ばれ、構成層は鳥越輕石質火山灰層の河成二次堆積物である。遺跡周辺の段丘や低地の基盤層は第4紀の未固結堆積物である。調査区内の東側では、風化した花崗岩の大礫を主体とする礫層の上に、層厚20~50cmの小礫層・粗砂層・粘土層が間にに入るシルト層が3~5m水平に堆積し、その上を厚さ1~2mの黄褐色火山灰土が覆う。礫層とシルト層は不整合で、著しい凹凸がある。シルト層中の粘土層は不透水層で、粘土層の上面には著しい鉄分の沈着がみられる。また、粘土層中にも鉄分の小粒が含まれている。調査区西側では礫層を覆う土の主体がシルトではなく砂層となる。間に薄い粘土層とシルト層をはさんで、粗砂層・細砂層の互層が3~4m堆積し、その上を黄褐色火山灰土が覆っている。

遺跡北方及び南方の山地は主に新第3紀の大滝層と大葛層及び火山性貫入岩類からなる。☆片石器の原料となる頁岩が含まれるのは大滝層である。大滝層は油田地域の女川層に酷似し、硬質泥岩と浮石凝灰岩との互層をなして遺跡北方の高森山地に広く分布している。

遺跡の西側では北方の鞍掛山（標高484.4m）東麓から高森山地を下刻して南流する数本の侵食谷が、段丘を開析して南側の十二所先行谷低地へ流れ込んでいる。遺跡の占地する段丘面は、この侵食谷によって西側を区切られ、西側の侵食谷にはさらに東西方向の小枝谷があり、西に向かって張り出す舌状台地となっている。舌状台地は南北約70m、東西約250mで、中央部の標高は91~92m、台地上と南側の段丘崖下の沖積地との比高差は約15mである。

遺跡の西側の侵食谷は、沖積地への出口でせき止められて溜池となっており、通称「ダイガクツツミ」と呼ばれている。この溜池をつくる際の土取り跡が調査区西端部に残っている。舌状台地の付け根にあたる東側は若干高い。調査区内の台地上はほぼ平坦である。南側の段丘崖

は急傾斜で、表土があまり発達せず、斜面の下部では疊層が露出している地点もみられる。

参考文献

秋田県『秋田県総合地質図幅 大館』 1973(昭和48年)

秋田県農政部農地整備課『土地分類基本調査 大館』 1986(昭和61年)

第2節 歴史的環境

今回の家ノ後遺跡の調査では縄文時代前期、中期、後期、晩期の土器が出土し、縄文時代晩期の竪穴住居跡と土坑、焼土遺構、溝状遺構などを検出した。ここでは、家ノ後遺跡の周辺にあって発掘調査され、類似した様相を呈する縄文時代の遺跡を中心に概観する。古代、中世の遺跡については『大館市史』第一巻を参照されたい。なお、文中（ ）内の数字・記号は第1図、第1表と対応し、文献⑯に掲っている。

大館市と比内町には合計164箇所の遺跡が知られている。家ノ後遺跡周辺の縄文時代の遺跡は第1図の範囲で25箇所で、家ノ後遺跡（B）を含めて13箇所が発掘調査されている。いずれも米代川と犀川が形成した河岸段丘や低丘陵地などの、沖積地を見下ろす高台に立地する。

縄文時代早期の土器は、家ノ後遺跡の北西3.8kmの山館上ノ山遺跡（4-71）、東1.4kmの鳶ヶ長根IV遺跡（4-123）、南西2.3kmの横沢遺跡（12-13）で出土している。いずれも貝殻沈線文系の土器である。山館上ノ山遺跡は前期から中期の集落跡で、地点を換えながら円筒下層a式期から円筒上層b式期までの竪穴住居跡が検出された。前期の捨て場からは膨大な量の遺物が出土したが、茂屋下岱式土器群の編年的位置付けが明確でないこともあって前期前葉の土器の様相は不明な点が多い。円筒下層式土器群は、他の多くの遺跡からも出土しているが、それ以前の前期前葉の土器は鳶ヶ長根IV遺跡と上聖遺跡で、早期末から前期初頭らしい土器が少数出土しているにすぎない。

中期前葉までは山館上ノ山遺跡や家ノ後遺跡の北西2.2kmの本道端遺跡（12-19）にみられるように集落が形成されたことがわかるが、中期中葉の住居跡は検出されていない。円筒上層c～e式土器の出土も比較的少ないが、このころから大木系土器の出土例が増加する。大木8a式、8b式土器は横沢遺跡、本道端遺跡などで出土している。横沢遺跡ではさらに中期後葉の住居跡が検出されている。大木9式土器、中の平Ⅲ式土器は本道端遺跡や山館上ノ山遺跡などでも出土している。家ノ後遺跡ではわずかに大木10式並行期の土器が出土した。大木10式並行期から後期初頭にかけての遺跡は隣接する上聖遺跡のほか、本道端遺跡があり、発掘調査によって集落跡であることが明らかにされている。

後期前葉では、家ノ後遺跡の南3.5kmの大日堂前遺跡（12-7）、東2.7kmの萩峰遺跡（4-81）、

山館上ノ山遺跡などがあり、発掘調査により集落跡であることが明らかにされている。これらの遺跡や薦ヶ長根IV遺跡、上聖遺跡では袋状土坑を含む土坑群が検出されている。

家ノ後遺跡の構造、遺物の主体は晩期である。発掘調査によって晩期の土器が出土し、住居跡や土坑群が検出された遺跡には薦ヶ長根Ⅲ遺跡（4-122）、山館上ノ山遺跡がある。家ノ後遺跡では、これらの遺跡からの出土遺物量をはるかに上回る量の遺物も出土し、晩期の周辺遺跡と比較して特に目立つ存在である。

家ノ後遺跡調査区の主な性格は晩期の墓域と考えられる。米代川流域には、後・晩期の墓域と考えられる著名な遺跡が多い。上流域では、後期に属する国の特別史跡大湯環状列石及び大湯環状列石周辺遺跡（鹿角市）、高屋館跡（鹿角市）、小坂環状列石（小坂町）、晩期の玉内遺跡（鹿角市）、中流域では晩期の山館上ノ山遺跡（大館市）、矢石館遺跡（田代町）、藤株遺跡（鷹巣町）、下流域では晩期の柏子所貝塚（能代市）などがある。これらの他、前期～中期の配石墓が数多く検出された狐岱遺跡（森吉町）もある。狐岱遺跡では、多数の堅穴住居跡も検出され、墓域と集落が近接しているが、他の遺跡では集落と墓域が分離する傾向がうかがえる。また、墓域の様相は後期においては大湯環状列石にみられるように、配石を伴う墓壙が環状に配列され、墓域を共通する集団の強い規制を推測させる。晩期では、土壙墓が多くなり、重複する墓壙も多い。

家ノ後遺跡調査区の上墳墓群は、出土土器から晩期前葉と考えられる。同じ頃、配石墓が主体の玉内遺跡、石棺墓主体の矢石館遺跡と土壙墓主体の藤株遺跡、山館上ノ山遺跡、柏子所貝塚が営まれており、家ノ後遺跡調査区は後者の系列に含まれる。今後、配石墓や石棺墓と土壙墓の違い、地域による違い等を明らかにし、葬制の変遷をたどろうとするとき、今回の家ノ後遺跡調査区も晩期の墓域の代表的な例のひとつとして、研究の対象となろう。

ところで家ノ後遺跡と隣接する上堀遺跡のある舌状台地の西方には、東西1.5km、南北約500m、標高85m～92mの台地が広がっている。この台地は、南北方向に延びる中山沢の沖積地への出口付近から東に入る3本の沢によって区切られ、東から西に延びる細長い舌状台地が3列連なる地形となっており、周知の7遺跡が存在する。これらの遺跡はいずれも未発掘であるが、遺跡の内容が明らかになれば、十二所から山館に至る米代川右岸の河岸段丘や低丘陵地に立地する遺跡が、地理的には連続して解明されることになり、当該地域の縄文時代の様相がより明確になるものと考えられる。曲田地区農免農道の路線は最も北側の舌状台地（冷水山根台地）を通る計画であり、今後埋蔵文化財の保護に留意した対応が必要である。

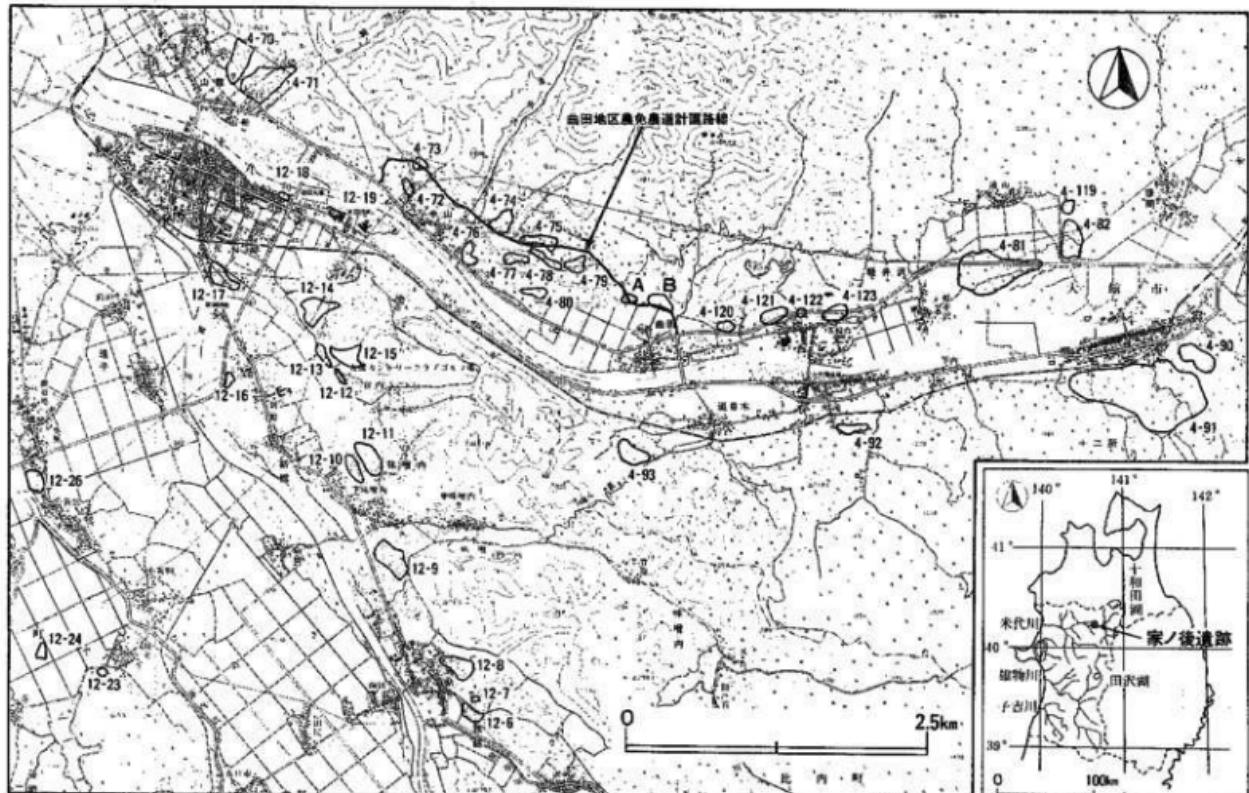
註 山館上ノ山遺跡は合計7回の発掘調査が行われ、様々な遺跡名で報告されている（文献②③⑤①⑦⑨⑩）。本書は最近の大館市教育委員会による詳細分布調査（文献⑬）及び秋田県教育委員会作成の遺跡地図（文献⑭）に拠った。

参考文献

- ①比内町教育委員会 『真館緊急調査報告書』 1973(昭和48年)
- ②大館市教育委員会 『大館市山館「上ノ山遺跡」発掘調査報告書』 大館市史編さん調査資料第15集
1975(昭和50年)
- ③秋田県教育委員会 『秋田県遺跡地図』 1976(昭和51年)
- ④比内町教育委員会 『谷地中「船」遺跡発掘調査報告書』 1978(昭和53年)
- ⑤大館市史編さん委員会 『大館市史』 第一巻 1979(昭和54年)
- ⑥秋田県教育委員会 『国道103号線バイパス工事関係遺跡発掘調査報告書』 秋田県文化財調査報告書
第84集 1981(昭和56年)
- ⑦秋田県教育委員会 『秋田県の中世城館』 秋田県文化財調査報告書第86集 1981(昭和56年)
- ⑧比内町教育委員会 『人口営前遺跡発掘調査報告書』 1982(昭和57年)
- ⑨比内町教育委員会 『比内町埋蔵文化財調査報告書 本道端遺跡』 1986(昭和61年)
- ⑩秋田県教育委員会 『味噌内農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－袖ノ沢遺跡・横沢遺跡－』 秋田県文化財調査報告書第169集 1988(昭和63年)
- ⑪秋田県教育委員会 『国道103号大館南バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 I - 上ノ山
1 遺跡・上ノ山II 遺跡 -』 秋田県文化財調査報告書第173集 1988(昭和63年)
- ⑫秋田県教育委員会 『国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 II - 上ノ山II 遺跡第2
次調査 -』 秋田県文化財調査報告書第193集 1990(平成2年)
- ⑬大館市教育委員会 『秋田県大館市遺跡詳細分布調査報告書』 1990(平成2年)
- ⑭秋田県教育委員会 『国道103号道路改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 IV - 上ノ山I 遺跡第2
次調査 -』 秋田県文化財調査報告書第211集 1991(平成3年)
- ⑮秋田県教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第217集 1991(平成3年)
- ⑯秋田県教育委員会 『秋田県遺跡地図(県北版)』 1991(平成3年)
- ⑰文化財保護委員会 『大湯町環状列石』 1953(昭和28年)
- ⑱鹿角市教育委員会 『大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告書(1)～(8)』 鹿角市文化財調査資料29・31
・32・33・35・39・42・43 1985～1992(昭和50～平成4年)
- ⑲秋田県教育委員会 『西山農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書VI - 高屋館跡 -』 秋田県
文化財調査報告書第198集 1990(平成2年)
- ⑳小坂町環状列石調査課 『小坂環状列石墳墓』 1969(昭和44年)
- ㉑秋田県教育委員会 『玉内遺跡発掘調査報告書 - 国道282号改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査 -』
秋田県文化財調査報告書第171集 1988(昭和63年)
- ㉒奥山潤 『縄文晩期の祖石棺』 考古學雑誌第40巻2号 日本考古學會 1953(昭和28年)
- ㉓秋田県教育委員会 『藤株遺跡発掘調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第85集 1981(昭和56年)
- ㉔能代市教育委員会 『柏子所貝塚発掘調査報告書』 1972(昭和47年)
- ㉕秋田県教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第201集 1990(平成2年)
- ㉖大野豊司 『孤岱遺跡について - 1989年の範囲確認調査から -』 秋田県埋蔵文化財センター研究
紀要第5号 1990(平成2年)
- ㉗秋田県教育委員会 『仙台地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 I - 上野遺跡 -』
秋田県文化財調査報告書第219集 1992年(平成4年)

編番	遺跡名	所在地	種別	要説	遺構・遺物	所有者	文獻
4-70	山	大船市山越字扇の上	住居跡	縄文時代後期中期、中期後期	土器類、中世鐵鏃頭		⑦⑧
4-71	山越上ノ山	大船市山越字上ノ山	住居跡	縄文時代後期中期、土坑、フクスコ状ビット、平安時代後期、鎌文時代初期	大船市教育委員会	②③④⑤⑥⑦ ⑫⑬⑭⑮	
4-72	毛	大船市中山字毛添	遺跡	縄文時代中期後期	田耕痕		⑪⑫
4-73	瓦	大船市中山字瓦民	遺跡	縄文土器	壁柱		⑪⑫
4-74	零	大船市中山字零民	遺跡	縄文時代中期、円筒上層	高茎植物		⑪⑫
4-75	冷	大船市曲田字冷水山登	遺跡	縄文時代中期後期	石器	相模村	⑪⑫
4-76	野	大船市曲田字野尻	遺跡	縄文土器	石器		⑪⑫
4-77	野尻	大船市曲田字野尻	遺跡	縄文土器	石器		⑪⑫
4-78	野尻	大船市曲田字野尻	遺跡	縄文土器	石器	高茎植物	⑪⑫
4-79	野尻	大船市曲田字野尻	遺跡	縄文土器	石器		⑪⑫
4-80	下	大船市曲田字下野	遺跡	縄文土器	石器		⑪⑫
4-81	保	大船市保字保	遺跡	縄文時代後期中期後期	土器類、柱頭瓦、筒瓦、瓦当	大船市教育委員会	⑥⑦⑧
4-82	橋井沢新居	大船市橋井沢字新居	遺跡	縄文時代後期	土器類		⑪⑫
4-83	十二所古墳	大船市十二所字古墳	古墳	縄文時代後期	土器類、中世鐵鏃頭	大船市教育委員会	⑪⑫
4-84	十二所	大船市十二所字台	古墳	縄文時代後期	土器類、中世鐵鏃頭	大船市教育委員会	⑪⑫
4-85	大	大船市十二所字古	古墳	縄文時代後期	土器類	大船市教育委員会	⑪⑫
4-86	山	大船市山越字山崎	古墳	縄文時代後期	土器類	大船市教育委員会	⑪⑫
4-87	井	大船市井字井口	古墳	縄文時代後期	土器類	大船市教育委員会	⑪⑫⑯
5-1	上	大船市曲田字上	古墳	縄文時代後期	土器、砂器、鐵鏃頭、鐵劍頭	大船市文化財センター	⑫
4-121	高	大船市蛭井字高	古墳	縄文時代後期	土器、高茎植物	大船市教育委員会	⑥⑦⑧
4-122	高	大船市蛭井字高	古墳	縄文時代後期	土器、高茎植物	大船市教育委員会	⑥⑦⑧
4-123	高	大船市蛭井字高	古墳	縄文時代後期	土器、高茎植物	大船市教育委員会	⑥⑦⑧
12-6	低	北内町施字大日堂前31号	墓	埴輪	第、生髮(乍見)		⑩
12-7	大日堂	北内町施字大日堂前31号	墓	埴輪	壁穴住跡、磨砍石器、土坑、内茎土器片、土器片		⑩⑪
12-8	十	北内町施字大日堂前22号	墓	埴輪	山形・櫛形、第、空軸		⑦⑩
12-9	旗	北内町施字21号	遺跡	縄文土器片	石器		⑩
12-10	堆	北内町味噌内下合38号	遺跡	縄文土器片	堆	紀伊道鏡、縄文土器片(便器)	⑩
12-11	内	北内町味噌内中合5号	遺跡	縄文土器片	堆	縄文土器片(便器・便器)	⑩
12-12	堆	北内町宿内施・中合3-2号	遺跡	縄文土器片	堆	手形堆・壁穴住跡、土坑、隕石、鐵鏃頭、柱頭瓦、土器片	経営農文化財センター ⑩⑪
12-13	堆	北内町福字長良3号	遺跡	縄文時代後期	壁穴住跡、平安時代後期、土器、土器片		経営農文化財センター ⑩⑪
12-14	大	北内町福字南大径8号	遺跡	縄文土器片	堆	縄文土器片(直面)、土器片	経営農文化財センター ⑩
12-15	井	北内町福字横路13号-2号	遺跡	縄文土器片	堆		⑩
12-16	武	北内町新字真庭100-1号	遺跡	堆	壁穴住跡、土坑、土器、土器片、鐵器片、縄文土器片(直面)	大船市教育委員会	⑩⑪
12-17	北	北内町福字西1号	遺跡	縄文・毛織	遺物、毛織		⑦⑩
12-18	市	北内町福字木造施4号	遺跡	縄文土器片	宅地・櫛形		⑩
12-19	本	北内町后字木造施4号	遺跡	宅地	壁穴住跡、土坑、瓦石遺構、縄文土器片(平底・直面・中面・袋足)	北内町教育委員会	⑩⑪
12-20	小	北内町新字小堀18-1号	遺跡	縄文土器片	山形	縄文土器片(直面)	⑩
12-21	谷	北内町谷造中字谷造中26-21号	遺跡	水田	壁穴住跡、鐵土器、縄文土器片(直面・袋足)、土器片、漆器片		⑩⑪
12-22	茅	北内町吉田字茅田8-4号	遺跡	堆	壁穴住跡、鐵土器、縄文土器片(直面)		⑦⑩
B-1	家	大船市曲田字家	古墳	縄文時代後期	土器、土器片	大船市文化財センター	本宮

第1表 周辺遺跡一覧表



第1図 家ノ後遺跡の位置と周辺の遺跡分布図



第2図 遠藤周辺地形図

第3章 発掘調査の概要

第1節 遺跡の概観

家ノ後遺跡は西に張り出す舌状台地上にある。発見された遺構の配置や地形から、遺跡の範囲は舌状台地全体に及ぶものと推測される。

今回の調査地点は舌状台地の南縁にあたる縁辺部の一部と南側の斜面で、調査面積は2,800m²である（第2図、第3図）。調査区の西側で幅約3～7m、深さ約2～3mの沢の一部が検出された。この沢は台地の南縁から南側の急崖を流れ下り、南側の沖積地へ開口する。

発掘調査の結果、竪穴住居跡4軒、土坑112基、溝状遺構2基、焼土遺構5基、性格不明遺構2箇所を検出し、縄文土器104,822点、石器類5,628点が出土した（第4図）。

竪穴住居跡は、後期末葉が1軒、晩期前葉が3軒である。晩期前葉の2軒は重複している。土坑のうち45基は、ベンガラの散布・形態・埋上の状態・遺物出土状況から、縄文時代後期末から晩期前葉の土壤墓と考えられるものである。また、4基は粘土層を掘り込んでいること、形態・埋土の状態・出土遺物から、縄文時代後期末の粘土採掘坑と考えられる。土壤墓は台地南縁の張り出し部に3～11基の群を形成する。

台地縁辺は突出部と沢目が連なった波状を呈し、その沢目部分には特に遺物の多いところが2箇所あり、縄文時代の捨て場と考えられる。一方には2層、他方には6層の遺物包含層の重なりがある。

土器は、後期末葉から晩期前葉が主で、前期前葉、中期末葉、弥生前期も少量ながら出土した。後期末葉（瘤付上器）から晩期前葉（大洞B C式）の中でも主体となるのは大洞B式である。遺構内の一括出土遺物や、捨て場の層位的出土状況から、該期の器種のセット関係がある程度判明した。

石器類では、円盤状石製品、石剣、岩版等の非実用利器が多く出土した。

第2節 調査の方法

発掘調査はグリッド法を採用した。調査区の設定方法は、調査区内の任意の点1箇所（国家座標第X系X = 23968.941、Y = -17278.602）を選定し、これをグリッドの起点MA50とした。MA50から真北を求め、それから15度東へかたよった方向をグリッドの南北基線とした。この南北基線及びそれと直交する東西基線から、4m × 4mのグリッドを設定し、25箇所の杭を仮

レベル原点とした。グリッド杭には、東から西に向かって東西方向を表すLT・MA・・・MT・NA・・・NT・OA・・・ODというアルファベットと、南から北に向かって南北方向を表す46・47・・・・の2桁の数字を組み合わせた記号を記入し、4m×4mの方眼杭の南東隅をグリッドの名称とした（第3図）。MA50グリッドにおける磁北は南北基線から23度50分東にかたよっている。グリッドはさらに中を4分割し、2m×2mの小区を設定した。小区は北西小区をA、北東小区をB、南西小区をC、南東小区をDと呼称した。

遺物は、遺構外出土のものは、出土グリッド・小区・出土層位・遺物番号・出土年月日を記入し、遺構内出土のものは、出土遺構名・出土層位・遺物番号・出土年月日を記入したラベルとともに取り上げた。基本的に竪穴住居跡・性格不明遺構は十字に土層観察用のベルトを残し、四分割して調査した。土坑・焼土遺構・溝状遺構は、長軸に沿って二分割して調査した。調査の記録は、主に図面と写真によった。図面は、基本的には1/20の縮尺で作図した。遺物出土状況図は1/10の縮尺で作図した。写真撮影は、35mmのモノクロとリバーサルフィルムを使用した。

室内における整理は、遺構は現場で取った平・断面図より第2原図を作成し、これをトレースした。遺物は洗浄・注記の後に実測図・拓影図の作成、写真撮影を行った。

第3節 調査の経過

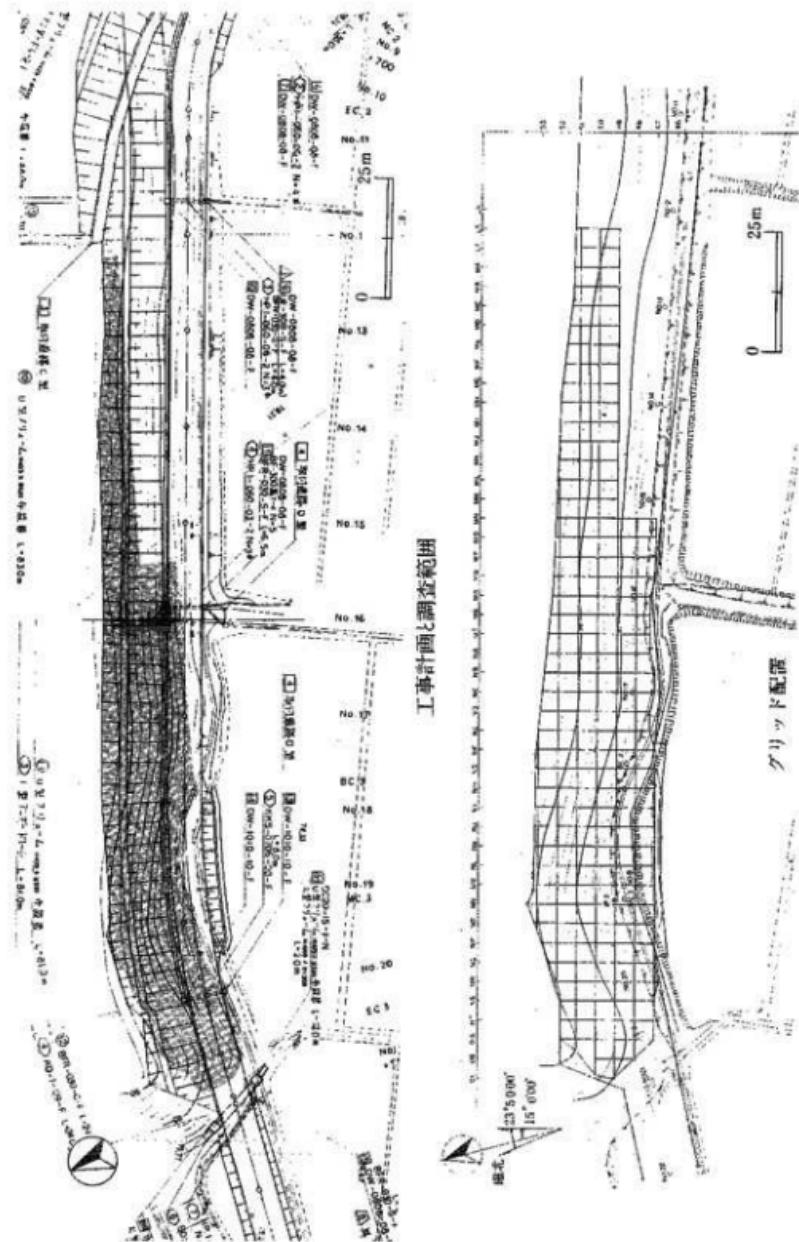
平成4年4月9～10日に現況視察及び作業員手配依頼、6月6日にグリッド杭打設、7～8日にプレハブ設置の後、10日から11月15日まで発掘調査を行った。

- 6月10日 発掘機材の搬入・整理を行った。
- 6月11日 調査区斜面肩部の盛上除去及び現況地形の測量を行った。
- 6月12日 斜面下に土留柵を設置し、資材整備や周辺の安全確保等の作業を行った。
- 6月20日 ML50グリッドで1個体の粗製土器が正立状態で入っている土坑（SK01）を検出した。
- 6月24日 遺構精査を開始した。
- 7月1日 調査区東側（MNラインより東）の粗掘完了。
- 7月4日 北鹿新聞に記事が掲載され、2名の見学者があった。
- 7月5日 大館市中央公民館の佐藤氏が社会教育活動用ビデオの撮影のため来訪。
- 7月15日 調査区東側完掘。完掘の全景写真を撮影した。
- 7月18日 NOラインまで盛土の除去のため粗掘を開始、遺物の水洗等、整理も行う。
- 7月24日 NTラインまでの東側の表土除去を行ったところ、特にNF51・52グリッドの斜

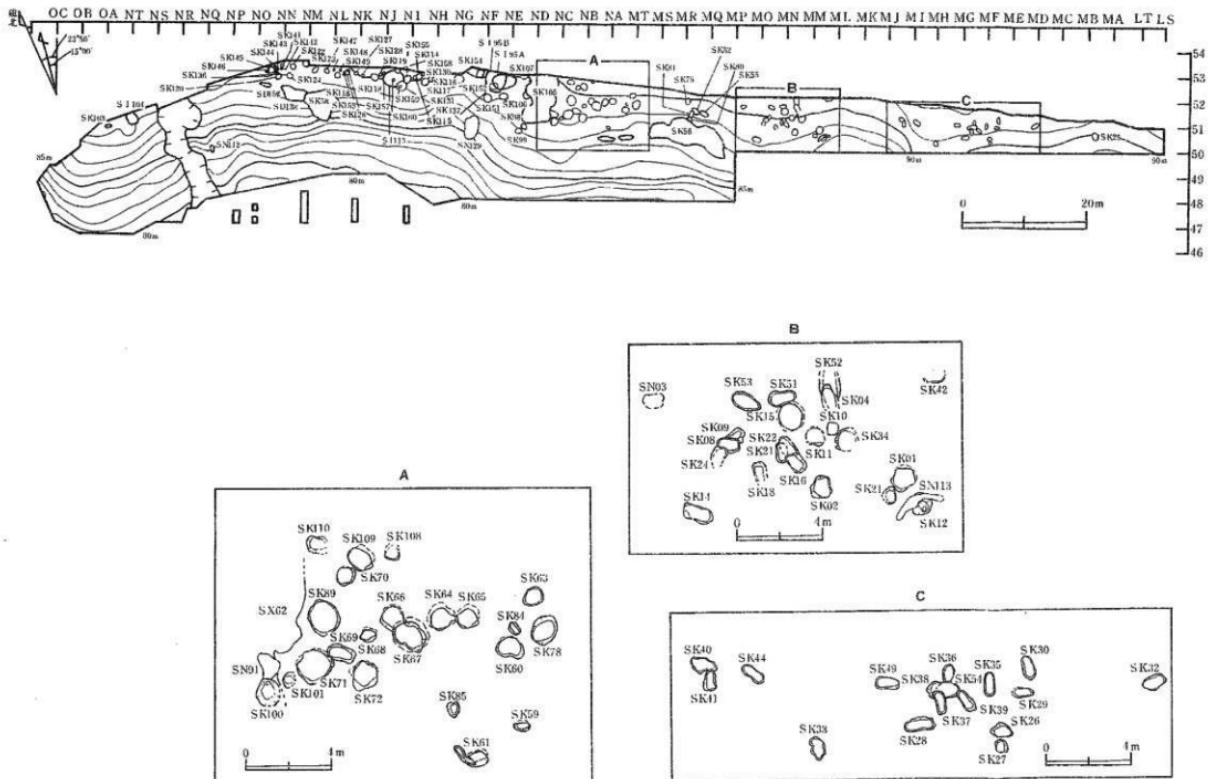
面で大量の遺物が検出された。捨て場の可能性が高い。

- 8月7日 イギリス・ロンドン大学大学院から研修中のOrri Ve'steinsson氏来訪。
- 8月19日 N E～MRラインの第2層除去開始。
- 9月3日 NG50グリッドを精査。多量の土器が4・5層から出土した。SK67土坑を半截したところ、ベンガラを検出した。
- 9月9日 南斜面西寄りの遺物捨て場(NN・NM50)で多量の遺物が出土した。林謙作北海道大学助教授が来訪し、SK56・58土坑について粘土探掘坑の可能性を御指摘いただいた。また、出土遺物等に関しても貴重な御教示をいただいた。
- 9月24日 SK66・67・71・89・92土坑の半截を行った。全て、オーバーハング部分の高さが低く、つぶれたフ拉斯コ状土坑の断面形を呈している。
- 9月26日 調査区南側、斜面下の水田部にトレーナーを設定し、土層の観察を行った。特に、NO48グリッド部分のトレーナーでは多量の遺物が出土した。
- 9月28日 台風19号による突風で、プレハブ2階建の事務所が完全倒壊。遺物・図面等の貴重な資料や機材等が散乱してしまう。この後数日は、近辺に散逸する物品や、プレハブの残骸を片付けるのに費やされる。
- 10月3日 発掘調査の実質的な再開。斜面上部の造構精査と水田部分のトレーナー掘下げとに分かれて調査が進行する。
- 10月7日 SK71土坑より完形土器が数点検出される。土坑内の堆積土から、ベンガラ・炭化物も検出された。
- 10月24日 NN～NQラインの4-c層下部から6-a層にかけて完形土器も含む、夥しい数の遺物が出土した。
- 10月29日 SK56・57土坑の完掘間際、網文土器が出土した。また、SI95堅穴住居跡の北側の床面直上で、完形土器4個体と土偶の胴体部が出土した。
- 10月30日 NF51グリッドの精査で遺物が多量に出土した。第4層上面では焼土の広がりが確認された。
- 11月1日 NJライン以内で、柱穴様の土坑のプランが多数検出された。
- 11月6日 SK109土坑より、ポール状の大型鉢の中に注口土器2個体、台付鉢1個体が収納されたような状態で出土した。いずれも完形品であった。また、これらの遺物の下、床面近くの埋土中から厚さ5～6cm程のベンガラも検出された。
- 11月15日 造構の調査を終了し、発掘機材を撤収、本日で発掘調査の現場作業をすべて完了した。

この後、埋蔵文化財センターで遺物、図面等の整理作業を行い、報告書を作成した。



第3図 調査範囲図



第4図 造構配置図

第4章 調査の記録

第1節 基本層序

今回の調査地点は前述したように舌状台地の南側縁辺部の一部と南側の斜面であるが、地点により異なる様相を呈する場合もある。表土から地山まで7層に分層したが、例えば、縁辺部のSK105土坑の周辺（第5図）には基本層序の第2・4層がなく、斜面上部で検出したSN129焼土堆積では基本層序の4・5・6層が焼土の下に40~46cmと厚く堆積している場合もある。

基本層序は南側縁辺部では大略以下のとおりである。

第1-a層 盛土

第1-b層 黒褐色（10YR 2/3）土—表土—で、層厚10~15cmである。

第2層 黒色（10YR 2/1）土で、大湯浮石粒子混入し、層厚10~23cmである。

第3層 明黄褐色（2.5Y 7/6）の大湯浮石層である。層厚3~5cmほどであるが、層を成していない所が多い。斜面の凹地や沢部では部分的に厚く堆積している所もある。

第4層 黒色（10YR 2/1）土で、地山粒子をわずかに含み、層厚は8~10cmである。

第5層 暗褐色（10YR 3/4）土で、地山粒子をわずかに含み、層厚は13~22cmである。部分的に堆積しており、山林側には顯著である。

第6層 黄褐色（10YR 5/4）土で、地山ブロックを含み、粘性が強い。地山漸移層である。

第7層 黄褐色（10YR 5/8）土で、地山である。鳥越輕石質火山灰層の河成二次堆積物である。

南側斜面はNOラインを中心とした捨て場（以下「捨て場2」と呼称する）で、段丘崖の縁辺部に形成された自然の深い沢目を含む斜面とその下の沖積地に遺物包含層が形成されている。遺物包含層は4-a層から6-c層まで6枚あり、表土からの深さは最大で284cmに達する。このうち斜面下部の4-c層と6-a層は厚く、遺物出土量も大変多い。第1-a・1-b層、第6-c層は、南側縁辺部の基本層序と対応する。捨て場2の基本層序の詳細は基本層序図（第6図）にゆすることにして、ここでは遺物包含層の大略を上位から記すこととし、その広

がりについては別節で後述する。

第4-a層 黒褐色(10YR 4/3)土。しまりあり。層厚は68~86cmである。遺物をやや含む。

第4-b層 黒褐色(10YR 2/2)土。しまりあり。層厚20~84cmである。遺物をやや含む。

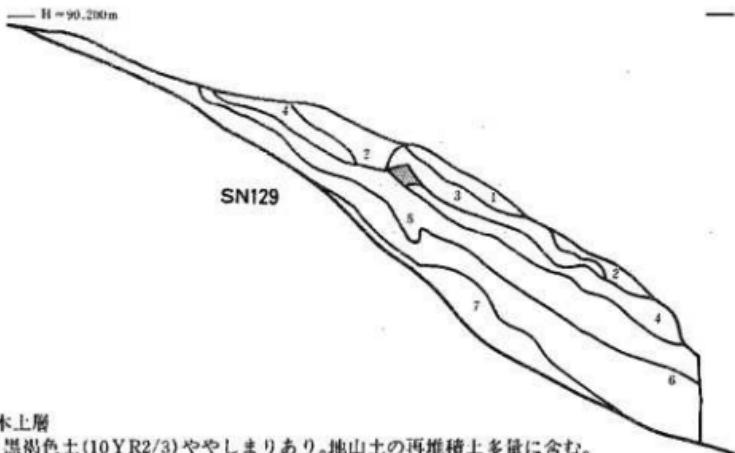
第4-c層 黒褐色(10YR 2/3)土。しまり・粘性とも強。層厚34~108cmである。遺物を大変多く含む。

第5層 黒褐色(10YR 2/3)土。ややしまりあり。層厚28~72cmである。遺物をわずかに含む。

第6-a層 黒色(10YR 1.7/1)土。粘性・しまりとも大変強い。層厚82~104cmである。上部に遺物を大変多く含む。

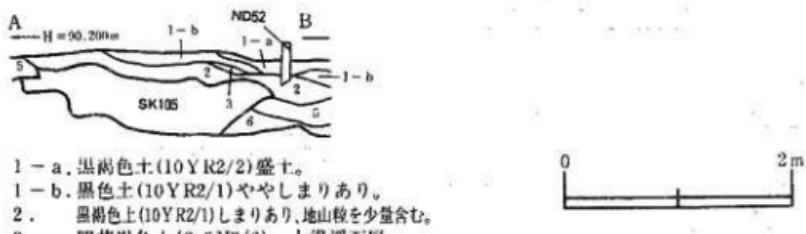
第6-c層 黄褐色土。しまりややあり。地山漸移層で遺物をわずかに含む。層厚18~28cmである。

さらに、同じ捨て場2下部の沖積地で作成した土層断面図(NMライン)によれば、ここでは第1層~第9層まであり、シラスの二次堆積物・砂層・泥炭層などが認められる。このうち、遺物包含層は第6層の暗青灰色上層(層厚12~31cm)、第8層の黒色泥炭質粘土層(層厚50~94cm)の2層がある(第6図)。沖積地のため土色は斜面の層とは違うものの、土層の混入物・遺物の出土状況・周辺の同一層の広がり具合などの観察から、第6層は斜面の第4-c層に、第8層は第6-a層に相当することがわかった。

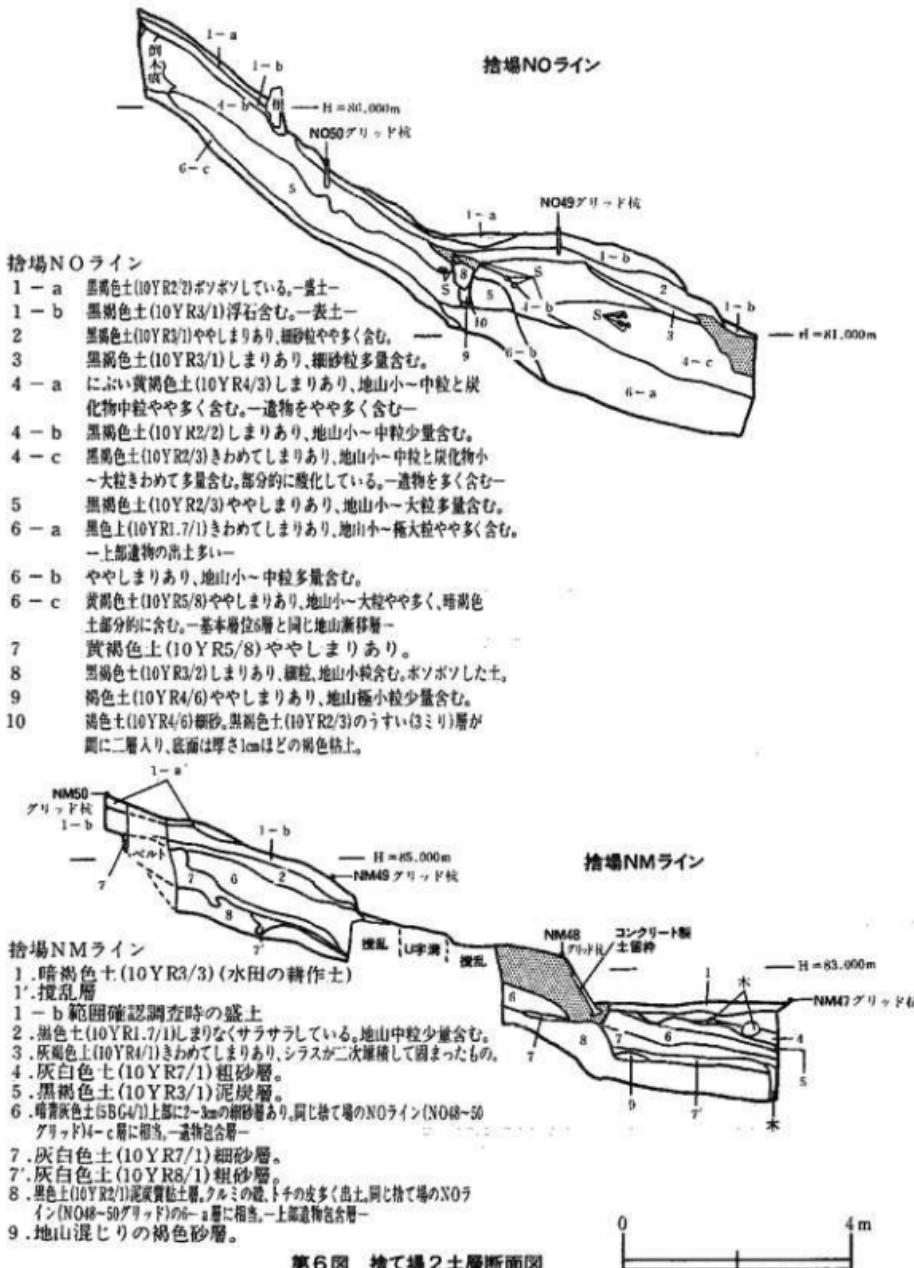


基本上層

1. 黒褐色土(10YR2/3)ややしまりあり。地山土の再堆積土多量に含む。
2. 極暗褐色土(7.5YR2/3)しまりあり。黒褐色土と焼土が混じる土層。地山土が多量に混じる部分もある。
3. 明褐色土(7.5YR5/8)しまりあり。バサバサ、火熱を受け赤化した部分。
4. 黑褐色土(7.5YR1.7/1)しまりあり。地山粒やや多く、焼土(3層)の下部に近いところはやや赤変している。
5. 黑褐色土(10YR2/2)しまりあり。地山粒やや多く含む。—基本層位4層—
6. 暗褐色土(10YR3/4)しまりあり。地山粒やや多く含む。—基本層位5層—
7. にぶい黄褐色土(10YR5/4)しまりあり。粘性ややあり。地山崩壊土多量に含む。—漸移層—



第5図 遺跡基本土層断面図



第6図 捶て場2土層断面図

第2節 遺物の分類基準

I 土器・土製品

出土した土器はコンテナで約300箱にのぼり、遺構外の捨て場、特に南側斜面の捨て場2から出土したものが圧倒的に多い。この他、舌状台地の縁辺部で検出した堅穴住居跡・土塙墓などの遺構内からも浅形・復元土器が多く出土している。このため、土器の分類にあたってはこれらの土器も含めて分類した。出土した土器は縄文時代前期・中期・後期後半～晚期後半、弥生時代に属するが、このうち後期末～晚期中葉の土器が圧倒的に多く、他は極めて少ない。

後期末～晚期後半の土器は、従来の見方からみて、型式学的な断絶は認められず、また、完形・復原土器も多いことから、一括して器形で分類した。器形については、深鉢形土器・鉢形土器・浅鉢形土器・皿形土器・壺形土器・注口形土器・香炉形土器・ミニチュア土器に分類した（以下、深鉢・鉢・浅鉢・皿・壺・注口・香炉・ミニチュアと略す）。鉢と皿は口径と高さの比率によって区分した。すなわち、器高が口径以上のものを深鉢、器高が口径の1/1以下～2/3以上のものを鉢、器高が口径の2/3以下～1/3以上のものを浅鉢とし、さらに器高が口径の1/3以下のものを皿として区分した。台付・脚付土器については深鉢・鉢・浅鉢に多くみられたが、深鉢は点数が大変少いことなどから、台部の付かない深鉢に含めて分類した。

I群土器 縄文時代前期の土器である。遺構内から2点出土した。

A類 不整燃系文を施文している口縁部付近の土器である。胎土に繊維を含む。SK117からの出土である。

B類 地文が多軸絡条体で縦位に綾格文を施文している土器である。ND52グリッドのSX107からの出土である。

II群土器 縄文時代中期の土器である（第100図）。

A類 全体に縄文を施文した小型の深鉢形土器である（378）。口縁部が折返し口縁風に肥厚する。

B類 口縁部で、縄文原体の側面圧痕による爪形文を施文している土器である（379）。

C類 波状口縁の波頂部で、地文が縄文で3～4条の細くて浅い平行沈線を、横は曲線的に、縱は直線的に施文している（380）。

D類 浅鉢形土器で、口縁部及び隆線に沿うように縄文を押印している土器である（381）。

E類 口縁部に平行な山形と直線の隆線を施文している土器である（382）。

F類 無文の口縁部で、横に隆線を施文している土器である（383）。

III群土器 縄文時代後期後半から晚期後半の土器である。

深鉢

A類 長胴で、胴は内弯気味に立ち上がり、口縁端部が内側に屈曲する。底部は上底で外縁は、わずかに外に張り出す。

B類 長胴で、口縁部が内傾する。

B 1 上底である。

B 2 平底で、底部外縁がわずかに張り出す。

C類 脊張りの強い器形で、口縁部が内弯する。縄文の他、斜縄文(羽状縄文)を施文している土器もある。

C 1 平口縁で、底部は上底である。

C 2 波状口縁で、底部は上底である。

D類 脊上部へ口縁部がほぼまっすぐないしは、わずかに内傾する。

D 1 平底で底部外縁がやや張り出す。地文は縄文が多いが、まれに条痕文が施文される。

D 2 平底で底部外縁に張り出しをもたない。地文は縄文が多いが口唇部に刻目か、口縁部に文様帶をもつものもある。

E類 円筒形で縄文を施文し、平底である。

E 1 口唇部がわずかに肥厚し、底部外縁は外に張り出す。

E 2 口唇部上半がわずかに内傾気味に立ち上がる。口縁部上端に1条ないし2条の沈線が巡り、口唇部には刻目、もしくは「B」突起と刻目をもつものがある。

F類 脊上部へ口頸部が「S」字状に大きく外反する。台が付く。

G類 脊上半でくびれ、口縁部が外反する。台が付く。

H類 脊上半でくびれ、短かい口縁部が大きく「く」字状に外反する。

I類 脊上半でくびれ、短かい口縁部がまっすぐに立ち上がる。

J類 脊上半でくびれ、ごく短かい口縁部が「く」字状にわずかに外反する。

X類 器形は分かるが、破片のため全体の形状が不明で上記のどの分類に入るか不明のものを一括した。

鉢

A類 脊が丸味をもち脇部上半へ口縁部が強く内弯する。

B類 脊上半へ口縁部がほぼまっすぐ、ないしはわずかに内傾気味に立ち上がる。

B 1 口縁はわずかに波状となり、脇部は無文である。

B 2 口縁部文様帶には1列の刻目帯をもち、小波状となり、脇部は無文である。

C類 脊部は丸味をもち、口縁部がほぼまっすぐ立ち上がる。

D類 脊部から口縁部にかけてゆるやかに外反する。

D 1 平口縁である。地文が縄文か、無文のものもある。

D2 波状口縁で、波頂部下に弧線文を施文する。

E類 脊中央部～口頸部が「S」字状に屈曲して外反する。底部は丸底である。

F類 脊部は丸味をもち、脣上半でくびれ口縁部が外反する。小波状口縁で、底部は丸底である。

G類 脊部は丸味をもち、脣上半でくびれ口縁部が「く」字状に外反する。

H類 脣上部～口縁部が外反する。

I類 口頸部が「S」字状に屈曲してわずかに外反する。

X類 器形は分かるが、破片のため全体の形状が不明で上記のどの分類に入るか不明のものを一括した。

台付鉢

A類 波状口縁を呈し、脣部が丸味をもって立ち上がるもの。

A1 ゆるやかに外反するもので、脣部～口縁部に施文するもの、無文のものがある。

A2 ゆるやかに内傾するもので、無文である。

B類 脣部が外傾、口縁部がほぼまっすぐ立ち上がる。

C類 脣部がゆるやかに立ち上がる。

D類 脣下半部が丸味をもち、脣上半～口縁部がまっすぐ立ち上がる。

E類 小波状口縁で、脣部上半～口縁部がほぼまっすぐに立ち上がる。

F類 脣下半部が丸味をもち、脣部上半～口縁部が「S」字状に外反する。

G類 脣上半部が丸味をもち、脣部上半～口縁部が「S」字状に外反する。

H類 脣部が丸味をもち、口頸部が「S」字状に屈曲して外反する。

H1 脣部の丸味と口頸部の屈曲度が強い。台が付く。

H2 口頸部がゆるやかに屈曲する。台が付く。

H3 口縁部の文様帯が比較的狭い。高台が付く。

I類 脣部上半～口縁部が強く内傾し、口唇部が内側に屈曲する。

J類 口頸部が「S」字状に短かく屈曲して外反する。

K類 口縁部が屈曲気味に内傾する。

L類 脣部が丸味をもち、ゆるやかに内傾する。

X類 器形は分かるが、破片のため全体の形状が不明で上記のどの分類に入るか不明のものを一括した。

浅鉢

A類 脣部が丸味をもち、口縁部が強く内傾する。

B類 脣部が丸味をもち、口縁部がまっすぐ立ち上がる丸底の土器である。

- C類 脊部が丸味をもち、口縁部がわずかに内傾気味に立ち上がる。
- D類 脊部がゆるやかにやや内傾気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。
- E類 脊部が内傾気味に立ち上がり、口縁部がわずかに内傾、又はほぼまっすぐ立ち上がる。
- E 1 口縁部がわずかに内傾する。
- E 2 口縁部がほぼまっすぐに立ち上がり、底部は丸底風である。
- F類 丸味をもつ脊部が上半～口縁部にかけて「S」字状にゆるく外反する。
- G類 脊下半部で大きく屈曲し、直線的に外反する。
- X類 器形は分かるが、破片のため全体の形状が不明で上記のどの分類に入るか不明のものを一括した。

台付浅鉢

- A類 脊部の立ち上がりはゆるやかで、口縁部やや直線的に外に開いて立ち上がる。
- B類 脊部は内傾気味でやや急に外に開いて立ち上がる。
- C類 脊部は内傾気味で、口縁部はまっすぐ立ち上がる。
- D類 丸味をもつ脊部は内傾気味でゆるやかに立ち上がり、口縁部は外に開く。
- E類 口縁部が屈曲し、短かい口縁部がわずかに外反する。高台が付くものもある。
- X類 器形は分かるが、破片のため全体の形状が不明で上記のどの分類に入るか不明のものを一括した。

皿

- A類 脊部～口縁部がゆるやかに内傾し、脊部上半で口縁部がわずかに外反する。底部は丸底風である。
- B類 脊上半で急に内傾し、口縁部がまっすぐに立ち上がる。無文で、底部は丸底である。
- C類 脊下半で急に内傾し、口縁部がわずかに内側に屈曲する。
- D類 底部外縁～口縁部が直線的に大きく外に開く。
- E類 脊下半部が屈曲し、口縁部にかけて直線的に大きく外反する。
- E 1 脊下半部が内傾し、外反する。平底である。
- E 2 脊下半部が強く「く」字状に内傾し、外反する。丸底である。
- F類 脊部～口縁部が直線的に外に開く。
- G類 脊部～口縁部が曲線的に外に開く。丸底である。
- H類 脊部～口縁部がわずかに内傾気味に外に開く。四足付である。
- I類 脊部～口縁部が内傾する。
- J類 脊部～口縁部が直線的に立ち上がる。
- X類 器形は分かるが、破片のため全体の形状が不明で上記のどの分類に入るか不明のもの

を括した。

壹

A類 脊部のほぼ中央に最大径のある球形洞で、比較的長い口頸部をもつ。

A 1 頸部～口縁部がまっすぐに立ち上がる。

A 2 頸部～口縁部がわずかに内傾する。

B類 洞のほぼ中央部が強く張り出し、口縁部がまっすぐに立ち上がる。

C類 洞下半部に最大径があり、頸部～口縁部が外に開く。

C 1 頸部～口縁部がゆるやかに「S」字状に開く。

C 2 頸部～口縁部が「く」字状に屈曲して外反する。

D類 洞のほぼ中央部に最大径のある球形洞で、口頸部が外反、又はまっすぐに立ち上がる。

D 1 頸部が「く」字状に屈曲して口縁部が外反する。

D 2 口頸部がほぼまっすぐに立ち上がる。

E類 洞上半部に最大径があり、口縁部が外反する。

E 1 頸部がほぼまっすぐに立ち上がり、口縁部で短かく外反する。

E 2 頸部が「く」字状に屈曲して口縁部が外反する。

F類 洞のほぼ中央部に最大径があり強く張り出す球形洞で、口径が大きく口縁部が外反する。

F 1 頸部で「く」字状に屈曲して口縁部がゆるやかに外反する。

F 2 頸部からほぼまっすぐ立ち上がり、口縁部が短かく外反する。

G類 つぶれた球形洞で、口径が大きく口縁部が短かく外反する。

G 1 頸部が内傾気味に立ち上がり外反する。

G 2 頸部が直線的に立ち上がり外反する。

G 3 頸部半ばまで内傾し、「く」字状に屈曲して外反する。

H類 洞のほぼ中央部に最大径のある球形洞で、口径が広く、口頸部が短かい。

I類 直線的に立ち上がる洞中央部付近に最大径があり、頸部が細長い。底部は丸底である。

J類 洞中央部か洞下半部に最大径をもつ球形洞で、頸部が細長く直線的に内傾し、口縁部短かく外反する。

K類 洞下半部に最大径をもつ球形洞で、頸部は細長い。洞部から頸部まで屈曲せず、直線的に内傾し、口縁部は短かく外反する。

L類 長洞で、口縁部はわずかに外反する。

M類 円筒形に近い長洞で、底部が強く外に張り出す。

X類 器形は分かるが、破片のため全体の形状が不明で上記のどの分類に入るか不明のもの

を一括した。

注口

- A類 洞中央部付近に最大径があるつぶれた球形洞で、丸底風の底部に小さな台が付く。頸部が内傾し、口縁部が外反する。
- B類 洞中央部付近に最大径があるつぶれた球形洞で、丸底風の底部に小さな台が付く。口縁部は長く直線的にわずかに外反する。
- C類 洞中央部付近に最大径があるつぶれた球形洞で、丸底である。短かい口縁部が直立もしくは外反する。
- D類 洞中央部付近に最大径があるつぶれた算盤玉状で、底部は丸底である。口縁部が直線的に長く内傾する。
- E類 洞中央部付近に最大径があるつぶれた算盤玉状で、丸底である。頸部が内傾し、口縁部が大きく楕状となる。
- F類 底部～洞部が半球状となり、底部は丸底である。頸部は外湾気味に内傾し、短かい口縁部は直立する。
- X類 器形は分かるが、破片のため全体の形状が不明で上記のどの分類に入るか不明のものを一括した。

その他、大変数は少ないが、香炉・ミニチュア土器が出土した。

香炉

1点の出土である。

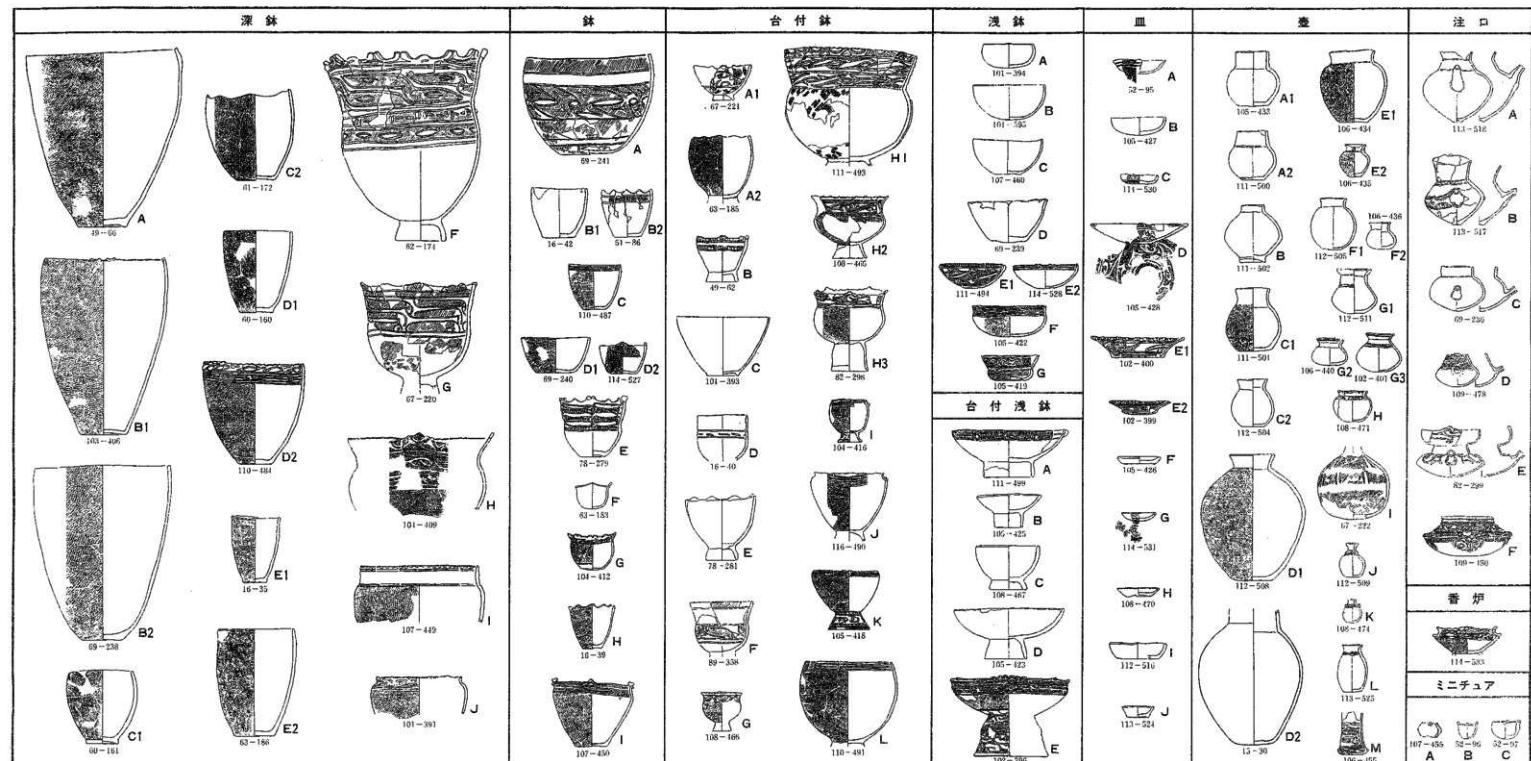
体部上半は刻目と2箇1対の大円孔、体部下半には繩文を施文するものである。

ミニチュア

- A類 上下は欠失しているが、洞部中央が張り出し、上に小孔を穿つ無文の土器である。
- B類 底部が丸底風で、波状口縁を呈する無文の鉢形土器である。
- C類 口縁部が欠失しているが、丸底で無文の鉢形土器である。

IV群土器 弥生時代の土器である。

- A類 変形工字文・貼瘤を施文している小波状口縁を呈する深鉢形土器である。口縁部内面には1条の沈線がめぐる(1012)。1014は4条の沈線のみであるが1013と同じ土器であろうか。
- B類 4条の沈線が巡る小波状口縁を呈する深鉢形土器である。口縁部内面には1条の沈線がめぐり、口縁部はわずかに外反する(1013)。
- C類 変形工字文・貼瘤を施文している平口縁を呈する鉢形土器である。口縁部内面には1条の沈線がめぐる(1015)。



第7図 第III群土器分類基準図

土器実測図中の下の数字は掲図番号・土器番号を意味する。例えば「49-66」は「第49図66」の意味である。
※器形毎のスケールは約1/10に統一している。※土器実測図中の斜線は模写を表わしている。

D類 1～2条の沈線が口縁に対して平行に巡り、沈線間は無文となる口縁部で壺形土器である(1017・1016)。1017の口縁部内面には1条の沈線がめぐる。

E類 2～3条の平行沈線が巡る高杯形土器の脚部である(1018・1019)。同一個体と思われる。

F類 口縁部上半部を3条の沈線が対をなし口縁に対して平行に巡り、沈線間は無文となる鉢形土器で、下半部には網文を施文している(1011)。

G類 口縁部の上半を2～3条の沈線が対をなして口縁に平行に巡り、沈線間は無文となる浅鉢形土器で、下半部には網文を施文している(1020)。

2 石器類

石器類は、次の33種の器種に分類した。さらに、石鎌、石槍、石錐、籠状石器、ビエス・エスキュー、縦型石匙、不定形石器、磨製石斧、石皿、岩版、二次加工のある剝片、石核は、それぞれ分類基準を設定して細分類し、挿図観察表中の「分類」の項に記載した。

- | | | | | |
|----------------|------------|-------------|----------|--------------|
| 1. 石鎌 | 2. 石槍 | 3. 石錐 | 4. 篠状石器 | 5. トランシェ様石器 |
| 6. ビエス・エスキュー | | 7. 縦型石匙 | 8. 橫型石匙 | 9. 不定形石器 |
| 10. 微小剝離痕のある剝片 | | 11. 石鏃 | 12. 磨製石斧 | 13. 打製石斧 |
| 14. 半円状扁平打製石器 | | 15. 磨器 | 16. 砧石 | 17. 摭石 |
| 18. 磨石 | 19. 凹石 | 20. 敲打痕のある砾 | | 21. 石皿 |
| 22. 石剝 | 23. 石棒 | 24. 独钻石 | 25. 刻線砾 | 26. 岩版 |
| 27. 有孔石製品 | 28. 円盤状石製品 | | 29. 石冠 | 30. 凹みのある石製品 |
| 31. 二次加工のある剝片 | | 32. 剥片 | 33. 石核 | |

石鎌

◎形態による分類。

- a 凹基無茎
- b 平基有茎
- c 円基有茎
- d 円基無茎
- e 尖基
- f 凸基有茎

石槍

◎長さによる分類。

- a ~4.0cm
- b 4.1～6.0cm

c 6.0~ cm

石錐

◎形態及び錐部の断面形による分類。

- a 基部と錐部が連続する形態で、錐部の断面形が菱形になるもの
- b 基部と錐部が明瞭に区別される形態で、錐部の断面形が三角形になるもの

範状石器

◎刃部の形態、平面形、断面形、調整加工の施される部位による分類。

刃部の形状

- A 凸丸刃
- B 直刃

調整加工の施される部位

- ア 表面のみ全面
- イ 表裏両面全面
- ウ 表面の全面と裏面の両側縁（「打面調整剥離技法」）

A・Bとア～ウの組み合わせで表記する。

註 「打面調整剥離技法」の用語は、秦昭繁「特殊な剥離技法を持つ東日本の石器－松原型石器の分布と製作時期について－」『考古学雑誌』第76巻第4号 1991（平成3年）による。

ピエス・エスキュー

◎両極剥離痕の数による分類。

- a 対になる両極剥離痕が1組のもの
- b 両極剥離痕が直交する方向に2組あるもの

縦型石器

◎刃部の作出方法及び、全体の調整のしかたによる分類。

- a 「打面調整剥離技法」によって表面全面に調整が施され、刃部も作出されるもの
- b 「打面調整剥離技法」を用いず、表面全面に調整剥離が施され、刃部も作出されるもの
- c 周縁のみに二次加工を施して刃部を作出するもの
- d 二次加工がつまみ部を作出するノッチのみで、刃部は素材剥片の縁辺をそのまま利用するもの

不定形石器

◎刃部の形態による分類。

- a 直刃
- b 凸丸刃（大）

c 凹丸刃 (大)

d 凸丸刃 (小)

e 凹丸刃 (小)

f 鋸齒刃

g S字状刃

h 複刃 a～gの複数の刃部のあるもの。同一形態の刃部が複数箇所あるもの含む。

磨製石斧

◎残存部位による分類。

a 基部

b 中央部

c 刃部

a～cの組み合わせで表記する。完形品は出土しなかった。

石皿

◎周縁の上手の有無、形態、作業面の凹み具合、使用部位による分類。

a 土手が明瞭につくり出され、全体の形も整形されるもの

a' aのうち、土手が明らかに全周しないもの

b 土手は明瞭につくり出されず、作業面がわずかに凹むもので、全体の形は素材縛に近いもの

b' 上手、作業面の状態はbであるが、全体の形は整形されてaに近いもの

c 素材縛の中央部のみが凹んでいるもの

d 作業面の凹みは明瞭でないが、使用の痕跡のあるもの

e 表裏両面が使用され凹んでいるもの

f a～eの一部と思われる破片で、a～eの識別ができないもの。

g 中高石皿

岩版

◎文様の刻まれている面、文様による分類。

文様の刻まれている面

a 表裏両面

b 表面のみ

c 表裏面ともなし

文様

ア 曲線文様のみ

- イ 曲線文様+中心線+中心孔
- ウ 曲線文様+中心線
- エ 中心線+中心孔
- オ 中心孔のみ
- カ 細い刻線

a～cとア～カの組み合わせで表記する。

二次加工のある剥片

◎二次加工の施され方による分類。

- a 周縁が表裏からの交互剥離によって整形されているもの
- b 周縁に著しい敲打痕があるもの
- c 細かい二次加工をほぼ全面に施し、尖頭形に整形されているが、先端は鋭利に作られていないもの
- d 何らかの石器の基部と考えられるもの
- e 石器の未製品と考えられるもの
- f a～e以外のもので、周縁及び表・裏面に不規則な剥離痕が認められるもの
- g 周縁の一部にのみ二次的な剥離痕が認められるもの

石核

◎形態及び作業面の位置・数による分類。

B：板状の形態のもの

- B-a 周縁を打面とし、板状の素材の片面のみから剥片剥離を行うもの
- B-b 周縁を打面とし、板状の素材の両面から剥片剥離を行うもの
- B-c 周縁を打面とし、板状の素材の片面から剥片剥離を行い、さらに側面からも剥片剥離を行うもの
- B-d 板状の素材の片面を打面とし、側縁から剥片剥離を行うもの
- B-e 周縁を打面とし、板状の素材の両面から剥片剥離を行い、さらに側面からも剥片剥離を行うもの

S：三角柱状の形態のもの

- S-a 1面のみから剥片を剥ぎ取っているもの
- S-b 2面から剥片を剥ぎ取っているもの
- S-c 3面から剥片を剥ぎ取っているもの

K：角柱状の形態のもの

R：立方体状の形態のもの

第3節 検出遺構と遺物

1 壁穴住居跡

台地上の縁辺部で4軒を検出した。このうち2軒は重複する。壁穴住居跡の規模は、第8～12図の表に掲載した。

S I 95A 壁穴住居跡（第8・9・13・19図、図版3）

S I 95B 壁穴住居跡が埋没した後に、やや東側に位置を移して構築されている。

平面形は東西に長い楕円形プランと推定される。柱穴は確認できなかった。壁は東側では高さ10～15cmが残るが、南側と西端はほとんど残っていない。中央やや北寄りの床面に85cm×55cmの楕円形に焼土があり、周囲には一部に熱を受けた石が散在している。おそらく石組炉であったと思われる。その南側には長さ40～50cm、幅15～20cmの角柱状の大礫3個がハの字形に置かれている。床面、埋土中からは第13図1～8の大洞B式を主体とする土器が出土している。

S I 95B 壁穴住居跡（第10・13～17・19・20図、図版3）

S K137土坑の埋没後に構築された住居跡である。S K137土坑の開口部分に貼床等の施設はないが、S K137土坑上面がきわめて固くしまっていることと、土層の堆積状況からS I 95B壁穴住居跡が新しいと判断した。

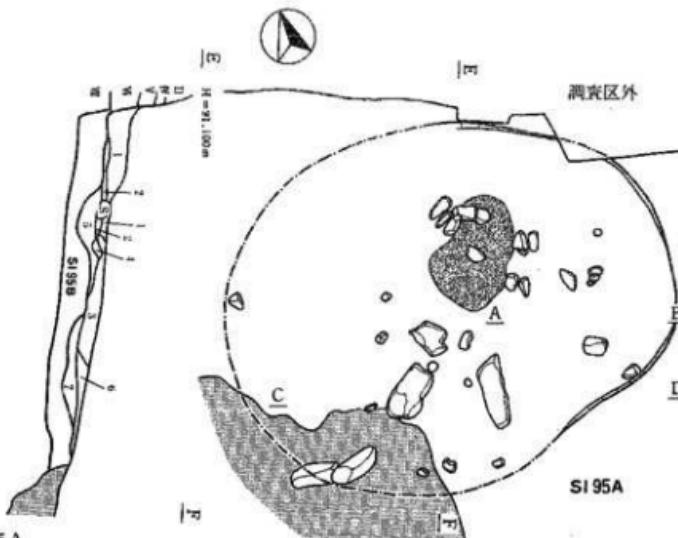
平面形は南北に長い楕円形プランと推定される。柱穴は東壁の中央部に1箇所、北西側床面に1箇所円形の浅い凹みがあるが、他は不明である。東側の壁はS I 95Aによって上部に破壊を受け高さ10～12cm程度が残る。西側の壁は高さ25～30cmが残る。北側は調査区外、南側は搅乱を受けており不明である。推定プランの床面中央部に径20cmの地床炉がある。西壁際から北側にかけての床面から、計10個体分の完形、復元土器と土偶の胸部が1個出土した。

第16図33、36、41は床面に倒立して出土した。第15図32、第16図34、37、39、40、42は横倒して、34の中に35が、37の中に38が入っていた。第17図43の土偶胸部は胸からボタン状に貼り付けられた腰まで隆起が垂下する。

この他に埋土中から多量の土器が出土した。埋土は上層（1、2、3、10、11層）と下層（4、5、6、7、8、9、12、13層）に大別されるが出土土器は類似しており、大きな時期差はない。床面出土土器の第16図33、40は後期末葉、埋土出土土器も注口土器（第15図28）の器形や21、第14図11のように瘤の残る土器を含むことから、床面上出土器と大差ない時期であろう。

S I 104 壁穴住居跡（第11・17図）

調査区西端部で検出した。石組炉とピットを検出し、その周囲に平坦でややしまりのある面が連続しており、壁穴住居跡の一部と判断した。搅乱によって壁穴住居のプランは不明瞭である。石組炉とピットの周辺から土器が出土した。石組炉は直方体ないし、扁平な三角錐形の跡



S I 95A

1. 黒褐色土(10YR2/3)
しまりあり、炭化物、地山粒少量含む。

2. 黒褐色土(10YR2/2)
しまりあり、炭化物を含む。

3. 黒色土(10YR2/1)
しまりあり、炭化物や多く含む。

4. 明褐色土(7.5YR5/8)
ややしまりあり、炭化物少量含む。

5. 黑褐色土(10YR3/2)
きわめてしまりあり、炭化物少量、地山粒や多く含む。

6. 暗褐色土(10YR3/3)
地山崩壊上を多量、白色粘土粒を少量含む。

7. 暗褐色土(10YR3/3)
しまりあり、地山土を多量に含む。

8. 褐色土(10YR4/4)しまりあり、地山土をや多く含む。

9. 黑褐色土(10YR3/2)ややしまりあり、地山粒を少量含む。

10. 黑褐色土(10YR2/3)ややしまりなし、炭化物を少量含む。

11. 黑褐色土(10YR3/2)ややしまりなし。

12. 黑褐色土(10YR2/2)しまりあり、白色粘土粒・炭化物を少量含む。

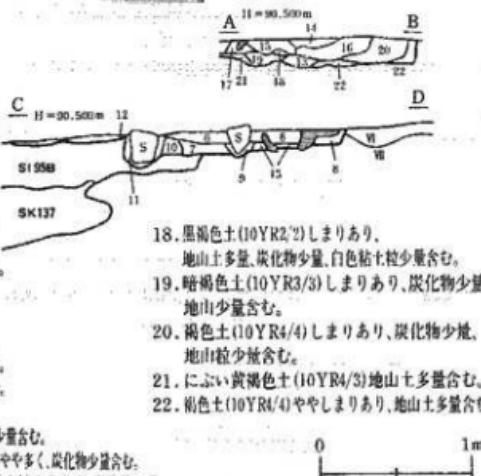
13. 灰質褐色土(10YR4/2)きわめてしまりあり、白色粘土粒や多く、炭化物少量含む。

14. 黑褐色土(10YR2/2)きわめてしまりあり、白色粘土粒や多く、炭化物多量、
燒土粒少量含む。

15. 黑褐色土(10YR3/2)しまりあり、白色粘土粒少量、炭化物微量、燒土粒微量含む。

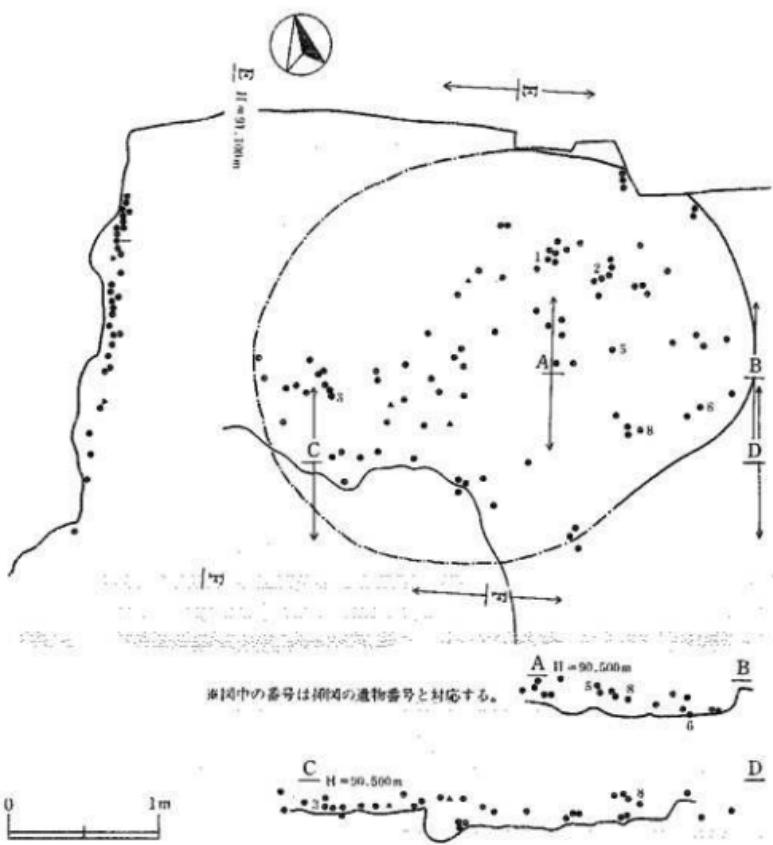
16. 黑褐色土(10YR2/2)しまりあり、白色粘土粒少量、炭化物や多く、地山粒少量含む。

17. 黑褐色土(10YR2/2)しまりあり、白色粘土粒少量、炭化物微量、地山粒や多く含む。



第8図 SI95A竪穴住居跡

住戸跡	検出グリッド	前面	平面形	断面形	上端標高(m)	下端標高(m)	深さ(m)	埋土の状況	重複関係	遺物種別
S1 95-A	N D52, N E52	VI	複円形	E	(3.34)×(2.74)	×	0.22	自然堆積	EXH-6K13T-02B-028	13・15

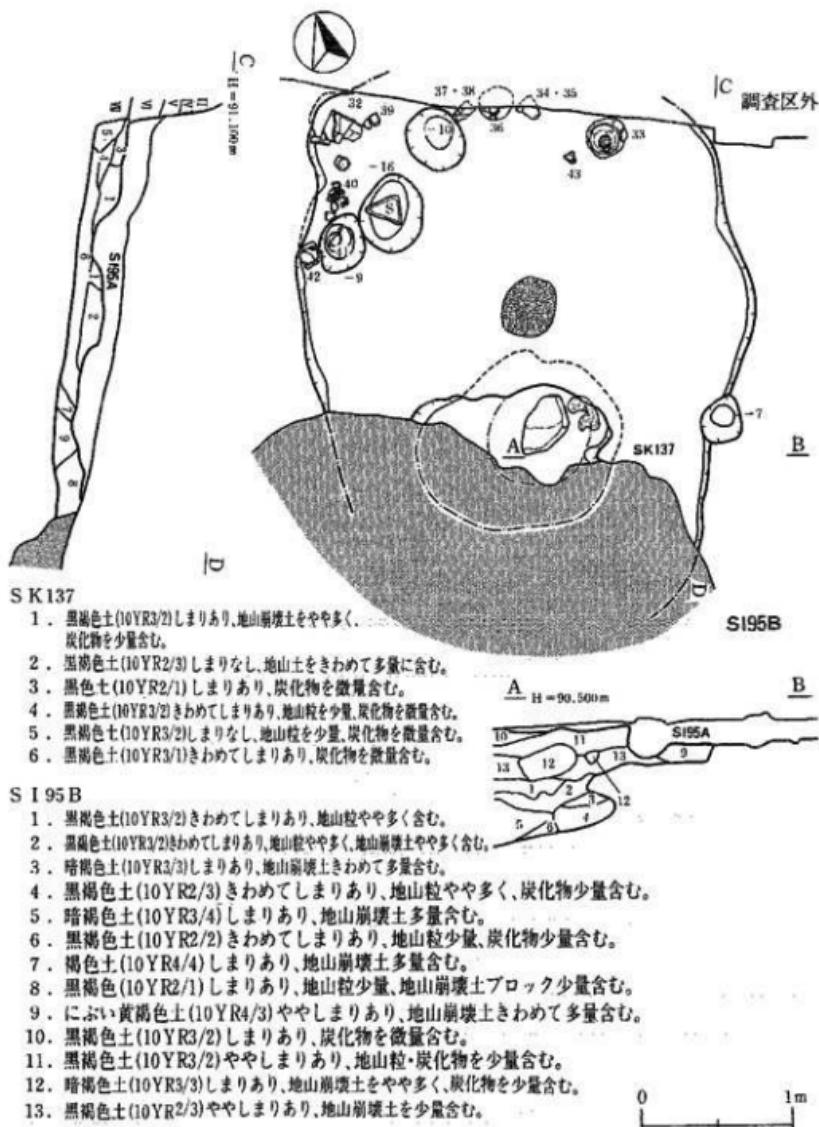


第9図 SI 113堅穴住居跡出土分布図

をつきさすように立て並べて円形に開んでいる。中には焼土、炭化物が堆積していた。炉に隣接してピットがあり、その上から第17図50、51の粗製深鉢が出土した。その他には晩期前葉の土器(44、45、48)が出土している。

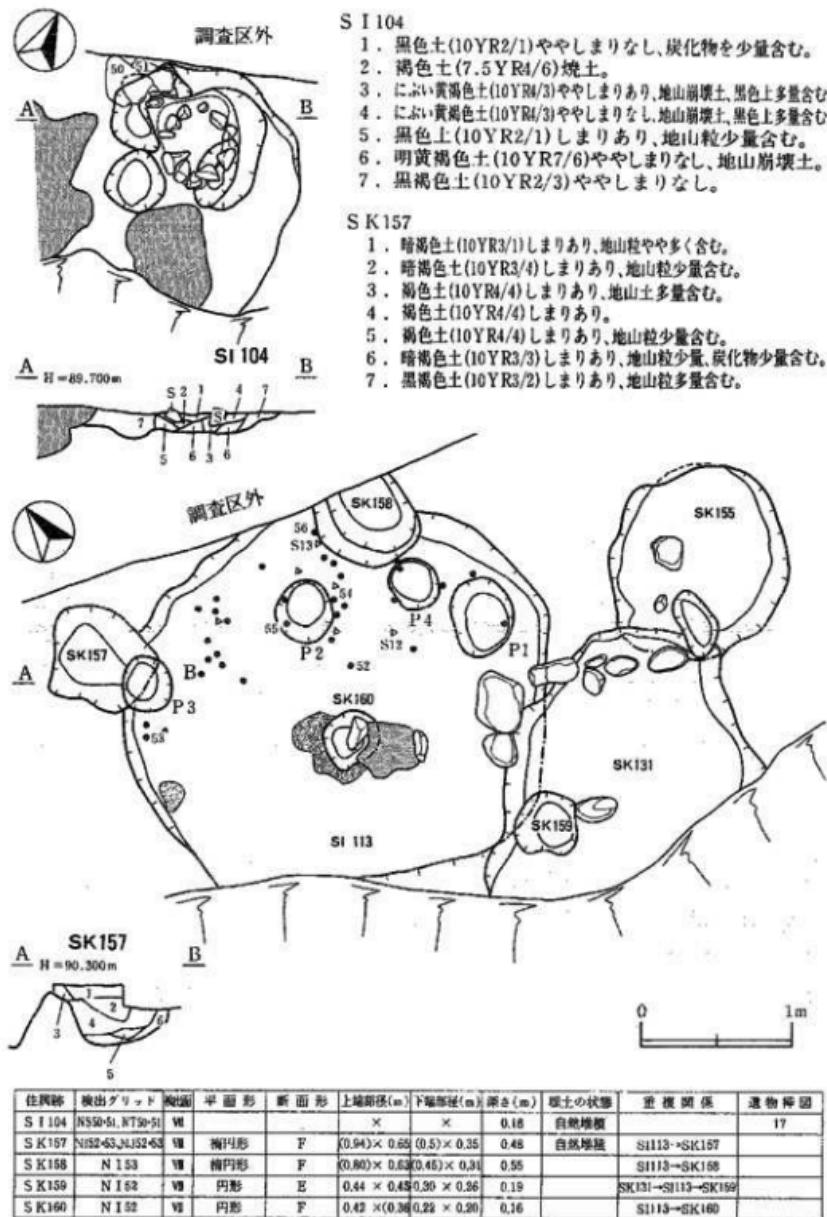
S I 113堅穴住居跡（第11・12・18・21図、図版3）

調査区中央やや西側の、土坑が多数検出された区域で検出した。S I 113堅穴住居跡はSK 157・158・159・160土坑によって切られており、堅穴住居跡が古い。また、堅穴状のSK 131上坑の埋没後にS I 113堅穴住居跡が構築されている。すぐ東側に隣接するSK 155土坑内出土土器とS I 113堅穴住居跡出土土器には、接合するものや同一個体のものがあり、両者は同時期に埋没した遺構である。したがって前後関係はSK 131→S I 113→SK 155→SK 157・158・

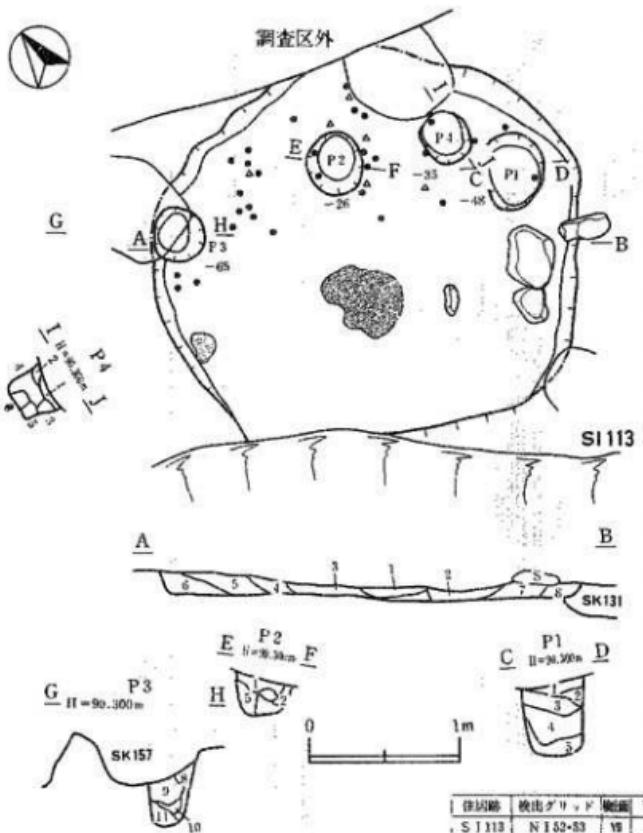


柱状路	検出グリッド	概面	平面形	断面形	上端面径(m)	下端部径(m)	深さ(m)	塑土の状態	直線 間 係	遺物 情 味
SI 95B	ND52, NE52-53	VE	(椭円形)	E	× 3.40	× 2.96	0.33	自然堆積	SK137-SI95B-SI95A	13-17-19-20
SK137	NE52	VE	円形	C	× (0.75)	× 1.28	0.45	自然堆積	SK137-SI95B-SI95A	71

第10図 SI95B竪穴住居跡、SK137土坑



第11図 SI 104・113 穴住跡跡、SK 157・158・159・160土坑



SI 113

1. 黒褐色土(10YR2/3)しまりあり、地山粒微量、炭化物少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2)きわめてしまりあり、地山粒微量、炭化物、焼土粒少量含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)しまりあり、地山粒少量、炭化物、焼土粒少量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり、地山粒微量、炭化物、焼土粒微量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/4)しまりあり、地山粒少量、炭化物少量、地山上やや多く含む。
6. 褐色土(10YR4/4)しまりあり、地山土多量、炭化物少量含む。
7. 黑褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山土やや多く含む。
8. 暗褐色土(10YR3/3)やしまりあり、地山土多量含む。

SI 113 P 1

1. 黒褐色土(10YR2/2)しまりあり、地山崩壊土多量、炭化物少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり、地山崩壊土きわめて多量、黒褐色土やや多く含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR6/4)きわめてしまりあり、暗褐色土多量含む。
4. 明黄褐色土(10YR6/6)きわめてしまりあり、地山土の再堆積土。
5. 明黄褐色土(10YR6/6)しまりあり、地山土の再堆積土。

SI 113 P 2

1. 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山粒やや多く、炭化物少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)しまりあり、地山崩壊土多量、炭化物やや多く含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)やしまりなし、地山崩壊土多量含む。
4. 褐色土(10YR4/4)しまりなし、地山崩壊土多量含む。
5. にぶい黄褐色土(10YR5/4)やしまりなし、地山崩壊土多量含む。

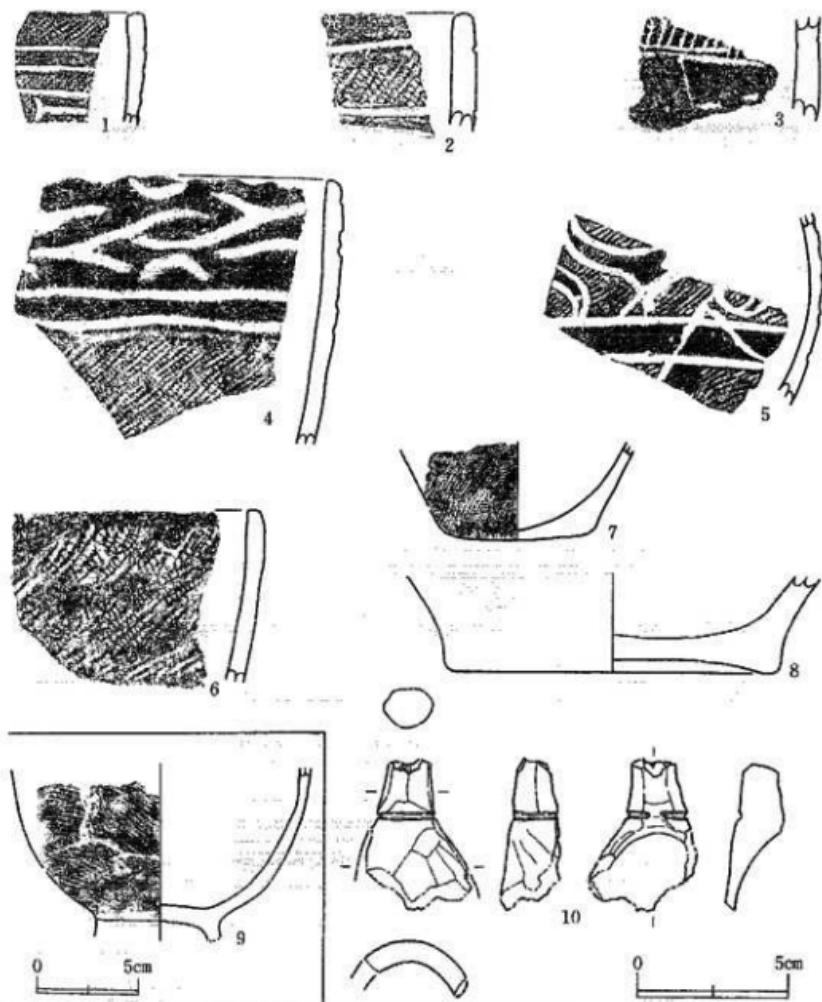
SI 113

6. にぶい黄褐色土(10YR4/3)きわめてしまりあり、地山崩壊土多量含む。
7. 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり、地山粒やや多く含む。
8. 明黄褐色土(10YR6/6)きわめてしまりあり、暗褐色土きわめて多量含む。
9. にぶい黄褐色土(10YR5/4)やしまりなし、地山崩壊土多量含む。
10. 明黄褐色土(10YR6/6)きわめてしまりあり、暗褐色土きわめて多量含む。
11. 褐色土(10YR4/6)しまりあり、地山粒やや多く含む。

SI 113 P 4

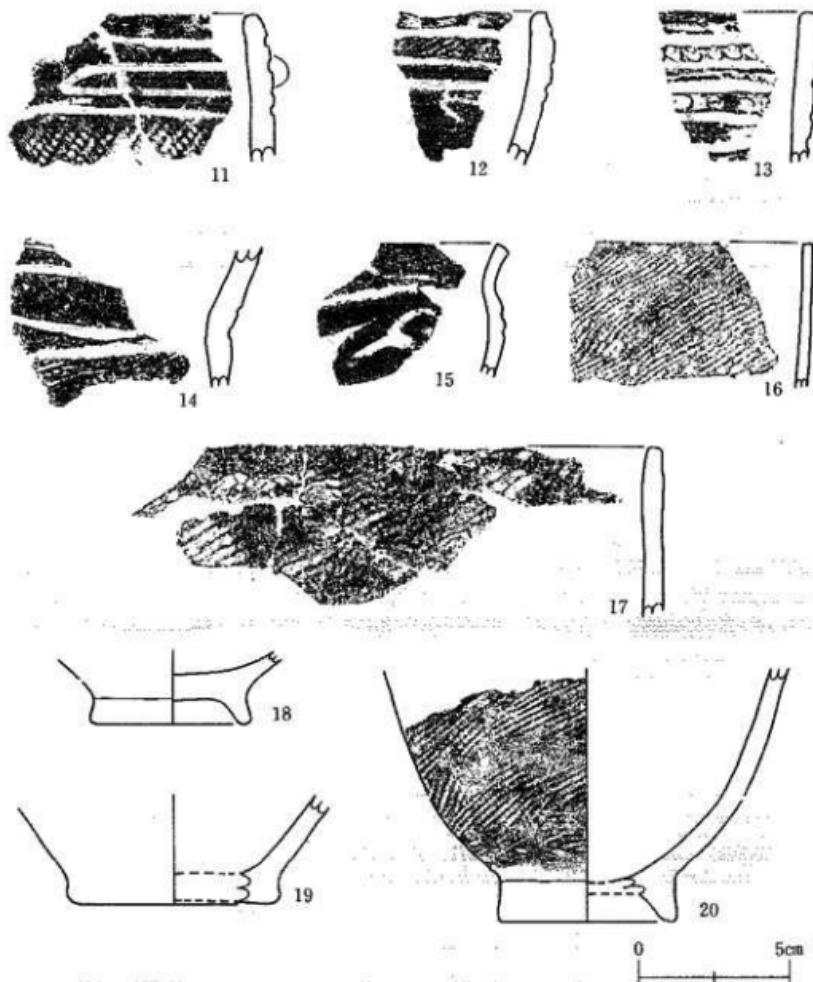
1. 黒褐色土(10YR2/3)しまりあり、地山粒少量含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4)しまりあり、地山崩壊土多量含む。
3. 黑褐色土(10YR2/3)しまりあり、地山崩壊土やや多く含む。
4. 黄褐色土(10YR5/6)しまりあり、地山崩壊土きわめて多量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/4)しまりあり、地山崩壊土やや多く含む。
6. 褐色土(10YR4/4)しまりあり、地山崩壊土多量含む。

第12図 SI 113竪穴住居跡



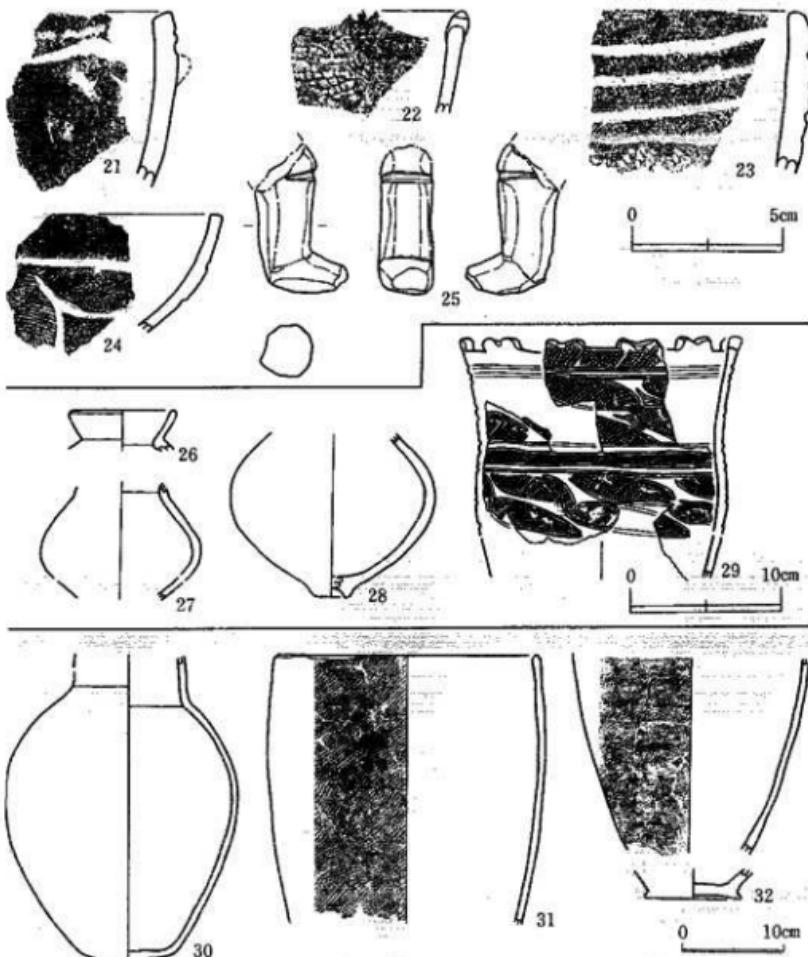
番号	出土地點	器種	断面	分類	口径	底径	高さ	文様	施文様	施文様	内底施文	外底施文	側面施文
1	SI95A	陶盞	鉢					人面三叉文?	LR	横	ナデ	スヌ	スヌ
2	SI95A	床盞	"					人面三叉文?	LR	横	ナデ	スヌ	スヌ
3	SI95A	埋土中	"					平行波線に4つ1目波線			ナデ		
4	SI95A	埋土中	"					上下に波紋文を有した人面三叉文	LR	横	ヨコナデ	スヌ	
5	SI95A	埋土中	壺					波紋文+縦波紋+横文	LR	横	ナデ		
6	SI95A	床盞	深鉢					横文	LR	横	ヨコナデ	スヌ	スヌ
7	SI95A	埋土中				5.1		横文	LR	横	ナデ	スヌ	
8	SI95A	埋土中				(11.0)							
9	SI95B	上層	鉢			6.2		横文	RL	横	ナデ	スヌ	スヌ
10	SI95B	上層	圓形土器					横波線			ナデ		

第13図 SI95A・SI95B竪穴住居跡出土土器(1)



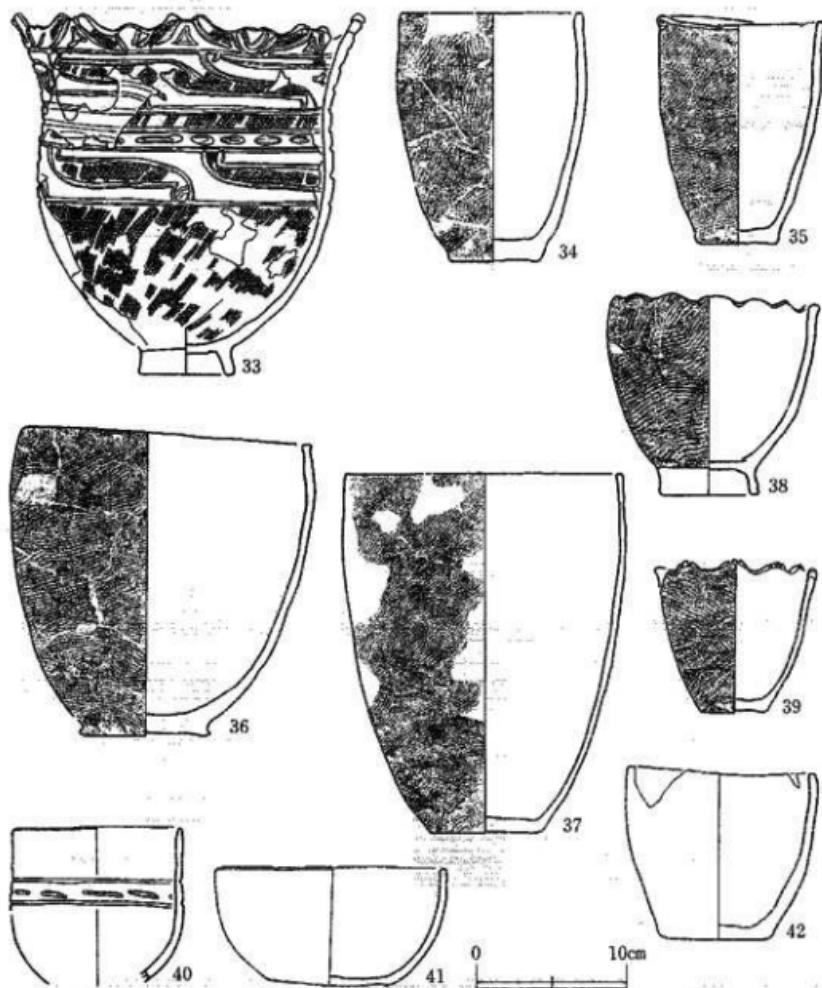
番号	出土地点	層	器形	分類	口径	底径	器高	文	様	施文部	西洋	内装性	側面形	特徴
11	SI95B	上層	縦					平行波線文？+點線		LR	横	ヨコナデ		
12	SI95B	上層		+				平行波線内縦文充填+区画文		LR	横	ヨコナデ	スス	スス
13	SI95B	上層		+				平行波線+浅い側突先端			ヨコナデ			スス
14	SI95B	上層		+				入縫三叉文？		LR	横	ヨコナデ	スス	
15	SI95B	上層		+				入縫三叉文						
16	SI95B	上層	深鉢					陶文		LR	横	ナデ	スス	
17	SI95B	上層		+				(縞文上部には斜開口部有り)		LR	横	ナデ	スス	
18	SI95B	上層	合		5.1								スス	スス
19	SI95B	上層			(7.0)									スス
20	SI95B	上層	縦		(5.8)			陶文		LR	斜斜	ケズリ		スス

第14図 SI95A・SI95B竪穴住居跡出土土器(2)



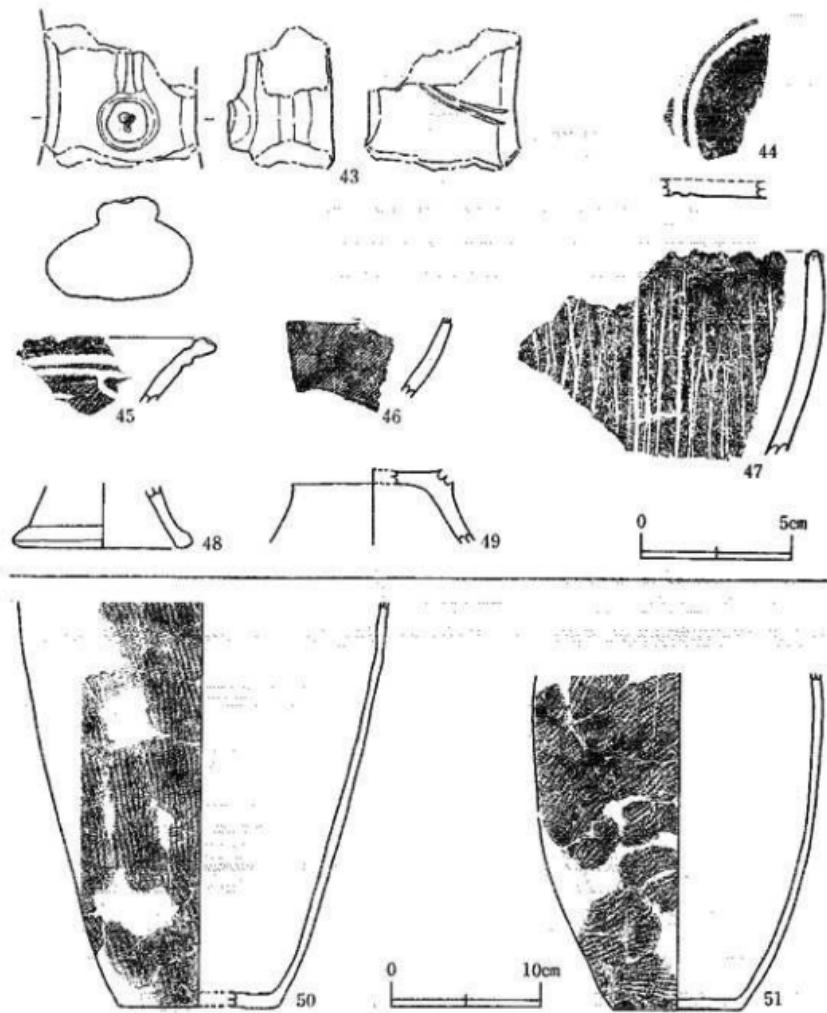
番号	出土地點	縦	横	分類	口径	底径	高さ	文様	輪列跡	縫合跡	内面の跡	修理跡	修理内
21	SI95B	下層						平行弦線+2縦一列の點痕			ヨコナデ		
22	SI95B	下層						幾文	LR	縫	ヨコナデ	スヌ	スヌ
23	SI95B	下層						平行弦線			ヨコナデ		
24	SI95B	下層	浅鉢					陰彫文と幾文先端	LR	縫斜	ミガキ	ベンガラ	
25	SI95B	下層	(土側)	足				輪を引いた形で側面に捺印弦線					
26	SI95B	下層	壺				7.1				ミガキ		
27	SI95B	下層	*								ヨコナデ		
28	SI95B	下層	进口		(2.2)						上ヨコナデ ナケズリ	ベンガラ	ベンガラ
29	SI95B	下層	合併鉢		16.7			人頭三文	LR	縫		スヌ	スヌ
30	SI95B	下層	壺	D3	9.0						ナデ		
31	SI95B	埋土中	浅鉢		26.8			幾文	LR	縫	ナデ	スヌ	
32	SI95B	床面	鉢			(9.4)		幾文	LR	縫	ナデ	スヌ	スヌ

第15図 SI95A・SI95B竪穴住居跡出土土器(3)



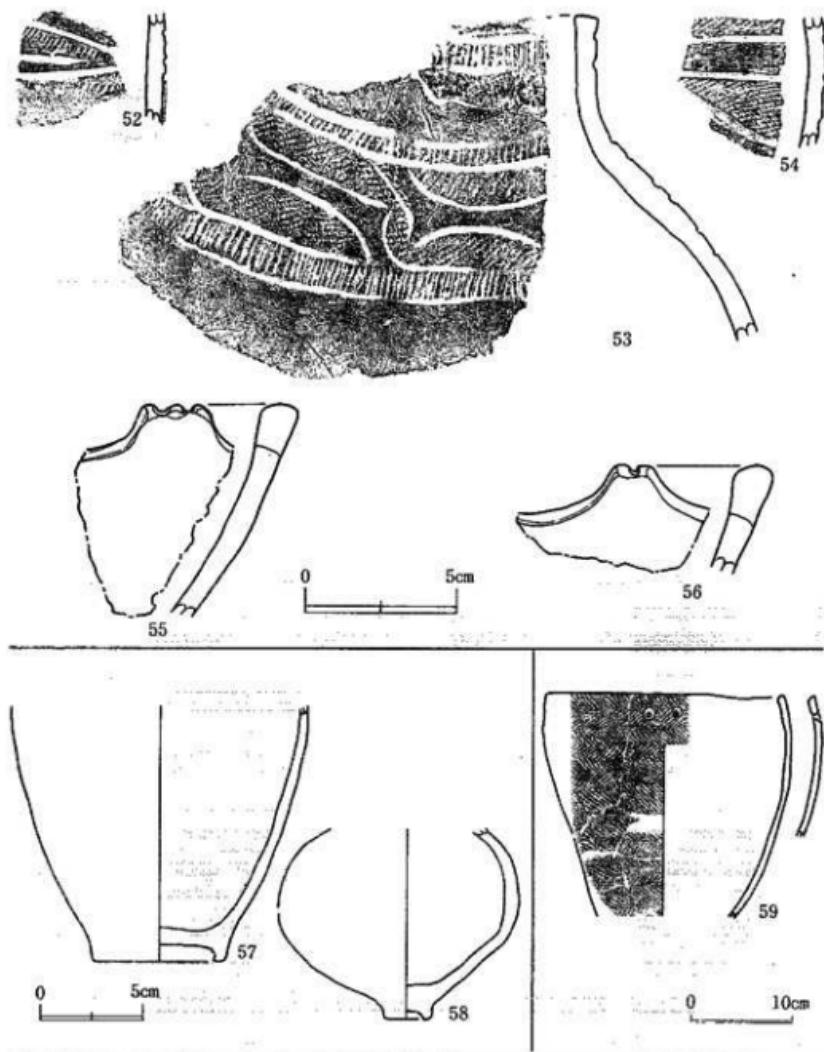
番号	出土地点	層	形態	分類	口径	底径	高さ	文		縁		取扱跡	底跡	内部内面	側面	縁跡
								縹	縞	縫	縫					
33	S195B	床面	輪鉢	G	23.4	6.0	23.8	縹	縦	縫	縫	LR	縫	ヨコナギ	スヌ	
34	S195B	床面	深鉢	E I	12.0	6.0	16.3	縞文		縫	縫	RL	不整	ナデ	スヌ	
35	S195B	床面	鉢	E I	11.2	5.5	15.0	縞文		縫	縫	LR	不整	ナデ	スヌ	スヌ
36	S195B	床面	鉢	C I	19.2	8.6	20.4	縞文		縫	縫	LR	縫	ナデ	スヌ	
37	S195B	床面	鉢	D I (B.4)	7.4	—	23.8	縞文		縫	縫	LR	縫	ナデ	スヌ	
38	S195B	床面	鉢	A I	13.3	6.5	13.4	縞文		縫	縫	LR	不整	ナデ	スヌ	スヌ
39	S195B	床面	鉢	H	(10.7)	4.4	10.1	縞文		縫	縫	LR	不整	ヨコナギ	スヌ	スヌ
40	S195B	床面	鉢	D	11.1	—	—	平行波線間に及ぶ横波線を有す		縫	縫			ミガキ		
41	S195B	床面	鉢	C	15.3	8.0	8.0	(外縫: ヤギ)		縫	縫			ミガキ		
42	S195B	床面	鉢	B I	12.4	7.6	11.5	(外縫: ケヅリ)		縫	縫			ナデ	スヌ	スヌ

第16図 S195A・S195B竪穴住居跡出土土器(4)



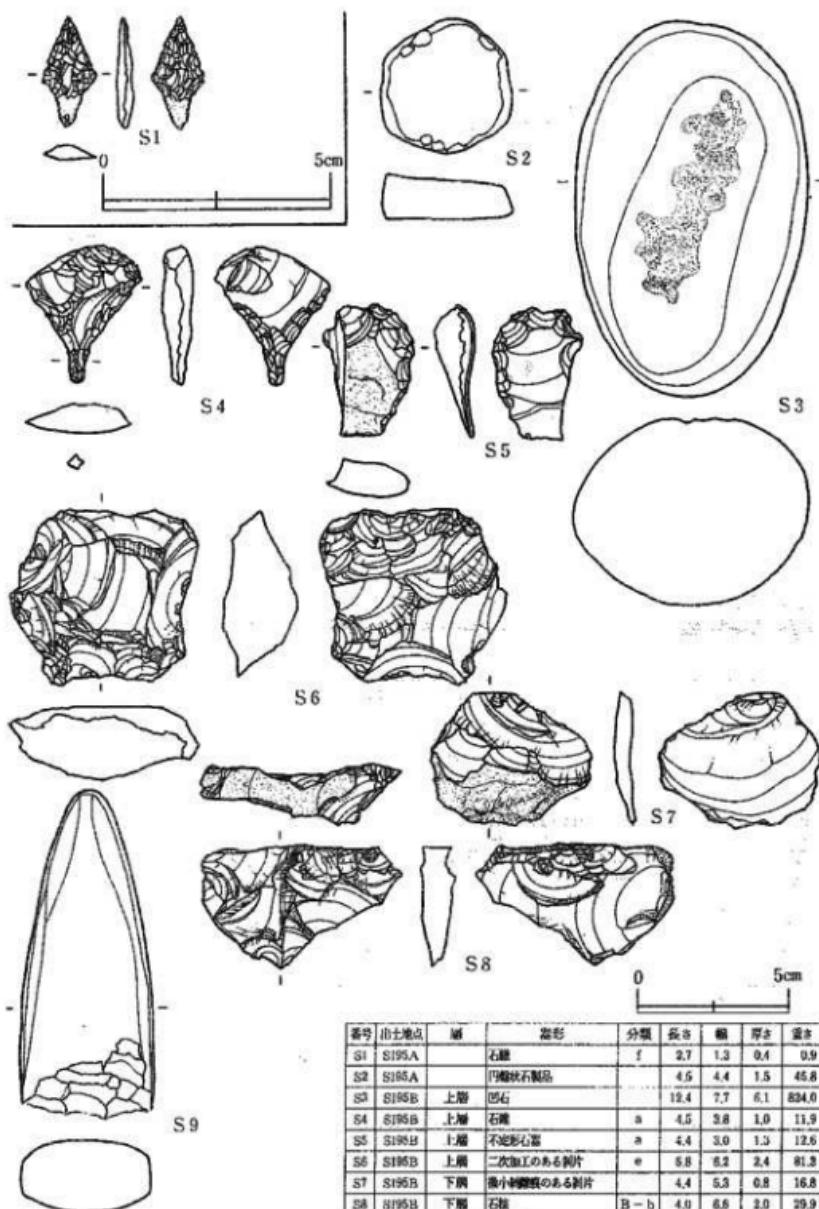
番号	出土地名	層	器形	分類	口径	底様	器高	文様	直徑	既知	内面の様	側面の	横幅
43	SI95B	床底	(土偶)	陶				幾帳とギタシ状の貼り付け					
44	SI104	埋土中	皿					平行沈線+ミガキ					
45	SI104	埋土中	皿					雷形文	LR	横	ミガキ		ペンガラ
46	SI104	埋土中						兆繩+圓文	LR	横	ミガキ		
47	SI104	埋土中	盆					口沿部斜張+網目条目状沈線			ヨコナデ		
48	SI104	室内	台					台部下端に網文等	LR	横	ヨコナデ		
49	SI104	室内	台								ミガキ		
50	SI104	床底	深鉢		(10.9)			圓文	RL	斜	ヨコナデ	スス	
51	SI104	床底	深鉢				8.7	圓文	LR	横+斜	ヨコナデ		

第17図 SI 95B・SI 104竪穴住居跡出土土器(5)

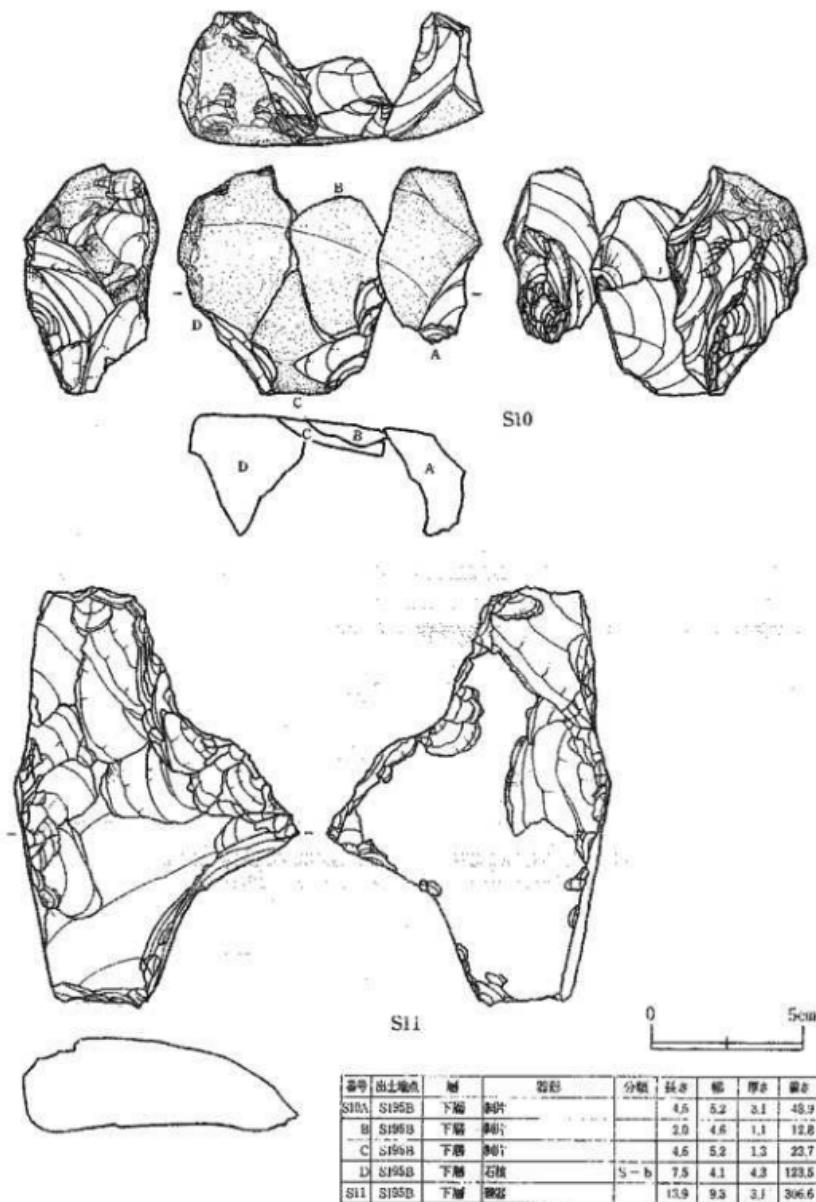


番号	出土地点	層	器形	分類	口径	底径	基高	文	機	周28mm	底径	内面の溝	付属物	付属物
53	SI 1113							入幅三叉文？+斜線キザミ目地模				ナデ	スス	スス
53	SI 1113		壺					横紋キザミ(目文部)+入幅三叉文内側文充填	L.R.	横	ナデ			
54	SI 1113							入幅三叉文？				ナデ		
55	SI 1113							山形突起の先端に2種のキザミ				ミガキ		
56	SI 1113							山形突起の先端に1種のキザミ				ミガキ		
57	SI 1113		鉢	C	5.4							ヨコナデ	スス	
58	SI 1113		壺	A	2.3							ナデ		
59	SI 1113		深鉢	C1	23.4			赤絞変ねじ縄文(同一層体による)	R.L.	横縫	ナデ	スス	スス	

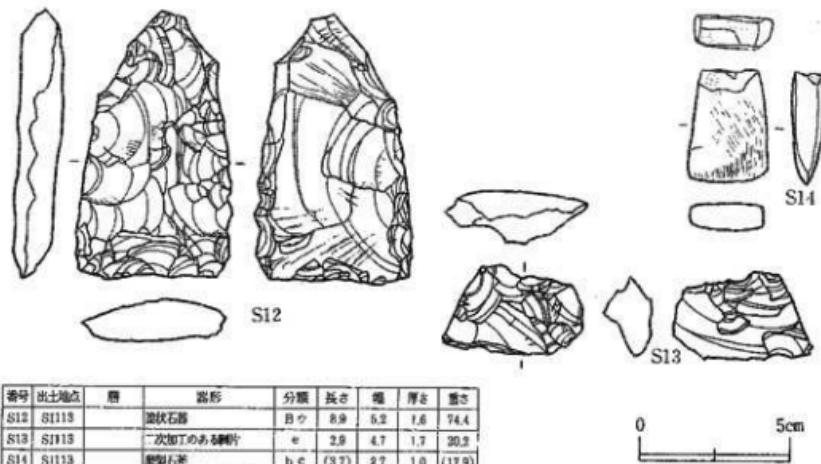
第18図 SI 1113竪穴住居跡出土土器



第19図 SI 95A・95B竪穴住居跡出土石器(1)



第20図 S195B堅穴住居跡出土石器(2)



第21図 SI 113竪穴住居跡出土石器

159・160となる。

平面形はほぼ円形で、中央部に地床炉がある。壁は南側を除いて高さ10~15cmが残存する。柱穴は北側半分で4箇所検出したが、南側半分では検出できなかった。南西側の壁際の床面で径20cm程の灰白色粘土塊を検出した。この粘土塊はSK 56、57、58、61土坑の埋上や底面で出土した粘土と同質のものである。SK 137土坑底面でも検出されている。大型の壺（第18図53）、浅鉢（55、56）、注口上器（58）等の出土上器の特徴から、遺構の帰属時期は後期末葉である。床面に近い埋土中から打面調整剝離技法によって作られた塊状石器（第21図S12）小型磨製石斧（S14）等が出土した。S14は折れ面にアスファルトが付着しており、補修して使用していたことをうかがわせる。

2 土坑

土坑は112基を検出した。個々の土坑の位置、形態、測定値等は第10図、第11図、第24図~第48図、第49図~第76図の表に掲載した。

断面形は、次の7類に分類し、表中にはその記号を記載した。

- A 口径より底径が広い三角フラスコ形の形態で、壁は底面から鋭角に立ち上がり、底面と壁との境界は明瞭である。
- B 口径より底径が広い三角フラスコ形の形態で、壁と底面の境界は丸味を帯びて連続する。

C 口径より底径が広い形態で、壁と底面の境界は丸味を帯びて連続するが、大きく内傾し、底面と天井部の高さは底径に対して極端に低い。壁は内傾した後、上方に立ち上がり開口する。

D 口径より底径が広い袋状の形態で、壁と底面の境界は丸く連続し不明瞭である。口径と底径の差はあまり大きくなない。

E 平坦な底面から壁が直立し、底面と壁に明瞭な境界がある。

F 平坦な底面から壁が立ち上がるが、底面と壁は丸味を帯びて連続し境界は不明瞭である。

G 底面から壁にかけて全体に丸く連続し、境界は不明瞭である。

土坑は、形態、大きさ、埋土の状態、粘土層の掘り込みから次の7類に分類される。

A類（31基）

平面形は橢円形で、断面形はEまたはF。埋土は、ブロック状や粒状に地山土を多量に含む人為堆積である。底面や埋土の下部でベンガラが検出された土坑も4基ある。

SK 04、08、09、14、16、22、23、28、29、30（ベンガラ）、
32（ベンガラ）、35、36、37、38、39、40、41（ベンガラ）、
44、49、51、52、53、54、55（ベンガラ）、69、80、81、82、
103、121

B類（14基）

平面形は円形もしくは不整円形で、断面形はBまたはC。埋土は、A類と同様にブロック状や粒状に地山土を多量に含む。底面や埋土下部でベンガラが検出された土坑も3基ある。

SK 01、60、63、64、65、66、67（ベンガラ）、68、71（ベンガラ）、
72、89、99、109（ベンガラ）

C類（6基）

平面形は円形もしくは不整円形で、断面形はA、B、D。埋土は、地山土の粒子を含む黒褐色系の土が流入する自然堆積で、壁の崩落による地山土の層がその間に入り互層をなす。

SK 15、34、123、132、137、151

D類（4基）

平面形は不整形、底面は凹凸が著しく、上端よりも奥に入り込んで袋状になっている部分もある。粘土層を掘り込んでおり、埋土中には粘土やシルトのブロックが多く含まれる。埋土は自然堆積で、壁の崩落による地山土の層がある場合もある。

SK 56、58、59、61

E類（26基）

平面形は円形で、断面形はE、F。径の小さい柱穴状のピットである。埋土は次の5種に細

分できる。

- (a) 地山土の粒子を含む黒褐色系の土が流入する自然堆積のもの。
- (b) 中央部に縦長の黒褐色系の土が入り、黒褐色～褐色系の土がその周囲を囲み、柱の痕跡のように見えるもの。
- (c) 埋土の上部に地山のシラス層がうすく入る。自然堆積のもの。
- (d) 底面直上に固くしまった薄い黒褐色土層があり、その上に地山のシラス層が入る。上部の埋土は、黒褐色と褐色土が薄い互層をなす自然堆積のもの。
- (e) 下部の埋土は (d) と同じであるが、上部には地山の粒子を多く含む黒褐色系の土がブロック状に入る人為堆積のもの。

SK114 (c)、115 (a)、118 (e)、119 (d)、122 (d)、
124 (e)、125 (b)、126 (b)、127 (b)、128 (d)、
130 (a)、136 (d)、140、141 (a)、142、143、144、
146、147 (e)、148 (b)、149、153、157 (a)、158、
159、160

F類 (28基)

A～D類以外の土坑で、埋土中に大湯浮石粒を含まず、縄文時代の土坑と考えられるものである。

SK02、10、11、18、21、24、26、27、33、42、70、78、79、
85、98、100、101、105、107、108、110、116、117、
120、131、145、154、155

G類 (3基)

A～D類以外の土坑で、埋土中に大湯浮石粒を含み、平安時代以降の土坑と考えられるものである。

SK12、25、84

これらのうち、A・B・C・D・E類について、配置、長軸方位、遺物出土状況等の特徴をまとめ、各類土坑の性格を推定してみる。

[配置]

A類、B類、C類、E類は台地上の平坦部と下り際の比較的緩傾斜の斜面に分布し、D類は斜面中腹に分布する。A・B・D・E各類は、調査区内の分布にそれぞれ著しかたよりがある(第22図)。

A類：8箇所のまとまりがある。台地南縁には波状の出入りがあるが、A類土坑はその突出部に多数が集中し、沢目に少數がまとまって存在する。多數のまとまりは東側(ME～MGグ

リッド)に9基、西側(MM~MOグリッド)に10基である。それをはさむようにM1ラインに3基、MQラインに4基のまとまりがある。これらの他はND51グリッド、NB51グリッド、NN53グリッド、OA50グリッドで単独に各1基がある。単独の4基以外は調査区の東半に集中しており、B類、E類が分布する区域とはほとんど重ならない。

B類：調査区中央部の最も広い突出部に13基のまとまりがある。特にMT~NBグリッドに11基が集中する。他には1基が離れて単独でML50グリッドにある。A類、D類、E類が分布する区域とはほとんど重ならない。

C類：3箇所に分散し、台地上の平坦部及び斜面上部のやや急斜面にある。東側のMM・MNラインは、A類の最も集中する区域内にあり、中央部のNE、NGラインはB類区域とE類区域の中間、西側のNM53グリッドは、E類の集中区域内である。

D類：斜面中腹の比較的急斜面に占地する。表土が未発達で段丘堆積物が落出しやすい部分である。調査区東側に3基、西側に1基ある。

E類：調査区西側の台地上に26基すべてがまとまる。台地南縁の凹部に面する。斜面下部は捨て場2の範囲である。この区域にはB類は全くない。

[長軸方位]

橢円形のA類について、8箇所の集中区を東側から順にa~h群とし、長軸方位を群毎にまとめたのが第23図である。

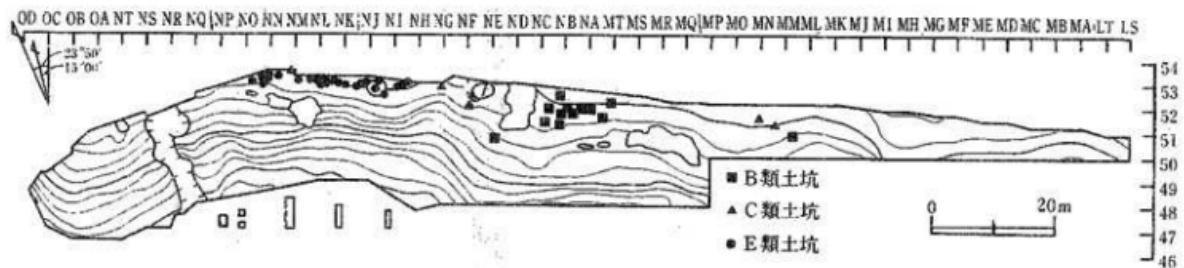
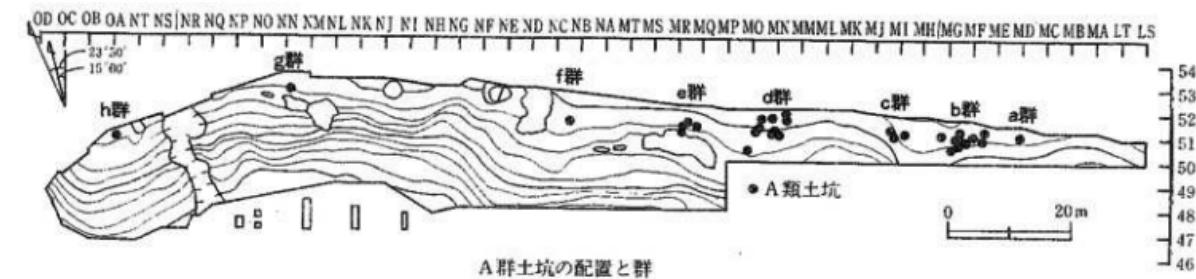
まず全体では西-東、北西-南東、北-南に集中する傾向が認められ、その他に単独で東北東-西南西のものが1基ある。北北西(N-6°-W~N-28°-W)-南南西と西北西(N-57°-W~N-70°-W)-東南東、北東(N-39°-E~N-67°-E)-南西方向には分布しない。

次にこの長軸方位とa~h群の分布域の関係を検討する。(単独の土坑によって構成されるa、f、g、h群は除く。) b、c、d、e群の含まれる長軸方向のまとまりが3方向、b、dグループのみのまとまりが2方向認められる。(以下、北側180度の半円内における長軸方位で表す。)前者は、ウN-28°-W~N-36°-W、イN-45°-W~N-57°-W、オN-24°-E~N-39°-E、後者は、エN-17°-E~N-6°-W、アN-70°-W~N-79°-Wである。さらにカN-67°-Eのものが単独である。

[遺物出土状況]

A類：ほとんど遺物が出土せず、わずかにSK37土坑で有孔石製品が2点、SK53土坑から縄文土器片が2点出土したのみである。

B類：土坑内からは、完形土器や復元土器が多数出土した。出土状況を大別すれば次の4種がある。

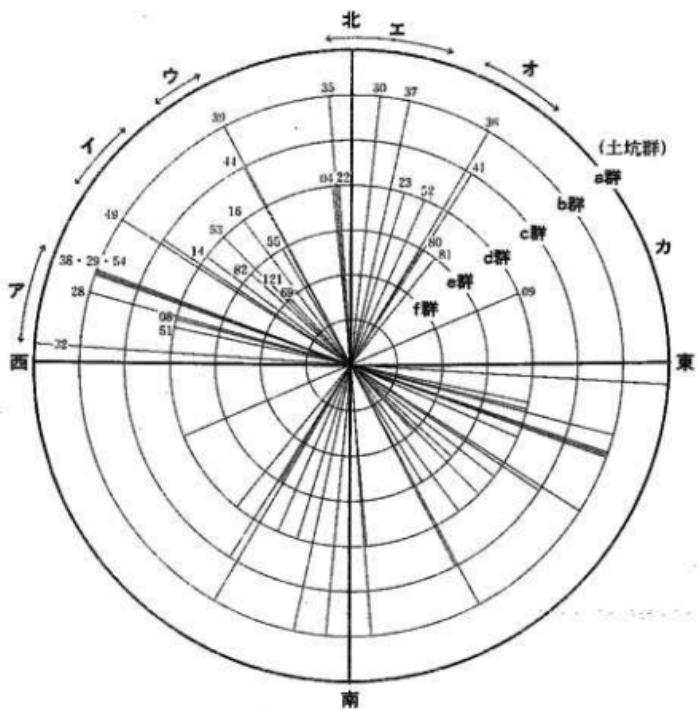


B類・C類・E類土坑の配置

第22図 各種土坑配置図

S K 0 1 遺物出土パターン b
土坑北西側で、第49図66の中に64が入れ子状に重なり、さらにその中に小型台付鉢の62と扁平な碟が入る。64・66はいずれも粗製深鉢で胸部下半から大きく2つに折れたように上半部が横倒しになって底面に接する。下半部はほぼ正立の状態で底面との間に薄い間が入る。この他に上器の小破片が埋土中に含まれる。
S K 6 0 遺物なし
S K 6 3 遺物出土パターン c
第60図154、155が多数の破片となって土坑の北側半分を覆う。土坑底面との間には約10~12cm間隔が明瞭に入る。この他に土器の小破片が底面や埋土中に含まれる。
S K 6 4 遺物出土パターン b
土坑の中央部で第60図162の中に重なって161が入った状態で横倒しになっている。隣接して160も横倒しに入る。これらはいずれも小型粗製深鉢である。土器は、底面から10~12cm程度上にあり、その間に地山ブロックを多量に含む暗褐色土と黒褐色土が互層に入る。
S K 6 5 遺物出土パターン d
埋土中から少量の土器片・石器が出土した。
S K 6 6 遺物出土パターン b・c
第61図169、170等の大破片が土坑北西側を覆うように分布する。172は横倒しの状態でそれに隣接する。これらの土器と土坑底面の間には12~14cmの地山土を多量に含む間隔が入る。さらに埋土中には土器の小破片が含まれる。
S K 6 7 遺物出土パターン b
第61図173の粗製深鉢が土坑北東側に横倒しになり、その反対側土坑南西側には底面にベンガラの散布する範囲が認められた。さらに、埋土中には土器の小破片が少量含まれる。
S K 6 8 遺物出土パターン d
埋土中から縄文のみが施された土器の小破片が少量出土した。
S K 7 1 遺物出土パターン a
第62図174~179が土坑底面に接して出土した。土坑底面の北側はベンガラが散布されており、土器はその上から横倒しの状態で出土した。
S K 7 2 遺物出土パターン d
埋土中から縄文のみが施された土器の小破片が1点出土した。
S K 8 9 遺物出土パターン a
第63図184~187が、土坑底面に接して出土した。183は薄い間層をはさんで底面からやや上で出土した。186~187の大型粗製深鉢は土坑底面の中央やや北寄りに折り重なって横倒しになっており、その南側に隣接する185の上部の破片は土の南側にも広がっていた。184の小型鉢と183の小型鉢は土坑底面の周縁に近い所があった。
S K 9 9 遺物出土パターン c
第64図195の粗製深鉢の破片が土坑底面との間に約8~10cmの間層をはさんで土坑を覆うような状態で出土した。復元した結果残存していたのは土器の3%程度である。この他に埋土中には土器の小破片、石器が少數含まれている。
S K 1 0 6 遺物出土パターン d
埋土中から第64図192~194等、少数の土器破片が出土した。
S K 1 0 9 遺物出土パターン a・c
ベンガラの混じる土が、土坑の北西側で底面との間に8~14cmの間層をはさんで検出された。第69図238の粗製深鉢はベンガラの範囲にやや重なってその南側に土坑を覆うように破片が広がっている。また、内部に注口土器(235)と台付浅鉢(237)の入った第69図241の大型の鉢と236の注口土器はベンガラのさらに北側に、235は土坑の東側にいずれも底面と壁の境界に接するように置かれていた。

第2表 B類土坑遺物出土状況一覧表



第23図 A類土坑長軸方位図

SK 0 1	N - 30° - W	SK 6 8	?
SK 6 0	N - 70° - W	SK 7 1	N - 50° - W
SK 6 3	N - 65° - E	SK 7 2	?
SK 6 4	N - 15° - E	SK 8 9	N - 0° - W
SK 6 5	?	SK 9 9	N - 0° - W
SK 6 6	N - 30° - W	SK 1 0 6	N - 70° - W
SK 6 7	N - 170° - W	SK 1 0 9	N - 75° - W

第23表 B類土坑の推定頭位方向一覧表

- a. 土坑の底面や壁に接して完形土器が置かれている。
- b. 土坑底面と完形土器の間には間隔があり、土器は埋土の下位～中位に置かれている。
- c. 原形をとどめない多数の破片となって土器が埋土中位に土坑を覆うように広がっている。
- d. 埋土中に少量の土器破片が含まれるのみである。

完形土器の中には、2個体、または3個体が入れ子状になって重ねられているものもある。

このような出土状況は短期または長期の土坑埋没過程で自然に流入または混入した結果ではなく、意識的に土坑内に埋納したものと考えられる。各土坑の出土状況をまとめたものが第2表である。

C類：ほとんど遺物が出土しない。

D類：SK56土坑の底面から大型粗製深鉢の胴部と底部が出土し(第51図82、83)、埋土の下位から波状口縁で刻目文帯が横位にめぐる小型深鉢(86)が出土した。埋土の上位では、晚期前葉の精製土器が出土した(85)。SK58土坑は埋土全体に多量の土器片を包含している。埋土中位に炭化物を多量に含む層があり、この面には焼土も形成されており、埋没過程で一度人為的な面が形成されたようである。この炭化物層をはさんで埋土は上位と下位に大別され、上位は晚期前葉の土器が、下位には後期末の土器が主体である。SK59土坑内からは土坑の下部を覆うように厚さ2～3cm、長さ35cm、幅約11cmと長さ約14cm、幅約24cmの炭化材が出土した。

E類：埋土中から縄文土器の小破片が出土する土坑と、全く遺物が出土しない土坑がある。総じて遺物は少ない。

〔土坑の帰属時期と性格〕

A類

形態的特徴、埋土の状況、ベンガラが検出されること等から、縄文時代の土塙墓と考えられる。能代市柏子所貝塚、鶴巣町藤株遺跡^⑨、秋田市地方遺跡^⑩、上新城中学校遺跡^⑪、狸崎A遺跡^⑫、東由利町湯出野遺跡^⑬、青森県青森市三内丸山遺跡^⑭、浪岡町源常平遺跡^⑮等同様の遺構が検出されている。他遺跡の類例を参考にすれば後期末～晚期中葉の幅に収まるものと思われる。

この形態の土塙墓は副葬品として完形土器が入っている例や被葬者の装身具類が出土する例がある。SK37土坑出土の有孔石製品2点はこのような副葬品もしくは被葬者の装身具であろう。

調査区内におけるA類土坑の分布は8箇所に分かれるが、これらのうち単独で検出されたa群、f群、g群、h群はさらに調査区の北側に連続して群をなすものの一部であるとも考えられ、群を形成せず単独で存在すると言いかぎり。

群を形成して検出されたb群、c群、d群、e群については主軸方位に一定の傾向を認めることができる。すなわち、b～e群には第23図に示す長軸方位のまとまりイ、ウ、オの方向の土坑が必ず1～2基含まれる。また多数の土坑による群であるb群、d群には、長軸方位のまとまりイ、ウ、オ以外の土坑が多くあるが、それらは概ね長軸方位のまとまりがア、エに集中

する傾向がある。従来から言われているように長軸方位に縄文時代人の何らかの観念的意味があるとすれば、長軸方向のまとまりは背後に共通する観念の存在を想定できる。

一方、b～e群においては、土坑が重複したりきわめて近接しながらも各区域に分かれて群を形成してしており、それらの場所に対する執着は背後に何らかの規制があったことを暗示している。これら相互の関係は、調査区内から得られた情報だけでは明らかにできない。しかし、あえて推測すれば、土坑の占地は、縄文時代人の相互の人間関係、(例えば血縁関係、出自等)を、長軸方向の違いは埋葬する際に集団全体に及んでいたであろう頭位方向に関する規制(頭位と方位に関する観念、埋葬する季節、集団内に占める自然発生的分業に基づく死者の地位、性別等)を考えることができよう。結論は保留し、他遺跡での人骨の残っている例を中心とした今後の分析と資料の蓄積を待ちたい。

B類

人為的堆積を示す埋土の状態、ベンガラが散布されるものがあること、遺物の出土状況から、A類土坑と同様に土壙墓の可能性が高いと考える。土坑内から出土した完形土器は副葬されたものであろう。土坑の帰属時期は出土土器から、縄文時代後期末から晩期初頭と考えられる。

先に遺物出土状況をa～dに大別したが、出土状況aの土器は遺骸とともに土坑に副葬したもの、出土状況bの土器は、土坑に遺骸を埋葬し、上である程度覆った後にその上に安置されたもの、出土状況cはbと同様に遺骸をある程度土で覆った後、土器を割って得た破片でその上を覆ったものと推測される。さらに推測を重ねれば、A類土坑ではベンガラが遺骸の頭部あるいは胸部の位置を表しているのと同様に、出土状況cの土器片も遺骸の頭部や胸部を覆う行為とも考えられる。とすれば、SK109土坑の遺物出土状況は、遺骸の頭部にベンガラをふりかけ、上半身を粗製深鉢を割った破片で覆い、他の5点の土器をその周囲の壁際に副葬して埋葬したものとも解釈できる。

このように遺物の出土場所やベンガラから頭位を推定できそうなものの方向を第3表にまとめてみた。A類土坑と比較してみると、A類土坑において認められた長軸方位のまとまりア～オ以外の角度に入るという特徴がある。

また、1つの土坑群を形成している土坑の中にも副葬品の入り方や種類、量に大きな違いがあってA類土坑とは大きく異なっている。

形態的違いも含め、B類土坑とA類土坑の違いを時期差とすることは、出土遺物からは決定し難い。類例を求める大館市山館上ノ山遺跡では断面形がフ拉斯コ形や袋状になる土坑群が検出された。完形土器や浅鉢形の木製品が出土し、ベンガラが散布されていた土坑もあり、家ノ後遺跡B類土坑と類似する。帰属時期は晩期前葉から中葉である。晩期前半の円形の土壙墓として河辺町松木台Ⅲ遺跡例もある。松木台Ⅲ遺跡の土壙墓は埋土中に断面形がフ拉斯コ形な

るものではなく、円礫を多く含むものや標識的立石を伴うものがある。

青森県むつ市大湊近川遺跡例は、家ノ後遺跡よりやや古い時期の土壙群で、土坑の形態、埋土の状態、遺物出土状況は類似する。岩手県安代町水神遺跡例は、報告書では土壙基ではなく貯蔵穴であるとしているが、後期末から晩期中葉までの土坑が数多く検出され、家ノ後遺跡B類土坑と類似する土坑もある。九戸村川向Ⅲ遺跡例は、家ノ後遺跡とほぼ同時期と考えられるが、零石町繁Ⅲ遺跡例とともに貯蔵穴としており、土坑内から出土する完形土器は貯蔵用に使用された土器がそのまま遺棄されたものと解釈している。盛岡市蔵内遺跡例ではきわめて多数の土坑が検出され、人骨の遺存土壙があることによって、円形の土坑、梢円形の土坑のいずれも土壙基としている。

このような例から、北東北にあってはB類土坑は、家ノ後遺跡例より少し古い時期から晩期中葉まで認められる。

しかし、これらの遺跡でもA類土坑とB類土坑の時期差を明瞭に示す例はなく、また、明らかに同時期に存在するバラエティーと言い切れるのものもない。したがって家ノ後遺跡調査区内のA類土坑とB類土坑が同時期における埋葬様式の違いなのか、A類からB類へ推移する時期差を表すものなのかを決めるることは現時点では困難である。もし前者であれば家ノ後遺跡を墓域としていた集団内には埋葬様式や土壙基の占地に反映される重層的で複雑な組織原理が存在したことになるであろう。後者であれば、A類土坑とB類土坑の特徴に現れている葬送様式の変化の背後には、集団内における人間関係の質的变化が後期末から晩期前葉にかけて生起し、繩文時代の一小画期となることが想像される。今後それが判明するような類例の調査が行われれば、家ノ後遺跡の土壙基群に対する理解も深めることができるであろう。

C類

埋土の状態、遺物がほとんど入らないことから、貯蔵穴と考えられる。時期は不明である。

D類

D類土坑のうち最大規模のSK56土坑は、平面形が不整形で、整った形のA・B・C・E類土坑とは異なる。底面は径1~2mの不整形土坑のような凹部が多数重複し、凹凸が著しい。この凹部の底面は灰白色の粘土層を掘り込み、粘土層の下面まで達しているが、それより下には掘り下げられていない。土坑の埋土中、特に斜面下部側には土坑内から搔き出されたような粘土ブロックを多量に含んだ埋土が堆積している(図版7)。このような状況から、SK56土坑は粘土層の粘土を掘り出すことを目的とした繩文時代後期末~晩期初頭の粘土探掘坑と考える。SK59土坑、SK61土坑も小規模ながら、SK56土坑に隣接し、形態が不整形であること、粘土層を掘り込んでいることから同様の目的で掘られた土坑と考えられる。SK58土坑も不整形で、土坑壁面の上部にある粘土層を掘り込んでいること、埋土中に多量の粘土ブロックを含

むことから粘土探掘坑と考えられるが、粘土層自体は薄く、探掘された粘土の量もあまり多くないようである。土坑の下部では均質な細砂層を掘り込んでおり、素地に混ぜ合わせる砂を探取していた可能性もある。

S K56・59・61土坑の、埋土の状態からは、地表面から到達するに至る掘削の過程がある程度推測できる。まず斜面中腹の粘土層が露頭している所を横に所謂「たぬき掘り」状に掘り込み、しだいに入門を広げていく。次に掘削坑の天井部分をも掘りくずし、斜面中腹にテラス状の平場をつくりながら、さらに粘土層に沿って奥へ掘り進んでいく。S K56土坑はこのようにして形成された後、オーバーハングした天井が大規模に崩落（落盤）して、下部が一度に埋没したものであろう。底面近くから出土した第51図82の土器は、粘土採取時期に最も近い時期のものである。

縄文時代粘土探掘坑とされる土坑はこれまでに岩手県零石町塙ヶ森II遺跡、福島県羽白C遺跡、茨城県東大橋原遺跡、東京都多摩ニュータウンNo.248遺跡¹³の4例が報告されている。SK56土坑の形態は、塙ヶ森II遺跡例、羽白C遺跡例に類似する。しかし、粘土層まで到達するに至る掘り込み方はこれらの遺跡では地表面から下に掘り進んでいるのに対し、SK56は斜面を横から掘り込み、オーバーハングする天井をもっており、やや異なる。また大規模な掘削が行われた多摩ニュータウンNo.248遺跡例では、地表面から垂直に豊穴を掘り、粘土層にあたったところで横にトンネル状に掘り進んでいる。粘土層を横方向に追って掘り進んでいくやり方はSK56土坑と共通する。粘土探掘の規模（探掘粘土の量）は、多摩ニュータウンNo.248遺跡外は家ノ後も含め小規模で、重複も多い。規模の小さいSK59・61土坑は粘土層を探りあてるための試掘坑かもしれない。縄文時代の粘土探掘坑はまだ類例も少なく資料蓄積の段階である。家ノ後遺跡のD類土坑もその一資料として提示しておく。今後の詳細な研究をまちたい。

E類

埋土状態d・eの最下部にみられる黒褐色土とシラスの薄くしまった互層は、土坑上部の埋土状態とは関係なく同じ堆積状況を示すこと、きわめて固くしまっていること、埋土がすべて自然堆積である埋土状態aの土坑とは明確に区別できることから、人為的に入れて固められたものであると考える。このような埋土の状態及び規模・形態から、何らかの建物の柱穴と推測される。帰属時期は出土遺物からみて後期末～晩期前葉頃と推定される。土坑群のはば中央にあるSK125・126・127・148土坑は埋土状態bで、柱の痕跡らしき土色の違いが観察され、柱の最下部が残存した状態で埋没した想像される。この4土坑を東西からはさむようにSK124・147・128・118土坑があり、これらは人為的堆積を示す埋土状態eである。これらの4土坑は上端部が不整形に広がっており、柱が抜き取られた可能性がある。埋土状態eと同様に土坑下部にシラスがうすく入る埋土状態dの土坑は、埋土状態aの土坑と混在する形で土坑群の東側

と西側に多い。

調査した範囲はE類土坑群の南端部で調査区の北側にはさらに多數の土坑があると推定される。調査区内の柱穴だけでは柱穴配置や建物の配置は困難である。後期・晩期の墓域に付属する柱穴群としては、鹿角市大湯環状列石周辺遺跡、高屋館跡、秋田市地方遺跡がある。前2者は後期前半の配石墓群の外側をとりまいて建物群域があり、さらに外側に遺物が多量に出土する区域がある。地方遺跡は逆に柱穴群をはさんで東西2箇所に晩期前半の墓域が形成され、柱穴群の南側から多量の遺物が出土した。これらの例は、墓域と建物群と捨て場がセットとなって、葬送と祭祀が行われていたことを示すものである。家ノ後遺跡の状況もこれと類似する。すなわち、土壙墓であるA類土坑、B類土坑とは分布域を異にして、土壙墓群の西側に建物群の柱穴であるE類土坑が配置される。その東側と南側の斜面には捨て場が形成されている。ただ、前記3遺跡との相違点もある。大湯環状列石周辺遺跡と高屋館跡では、六角形または五角形の建物が墓域を放射状に取り囲むが、家ノ後遺跡では、墓域を放射状に取り囲むのではなく、墓域の外側に隣接する。地方遺跡でも墓域を放射状に取り囲まず墓域に隣接するが、地方遺跡ではさらに建物群をはさんだ反対側にも墓域がある。家ノ後遺跡調査区の西側は地形的に墓域が分布する余地はない。また、捨て場は上記3遺跡では平地あるいは緩斜面に形成されるが、家ノ後遺跡では急斜面と斜面下の沖積地に形成されている。さらに家ノ後遺跡での土壙墓にはA類土坑とB類土坑があるが上記3遺跡には形態の異なる土壙墓が異なる地点で群を形成することはない。

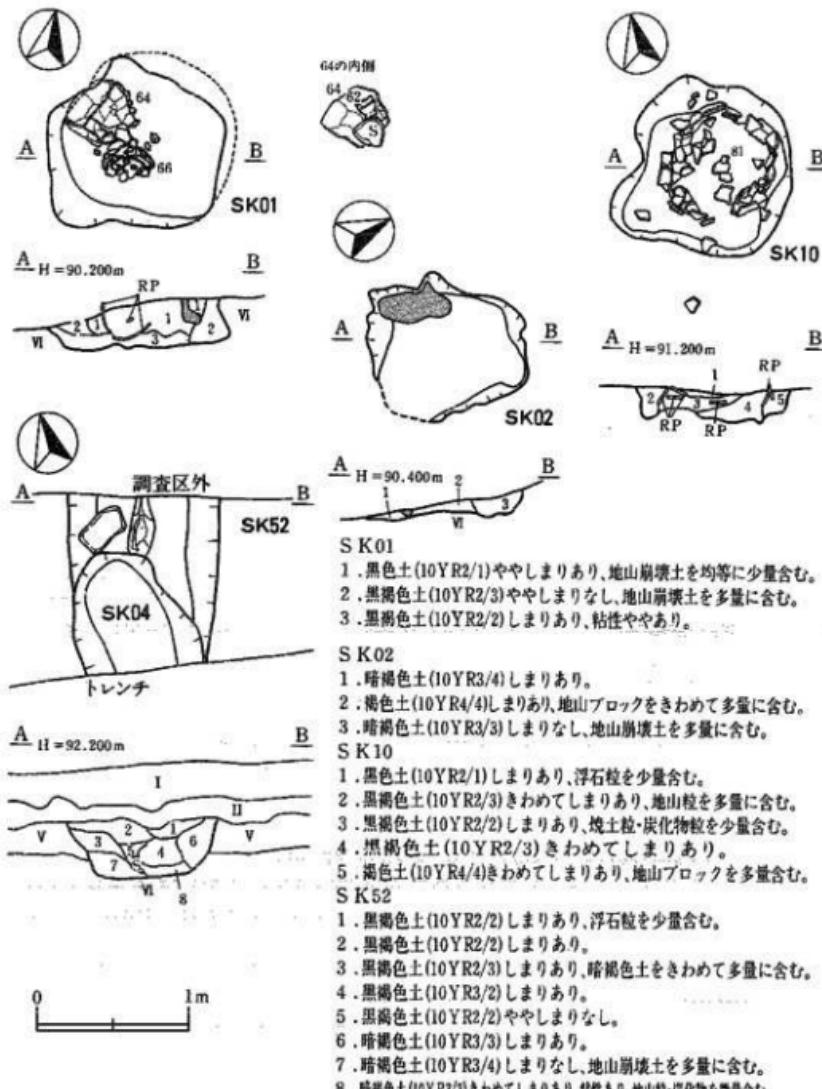
このように家ノ後遺跡と上記3遺跡は墓域、建物群、捨て場というセット関係において共通し、個々の遺構群のあり方は異なる。これを仮に以下のように解釈しておく。墓域の周辺では、掘立柱建物群を用い、多量の土器・石器等を使用する葬送儀礼及び祭祀が行われる。そして祭祀参加者に共通の観念的背景をもった祭祀行為の一環としてそれらの集中廻糞も行われる。このような葬送儀礼及び祭祀の基本構造は、後期前葉の大湯環状列石や高屋館跡、後期末～晩期前葉の家ノ後遺跡、晩期前半の地方遺跡とも共通し、さかのばれば中期の岩手県水沢市西田遺跡例までたどれそである。一方個々の遺構群の配置では、空間の中心に墓域がある後期の2例と、中心に建物群や捨て場のある地方遺跡例の違いは、葬送儀礼及び祭祀を行う主体者達の精神生活において墓の占める位置及び重要度の違いを表わす。後期の2例にあっては個々の死者は所属する集団全体の葬送儀礼及び祭祀と不可分に結びつき一体化している。死者は集団全体によって集団の聖域の中心に埋葬される。晩期の地方遺跡例では、後期2例とは逆に祭祀空間である建物群と捨て場が埋葬空間にとり囲まれ、祭祀と埋葬は逆転している。さらに梢円形土壙墓群の中にいくつかの支群があり、支群の中では著しい重複がある。これは、全体の墓域の中にあって、小集団の墓域が固定化しつつあることを示すもので、全体の集団から相対的に

独立の度合いを高めた小集団の存在が顕在化しつつある状況が想定できる。それ故に全体で行う葬送儀礼もしくは祭祀が集団全体に対する帰属意識の再確認及び強化の機会として重要性を増し、その場が墓域の中心に設定されることになる。

晩期の遺跡には、青森県亀ヶ岡遺跡や是川遺跡に代表されるように、完形土器等が大量に出土する遺跡が多く知られ、その中には必ずしも墓域と隣接しない例もある。これを葬送儀礼と祭祀の分化と考えれば、かつて葬送と一体化していた祭祀が分離し、独自の発達をすることの背後には、集団に対する帰属意識の再確認と強化の要請がさらに強まっているという事情があったと考えられる。これは、裏返しにみれば結びつきが相対的に強い小集団が全体の中で顕在化していく傾向があったことを意味する。このような後期前葉から晩期前半に至る流れを想定すれば家ノ後遺跡A類土坑、B類土坑の分布、E類土坑群や捨て場の配置は、その中間的様相を示している。

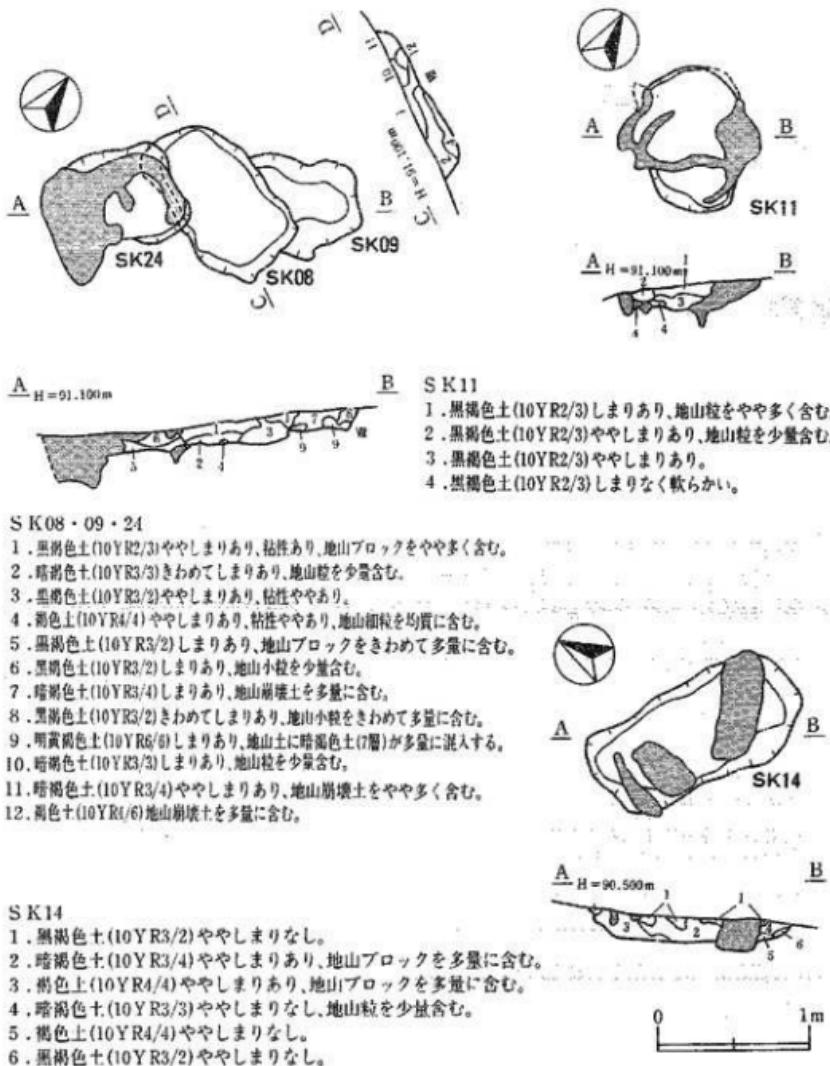
註

- (1) 能代市教育委員会 『柏子所貝塚発掘調査報告書』 1972(昭和47年)
- (2) 秋田県教育委員会 『藤株遺跡発掘調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第85集 1981(昭和56年)
- (3) 秋田市教育委員会 『秋田市秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』 地方遺跡 1987(昭和62年)
- (4) 秋田市教育委員会 『上新城中学校遺跡』 林道工事・小グランド造成に伴う緊急発掘調査報告書 1980(昭和55年)
- (5) 秋田市教育委員会 『秋田市秋田臨空港新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』 理崎 A遺跡 1985(昭和60年)
- (6) 秋田県教育委員会 『湯出野遺跡発掘調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第53集 1978(昭和53年)
- (7) 青森県教育委員会 『近野遺跡発掘調査報告書(Ⅲ)・三内丸山(Ⅱ)遺跡発掘調査報告書-青森県総合運動公園建設関係発掘調査-』 青森県埋蔵文化財調査報告書第33集 1977(昭和52年)
- (8) 青森県教育委員会 『源常平遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書第33集 1978(昭和53年)
- (9) 大館市史編さん委員会 『大館市史』 第一巻 1979(昭和54年)
- (10) 秋田県教育委員会 『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書 I -石坂台IV遺跡・石坂台VI遺跡・石坂台VII遺跡・石坂台VIII遺跡・石坂台IX遺跡・松木台III遺跡』 秋田県文化財調査報告書第150集 1986(昭和61年)
- (11) 青森県教育委員会 『大湊近川遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書第104集 1987(昭和62年)
- (12) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 『水神遺跡発掘調査報告書-東北横断自動車道関連発掘調査-』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第96集 1986(昭和61年)
- (13) 財團法人岩手県埋蔵文化財センター 『川向遺跡発掘調査報告書-畠地帯総合土地改良事業関連発掘調査(昭和55年度)-』 岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第26集 1982(昭和57年)
- (14) 財團法人岩手県埋蔵文化財センター 『御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書 盛岡市葉栗遺跡』 岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第13集 1980(昭和55年)
- (15) 財團法人岩手県埋蔵文化財センター 『御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書 盛岡市薪内遺跡』 岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第32集 1982(昭和57年) (→ P. 63)



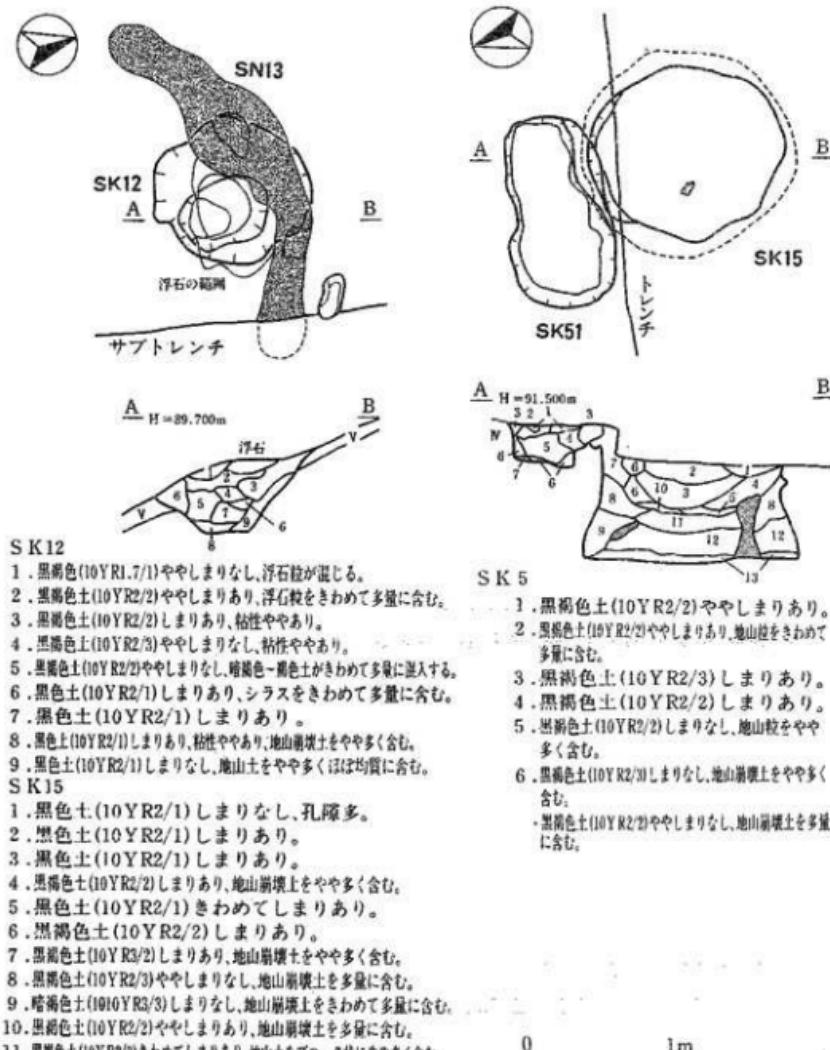
土 種	検出グリット	輪面	平面形	断面形	上端部径(m)	下端部径(m)	深さ(m)	壤土の状態	重 植 防 除	遺物 対 象
SK01	ML50+51	VI	円形	B	1.26×1.20	1.15×1.11	0.45	人為堆積		49・73
SK02	MM50	VI	(円形)	F	1.18×0.95	(1.00)×0.80	0.23			
SK04	MM51+52	V	(椭円形)	F	×0.9	×0.45	0.27		SK52→SK04	
SK52	MM51+52	V	(椭円形)	F	×0.96	×0.65	0.19	人為堆積	SK52→SK04	
SK10	MM51	VI	不整円形	E	0.65×0.25	0.58×0.49	0.10			51

第24図 SK01・02・04・10・52土坑



土坑	袖山グリッド	側面	平面形	断面形	上端断面(m)	下端断面(m)	深さ(m)	堆土の状態	重複關係	遺物種目
SK08	MNS1, MUS1	W	(椭円形)	F	[0.88] × [0.77]	X	0.13		SK08-SK24	
SK09	MNS1	W	椭円形	E	1.15 × 0.68	0.93 × 0.56	0.90	人為堆積	SK09-SK08-SK24	
SK09	MNS1	W	椭円形	E	> 0.69	> 0.57	0.12	人為堆積	SK09-SK08	
SK11	MMB1	W	(円形)	E	0.97 × 0.75	0.92 × 0.75	0.23			
SK14	MOB1	W	椭円形	F	1.46 × 0.73	1.31 × 0.54	0.27	人為堆積		50

第25図 SK08・09・11・14・24土坑



土壤	検出グリッド	概観	平面形	断面形	上端部径(m)	下端部径(m)	厚さ(cm)	壁上の状態	重複開発	遺物伴岡
SK12	ML50	V	円形	H	1.05×(1.01)	0.6×0.45	0.51	人為堆積	SK15→SN13	
SK51	MN51	VI	椭円形	E	1.30×0.70	1.20×0.64	0.34	人為堆積	SK15→SK51	
SK15	MM51,MNS1	VI	円形	A	1.30×1.17	1.43×1.38	0.77	自然堆積	SK15→SK51	
地土掩蔽	検出グリッド	概観	平面形	断面形	上端部径(m)	下端部径(m)	厚さ(cm)	堆積の状態	重複開発	遺物伴岡
SN13	ML50	V	弧状	G	(2.43)×0.75		28		SK12→SN13	

第26図 SK12・15・51土坑、SN13焼土遺構

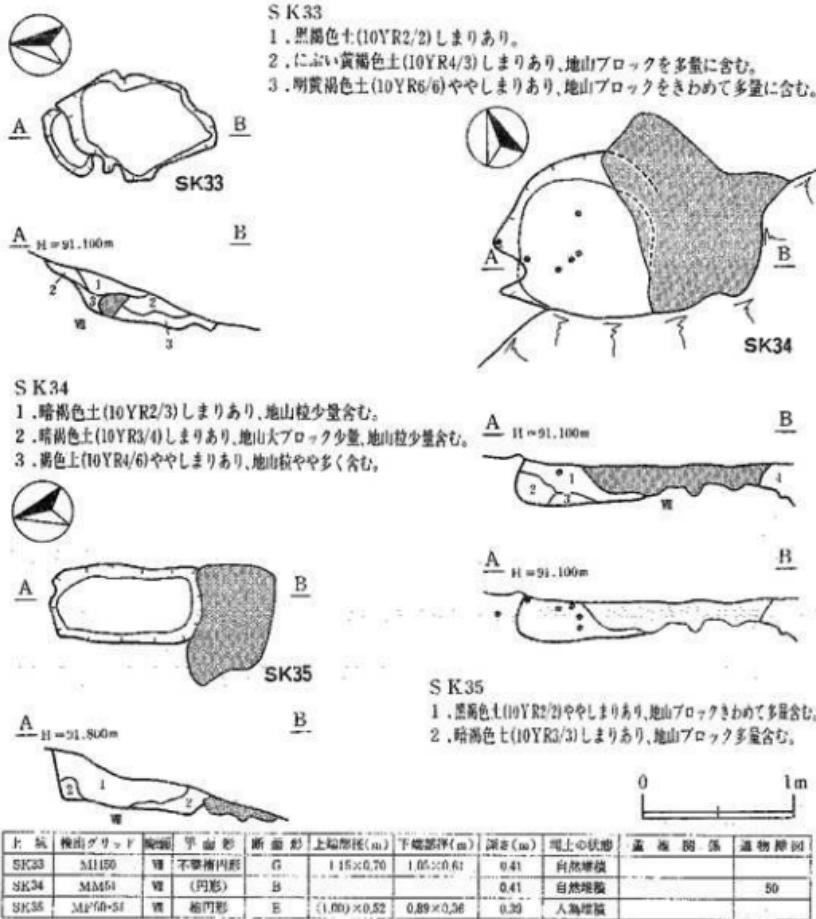


第27図 SK16・18・21・22・23・25坑



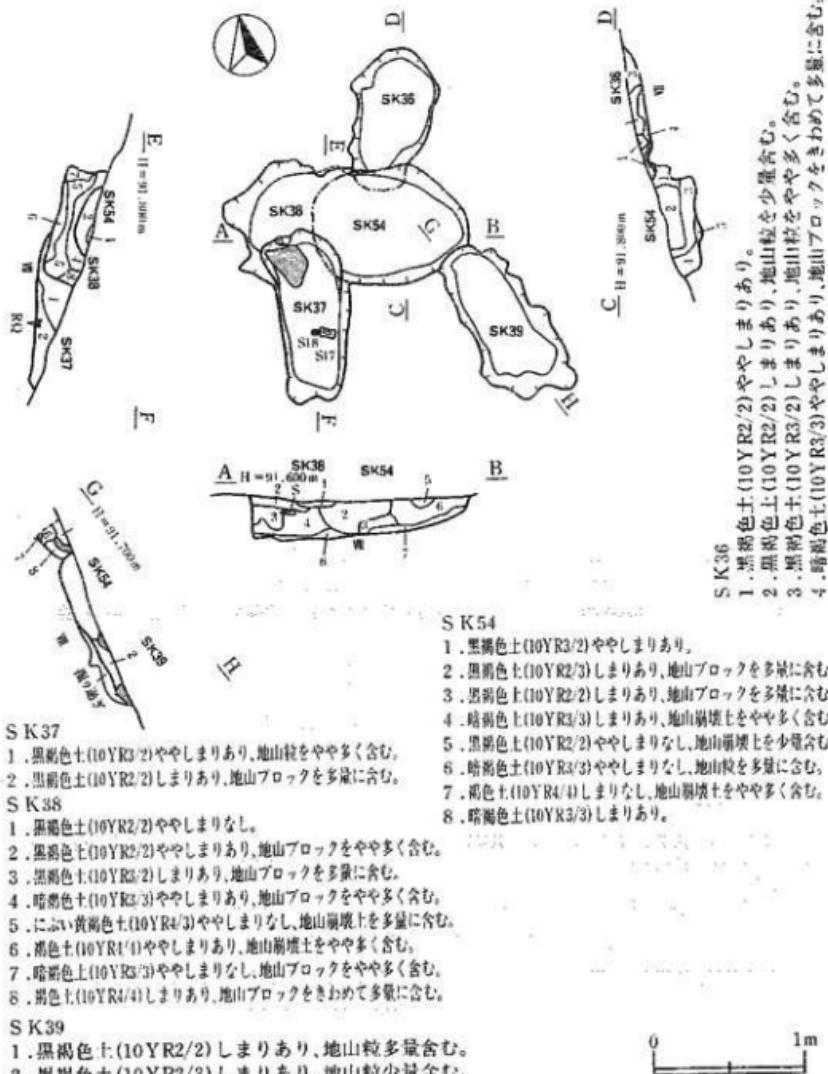
土坑	検出グリッド	地盤	平面形	断面形	上端部厚(m)	下端部厚(m)	溝さ(m)	周土の状態	所見	開発	遺物種目
SK26	MES0, MF50	W	不規則形	G	1.13 × 0.61	0.85 × 0.52	0.63	-	-	-	-
SK27	ME50, MF50	W	椭円形	F	0.74 × 0.60	0.65 × 0.37	0.26	-	-	-	-
SK28	MF50, MG50	W	椭円形	F	1.48 × 0.61	1.31 × 0.45	0.26	人為堆積	-	-	-
SK29	ME50-51	W	椭円形	F	0.97 × 0.44	(0.85) × 0.36	0.19	人為堆積	-	-	-
SK30	ML25	W	椭円形	E	1.15 × 0.67	1.02 × 0.60	0.28	人為堆積	-	-	-
SK32	MD51	W	椭円形	E	1.15 × 0.70	1.01 × 0.51	0.31	人為堆積	-	-	-

第28図 SK26・27・28・29・30・32土坑



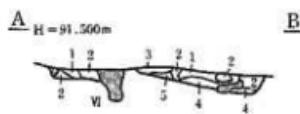
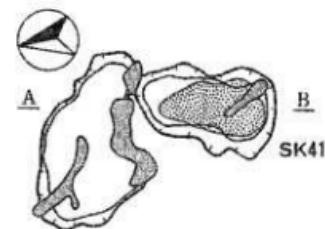
第29図 SK33・34・35土坑

- (16) 財団法人岩手県埋蔵文化財センター『御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書 - 零石町塙ヶ森II遺跡』 岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第31集 1982(昭和57年)
- (17) 福島県教育委員会他『真野川流域総合開発事業 真野ダム関連遺跡発掘調査報告XII』 福島県文化財調査報告書第194集 1988(昭和63年)
- 福島県教育委員会他『東野川流域総合開発事業 東野ダム関連遺跡発掘調査報告XIII』 福島県文化財調査報告書第210集 1989(平成元年)
- (18) 石岡市教育委員会『石岡市東大橋原遺跡 - 第2次調査報告 -』 1979(昭和54年)
- 石岡市教育委員会『石岡市東大橋原遺跡 - 第3次調査報告 -』 1980(昭和55年) (→ P. 94)



土 種	検出グリッド	剖面	平 面 形	新 面 形	上端部径(m)	下端部径(m)	深さ(m)	透 土 の 状 態	重 棚 間 係	遺 物 种 別
SK36	MF51	■	楕円形	F	(0.95) × 0.56	(0.74) × 0.48	0.17	人為堆積	SK38-SK54-SK36	50
SK37	MF51-S1	■	楕円形	F	1.16 × 0.59	0.68 × 0.37	0.34	人為堆積	SK37-SK38-SK54	73
SK38	MF50-S1	■	楕円形	E	> 0.82	> 0.52	0.28	人為堆積	SK37-SK38-SK54	
SK39	MF50-S1	■	楕円形	F	1.15 × 0.66	0.96 × 0.39	0.32	人為堆積	SK38-SK54-SK39	
SK54	MF50-S1	■	楕円形	F	(1.05) × 0.81	(1.02) × 0.68	0.39	人為堆積	SK38-SK54-SK36	

第30図 SK36・37・38・39・54土壤



SK 40

- 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり、粘性ややあり、地山崩壊土をやや多く含む。
- 黒褐色土(10YR2/2)しまりあり、地山粒をやや多く含む。

SK 41

- 暗褐色土(10YR3/4)しまりあり、地山ブロックを多量に含む。
- 黒褐色土(10YR3/2)ややしまりあり、地山ブロックを多量に含む。
- 黒褐色土(10YR2/2)しまりあり。
- 褐色土(7.5YR4/6)しまりあり、粘性ややあり、ベンガラが混じる。
- 褐色土(7.5YR1/4)しまりあり、粘性ややあり、3層にベンガラが混じる。



SK 42

- 暗褐色土(10YR3/2)しまりあり。
- 褐色土(10YR4/0)しまりあり、地山崩壊土をきわめて多量に含む。
- 黒褐色土(10YR3/2)きわめてしまりあり、地山粒を少量化。



SK 44

- 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり、地山ブロックを多量に含む。
- 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山粒をやや多く含む。
- 黒褐色土(10YR2/2)しまりあり、地山粒を多量に含む。
- 暗褐色土(10YR3/4)ややしまりあり、地山ブロックを多量に含む。
- 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり、粘性ややあり。

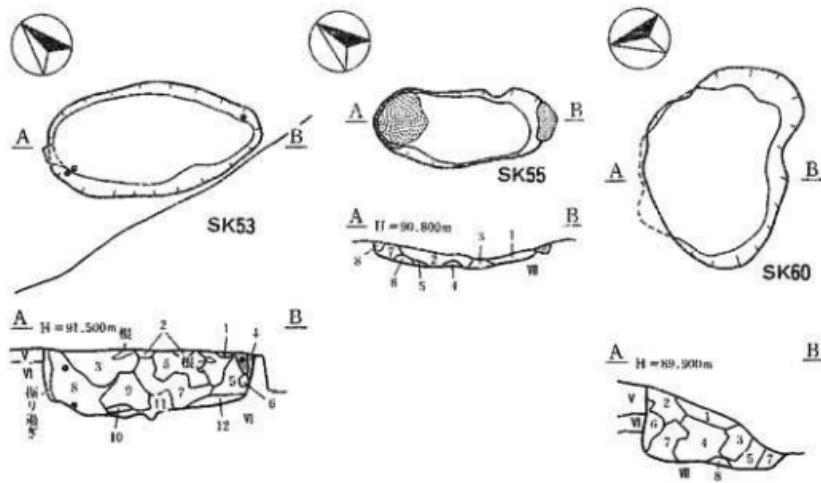
SK 49

- 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり、地山ブロックを多量に含む。
- 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山粒をやや多く含む。
- 暗褐色土(10YR3/1)しまりあり、地山粒をやや多く含む。



土 種	検出 クリック	地盤形	平 面 形	断 面 形	上端幅様(m)	下端幅様(m)	深さ(m)	埋上の状態	直 檻 開 係	遺物 深 度
SK40	M151	V	不整 槌円形	E	1.23 × 0.75	1.09 × 0.70	0.11	人為堆積		
SK41	M161	V	槌円形	E	0.93 × 0.97	0.84 × 0.35	0.12	人為堆積		
SK42	M152	V	(槌円形)	E			0.48	(人為堆積)		
SK44	MH51, M51	V	槌円形	E	1.20 × 0.92	1.06 × 0.43	0.19	人為堆積		
SK49	MG51	V	槌円形	E	1.15 × 0.56	1.03 × 0.41	0.19	人為堆積		

第31図 SK40・41・42・44・49土坑



SK53

- 黒色土(10YR2/1)しまりあり、浮石細粒を少量含む。
- 黒褐色土(10YR2/3)しまりあり、浮石細粒を少量含む。
- 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山ブロックを少量含む。
- 暗褐色土(10YR3/3)ややしまりなし、地山崩壊土をやや多く含む。
- 暗褐色土(10YR3/4)しまりあり、地山ブロックを多量に含む。
- 暗褐色土(10YR3/5)ややしまりあり。
- 黒褐色土(10YR2/3)しまりあり、地山粒をやや多く含む。
- 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山崩壊土をやや多く含む。
- にぶい黄褐色土(10YR4/3)しまりあり、地山ブロックをきわめて多量に含む。
- 黒色土(10YR1.7/1)しまりあり、粘性ややあり。
- 暗褐色土(10YR3/3)きわめてしまりあり、地山崩壊土を多量に含む。
- 褐色土(10YR4/4)ややしまりなし、粘性ややあり、地山崩壊土をやや多く含む。

SK55

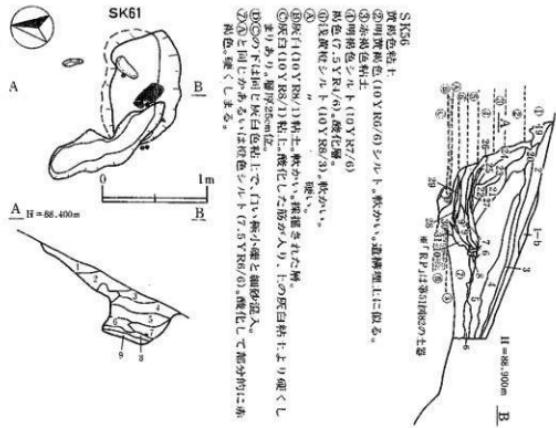
- 暗褐色土(10YR3/4)ややしまりなし、地山粒をやや多く含む。
- 暗褐色土(10YR3/4)ややしまりなし。
- 暗褐色土(10YR3/4)しまりあり、地山崩壊土を多量に含む。
- 黒褐色土(10YR2/3)しまりあり。
- 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり、ベンガラを含む。
- 暗褐色土(10YR3/4)しまりあり、粘性ややあり、地山ブロックを多量に含む。
- 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり、粘性ややあり、地山崩壊土を少量含む。ベンガラを多量に含む。
- 黒褐色土(10YR2/3)しまりあり、地山ブロックを少量含む。

SK60

- 黒褐色土(10YR2/2)しまりあり。
- 暗褐色土(10YR3/2)ややしまりあり。
- 黒褐色土(10YR2/3)ややしまりあり。
- 黒褐色土(10YR2/3)ややしまりあり、地山粒を少量含む。
- 黒褐色土(10YR2/3)ややしまりなし、地山粒を少量含む。
- 褐色土(10YR4/4)ややしまりあり、地山粒をやや多く含む。
- にぶい黄褐色土(10YR4/3)しまりあり、地山崩壊土を多量に含む。
- 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山崩壊土をきわめて多量に含む。

土 壤	検出グリッド	地圖	平 面	断 面	上端部徑(m)	下端部徑(m)	深さ(m)	腐土の状態	廣 広	固 体	遺物 密度
SK53	MM51・52	V	椭円形	B	1.41×0.76	1.32×0.60	0.40	人骨埋植			60
SK55	MG51	Ⅴ	椭円形	B	(1.15)×0.51	1.01×0.45	0.23	人骨埋植			
SK60	MT50	V	不規則形	B	1.31×0.96	1.14×0.86	0.60	人骨埋植			75

第32図 SK53・55・60土坑

**SK 61**

- 黒褐色土 (10YR2/3) きわめてしまりあり、青灰小礫粒少量、黄褐色浮石少量含む。
- 暗褐色土 (10YR3/4) つまりあり、灰白浮石少量、黄褐色浮石少量含む。
- 黒褐色土 (10YR2/1) つまりあり、黄褐色浮石微量含む。
- 黒褐色土 (10YR2/1) つまりなし、灰白化作用ありで多量含む。
- 暗褐色土 (10YR3/3) きわめてしまりあり、黄褐色地山粒少量含む。
- にい黄褐色土 (10YR3/3) つまりあり、青色・健剛土・黄褐色山丘少量含む。
- 黒褐色土 (10YR2/1) つまりなし、黄褐色地山粒少量含む。
- 黒褐色土 (10YR2/3) きわめてしまりあり、青色小礫粒微量含む、ネバネバの粘土。
- 灰褐色土 (10YR4/1) つまりあり、細色小礫粒少量、全土ムラなく炭化物被覆ありで多量含む。

SK 56 S.P., A ~ B (I ~ IIはS.P., E ~ Fと同じ)
19. 地山と暗褐色土 (10YR3/3) の混合土。

20. 黑褐色土 (10YR2/2) に地山小~中粒多量含む。

21. 暗褐色土 (10YR2/2) に地山小~中粒や多く含む。

22. 黑褐色土 (10YR2/2) 地山極小~小粒多量含む。

23. 地山と暗褐色土 (10YR3/3) の混合土。

24. 地山主体の層、褐色土多量含む。12層と似る。

25. 暗褐色土 (10YR3/3) きわめてしまりあり、地山多量含む。

26. 明黄褐色土 (10YR7/6) 主体で褐色土や多く含む。

27. 地山(明黄褐色土 10YR6/6) ルート貫通26の境上に5mほどの褐色土含む。

28. 褐色土 (10YR4/4) 地山きわめし多量含む。

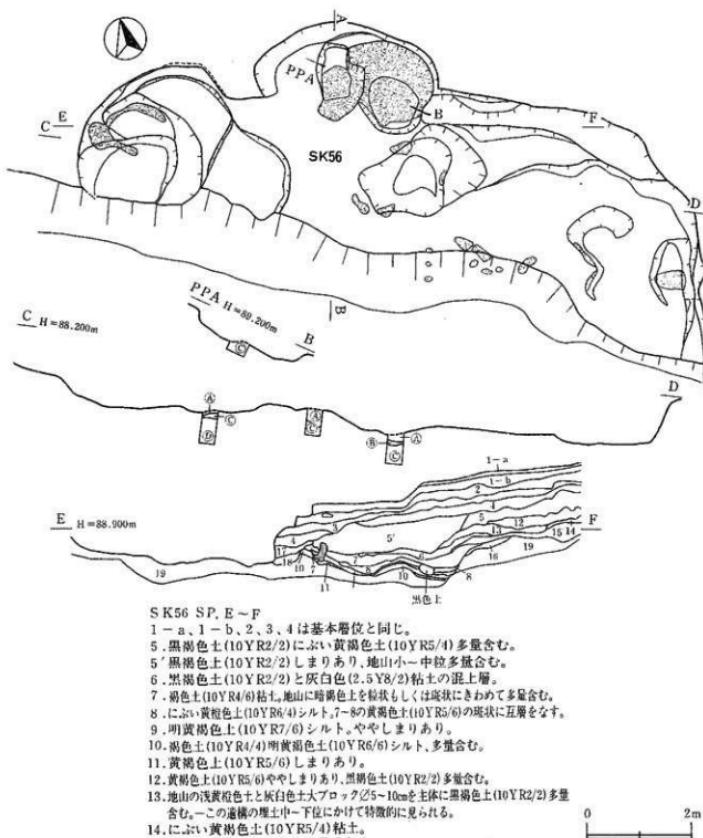
29. 地山(にい黄褐色土 10YR6/4) シルト質。上に2~3mmの薄い褐色土層が入る。

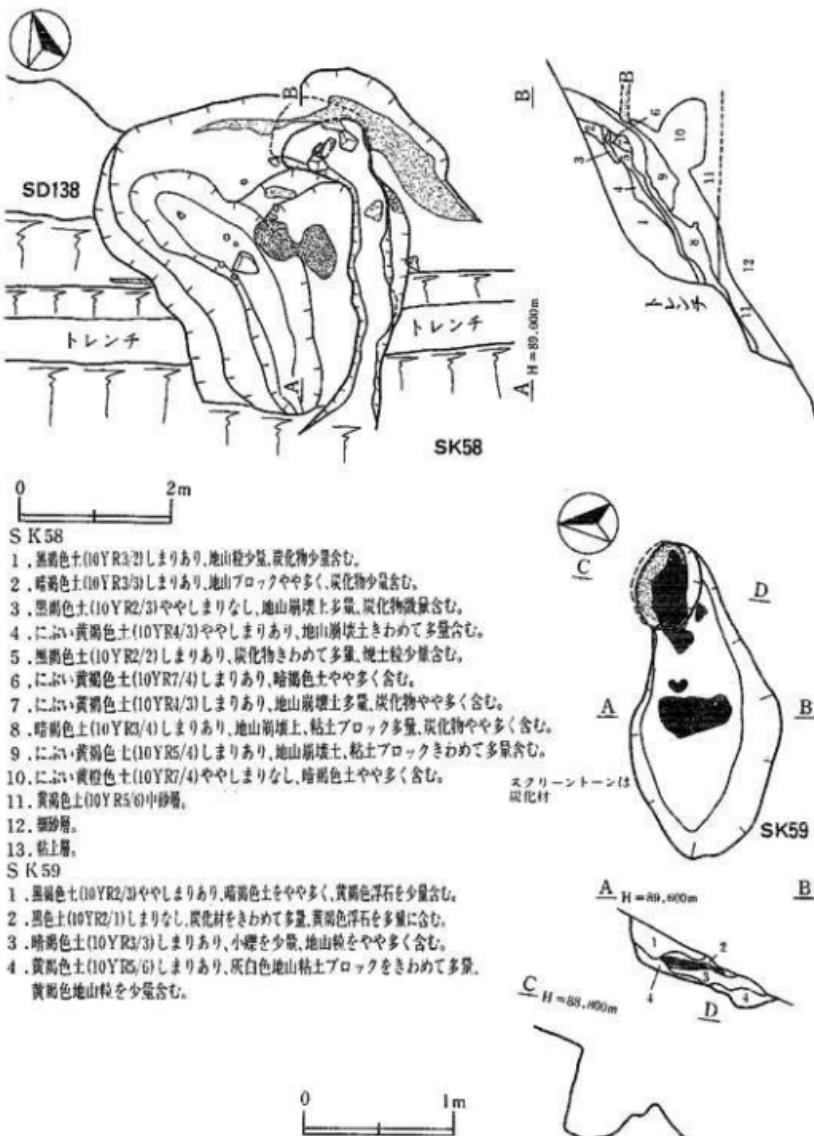
30. 地山(にい黄褐色土 10YR7/4) シルト土。この層より褐色土層(大破土)出土。

31. 地山(にい黄褐色土 10YR7/3) 色上に灰褐色土 (10YR2/2) 粘土多量含む。

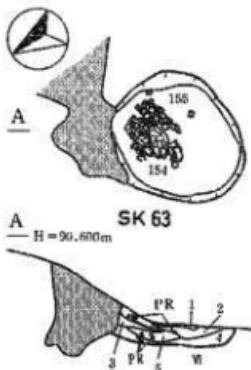
上	坂	横断アプローチ	傾斜	平均	断面形	地表面	地表面標高(m)	下限標高(m)	厚さ(m)	理土の状態	重	固	直	遺物群
SK56	M12-NA50	IV	不規	E	1.76±0.78	1.80±0.62	0.49	自然堆積	なし	なし	なし	なし	なし	
SK56	M12-MS50	Ⅲ		G	12.20±7.70		1.90	自然堆積	なし	なし	なし	なし	なし	

第33図 SK56-61土坑

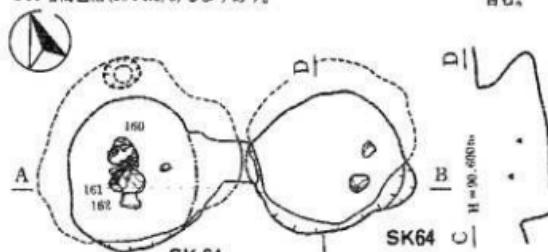




第34図 SK58・59土坑



- S K 63
1. 黒褐色土(10YR2/3)ややしまりあり。
 2. 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり、地山粒をやや多く含む。
 3. 黒褐色土(10YR3/2)ややしまりあり、炭化物を少量含む。
 4. 褐色土(10YR4/4)しまりあり、地山崩壊土をきわめて多量に含む。
 5. 暗褐色土(10YR3/4)ややしまりあり、地山粒を少量含む。
- B
1. 黒褐色土(10YR2/3)しまりあり。
 2. 黑褐色土(10YR3/2)しまりなし、地山崩壊土をきわめて多量に含む。
 3. 黑褐色土(10YR2/3)ややしまりあり。
 4. 黑褐色土(10YR2/3)しまりあり、地山崩壊土をやや多く含む。
 5. 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり。
 6. 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり、地山崩壊土をきわめて多量に含む。
 7. 褐色土(10YR4/4)しまりあり、地山崩壊土をやや多く含む。
 8. 黑褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山粒をやや多く含む。
 9. 黑褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山崩壊土を多量に含む。
 10. 暗褐色土(10YR3/4)しまりあり。
 11. にぶい黄褐色土(10YR4/3)しまりあり、地山崩壊土を多量に含む。
 12. 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり、地山粒をやや多く含む。
 13. 黄褐色土(10YR5/6)きわめてしまりあり、地山崩壊土をきわめて多量に含む。
 14. 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり。

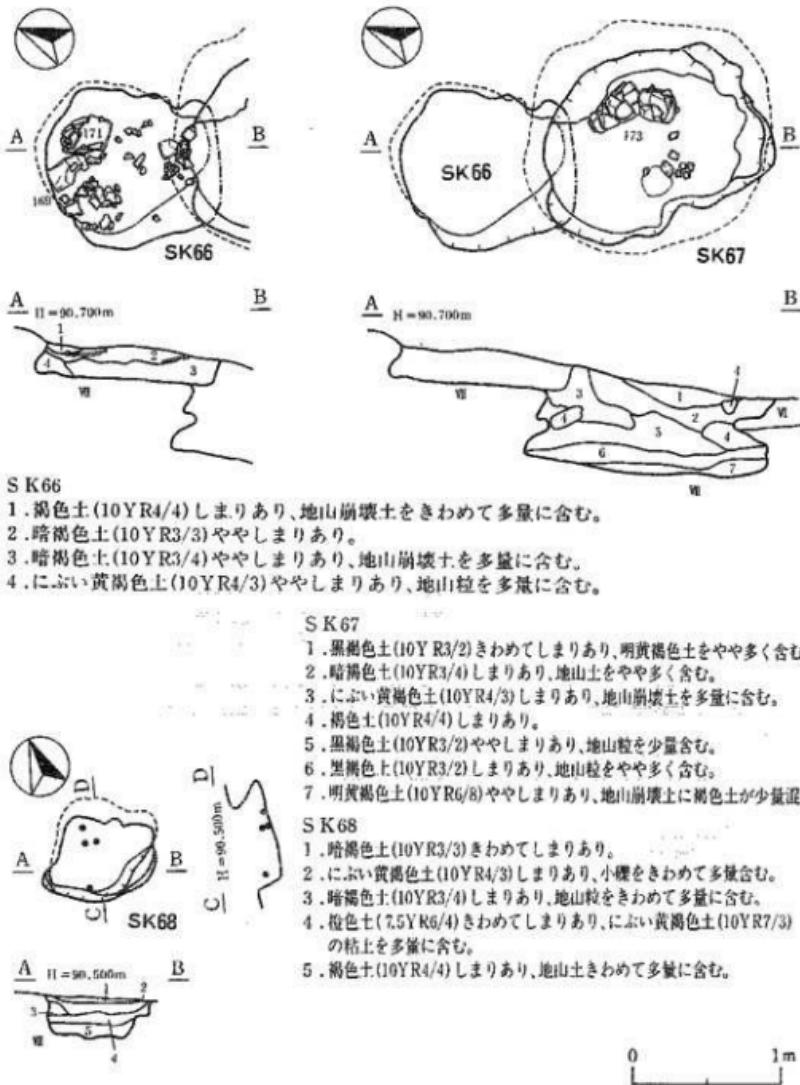


- S K 64
1. 黒褐色土(10YR2/2)ややしまりあり。
 2. 黑褐色土(10YR2/3)しまりあり。
 3. 黑褐色土(10YR3/2)ややしまりあり、地山崩壊土を多量、炭化物を微量含む。
 4. 黑褐色土(10YR2/2)しまりあり、地山崩壊土を少量含む。
 5. にぶい黄褐色土(10YR4/3)しまりあり、地山崩壊土を小ブロック状に多量に含む。
 6. 暗褐色土(10YR3/3)ややしまりなし、地山崩壊土を多量に含む。
 7. 黑褐色土(10YR3/2)きわめてしまりあり、地山崩壊土を少量含む。
 8. 褐色土(10YR4/4)しまりなし、地山粒を少量含む。
 9. にぶい黄褐色土(10YR4/3)ややしまりなし、地山崩壊土を多量に含む。
 10. 黑褐色土(10YR3/1)しまりあり、地山崩壊土を少量含む。
 11. にぶい黄褐色土(10YR5/3)しまりあり、地山崩壊土を多量に含む。
 12. にぶい黄褐色土(10YR4/3)しまりあり、地山崩壊土をきわめて多量に含む。
 13. 明黄褐色土(10YR7/6)ややしまりなし、地山ブロック。
 14. 黑褐色土(10YR2/2)しまりなし、地山粒を少量含む。サラサラしている。
 - (1) 黑褐色土(10YR3/2)ややしまりあり。

0 1m

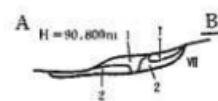
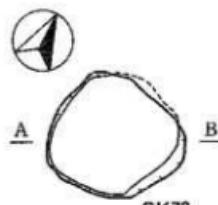
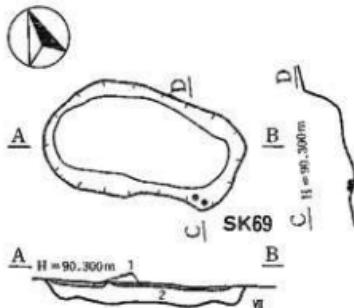
土 坑	検出グリッド	断面	平面形	断面形	上部部深(m)	下部部深(m)	幅(m)	壁の状態	重 積 間 係	植物 関 係
SK63	MT53	VH	円形	F	0.91×0.81	0.86×0.72	6.24	人為堆積	60	
SK64	NAM-53	VH	円形	G	1.05×(0.83)	1.88×1.15	0.57	人為堆積	60	
SK65	MT51-G3, NA51-G3	VH	円形	C	(1.78)×0.96	1.12×1.05	0.49	人為堆積		

第35図 SK63・64・65土坑



土坑	検出クリット	断面	平面形	断面形	上端距離(m)	下端距離(m)	高さ(m)	埋土の状態	遺構関係	遺物等
SK66	NA51-68, EB51	VII	不整内形	C	(1.18) × 1.06	(1.17) × 1.01	0.39	人為堆積	SK67→SK66	61×75
SK67	NA51	VI	円形	C	1.57 × 1.19	1.75 × 1.55	0.80	(人為堆積)	SK67→SK66	61
SK68	NA451	VII	不整方懸	C	0.85 × 0.60	0.82 × 0.69	0.23	人為堆積		61

第36図 SK66・67・68土坑



SK69

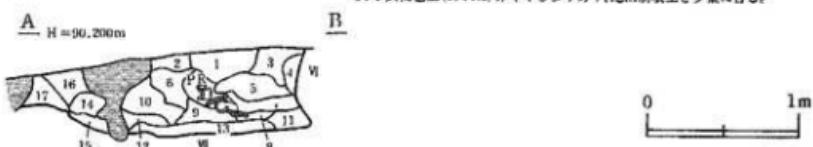
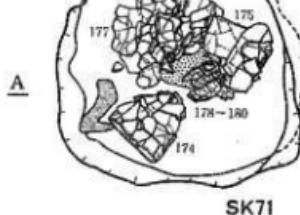
1. にぶい黄褐色土(10YR4/3)しまりなし、明黄褐色土(10YR6/8)のブロックをやや多く含む。
2. 褐色土(10YR4/4)しまりなし、明黄褐色土(10YR6/8)小ブロックをきわめて多量含む。

SK70

1. 暗褐色土(10YR3/4)しまりあり、地山粒を多量、炭化物を少量含む。
2. 黄褐色土(10YR5/8)ややしまりあり、暗褐色土(10YR3/4)を多量に均質に含む。

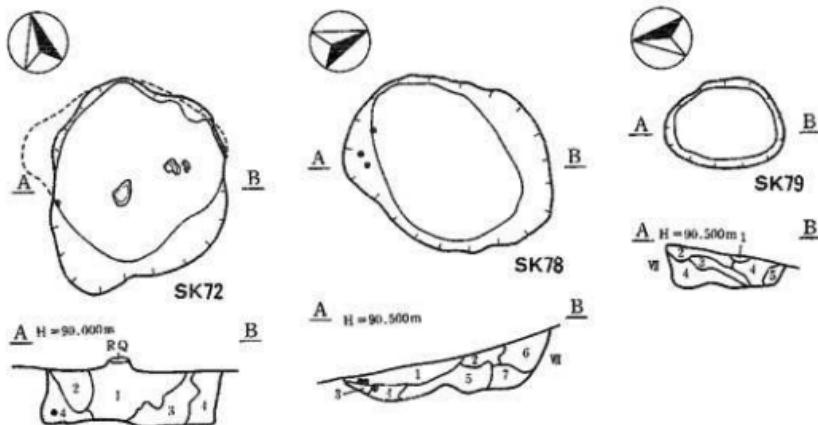
SK71

1. 暗褐色土(10YR3/4)ややしまりあり、地山崩壊土をやや多く含む。
2. 黄褐色土(10YR5/6)しまりあり、地山崩壊土を多量に含む。
3. 黄褐色土(10YR5/6)しまりなし、地山崩壊土を多量に含む。
4. 黄褐色土(10YR5/8)しまりあり、暗褐色土を多量に含む。
5. 黑褐色土(10YR7/8)しまりあり、黒褐色土・暗褐色土をやや多く含む。
6. 黑褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山崩壊土を多量、炭化物を微量含む。
7. 布褐色土(10YR3/3)ややしまりあり、地山粒・炭化物を少量含む。遺物包含層。
8. 黑褐色土(10YR2/2)ややしまりあり、炭化物をやや多く含む。
9. 黄褐色土(10YR5/3)しまりあり、地山崩壊土を多量、炭化物を少量含む。
10. 黑褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山崩壊土をきわめて多量に含む。
11. 褐色土(10YR4/6)ややしまりなし、地山崩壊土を多量に含む。
12. 褐色土(10YR4/4)しまりあり、地山崩壊土を多量に含む。
13. 褐色土(10YR4/4)しまりあり、地山崩壊土をやや多く含む。
14. にぶい黄褐色土(10YR5/4)きわめてしまりあり、地山崩壊土を多量に含む。
15. 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり、地山崩壊土を多量に含む。
16. 黄褐色土(10YR5/6)ややしまりあり、地山崩壊土を多量に含む。
17. 黄褐色土(10YR5/6)ややしまりあり、地山崩壊土を多量に含む。



土 壤	推出グリッド	輪廓	平 面 形	断 面 形	上端部径(m)	下端部径(m)	深さ(m)	壌土の状態	電 磁 地 係	遺 物 記 図
SK69	NB51	VII	椭円形	E	1.34×0.74	1.16×0.54	0.33	人為堆積		61
SK70	NB52	VII	円形	F	0.93×0.84	0.87×0.77	0.23			
SK71	NB51, NC51	VII	円形	C	1.79×1.58	1.56×1.50	0.19	人為堆積		62

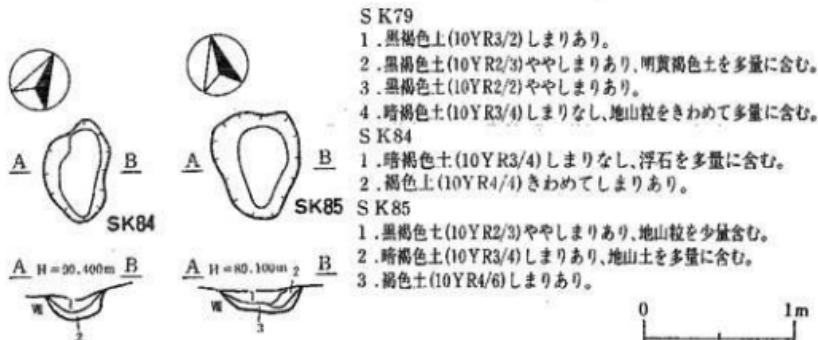
第37図 SK69・70・71土坑



1. 黒褐色土(10YR2/2)ややしまりあり、炭化物を少量含む、地山粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2)ややしまりあり、地山粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)ややしまりなし、地山崩壊土を多量に含む、炭化物を少量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり、地山崩壊土をきわめて多量に含む。

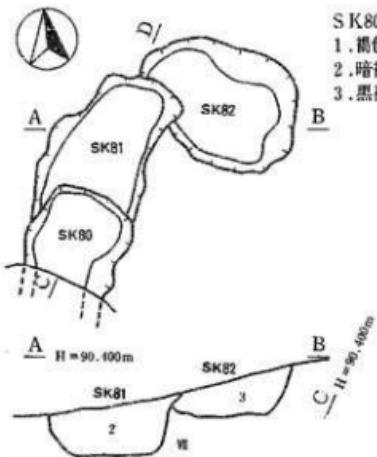
SK78

1. 黒褐色土(10YR2/2)しまりあり。
2. 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり。
3. 褐色土(10YR4/4)しまりあり。
4. 暗褐色土(10YR3/4)ややしまりなし、地山崩壊土をやや多く含む。
5. 黒褐色土(10YR3/2)ややしまりなし、地山崩壊土を多量に含む。



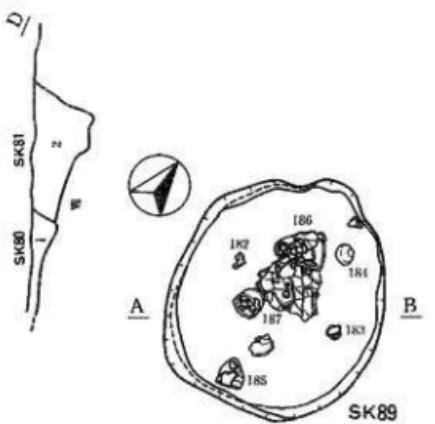
土坑	検出グリッド	輪郭	平面形	断面形	上端部幅(m)	下端部幅(m)	深さ(m)	埋土の状態	重複関係	遺物種別
SK72	NB51	■	円形	E	1.45×1.25	1.84×1.16	0.61	人為堆積		
SK78	MS51, MT51	■	楕円形	F	1.45×1.11	1.18×0.89	0.46	人為堆積		63
SK79	MQ51-S1, MR51-S2	■	円形	F	0.79×0.60	0.67×0.50	0.26	人為堆積		
SK84	MT51	■	楕円形	G	0.69×0.45	0.58×0.25	0.30	自然堆積		
SK85	NA50	■	不整規四形	F	0.75×0.57	0.53×0.31	0.35	自然堆積		

第38図 SK72・78・79・84・85土坑



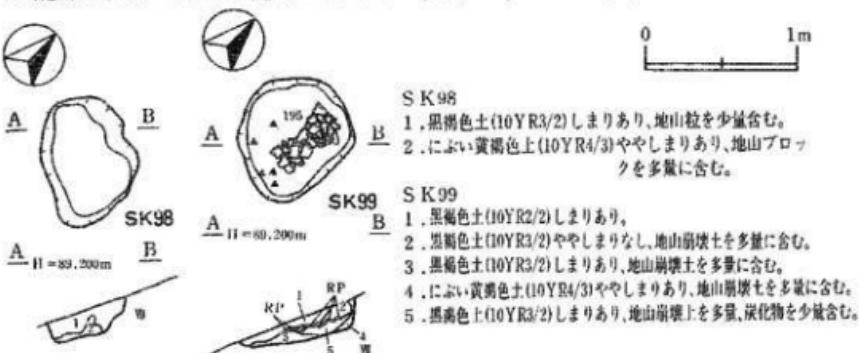
SK80-81-82

1. 暗褐色土(10YR4/4)ややしまりあり、地山粒をきわめて多量に含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3)しまりなし、地山ブロックを多量に含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)しまりあり、黄褐色土を少量含む。



SK89

1. 暗褐色土(7.5YR3/3)しまりあり、地山粒をやや多く含む。
2. 極暗褐色土(7.5YR2/3)しまりあり、地山粒を少量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4)しまりあり、地山粒を少量含む。
4. 黄褐色土(10YR5/6)きわめてしまりあり、粘性あり、地山土を多量に含む。
5. 明黃褐色土(7.5YR5/6)きわめてしまりあり、やや粘性あり、地山土を少量含む。
6. 暗褐色土(10YR3/4)しまりあり、粘性あり、地山粒を少量含む。
7. 明黃褐色土(10YR4/6)しまりあり、暗褐色土(10YR4/4)をきわめて多量に含む。
8. 明黃褐色土(10YR6/6)しまりあり、暗褐色土(10YR4/4)を多量に含む。
9. 黑褐色土(10YR2/3)きわめてしまりあり。
10. 黑褐色土(10YR2/2)しまりあり、粘性あり、地山粒をやや多く、炭化物を微量含む。
11. 棕褐色土(10YR4/4)きわめてしまりあり、地山粒・炭化物を微量含む。



SK98

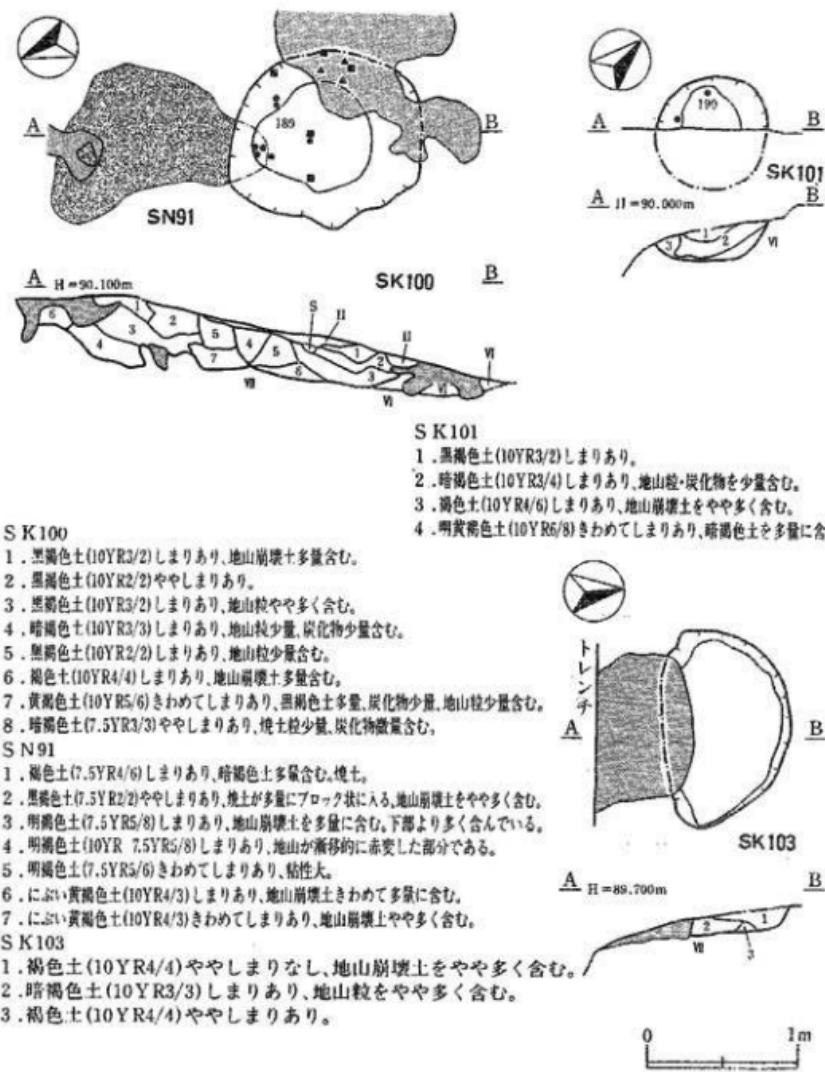
1. 黑褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山粒を少量含む。
2. にほい黄褐色土(10YR4/3)ややしまりあり、地山ブロックを多量に含む。

SK99

1. 黑褐色土(10YR2/2)しまりあり。
2. 暗褐色土(10YR3/2)ややしまりなし、地山崩壊土を多量に含む。
3. 黑褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山崩壊土を多量に含む。
4. にほい黄褐色土(10YR4/3)ややしまりあり、地山崩壊土を多量に含む。
5. 黑褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山崩壊土を多量、炭化物を少量含む。

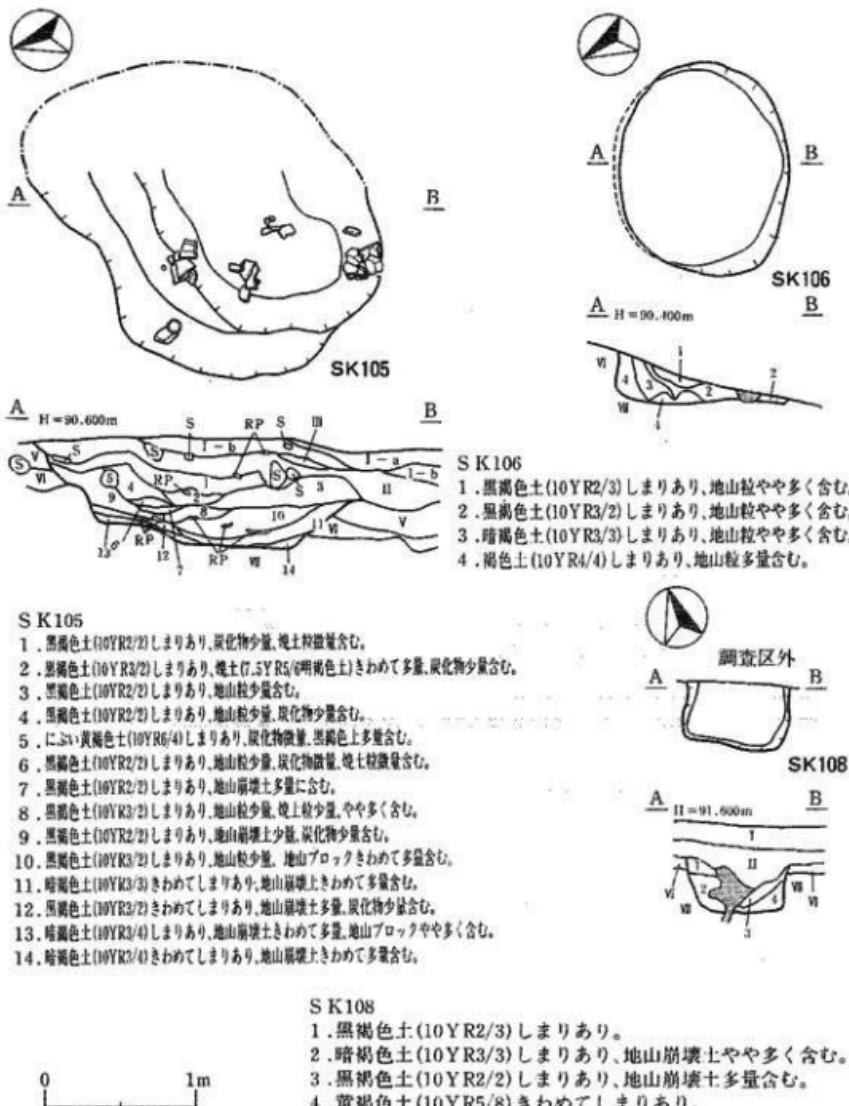
土 坑	検出グリッド	発掘	平面形	断面形	上端距離(m)	下端距離(m)	深さ(m)	埋土の状態	東 板 西 板	遺物探査
SK80	MQ81, MR81	W	(椭円形)	E	$\times 0.87$	$\times 0.50$	0.28	人為堆積	SK82-SK81-SK80	
SK81	MQ81, MR81	W	(椭円形)	F	$\times 0.71$	$\times 0.59$	0.76	人為堆積	SK82-SK81-SK80	
SK82	MQ81	W	(椭円形)	F	1.11×0.83	0.94×0.60	0.36	人為堆積	SK82-SK81-SK80	
SK89	NB51-52	W	円形	C	1.64×1.42	1.53×1.31	0.46	人為堆積		63
SK98	ND50	W	椭円形	F	0.87×0.66	0.72×0.60	0.32	人為堆積		
SK99	ND50	W	円形	F	0.85×0.75	0.76×0.67	0.30	人為堆積		64

第39図 SK80・81・82・89・98・99土坑

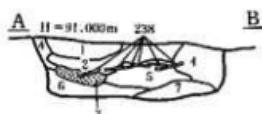
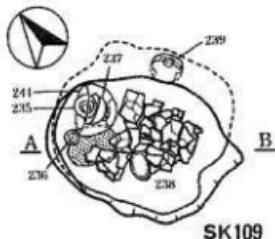


土 坑	検出グリット	地盤	平面形	断面形	上端部径(m)	下端部径(m)	深さ(m)	壙土の状態	重 積 関 係	遺 物 関 係
SK100	NC50-S1	VI	円形	F	(1.24×1.18)	0.80×0.72	0.64	人為埋積	SN91→SK100	64
SK101	NC51	VII	円形	F	(0.76)×0.73	(0.58)×0.39	0.34	自然埋積		64
SK103	NT50	VIII	椭円形	F	1.33×(0.86)	1.23×(0.74)	0.27	人為埋積		64
出土看板	検出グリット	地盤	半 圓 形	断面形	上端部径(m)	下端部径(m)	深さ(m)	堆積の状態	重 積 関 係	遺 物 関 係
SN91	NC51	VI	(不規則円形)	G	1.49×0.84	X	0.46	地山まで底突	SN91→SK100	

第40図 SK100・101・103土坑、SN91焼土遺構

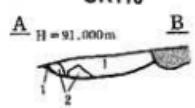
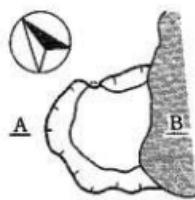


第41図 SK105・106・108土坑



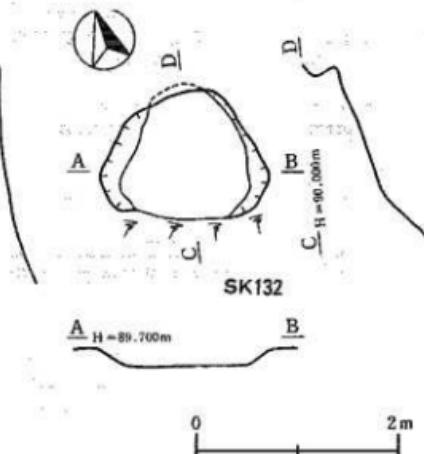
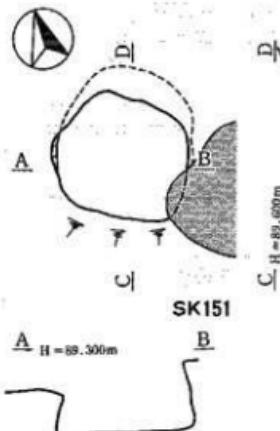
SK109

1. 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山粒を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり、地山粒を微量含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)しまりあり、地山崩壊土をやや多く、炭化物を微量含む。ベンガラが混じる。
4. 褐色土(10YR4/4)ややしまりなし、地山崩壊土を多量に含む。
5. 黒褐色土(10YR2/3)しまりあり、炭化物を少量含む。
6. 褐色土(10YR4/4)しまりあり、地山上をきわめて多量に含む。
7. 黄褐色土(10YR5/8)しまりあり、暗褐色土を少量含む。



SK110

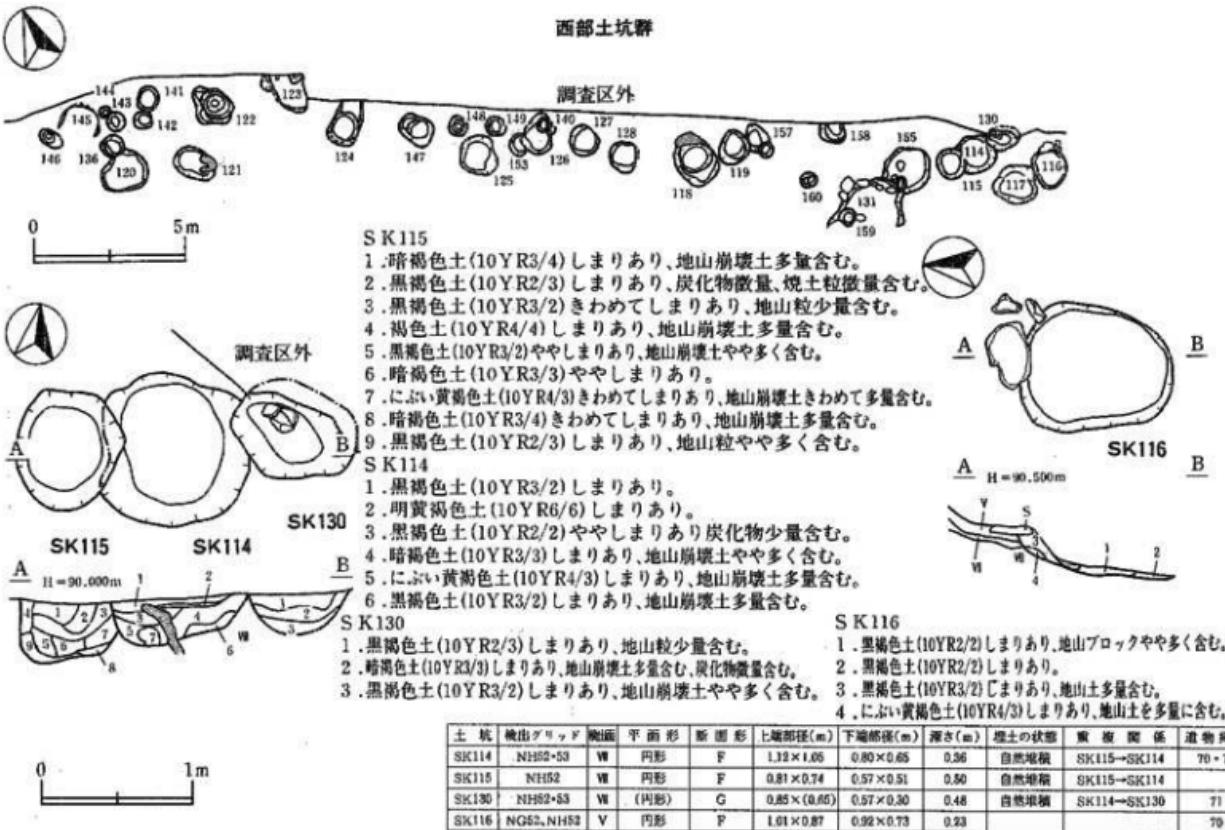
1. 單褐色土(10YR3/3)しまりあり、地山ブロックやや多く含む。
2. 明黄褐色土(10YR6/6)しまりあり、地山ブロックやや多く含む。



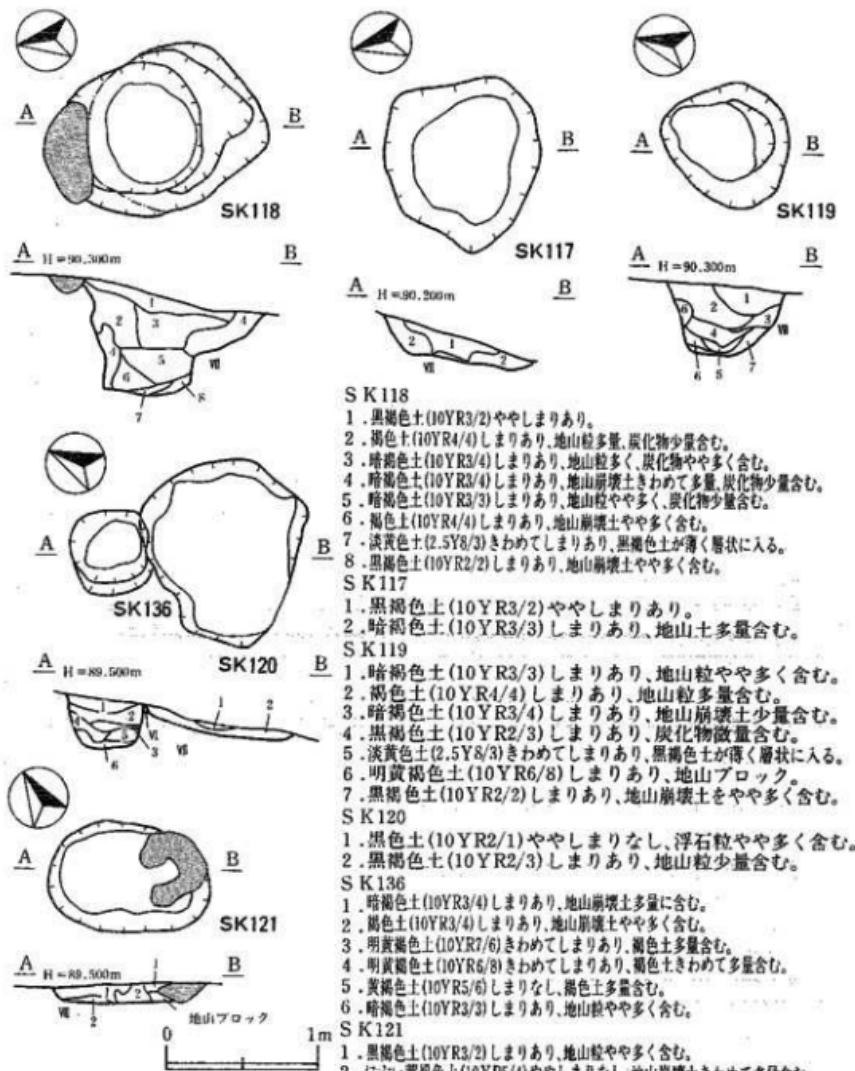
土 壤	検出グリッド	範囲	平面形	断面形	上端部径(m)	下端部径(m)	深さ(m)	埋土の状態	重 量 間 隔	遺 物 種 因
SK109	NB52	Vd	不整形	C	1.22×0.92	1.22×1.20	0.45	人為堆積		69
SK110	NB52	Vd	(円形)	G		×0.82	×0.56	0.29	人為堆積	
SK132	NF52, NG52+53	Vd	円形	B	1.67×1.27	1.36×1.25	0.44			
SK151	ND61-92, NF51-93	Vd	円形	B	(1.37)×1.15	1.49×1.25	0.80			71 + 76

第42図 SK109・110・132・151土坑

西部土坑群

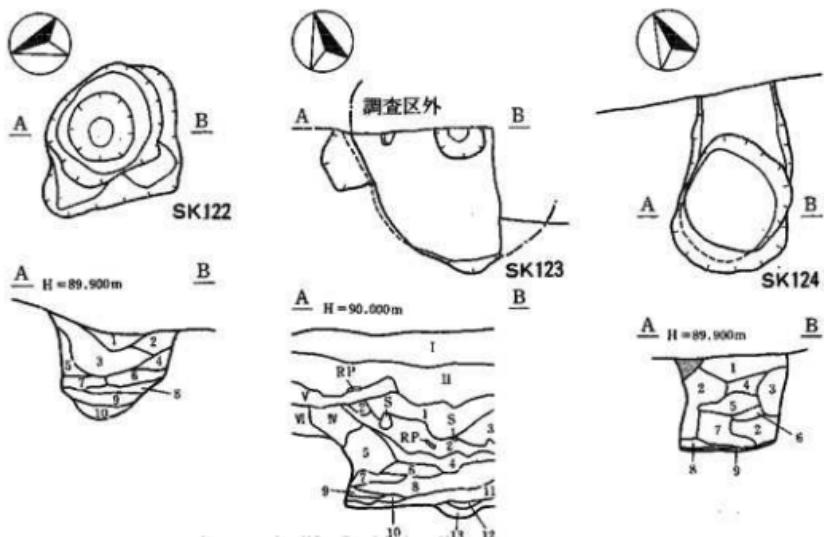


第43図 SK114・115・116・130土坑



土 壹	検出ダット	概要	平 面 形	断 面 形	七筋部長(m)	下筋部長(m)	深さ(m)	腐土の状態	東 著 間 係	遺物発見
SK117	NH52	■	円形	F	1.16×1.02	0.88×0.67	0.40	自然堆積		70
SK118	NJ52-53	■	不規則円形	E	(1.19)×1.11	0.69×0.58	0.79	人為堆積		70
SK119	NJ52-53	■	円形	E	0.90×0.76	0.64×0.44	0.50	自然堆積		
SK120	NA52-53	■	椭円形	F	1.08×0.72	0.89×0.67	0.21	人為堆積		
SK120	NN52	■	不整円形	G	1.26×(1.16)	1.15×0.98	0.27	自然堆積	SK136→SK120	
SK126	NN52-53	■	円形	F	0.57×0.51	0.42×0.31	0.37	自然堆積	SK136→SK120	

第44図 SK117・118・119・120・121・136土坑



SK122

- 褐色土(10YR4/4)しまりあり、地山粒やや多く含む。
- 褐色土(10YR4/4)ややしまりあり、地山粒やや多く含む。
- 褐色土(10YR4/6)しまりあり、地山粒多量、炭化物少量含む。
- 暗褐色土(10YR3/3)ややしまりあり、地山崩壊土やや多く含む。
- 暗褐色土(10YR3/4)ややしまりあり、地山粒多量に含む。
- 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山崩壊土やや多く含む。
- 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山崩壊土やや多く含む。
- 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山崩壊土やや多く含む。
- にこい黄褐色土(10YR4/3)きわめてしまりあり、地山崩壊土をきわめて多量含む。
- 黒褐色土(10YR3/2)きわめてしまりあり、地山崩壊土少量含む。
- 暗褐色土(10YR3/3)きわめてしまりあり、地山崩壊土やや多く含む。

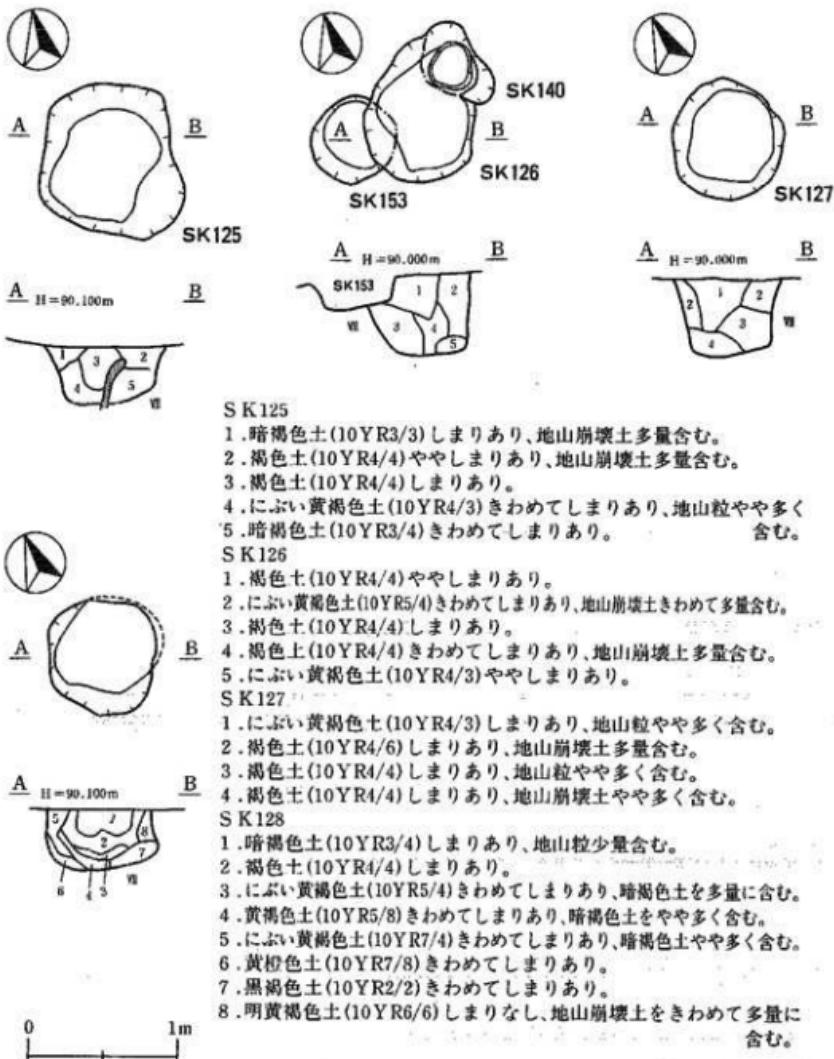
SK123

- 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり。
- 黒褐色土(10YR2/3)しまりあり、地山崩壊土やや多く含む。
- 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、地山崩壊土やや多く含む。
- 暗褐色土(10YR3/4)しまりあり、地山崩壊土やや多く含む。
- 黄褐色土(10YR5/6)しまりあり、地山崩壊土多量含む。
- 黒褐色土(10YR2/3)しまりあり。
- 明黄褐色土(10YR6/6)しまりあり、黒褐色土やや多く含む。
- 黒褐色土(10YR2/2)しまりあり、地山粒やや多く含む。
- 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり、地山崩壊土多量含む。
- 明黄褐色土(10YR7/6)きわめてしまりあり、黒褐色土をきわめて多く含む。
- 黒褐色土(10YR2/2)きわめてしまりあり、地山粒やや多く含む。
- 黒褐色土(10YR2/2)きわめてしまりあり。
- 黒褐色土(10YR3/2)きわめてしまりあり。

土 坑	検出グリッド	概形	平 面 形	断 面 形	上壁部径(m)	下壁部径(m)	深さ(m)	壁土の状態	盛 槽 間 係	遺 物 種 因
SK122	NM53	W	円形	H	1.15×0.97	0.18×0.16	0.82	自然堆積		
SK123	NM53	W	(円形)	A	X	X	0.48	自然堆積		
SK124	NL53	W	不整円形	E	0.91×0.76	0.68×0.60	0.65	人為堆積		71

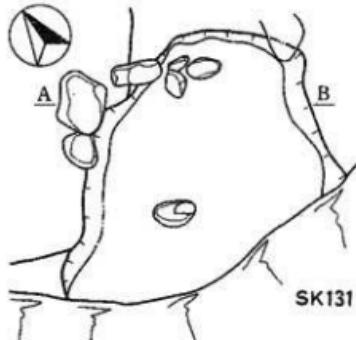


第45図 SK122・123・124土坑



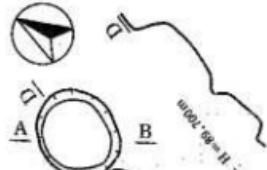
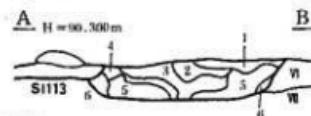
土 壤	検出グリッド	概形	平面形	断面形	上地部深(m)	下地部深(m)	深さ(m)	堆土の状態	気 植	開 取	遺 物
SK125	NK5#-53,NL5#	Ⅲ	不整円形	E	1.13×1.06	0.78×0.59	0.80	人為堆積			
SK126	NK5#-53	Ⅲ	不整円形	E	0.97×0.75	0.71×0.59	0.58	人為堆積	SK140-SK126-SK153		
SK140	NK5#	Ⅲ	円形	E	0.61×(0.38)	0.26×0.25	0.63		SK140-SK126		
SK153	NK5#-53	Ⅲ	円形	E	0.58×(0.57)	0.46×(0.35)	0.85		SK126-SK153		
SK127	NK9#-63	Ⅲ	円形	E	0.80×0.76	0.65×0.58	0.51	人為堆積			
SK128	NJ5#-53,NK5#	Ⅲ	円形	E	0.80×0.76	0.75×0.65	0.51	自然堆積			

第46図 SK125・126・127・128・140・153土坑

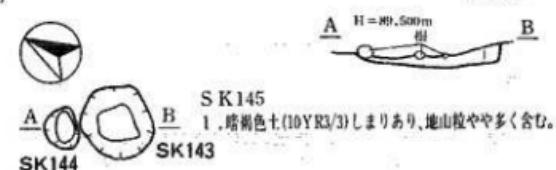


SK131

1. 單褐色土(10YR3/3)しまりあり。
2. 單褐色土(10YR3/4)しまりあり、地山崩壊土やや多く含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)きわめてしまりあり、地山粒少量、炭化物少量含む。
4. 黒褐色土(10YR3/2)きわめてしまりあり、地山粒少量、炭化物少量含む。
5. にい黄褐色土(10YR4/3)ややしまりあり、地山崩壊土多量含む。
6. 黄褐色土(10YR5/6)しまりあり、暗褐色土を含む。

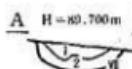


SK141



SK143

1. 單褐色土(10YR3/3)しまりあり、地山粒やや多く含む。

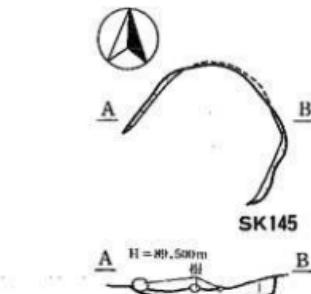


SK141

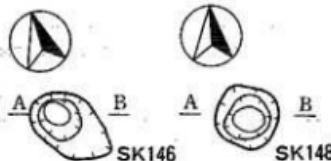
1. 黑褐色土(10YR2/3)ややしまりあり、地山粒やや多く含む。
2. 黑褐色土(10YR2/2)しまりあり、地山粒やや多く含む。

SK148

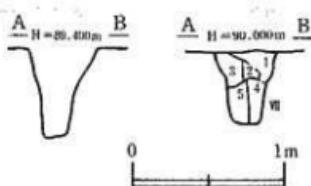
1. 單褐色土(10YR3/4)しまりあり、地山崩壊土やや多く含む。
2. 褐色土(10YR4/4)しまりあり、地山崩壊土やや多く含む。
3. 褐色土(10YR4/6)しまりあり、地山崩壊土を含む。
4. 褐色土(10YR4/6)しまりあり、地山崩壊土やや多く含む。
5. 黄褐色土(10YR5/6)しまりあり、地山崩壊土やや多く含む。



SK145



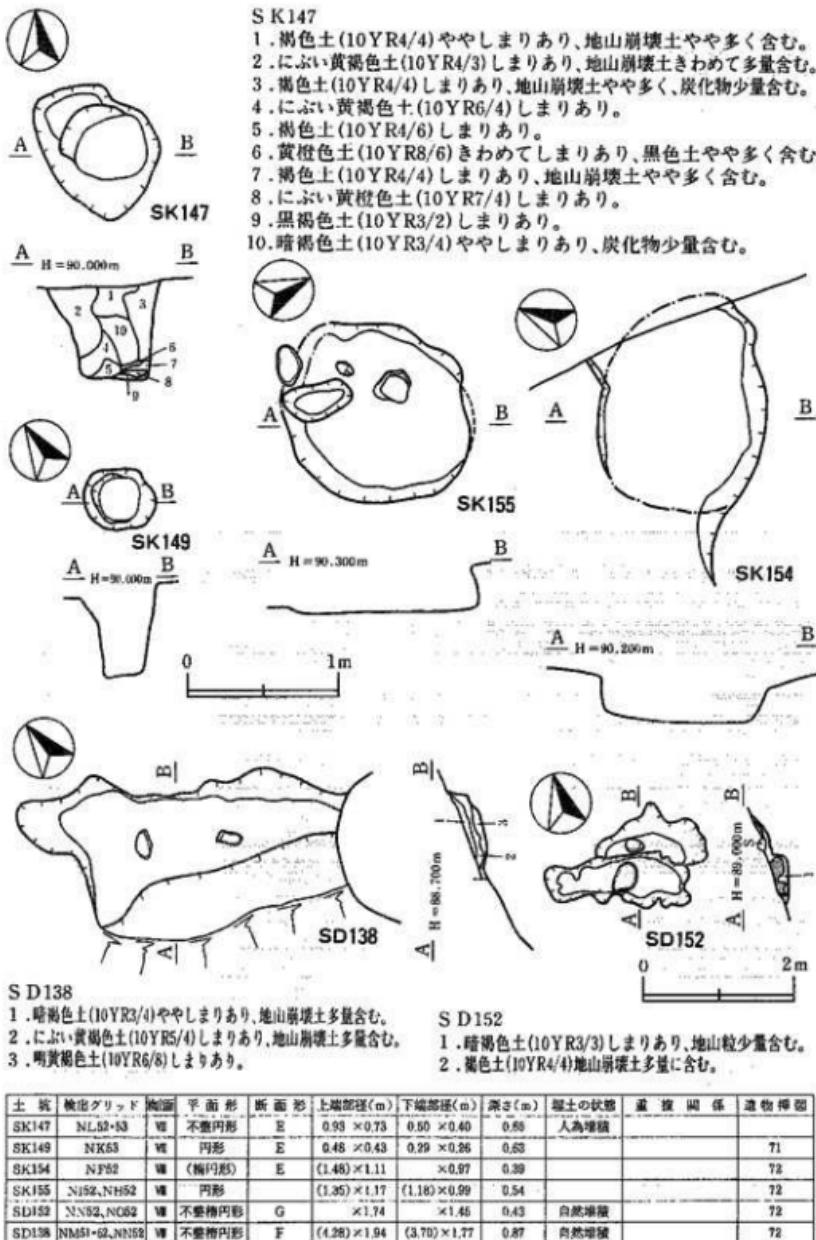
SK146



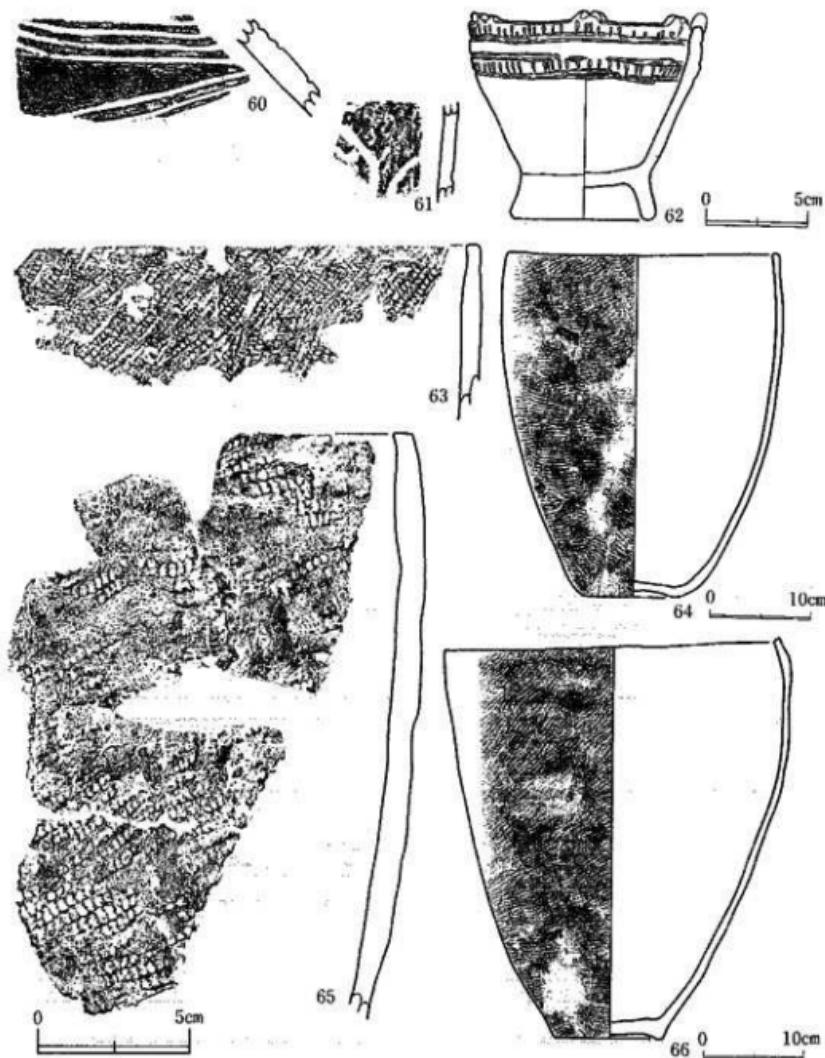
SK148

土 坑	検出グリッド	地表面	平面形	断面形	上端幅徑(m)	下端幅徑(m)	深さ(m)	壁土の状態	重複開基	遺物発見
SK131	N152	VII	(不整円形)	F	$\times 1.70$	$\times 1.45$	0.36	自然堆積	SK131-S1113-SK145	
SK141	NM53, NN53	VII	円形	F	0.61×0.50	0.49×0.42	0.34	自然堆積		
SK142	NN53	VII	円形	F	0.46×0.42	0.32×0.29	0.36			
SK143	NN53	VII	円形	E	0.49×0.49	0.30×0.26	0.37			
SK144	NN53	VII	不整円形	E	0.29×0.21	0.21×0.12	0.20			
SK146	NN53	VII	不整円形	H	0.60×0.38	0.18×0.13	0.64			
SK145	NN53	VII	(円形)	E	$\times 1.01$	$\times 0.91$	0.22			
SK148	NM53, NL53	VII	円形	E	0.44×0.43	0.20×0.17	0.50	人為堆積		

第47図 SK131・141・142・143・144・145・146・148土坑



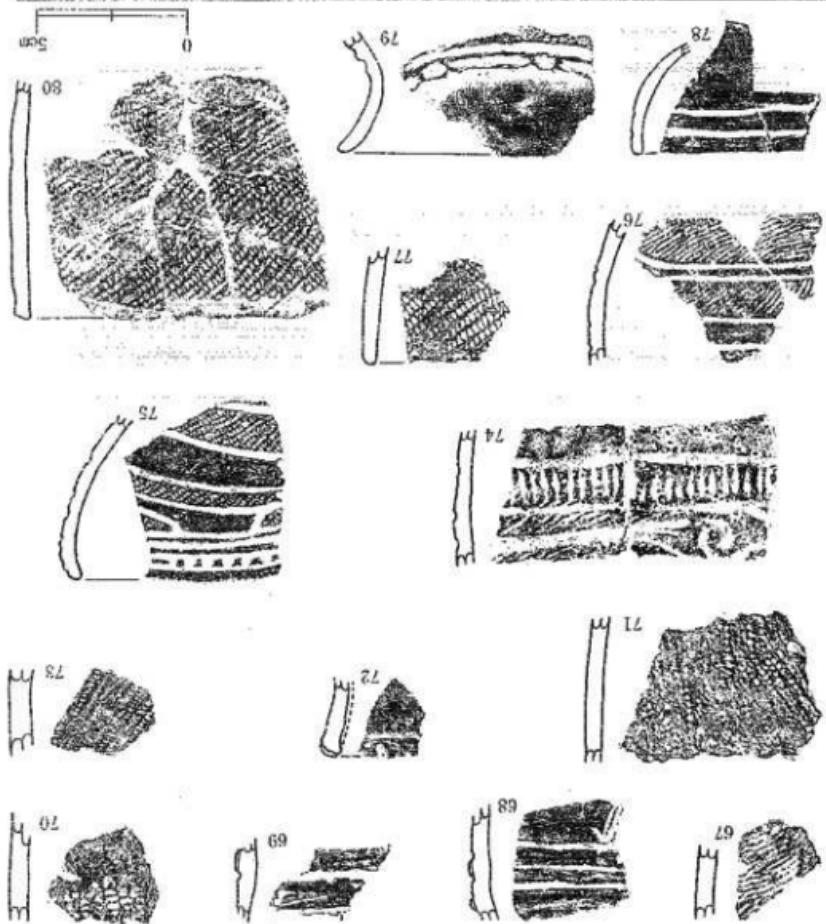
第48図 SK147・149・154・155土坑、SD138・152溝状遺構

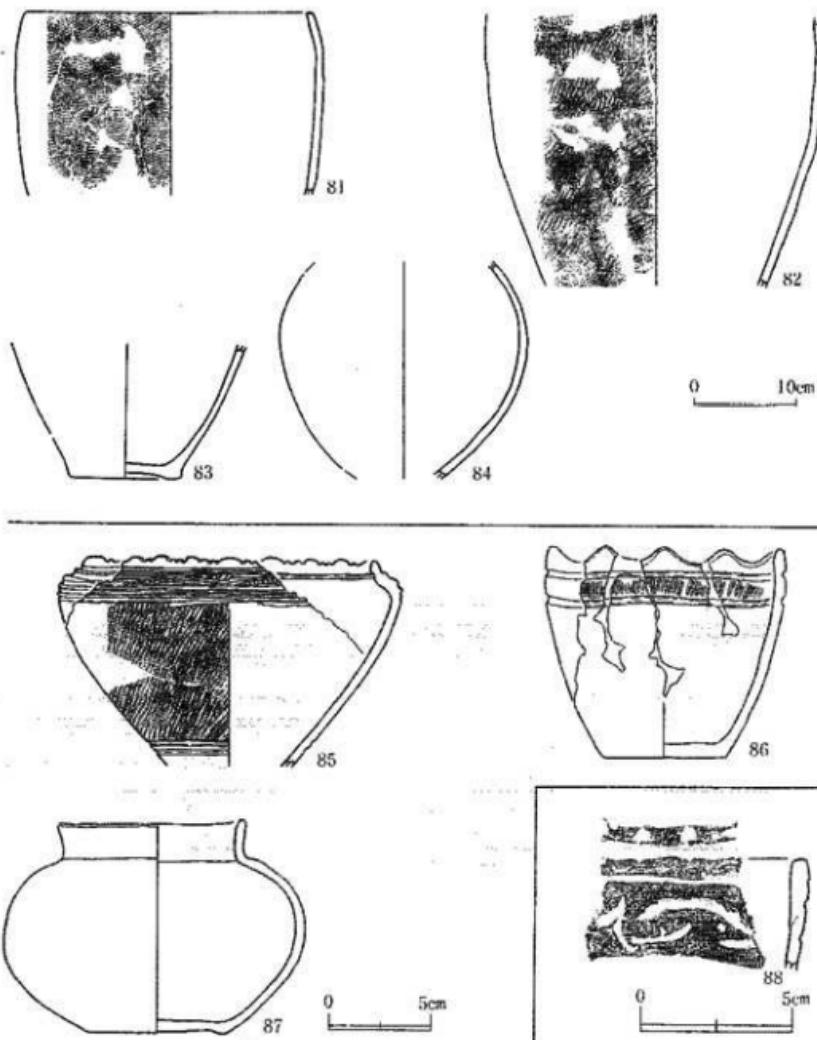


番号	出土地点	層	器種	分類	口径	底径	高さ	文様	輪列形	圓頂	内輪内縁	外輪縁	内縁形
60	SK01	上層	盤	平盤				波形工字文?			ナデ	ベンガラ	ベンガラ
61	SK01							二重波線による区隔文			ナデ		
62	SK01	64の中	台付鉢	B	(12.2)	6.4	10.3	山形突起+横位キチ:目文帯			ヨコナデ		
63	SK01		深鉢					網文	LR	横	ナデ	ヌヌ	
64	SK01	下層	深鉢	B 1	26.6	9.1	34.5	網文	LR	不整	ナデ	ヌヌ	
65	SK01		深鉢					網文	LR	横	横+斜	ヌヌ	
66	SK01	下層	深鉢	A	33.0	10.6	40.0	網文	LR	横+斜	ヨコナデ	ヌヌ	ヌヌ

第49図 SK01土坑出土土器

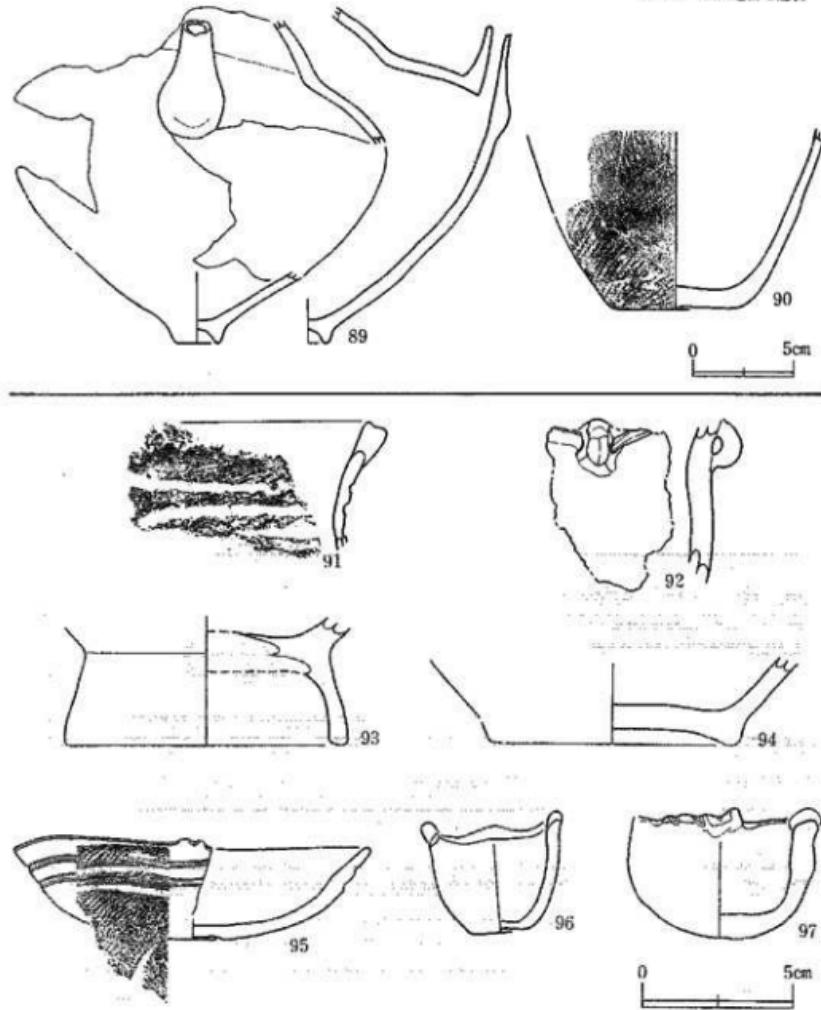
第50回 SK14 · 18 · 31 · 36 · 53 · 56王凱田王義





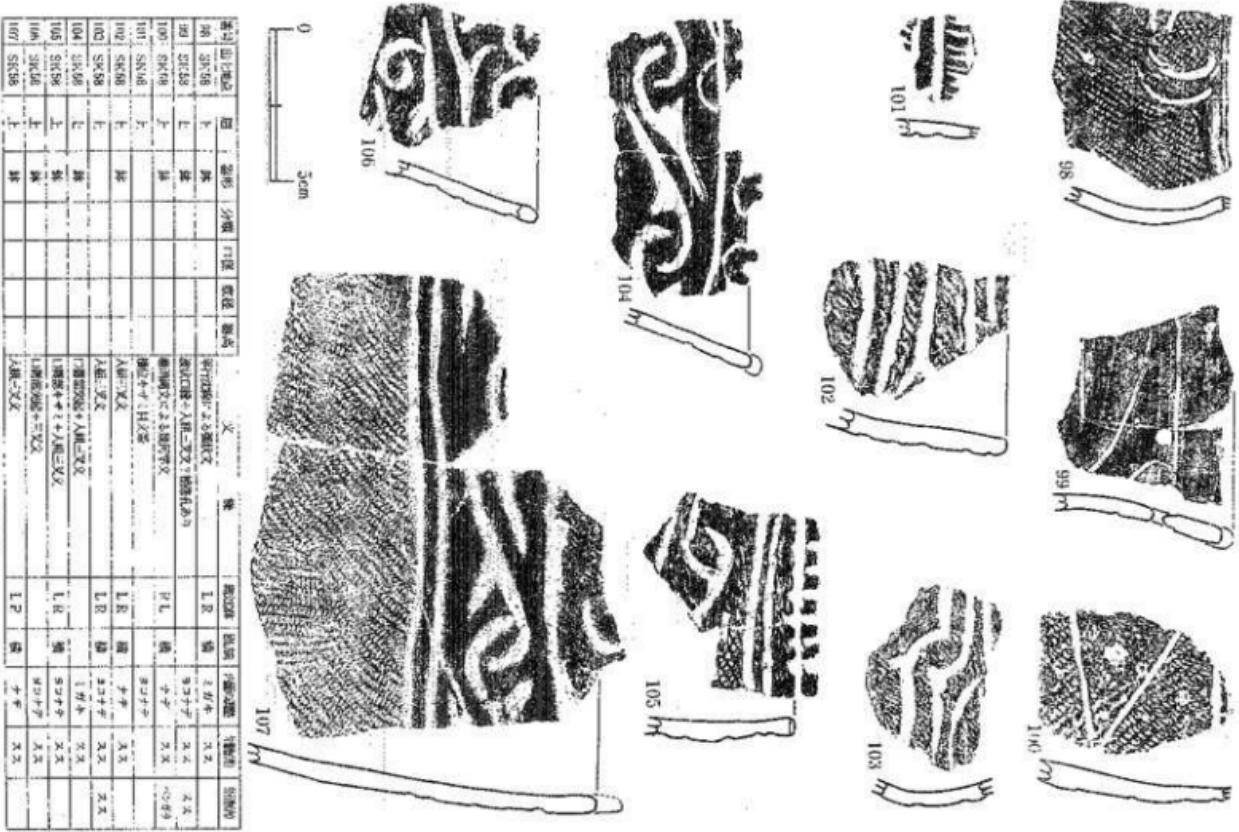
番号	出土地点	層	器種	分類	口径	底径	高さ	文		様		開口部	底沿	内面印	外側印	標
								縹文	縹文	ナガ	ヌヌ					
81	SK10		縹跡	B	28.5					L R	不整	ナダ	ヌヌ			
82	SK56	延跡	縹跡	A						L R	横	ナダ				
83	SK56	底面	縹	A		11.2						ナダ				
84	SK56	縹	縹	F								ナダ				
85	SK56		縹	J	14.3				半圓状文			ミガキ	ヌヌ			
86	SK56		縹	B 2	(11.6)	(6.3)	(10.4)	波状口縁+横位キリ: 日文唇				ナダ				ヌヌ
87	SK56	縹	縹	H	9.3	6.7	10.5					ミガキ				
88	SK56							口縁部ナギ: 人頭三叉文				ナダ				

第51図 SK10・56土坑出土土器

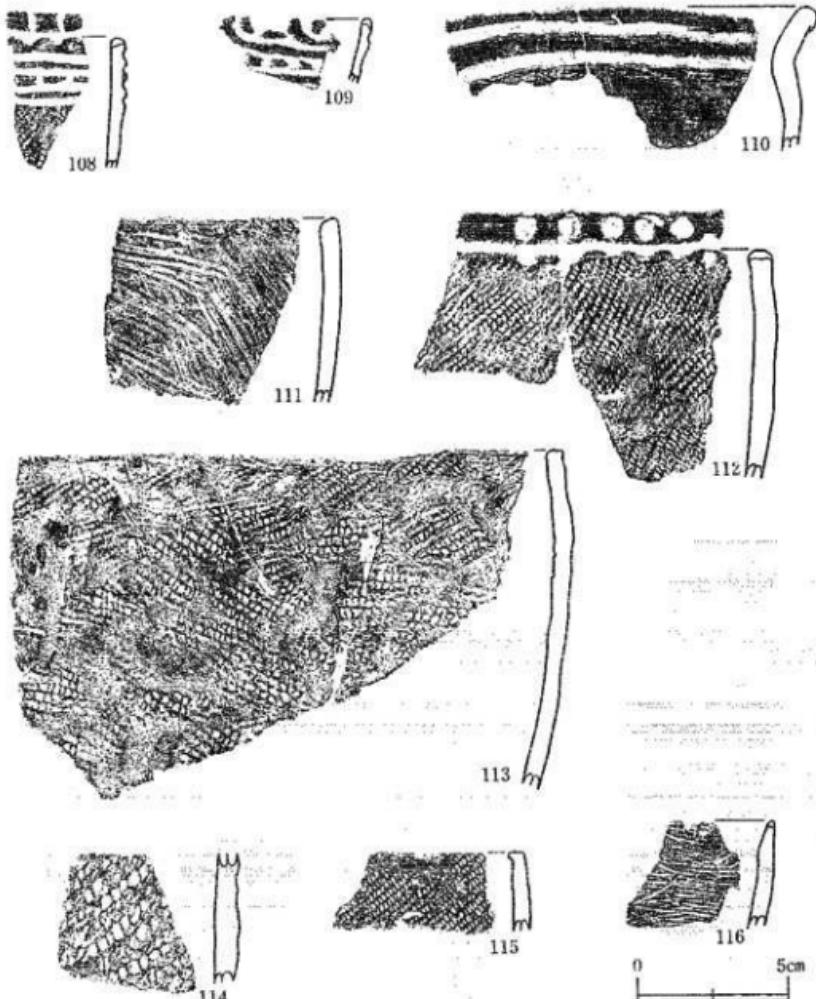


番号	出土場所	層	器形	分類	口径	底径	壁高	文	様	裏文様	施加法	内面施	外側施
89	SK56		注口	A	2.2								ナゲ
90	SK56		深鉢	B		(6.6)		圓文		L.R	不整	ナゲ	スヌ
91	SK56							小波突起+三叉文					スヌ
92	SK56							リンド状突起					リコナデ
93	SK56		舟形		(6.2)							ロコナデ	スヌ
94	SK56		鉢		(6.0)							ロコナデ	ロコナデ
95	SK58	上	皿	A	11.8	2.1	3.4	口唇部突起+内底面内側沿		L.R	積	ミガキ	
96	SK58	上	[14a]		4.2	2.0	3.8					ナゲ	
97	SK58	上	[14a]		(6.7)			U字形突起				ナゲ	スヌ

第52図 SK56・58土坑出土土器(1)

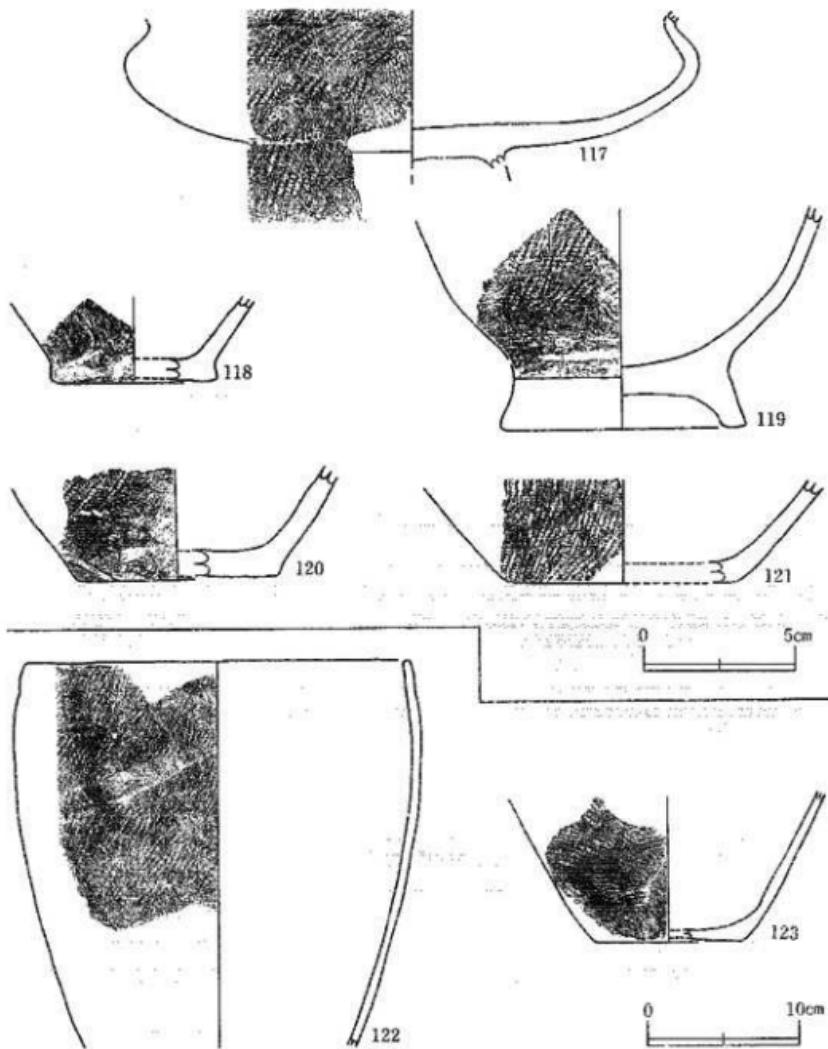


第53圖 SK58土坑出土器(2)



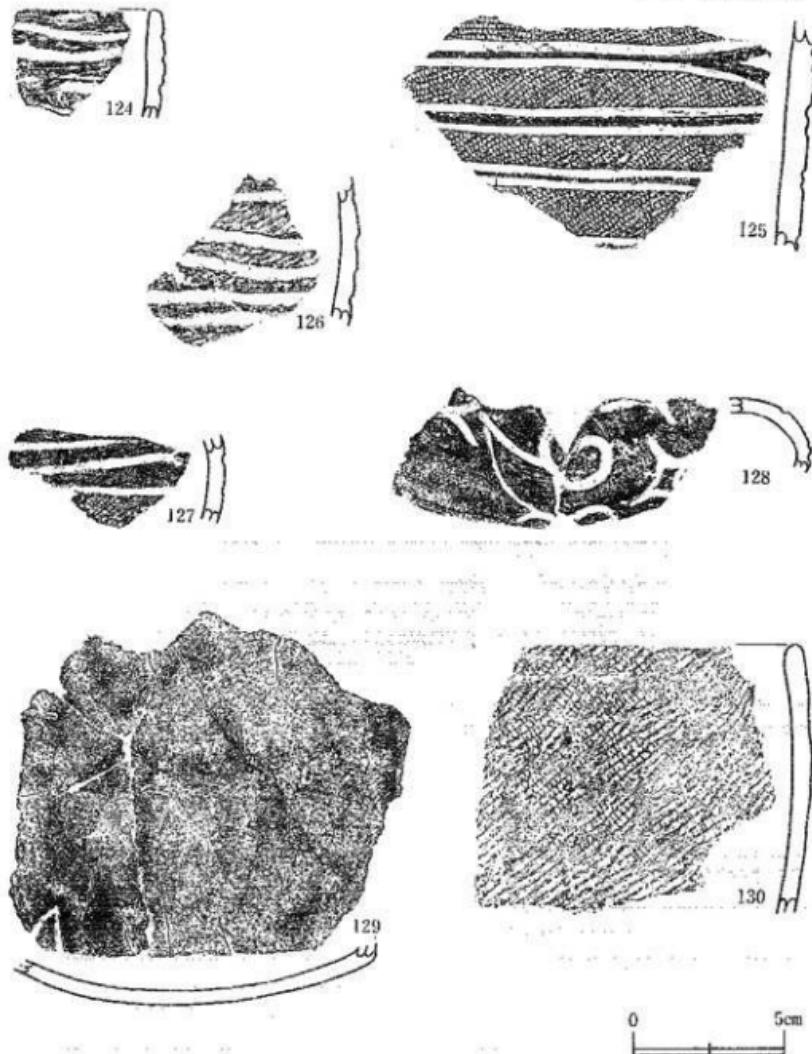
番号	出土地点	層	器形	分類	口径	底径	高さ	文	様	測定値	経年	内側網目	外側網目	引掛孔
108	SK58	上						上網繩ナゲ？+平文或縦文+モザイク		LR	横	ヨコナメ		
109	SK58	上						口沿部山形記+丁字状文？				ミガキ		
110	SK58	上						平滑面				ミガキ		
111	SK58	上	深鉢					刻込系縦文				ナメ		
112	SK58	上	深鉢					上網繩横文+縦文		LR	横	ナメ		
113	SK58	上	深鉢					縦文		RL	不整	ヨコナメ	スヌ	
114	SK58	上	深鉢					縦文		LR	横	ナメ		
115	SK58	上						縦文						
116	SK58	上						無文		R	横	ミガキ		

第54図 SK58土坑出土土器(3)



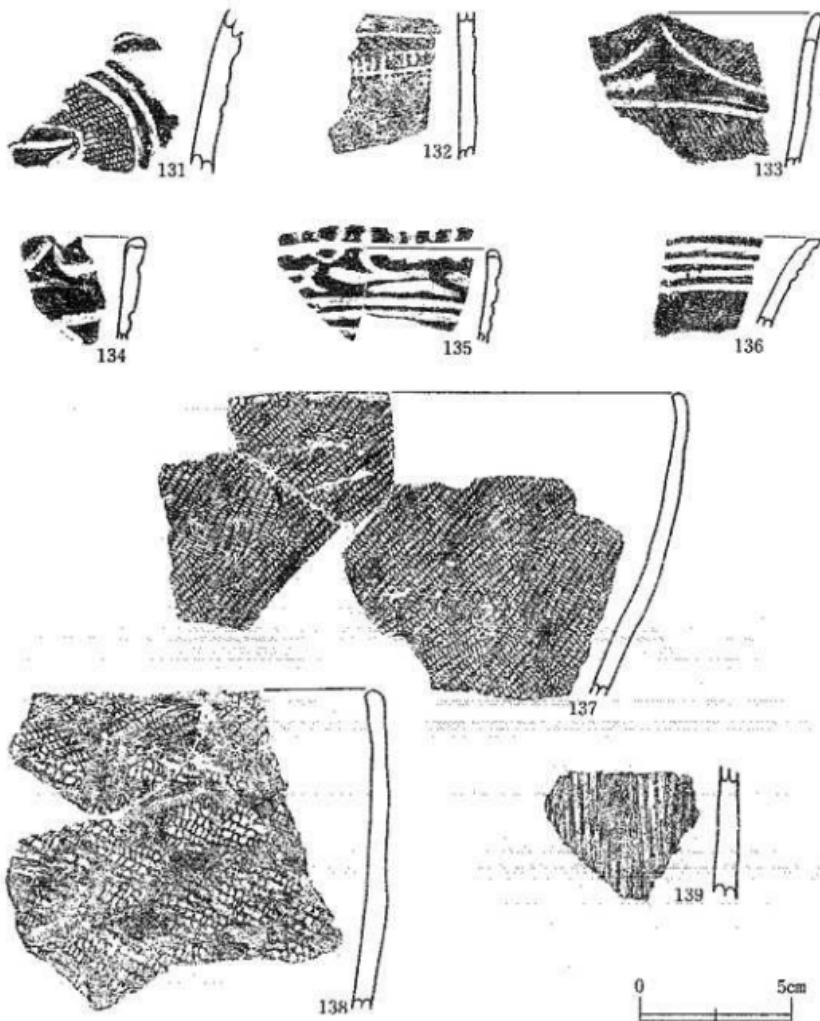
番号	出土場所	層	器形	分類	口径	底径	器高	文	様	質地	底	内側施釉	外側施釉	特殊形
117	SK58	上	有柄盤		(6.1)			直文		LK	板	ナデ		
118	SK58	上	盤			5.5						ナデ		
119	SK58	上	台形盤			7.1		直文		LR	板	ナデ		
120	SK58	上	盤		(6.2)			直文		LR	板	ナデ		
121	SK58	上	盤			(7.8)		直文		RL	板	ナデ	スス	
122	SK58	上	深鉢	B	25.0			直文		LR	板	ナデ		
123	SK58	上	盤		(9.8)			直文		RL	斜	ナデ	スス	

第55図 SK58土坑出土土器(4)



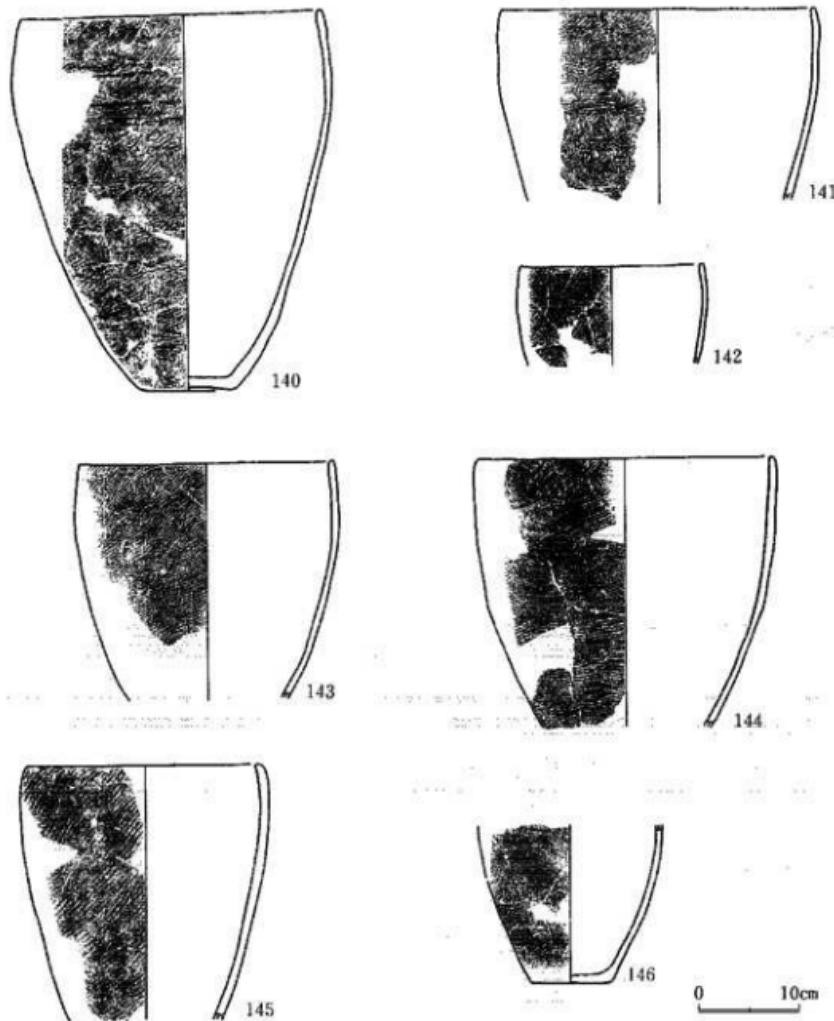
番号	出土地點	器種	器形	分類	口径	底径	高さ	火 様		横切跡	直角	内面の網状	引脚穴	引脚孔
								火口	火柱					
124	SK58	灰化物塊						三叉火				ナデ	スス	
125	SK58	灰化物塊						人組火叉?		LR	横	ヨコナデ		
126	SK58	灰化物塊						人組三叉?		LR	横	ナデ	スス	
127	SK58	灰化物塊						人組三叉火		LR	横	ヨコナデ		
128	SK58	灰化物塊	注口					人組三叉火+横剥火				ナデ		
129	SK58	灰化物塊	注口					/井口部の下)角状焼痕(外面:ホキ)				ナデ		
130	SK58	灰化物塊	深鉢					側火		LR	横	ヨコナデ	スス	

第56図 SK58土坑出土土器(5)



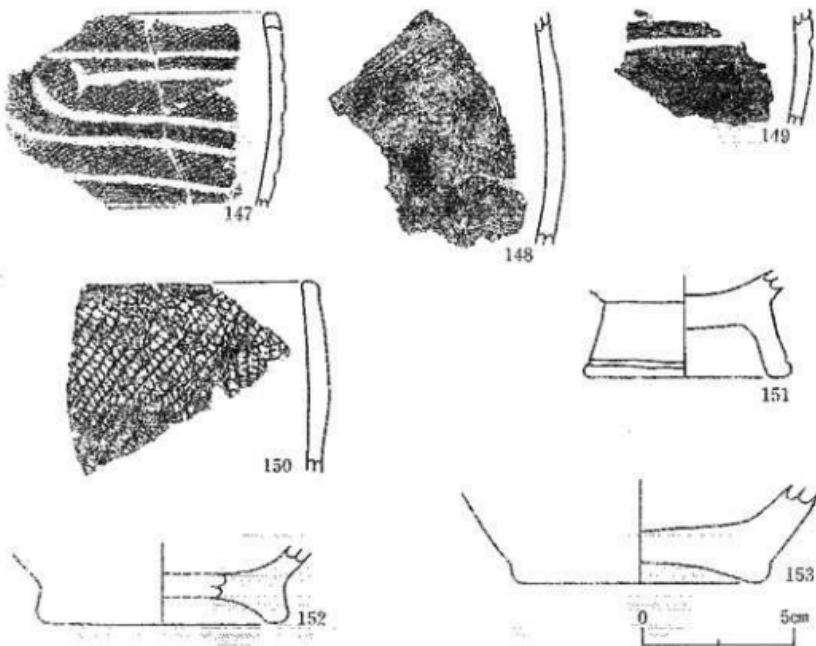
番号	出土地點	層	器形	分類	口径	底径	高さ	文様		直立部	傾斜部	内面	外側
								文	様				
131	SK58	下						人面+叉文	二重火照	J.R	斜	ナデ	
132	SK58	下						横波文	斜+4ササ目文	R.L	直	ナデ	ヌヌ
133	SK58	下						山形火照+樹皮状の網目文		L.R	横+傾	ナヌ	ヌヌ
134	SK58	下						口輪斜波文+人面+叉文					ヌヌ
135	SK58	下						山形火照+二重文+斜波文				ヌヌ	
136	SK58	下						山形火照+内凹波文2段				ナデ	
137	SK58	下	漆林					縹文		L.R	横	ナデ	
138	SK58	下	漆林					圓周刷毛による羽形嘴文+周文		0+12.15	横+傾	ナデ	ヌヌ
139	SK58	下	漆林					周文					

第57図 SK58土坑出土土器(6)



番号	出土場所	種	器形	分類	口径	底径	高さ	文様	縁	取跡	底調	内面の状態	側面	背面
140	SK58	下	深鉢		29.3	9.5	37.9	織文		LR	不整	ナデ	スス	
141	SK58	下	深鉢		(30.6)			織文		LR	不整	ナデ	スス	
142	SK58	下	深鉢	D	(18.5)			織文		LR	不整	ナデ	スス	
143	SK58	下	深鉢	D	(25.2)			織文		LR	横	ナデ	スス	スス
144	SK58	下	深鉢		(30.0)			織文		LR	不整	ナデ	スス	
145	SK58	下	深鉢		(23.2)			織文		LR	横	ナデ	スス	
146	SK58	下	深鉢	D 2		8.1		織文		RL	横	ナデ	スス	スス

58図 SK58土坑出土土器(7)



番号	出土場所	種	形態	分類	口径	底径	高さ	文様	造形体	跡類	片断状態	出筋肉	出脚部
147	SK58	下						波状口縁+入模+文文	L.R.	痕	ナデ	ヌス	ヌス
148	SK58	下						繩文	L.R.	縫	ナデ		
149	SK58	下						波状口縁			ナデ	ヌス	ヌス
150	SK58	下						繩文	L.R.	縫	ヨコナデ		
151	SK58	下	角跡			5.5		古墳下部の燒泥花紋			ナデ		
152	SK58	下	縁			(8.2)					ナデ		
153	SK58	下	縁			(8.4)					ナデ		

第59図 SK58出土土器(8)

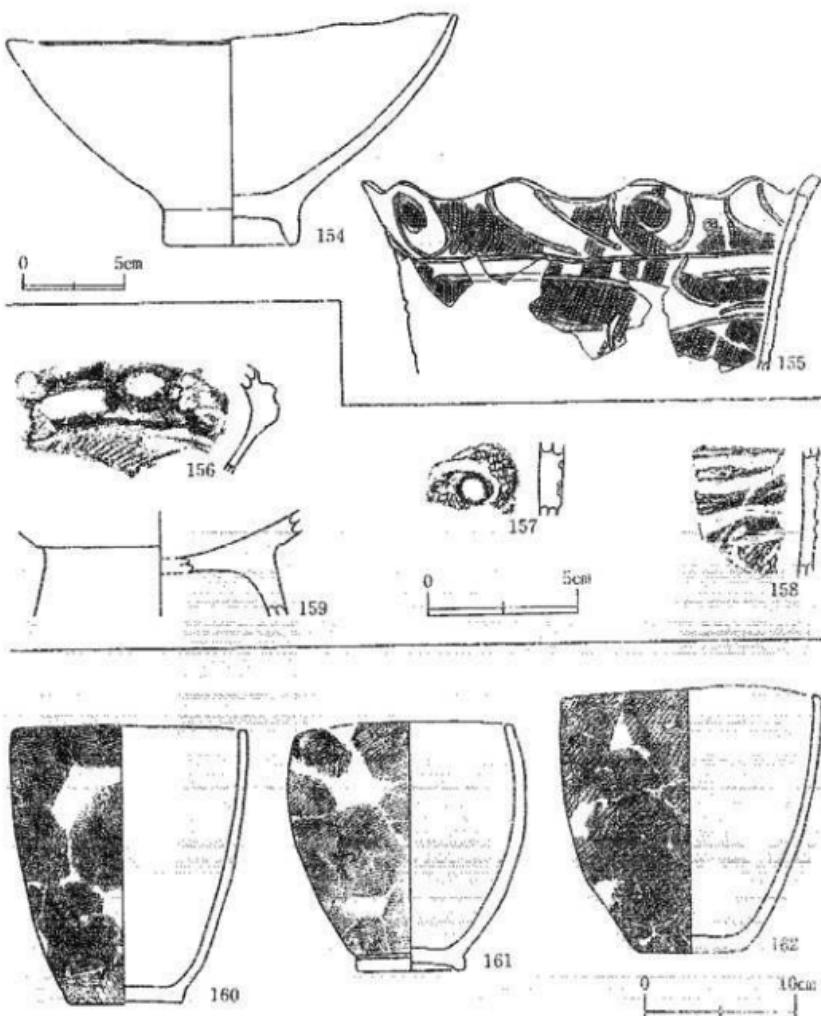
- (19) 斎藤准・松崎元樹・及川良彦『繩文時代中期の粘土採掘坑群の調査－多摩ニューカウン遺跡群No.248遺跡－』日本考古学協会第57回総会研究発表要旨 1991(平成3年)
 (20) 岩手県教育委員会他『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅶ』岩手県文化財調査報告書第51集 1990(昭和55年)

3 溝状造構

調査区西側の斜面上部で2条検出した。幅広く浅い上坑に似た造構である。

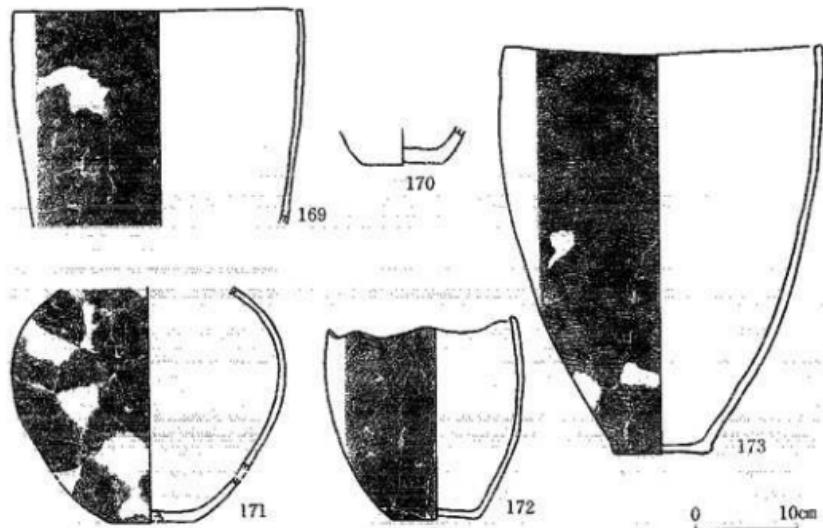
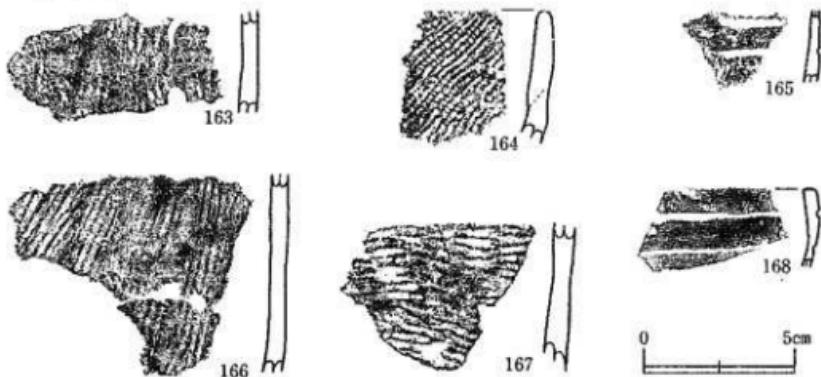
S D138溝状造構(第48・72図、図版3)

SK58土坑の西側に接する。前後関係は不明である。斜面中腹を等高線に並行に伸びている。地山面では斜面をし字形に掘削しているが、1層上にしまりのある黒褐色～褐色土が堆積し、



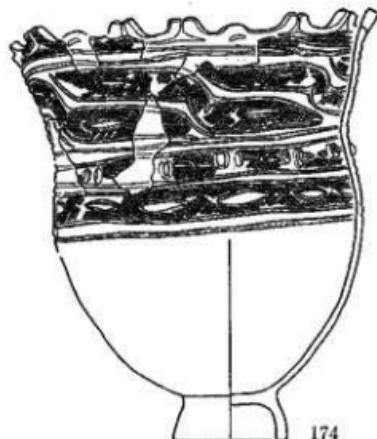
番号	出土地点	種	器形	分類	口径	底径	高さ	文様				真跡	既知	内面の特徴	外側の	内側の
								表面	裏面	側面	底面					
154	SK63	鉢	円筒形	B	22.5	6.7	11.3	内面：ガラ				LR	横	ヨコナメ	スヌ	
155	SK63	鉢	G	(22.8)								LR	横	ヨコナメ	スヌ	
156	SK63							ナガキ状模様付文				LR	横	ヨコナメ		
157	SK63							三叉文				LR	斜	ヨコナメ		
158	SK63							八絞三叉文				LR	横	ナメ	スヌ	
159	SK63	鉢													ナメ	スヌ
160	SK64	1	深鉢	D 1	15.5	17.8	18.4	網文				RL	不要	ナメ	スヌ	
161	SK64	1	深鉢	C 1	14.3	7.0	16.5	網文				LR	横	ナメ	スヌ	アヌ
162	SK64	1	深鉢	D 2	17.3	7.3	17.7	網文				LR	横	ナメ	スヌ	

第60図 SK63・64土坑出土土器

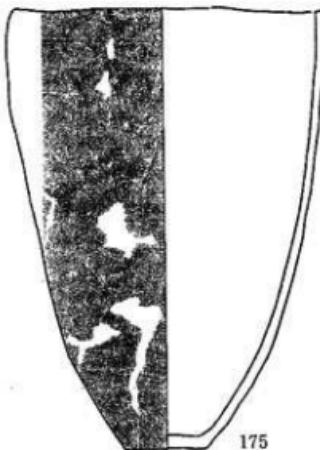


番号	出土地点	層	器形	分類	口径	底径	高さ	文	様	鏡文跡	絹状	内装物	船形	半輪形
163	SK65							鏡文		LR	横	ヨコナデ	スヌ	スヌ
164	SK66							鏡文		LR	横	ヨコナデ		
165	SK67							人頭三叉文?		LR	横	ナデ	スヌ	スヌ
166	SK66							鏡文				ヨコナデ		
167	SK69							鏡文		LR	斜	ヨコナデ	スヌ	スヌ
168	SK68							横的平行沈線				シガキ		
169	SK66		漆鉢	D	28.8			鏡文		LR	横	ヨコナデ	スヌ	
170	SK67		鉢				7.9					ケズリ		
171	SK66		鉢			8.4		鏡文+上部は一部ケズリ		LR	斜	ナデ	スヌ	スヌ
172	SK66		漆鉢	C 2	18.5	8.8	20.0	鏡文		LR	横		スヌ	
173	SK67		漆鉢	D 1	31.7	9.6	40.9	鏡文		LR	不整		スヌ	スヌ

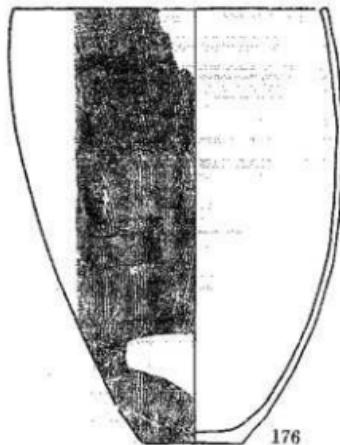
第61図 SK55・66・67・68・69土坑出土土器



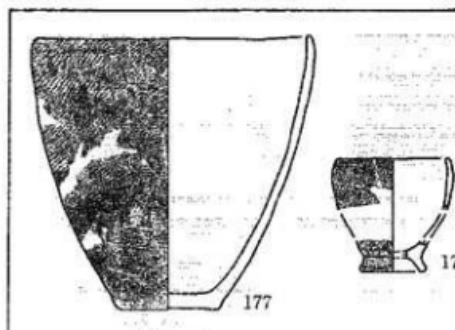
174



175

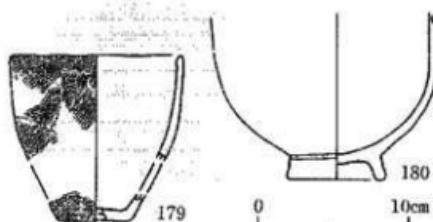


176



177

178



179

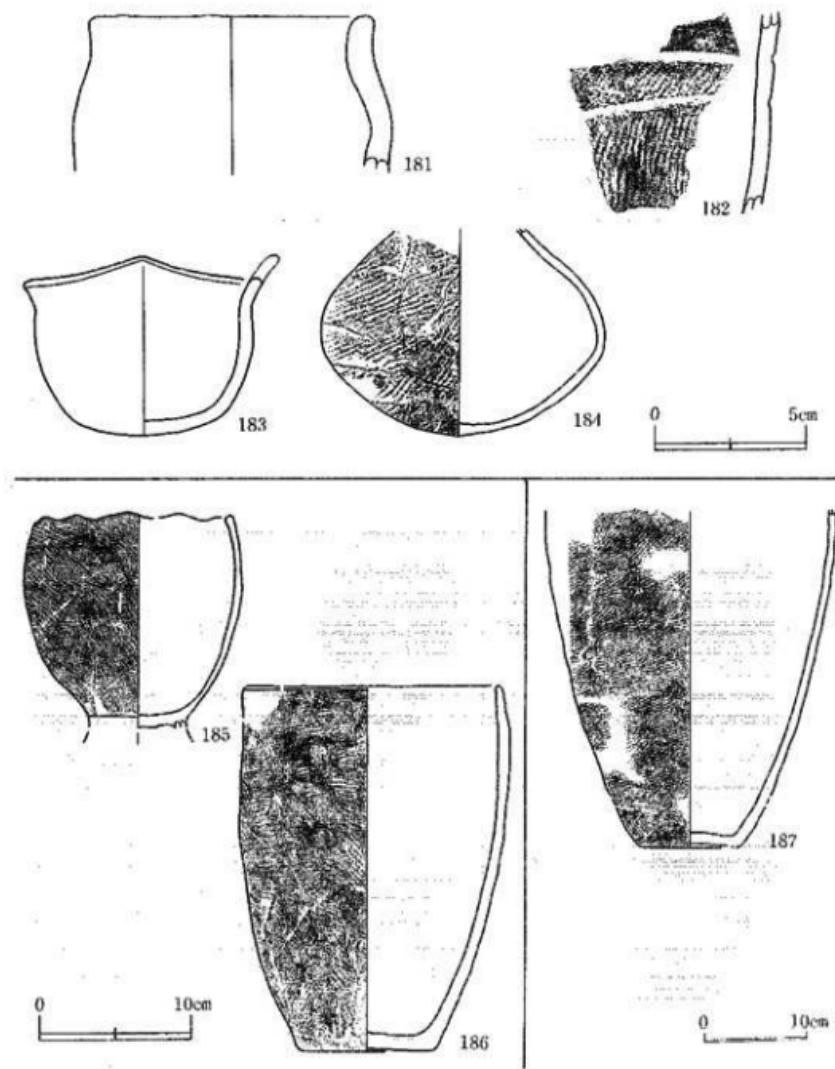
180

0 10cm

0 10cm

番号	出土地点	層	器形	分類	口径	底径	高さ	文様	施用材	種別	内面の状態	外観	個数
174	SK71	床底	台付深鉢	F	36.5	9.2	42.8	縞文	LR	繪	ヨコナギ	スヌ	スヌ
175	SK71	床底	深鉢	D I	30.8	8.4	43.8	縞文	LR	不施	ナデ	スヌ	スヌ
176	SK71	床底	深鉢	D I	31.1	9.9	43.3	縞文					
177	SK71	床底	深鉢	D I	18.8	6.9	18.2	縞文	LR	繪・斜			
178	SK71	床底	鉢		7.4	3.8		縞文	LR	繪	ナデ		
179	SK71	床底	鉢		11.6	4.7		縞文	LR	繪	ナデ	スヌ	スヌ
180	SK71	?	台付鉢	F	6.0							スヌ	スヌ

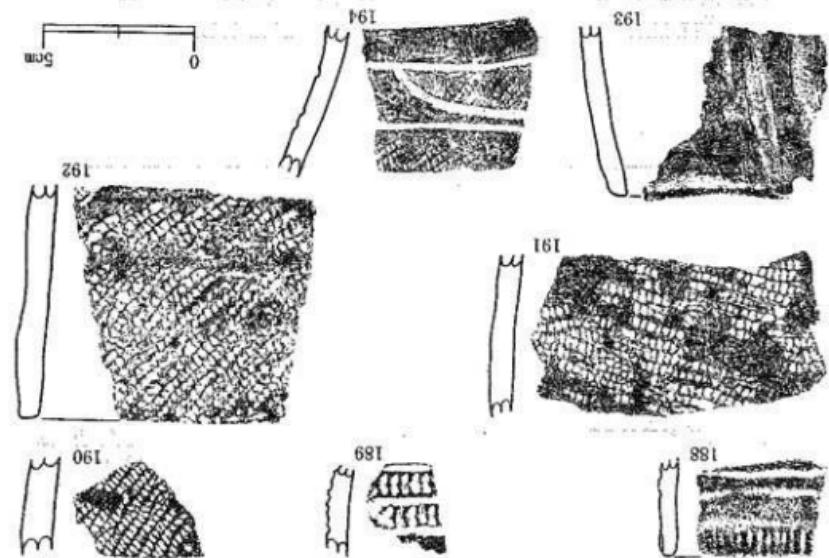
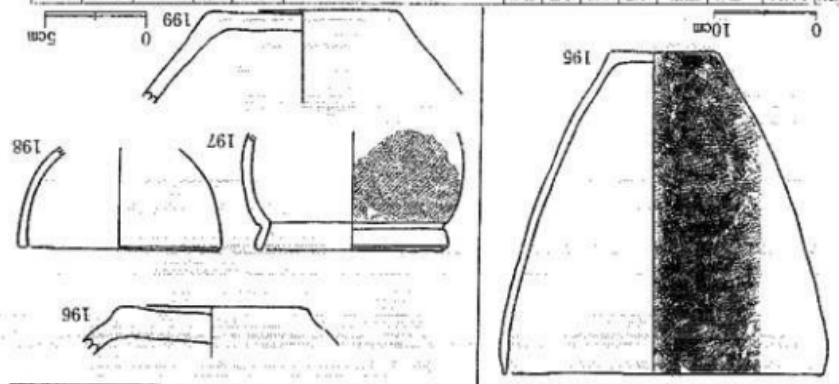
第62図 SK71土坑出土土器

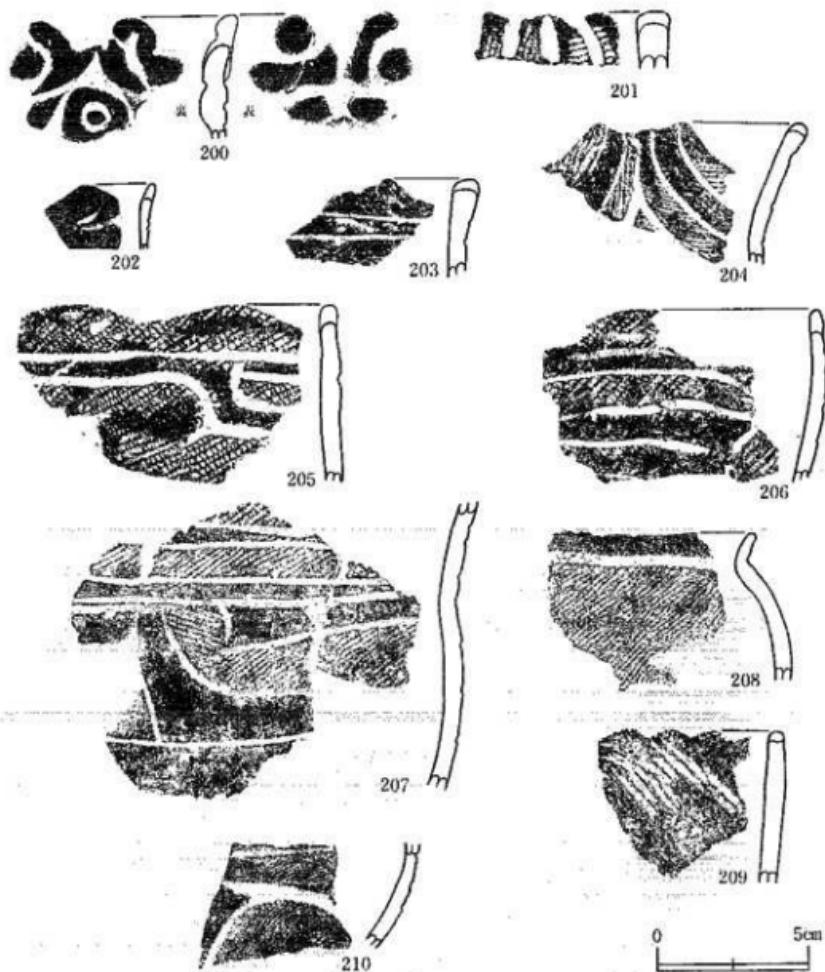


番号	出土場所	肩	器形	分類	口径	底径	高さ	文	様	機械縫	綫縫	内側縫	外側縫	縫合部
181	SK78				9.5									
182	SK89							人面三叉文	+	LR	機	ミガナ	ミガナ	
183	SK89 下層	鉢	F	(9.0)		6.0		撚糸縫+ミガナ						
184	SK89 床面	壺						繩文斜面(全周)		LR	機	ナデ	ナデ	
185	SK89 床面	台付壺	A 2	13.0	6.4			繩文		LR	機	ナデ	ナデ	
186	SK89 床面	深鉢	E 2	17.0	9.0	25.2		繩文		LR	不整	ナデ	ナデ	
187	SK89 床面	深鉢			9.4			繩文		LR	不整	ナデ	ナデ	

第63図 SK78・89土坑出土土器

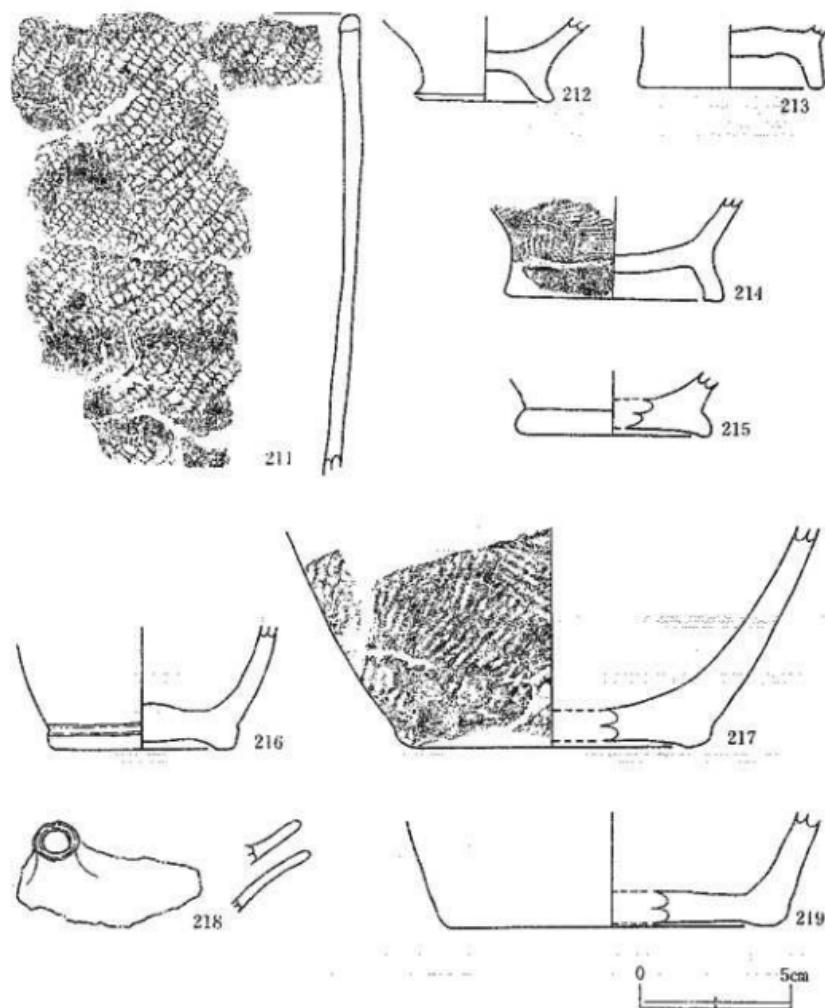
圖64 圖 SK99 · 100 · 101 · 103 · 106王筑出士器





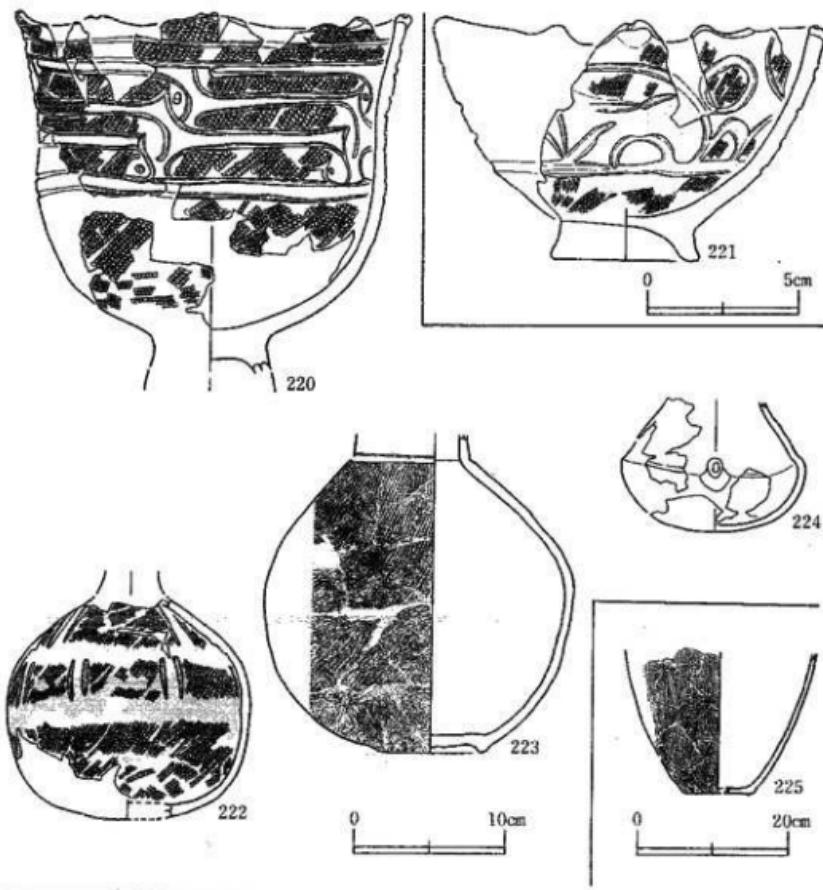
番号	出土地点	縦	横形	分類	口径	底径	高さ	文	様	瓦刀目	直葉目	内葉の側面	側葉面	側葉底
200	SK105							2側一對の切欠記 + 斜面二叉文		不規	ミガキ	ベンガラ	ベンガラ	
201	SK105							直面か微凹の山形突起		LR	ナデ			
202	SK105							山形突起 + 不規直状文			ミガキ	スヌ	スヌ	
203	SK105							山形突起 + 入組三叉文		LR	横	ヨコナデ	スヌ	スヌ
204	SK105							山形突起 + 突起に沿う直文帯 + 斜文帯		LR	不規	ミガキ	スヌ	スヌ
205	SK105							透視口縫 + 入組三叉文		LR	横	ナデ	スヌ	
206	SK105	縫						透視口縫 + 入組三叉文		LR	横	ナデ	スヌ	スヌ
207	SK105	縫						入組三叉文		LR	不規	ナデ	スヌ	スヌ
208	SK105	縫						直文		LR	横	ミガキ		
209	SK105	縫						三叉文		LR	不規	ミガキ	ベンガラ	
210	SK105	上部						口縫部斜突 + 直文		LR	横	ヨコナデ	スヌ	

第65図 SK105土坑出土土器(1)



番号	出土場所	種	器形	分期	口径	底径	高さ	文様	周20cm	施装	内面凹凸	引脚形	出脚形
211	SK105	上部	深鉢					唇部斜切卜範文	LR	無	ナゲ	スヌ	スヌ
212	SK105	上部	台付鉢								ナゲ		スヌ
213	SK105	上部	台付鉢								ミガキ		
214	SK105	上部	台付鉢					範文	LR	不整	ナゲ	スヌ	
215	SK105	上部	鉢					（表面ケズリ）			ナゲ		
216	SK105	上部	鉢					縦條文			ケズリ		
217	SK105	上部	鉢					範文	LR	不整	ナゲ		スヌ
218	SK105	上部	口					ミガキ			ナゲ		
219	SK105	上部	鉢				(11.0)				ナゲ	スヌ	

第66図 SK105土坑出土土器(2)



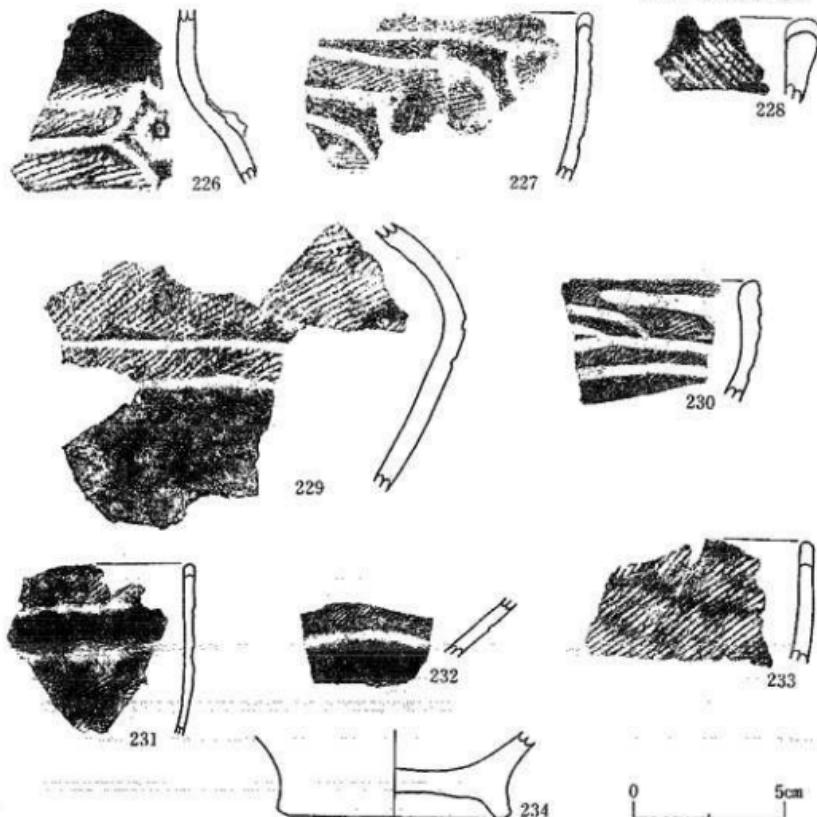
番号	出土場所	肩	基部	分類	口径	底径	高さ	文	様	英訳	既述	既記	内面調査	外側形	備考
220	SK105	下部	台付縫跡	G	25.3	7.4		幾何状文+玉頭+入組ニ叉文	横	L R 横		ナデ	スヌ	スヌ	
221	SK105	下部	台付縫跡	A I	13.0	4.5	8.0	内形文+人頭文+幾何文	横	L R 横		ミガキ			
222	SK105	下部	底	I				2本 縦の縫跡+平凹痕+網文+幾何文	不整	L R 不整		トケツアリ	スヌ		
223	SK105	下部	底	H			7.2	網文	横	L R 横		ナデ			
224	SK105	下部	沖口	D				2ガタ				ナデ			
225	SK105	下部	縫跡			9.4		幾何文				ナデ	スヌ	スヌ	

第67図 SK105土坑出土土器(3)

この上面も使用されたようである。

S D 152溝状造構 (第48・72図)

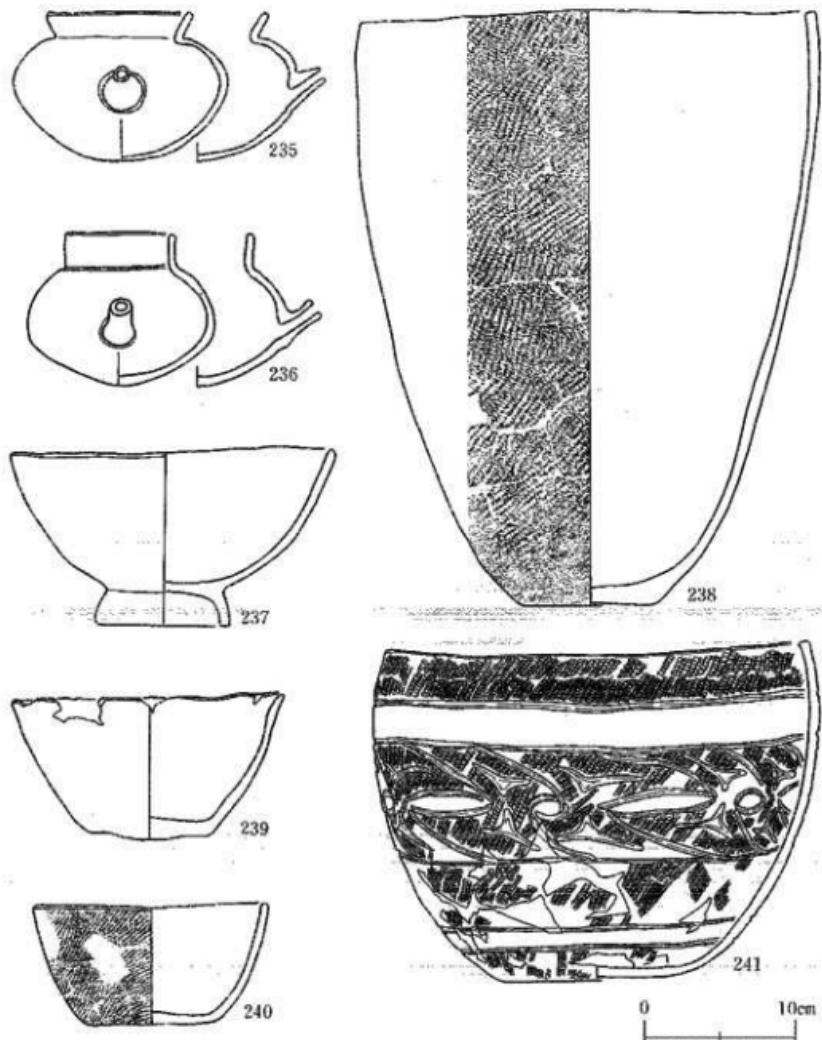
S D 138溝状造構の約2m西側にある。埋土の状態、長軸方向はよく似ている。造構検出面の地山面ではS D 138とは途切れているが、地山より1層上の最もしまりのある面では、連続



番号	出土地点	層	形態	分類	口径	底径	器高	文様	施設	施設	内面施設	側面施設	側面施設
226	SK105	下部	壺					菱形文内に実起+圓文等	LR	縫	ミガキ		
227	SK105	下部						直線文縫+入組三文縫	LR	縫	ヨコナデ	ヌヌ	
228	SK105	下部						圓形文縫+筋起の小切縫とならし直線文縫	LR	縫	ミガキ	ヌヌ	ヌヌ
229	SK105	下部						平行文縫	LR	縫	ケズリ		
230	SK105	下部						入組三文文?	LR	縫	ミガキ		
231	SK105	下部						横置平行文縫+無文縫	LR	縫	ナデ	ヌヌ	
232	SK105	下部						圓文縫+無文縫	LR	縫	ヨコナデ	ヘンゼラ	
233	SK105	下部						波状口縫+圓文	LR	縫	ヨコナデ	ヌヌ	
234	SK105	F部					7.5				ケズリ		

第68図 SK105土坑出土土器(4)

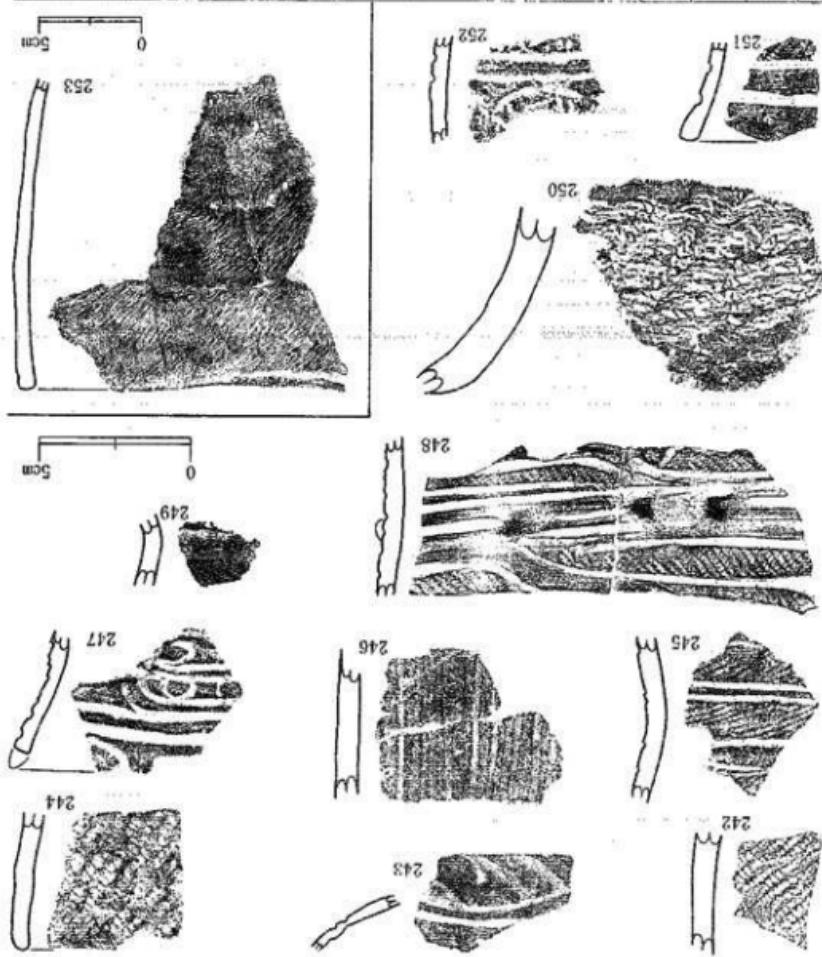
していた可能性もある。これらの溝状遺構は立地や形態、埋土の状態からみて水流のある溝、区画施設を建てる際の掘り方とは考えられない。あえて推測すれば斜面上部と台地上をつなぐ道路遺構の可能性もある。道路遺構とすれば、SK58土坑に付属して粘土や細粒砂を運搬するための通路だったのかもしれない。

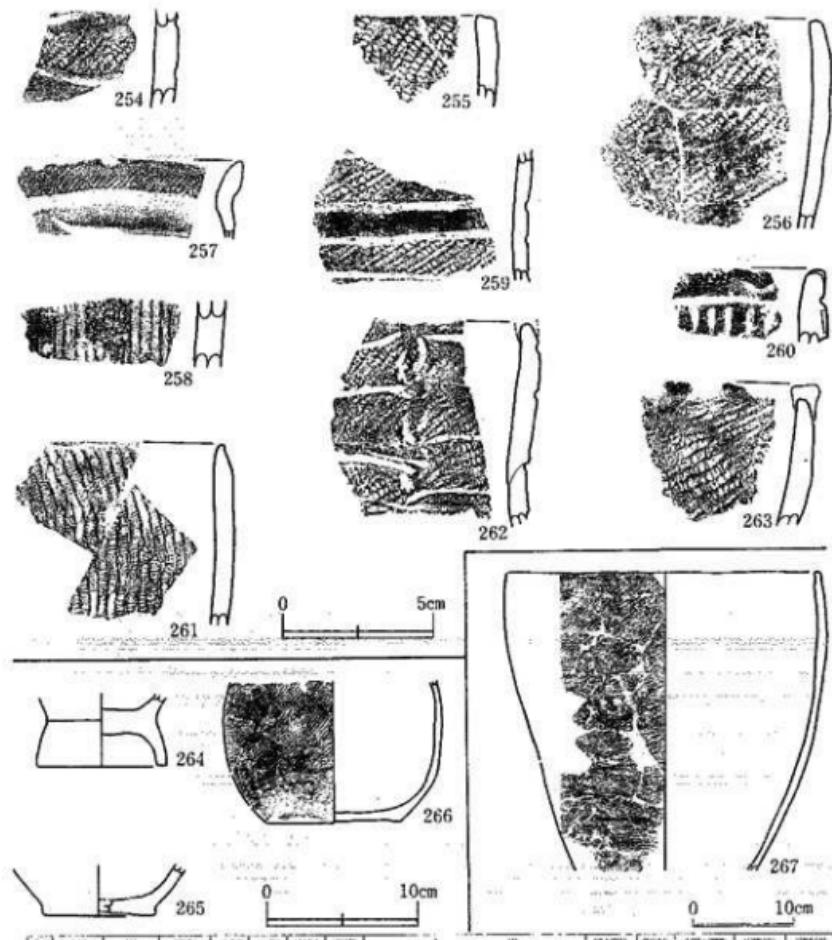


番号	出土場所	種類	器形	分類	口径	底径	高さ	文様	裏面	既往	内側の施漆	背面	側面
235	SK109	中位	注口	C	9.6		10.0	「サギ」		上:無下:有			
236	SK109	床底	注口	C	7.3		10.1	「サギ」		上:無下:有			
237	SK109	241の中	舟形盤	C	21.5	7.6	11.9	「サギ」				スヌ	235-237
238	SK109	中位	深鉢	B2	30.2	9.0	39.7	幾文	L.R	横・斜	ナデ	スヌ	
239	SK109	床底	浅鉢	D	18.0	7.9	9.9	「サギ」			ミガキ		
240	SK109	中位	鉢	D1	15.5	8.5	8.0	幾文(底面:全周織文)	L.R	横・斜	ナデ		
241	SK109	床底	鉢	A	38.1	11.8	25.2	幾文(底面:一列の二重三脚目織文)	L.R	ナデ	スヌ		

第69図 SK109土坑出土土器

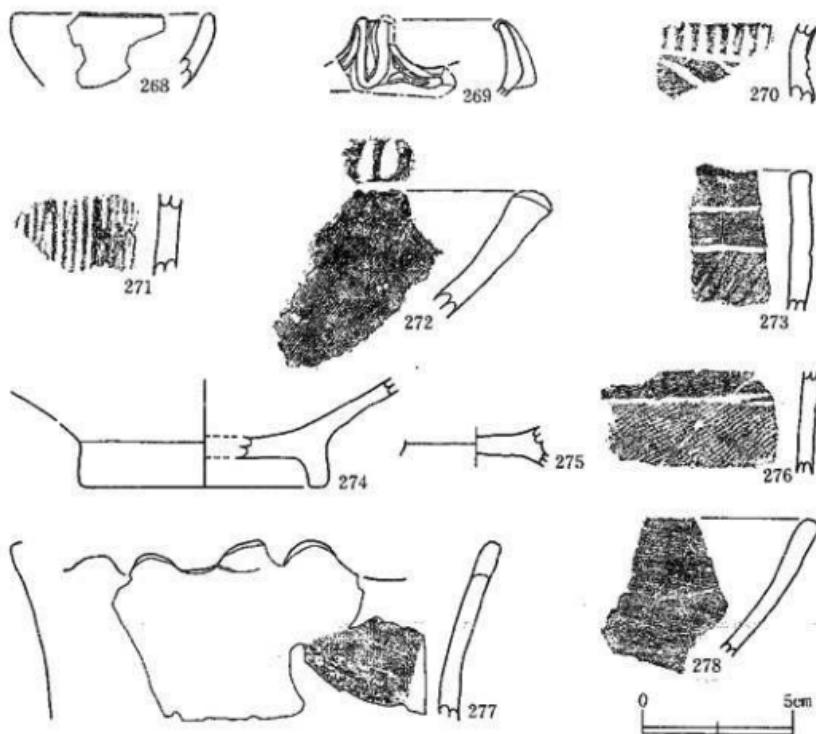
圖 70 王出埃及王出土 116·117·118 級 SK108·114





番号	出土地点	型	器形	分類	口径	底径	高さ	文様	施文部	既往	内面の特徴	外観	備考
254	SK124							人頭三叉文?	LR	横	ヨコナデ	スス	
255	SK130							縹文	LR	横	ヨコナデ		
256	SK132							縹文	LR	横	ミガキ	スス	スス
257	SK133							縹文帯+縹文(ミカナ)	LR	横	ミガキ		
258	SK149							條模文					
259	SK137							人頭三叉文?	LR	横	ナデ	スス	
260	SK151							D形脚ナナ台+背高頭的ナナ台(絞頭)					
261	SK151							縹文	LR多点	横	ナデ	スス	
262	SK151							三叉文	LR	横	ミガキ		
263	SK151							口外部にギタソ条の突起(2)縹文	LR	横	ヨコナデ	スス	
264													
265													
266													
267													

第71図 SK124・130・132・133・137・149・151土坑出土土器



番号	出土地点	形	断面	分類	口径	底径	高さ	文様	焼成跡	縁部	縁部の状態	附着物	備考
268	SK153							ミガキ					ベンガラ
269	SK154							丁字状縦横目+二叉文					ミガキ
270	SK154							+ナギ:日文等+波線文					ナゲ
271	SK154							高脚文					スス
272	SK155							頂部にナギ:日文ある山形突起					ミガキ
273	SK155							波状紋様+圓文等+點文等					ナゲ
274	SK155	台形片			8.3			ミガキ					ナア
275	SK152						4.5	ミガキ					ナデ
276	SK155							無文等+網文	LR	縁	ナデ		
277	SD138	鉢			15.3			波状紋+圓文等+一部に幾文	LR	縁	ナゲ	スス	スス
278	SD152							(ナゲ)				ヨコナゲ	スス

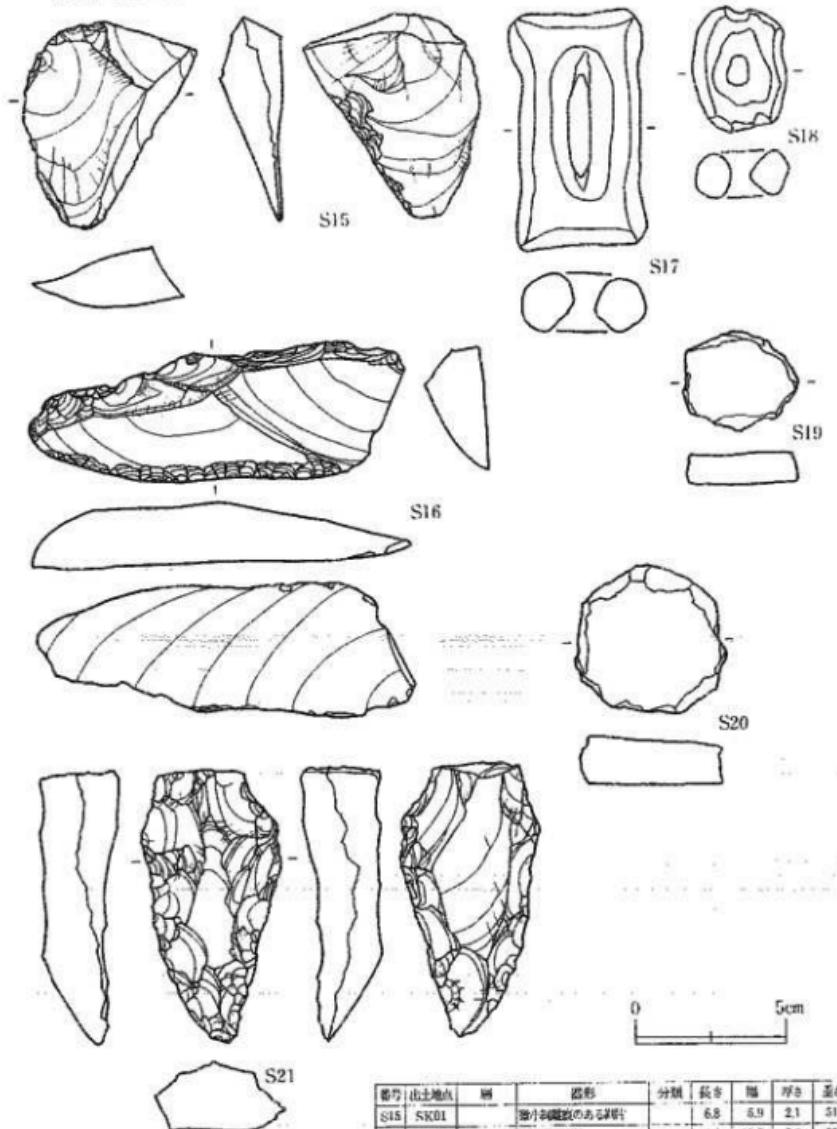
第72図 SK152・153・154・155土坑、SD138・152溝状遺構出土土器

4 焼土遺構

5箇所で検出した。

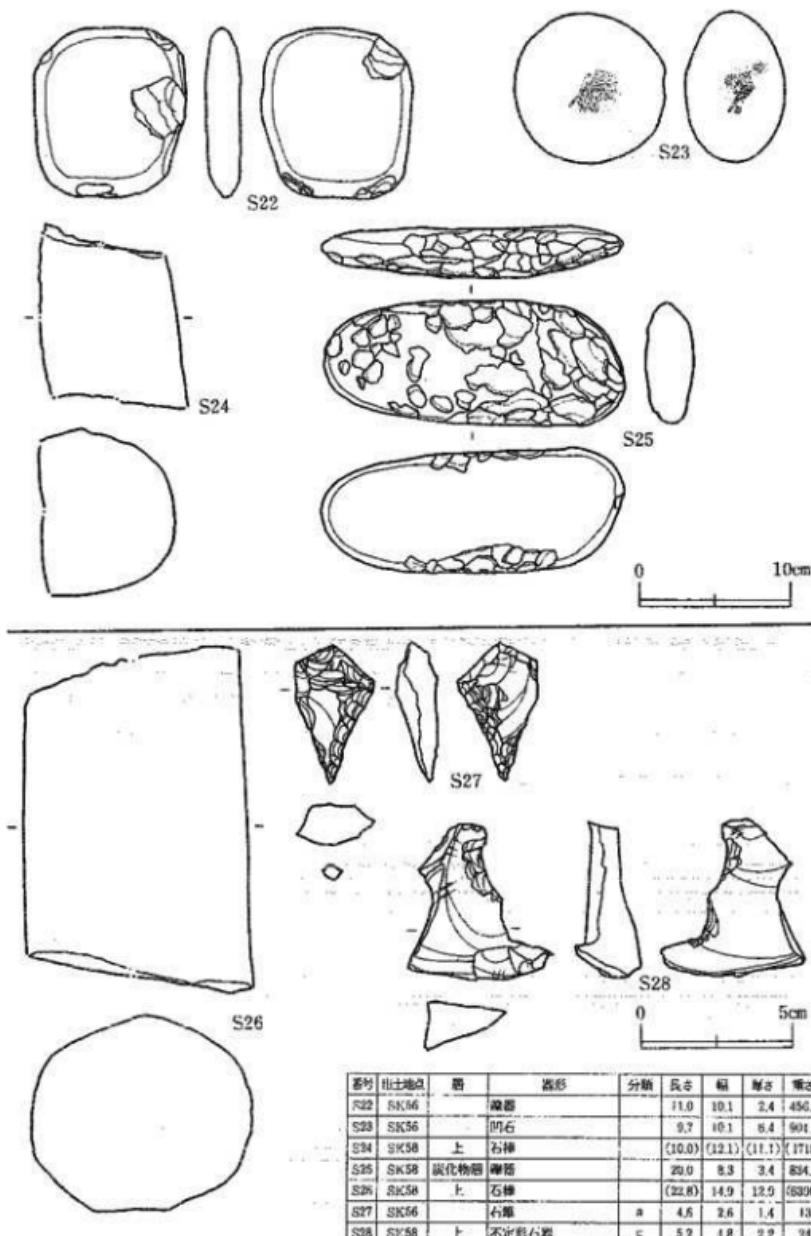
S N 0 3 焼土遺構（第77図）

調査区東側で検出した。搅乱によってほとんど原形をとどめておらず詳細は不明である。

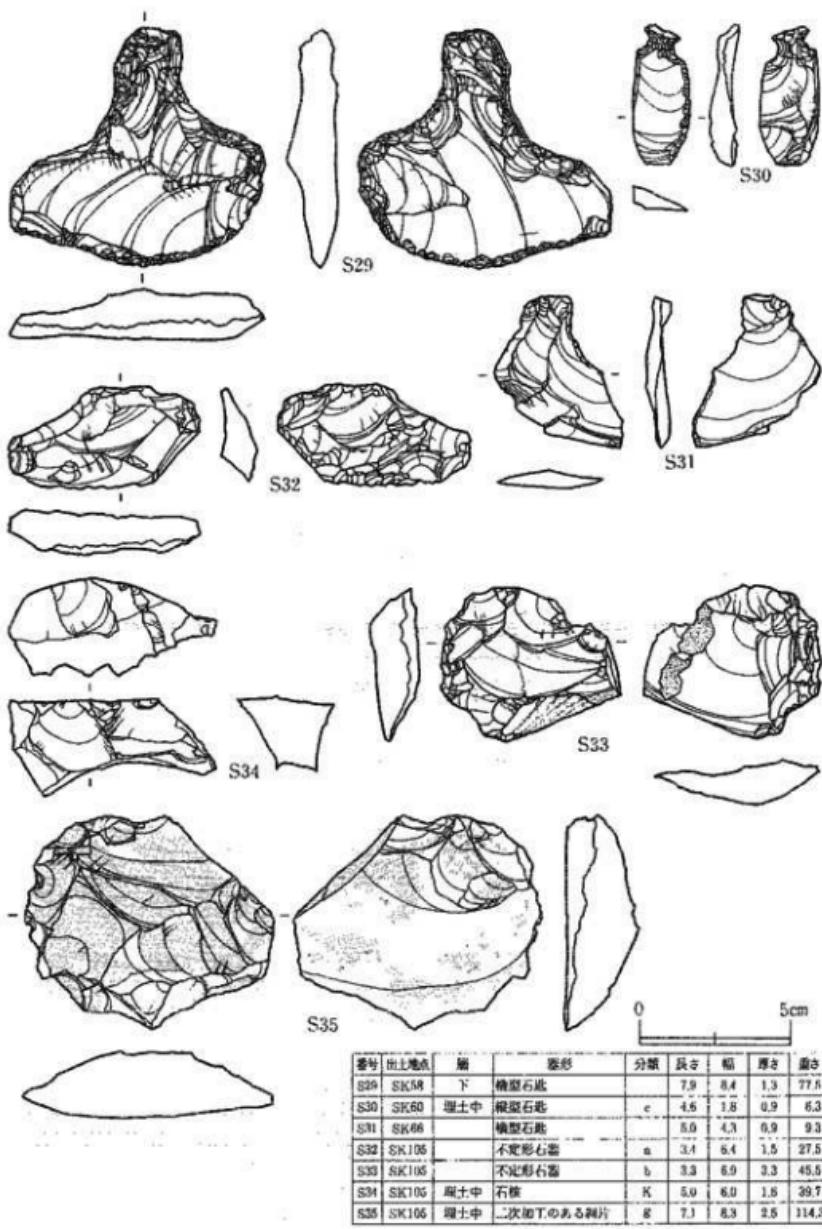


器名	出土地点	層	器形	分類	長さ	幅	厚さ	差さ
S15	SK01		縦斜面打痕のある剥片		6.8	5.9	2.1	51.1
S16	SK01		不定形石器		4.4	12.5	2.0	86.8
S17	SK37	从洞	有孔石製品		7.9	4.4	1.7	74.8
S18	SK37	床面	有孔石製品		4.2	3.1	1.2	39.2
S19	SK56	複数面	円盤状石製品		2.3	3.8	1.1	21.0
S20	SK56	複数面	円盤状石製品		5.0	5.0	1.6	46.7
S21	SK56	複数面	一次加工のある剥片	c	9.0	4.6	2.7	100.5

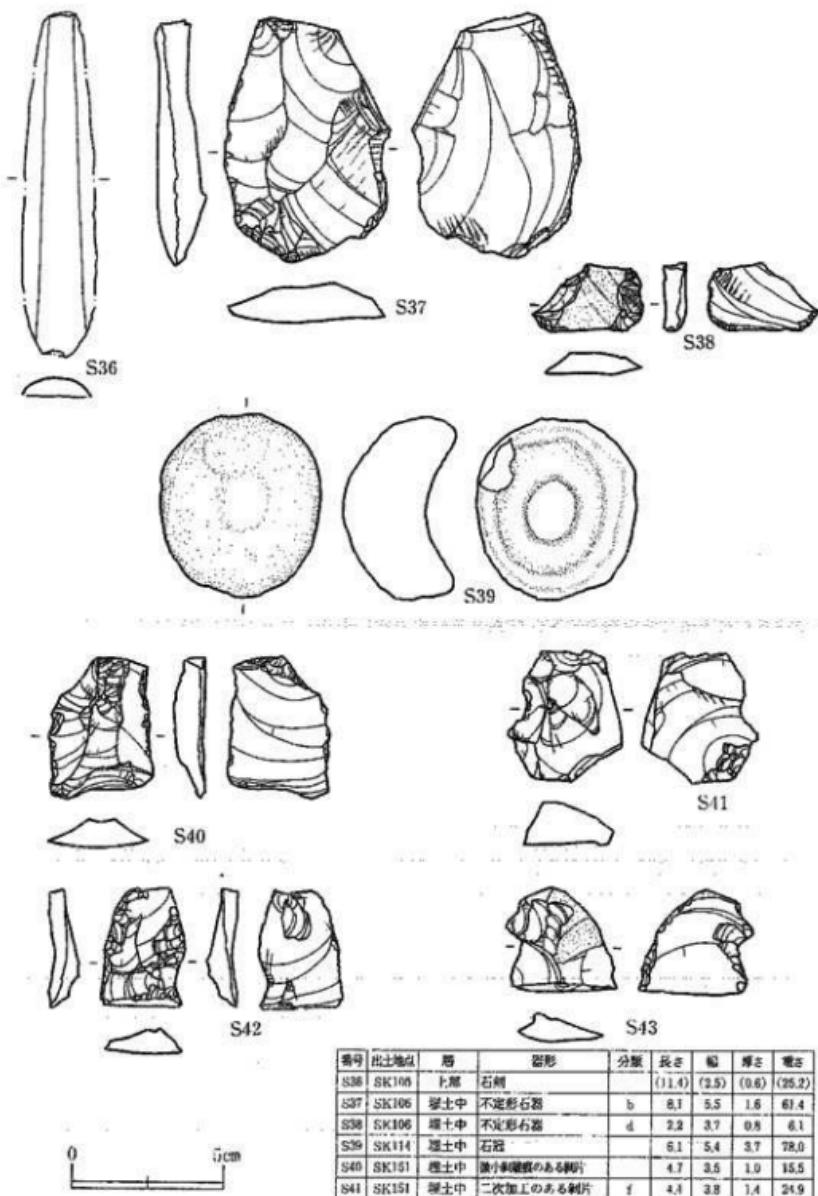
第73図 SK01・37・56土坑出土石器



第74図 SK56・58土坑出土石器



第75図 SK58・60・66・105土坑出土石器



第76図 SK105・106・114・151土坑、SN129 焼土遺構出土石器

S N13焼土遺構（第26図）

浮石混じりの土に形成されており平安時代以降のものである。斜面下方に弧状に広がっているのは地形的要因による流出であろう。

S N91焼土遺構（第40図）

S K100土坑、S X62性格不明遺構と重複している。規模からみて相当強い火熱または長期にわたる使用によって形成されたと考えられる。検出面はIV層でS X62性格不明遺構より新しく、S K100土坑より古い。

S N112（第77図）

調査区東側の急な斜面の中腹にある。N R51グリッドからN P48グリッドにかけて延びる自然の大きな沢の埋土上に形成されていたものである。したがって、次が埋没しきった後のものである。

S N129（第77・78・79図、図版3）

N P51グリッドを中心としてIV層上の広い範囲に焼土が形成されている。焼土の上や周囲には地山土のブロックが多量に混じる黒褐色土が再堆積している部分がある。焼土中及び上面に焼土層が形成された4層中からは多量の遺物が出土した。土器は後期末～晩期初頭で、刻目の充填された入組文や玉抱き三叉文が施されたものがある。

5 性格不明遺構

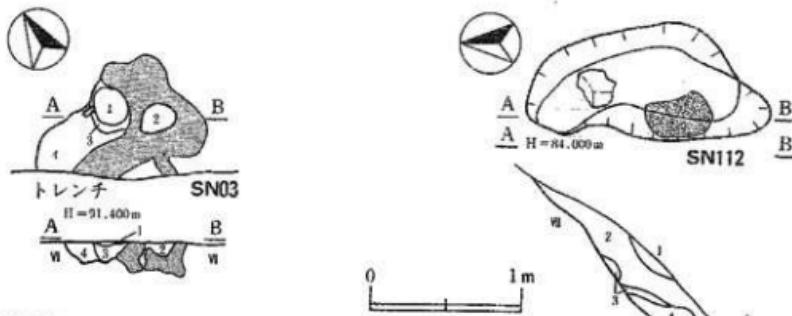
台地上の調査区中央部で2箇所検出した。複数の土坑や竪穴状の遺構が重複しているようであるが、明確なプランはつかめなかった。埋土中には多量の遺物が含まれ、完形土器や復元可能な土器も多い。凹地を捨て場として利用したものと思われる。

S X62（第80～88・91図、図版3）

B類土坑群の西側、台地縁辺の凸部の付け根部分にあり、東西約5.3m、南北7.4m以上の範囲で不整形の落ち込みが検出された。断面上層からはS K105土坑も含め、少なくとも4基の土坑と3基の竪穴状遺構の重複があるようにもみえるが、詳細は不明である。埋土中にはきわめて多量の遺物が含まれており、主体をなす土器は晩期前葉（大洞B式）である。南側の竪穴状に一段低くなっている部分の底面からは中期末の土器片（第88図354～357）も出土したので、S X62は、中期末の竪穴住居跡によってできた凹部を利用した晩期の捨て場とも考えられる。

S X107（第81・89・90図、図版3）

調査区北端、S I 95竪穴住居跡とS X62性格不明遺構の間にあり、地山面では東西3.6m以上の浅い竪穴状の落ち込みが重複している。埋土中から多量の遺物が出土した。主体は晩期前葉（大洞B式）である。

**S N 03**

- 暗褐色土(10YR3/3)ややしまりあり、暗赤褐色焼土(5YR5/8)をきわめて多量に含む。
- 黒褐色土(10YR2/3)ややしまりなし、焼土粒を少量含む。
- 黒褐色土(10YR3/2)ややしまりあり、焼土粒を微量含む。地山崩壊土をやや多く含む。
- 暗褐色土(10YR3/3)ややしまりあり、焼土粒を微量含む。

S N 112

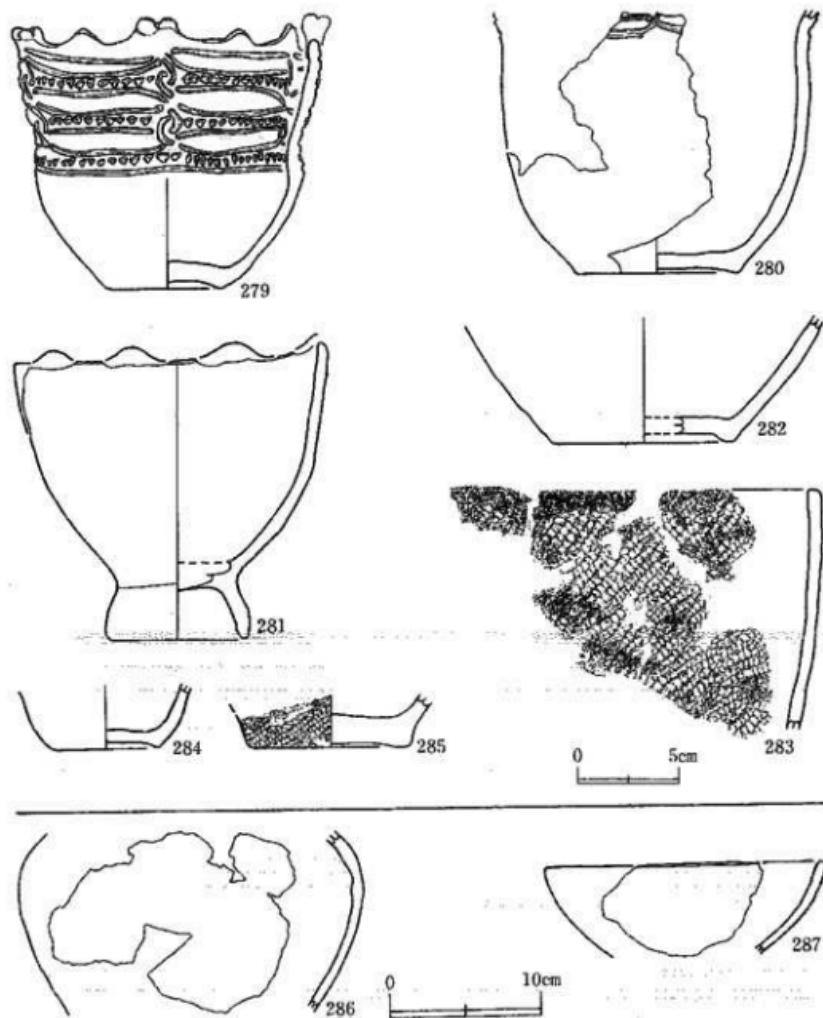
- 墨褐色土(10YR3/2)焼土粒多量含む。
- 墨褐色土(10YR3/2)黄褐色中砂多量含む。
- 黄褐色土(10YR5/6)黄褐色中砂層。
- 褐色土(10YR4/4)焼土小~中粒やや多く含む。
- 褐色土(10YR4/6)焼土を主体とした層。4層が混じる。

S N 129

- 黒褐色土(10YR2/3)ややしまりあり、地山の黄褐色土(10YR5/8)の再堆積土を多量に含む。
- 極暗褐色土(7.5YR2/3)しまりあり、黒褐色土と焼土が混じる。地山土をやや多く含む部分がある。
- 明褐色土(7.5YR5/8)しまりあり、バサバサ。火熱を強く受け、赤変している。
- 黑色土(7.5YR1.7/1)しまりあり、地山粒やや多く含む。3層の下部に近い部分はやや赤変している。
- 黒褐色土(10YR2/2)しまりあり、地山粒やや多く含む。(基本層位4層)
- 暗褐色土(10YR3/4)しまりあり、地山粒やや多く含む。(基本層位3層)
- にい、黄褐色土(10YR5/4)漸移層。しまりあり、粘性ややあり、地山崩壊土多量含む。(基本層位3層)

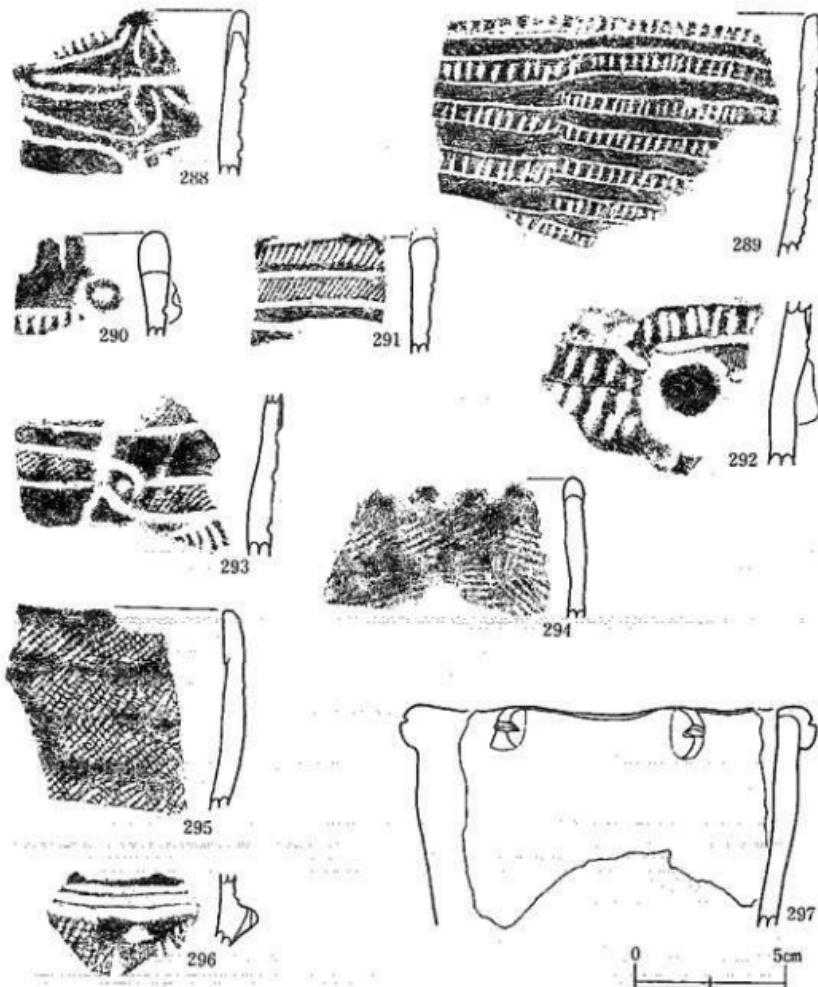
出土遺構	検出グリッド	剖面	平面形	断面形	上端距離(m)	下端距離(m)	厚さ(m)	埋蔵の状態	電導率	透水係数	遺物
SN03	MP51	VII	(不規則形)	G	×	×	0.22	二次堆積			
SN112	NP49+50	III	稍円形	G	1.62×0.77	0.85×0.47	0.08				
SN129	NSH1, NSH2, NGH1, NGH2	IV	不整形円形	G	3.63×2.50	×	0.62	IV層中の地土	76~78~79		

第77図 SN03・112・129焼土遺構



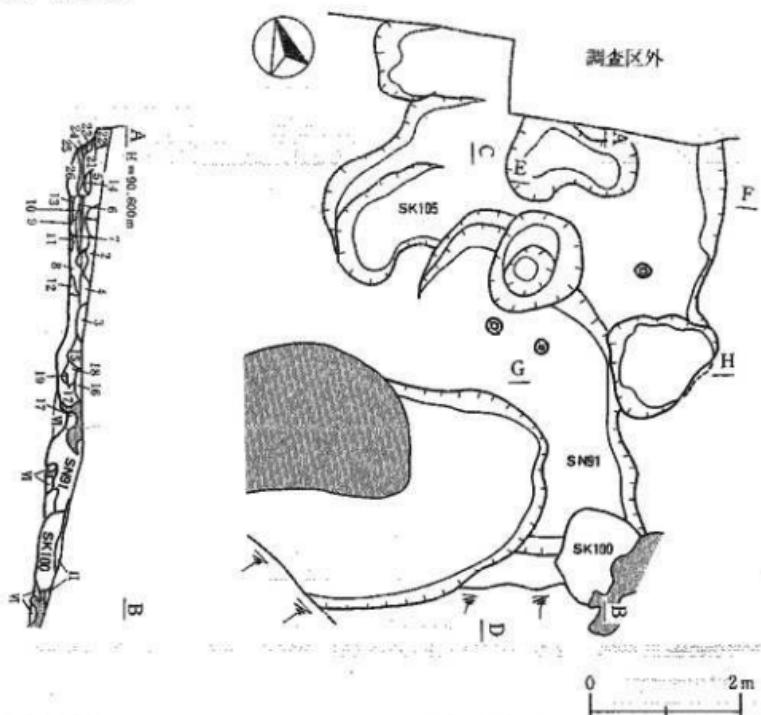
番号	出土地点	形	器形	分類	口径	底径	高さ	文	様	底内跡	底内跡	外底面	内底面
279	燒土中	鉢	E	15.7	5.6	13.4				ナメ	ナメ	スス	
280	燒土中	鉢	E		8.0			ガキ+メガネ状波線文				ケズリ	
281	燒土中	台付鉢	E	(14.8)	6.0	13.8		波紋口縁+カスリ				ナデ	スス
282	燒土中	鉢			9.0							ナデ	
283	燒土中	……						圓文	…	しよ	横	ナデ	
284	燒土中	鉢			5.4							ケズリ	
285	燒土中	鉢			8.0			圓文		LR	横	ナデ	
286	燒土中	壺						1:ガキ				ヨコナデ	
287	燒土中	壺		(18.6)				1:ガキ				ミガキ	

第78図 SN129焼土造構出土土器(1)



番号	出土地名	器形	分類	口径	底径	高さ	文様	施紋部	底質	内面の状態	柄形状	縁形状
288	SN129	燒土中	鉢				網目+隔壁文+人面文、口縁の一部にイザ(井)			ナデ		
289	SN129	燒土中	鉢				入組文法の帶状モザイク文			ナデ		
290	SN129	燒土中	鉢				隔壁文+口内・外周部にイザ(井)状網目+イザ(井)状縁			ナデ		
291	SN129	燒土中	鉢				モザイク文					
292	SN129	燒土中	鉢				人面+火炎文のモザイク文+モザイク状網目			ナデ		
293	SN129	燒土中	鉢				玉抱三文又+モザイク文			ナデ	スス	
294	SN129	燒土中	鉢				△唇部に連續突起+網文	L R	不規	ナデ	スス	
295	SN129	燒土中	鉢				網文	L R	被	ヨコナデ		
296	SN129	燒土下					平行沈溝+8突起+網文	L R	斜	ミガキ		
297	SN129	燒土中	鉢	(13.8)			ミガキ+網型の網文			ナデ		

第79図 SN129焼土遺構出土土器(2)

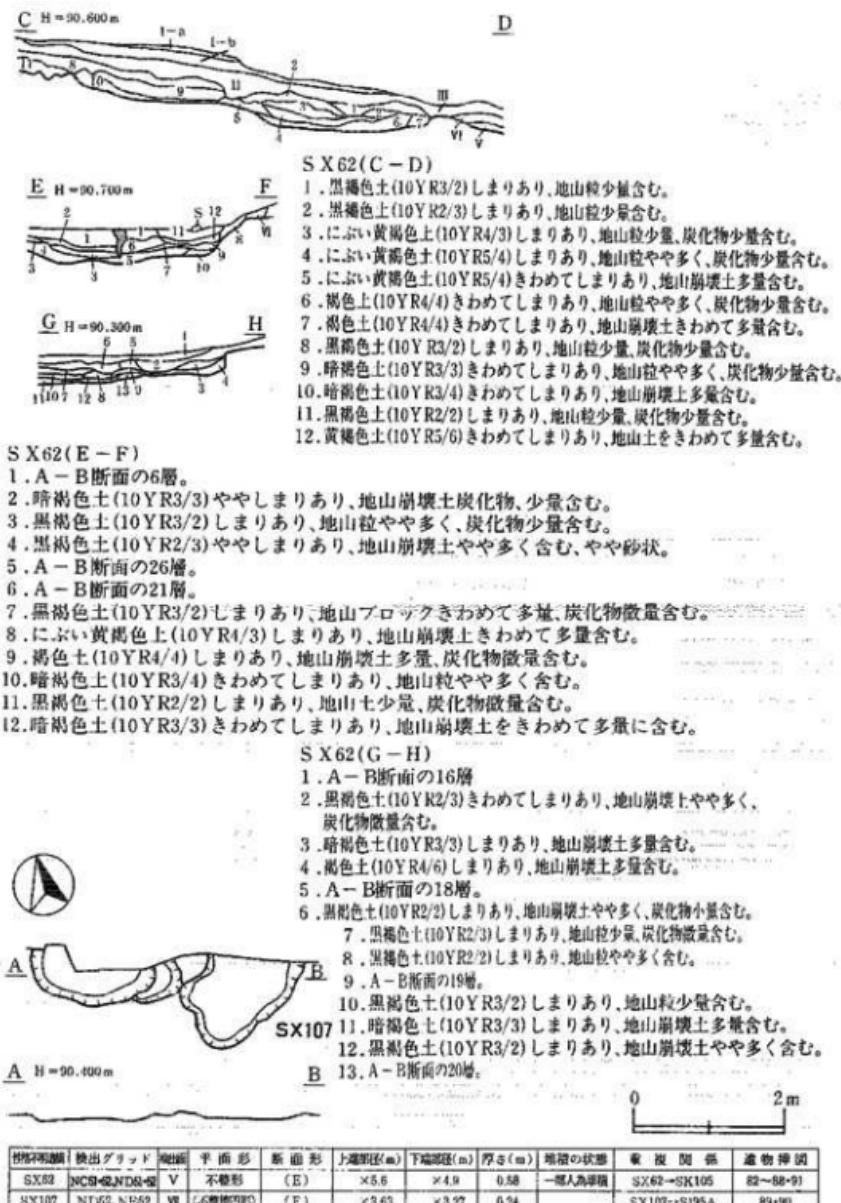


SX62 (A-B)

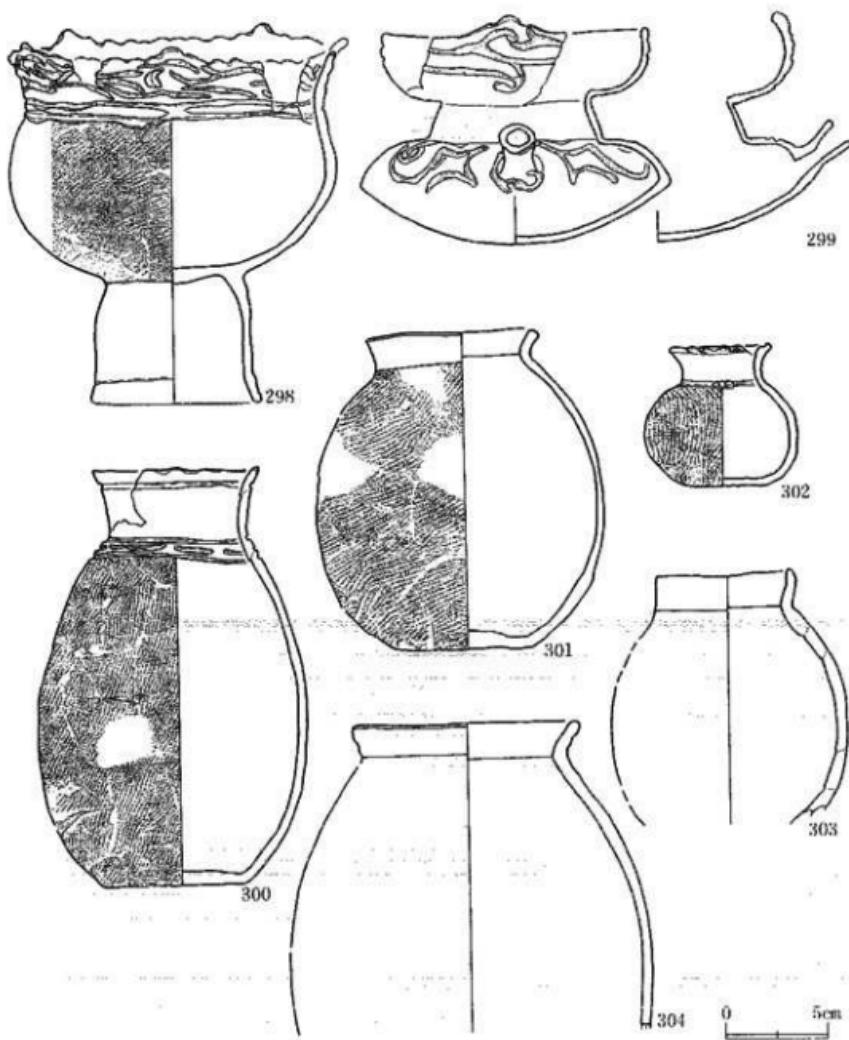
1. 黒褐色土 (10 YR2/3)
しまりあり、地山崩壊土多量、炭化物少量含む。
2. 黒褐色土 (10 YR2/2)
しまりあり、地山粒少量含む。
3. 黒褐色土 (10 YR2/2)
しまりあり、地山粒少量含む。
4. 黒褐色土 (10 YR4/4)
きわめてしまりあり、地山粒微量含む。
5. 黒褐色土 (10 YR3/2)
しまりあり、地山粒少量、炭化物少量含む。
6. 黒褐色土 (10 YR2/2)
ややしまりあり、地山粒微量、炭化物やや多く含む。
7. 黒褐色土 (10 YR3/2)
きわめてしまりあり。
8. 黒褐色土 (10 YR2/3)
きわめてしまりあり、地山粒少量含む。
9. 黒褐色土 (10 YR2/2)
きわめてしまりあり、地山粒少量含む。
10. 暗褐色土 (10 YR3/3)
きわめてしまりあり、地山粒やや多く含む。
11. 喀褐色土 (10 YR3/3)
きわめてしまりあり、地山崩壊土多量含む。
12. 黄褐色土 (10 YR4/4)
きわめてしまりあり、地山崩壊土きわめて多量含む。
13. 暗褐色土 (10 YR3/2)
きわめてしまりあり、地山崩壊土やや多く、炭化物少含む。

14. 赤褐色土 (5 YR4/6)
しまりあり、ベンガラを含む。
15. 黑褐色土 (10 YR3/2)
しまりあり、地山崩壊土多量に含む。
16. 黑褐色土 (10 YR2/2)
しまりあり、地山粒少量含む。
17. 暗褐色土 (10 YR4/4)
しまりあり、地山崩壊土きわめて多量含む、粘性ややあり。
18. 黑褐色土 (10 YR3/2)
しまりあり、地山崩壊土やや多く含む。
19. 黄褐色土 (10 YR5/6)
きわめてしまりあり、暗褐色土やや多く含む。
20. 喀褐色土 (10 YR4/3)
きわめてしまりあり、地山崩壊土多量、炭化物少量含む。
21. にぶい黄褐色土 (10 YR4/3)
きわめてしまりあり、地山崩壊土多量、炭化物少量含む。
22. 黑褐色土 (10 YR2/2)
しまりあり、地山粒少量、炭化物少量含む。
23. にぶい黄褐色土 (10 YR5/4)
きわめてしまりあり、赤褐色土 (5 YR4/6) のベンガラ含む。
24. 黑色土 (10 YR2/1)
しまりあり、地山崩壊土やや多く含む。
25. 黄褐色土 (10 YR7/8)
しまりあり、地山土、黑色土やや多く含む。
26. 黑褐色土 (10 YR3/2)
きわめてしまりあり、地山崩壊土を多量に含む。

第80図 SX62性格不明造構

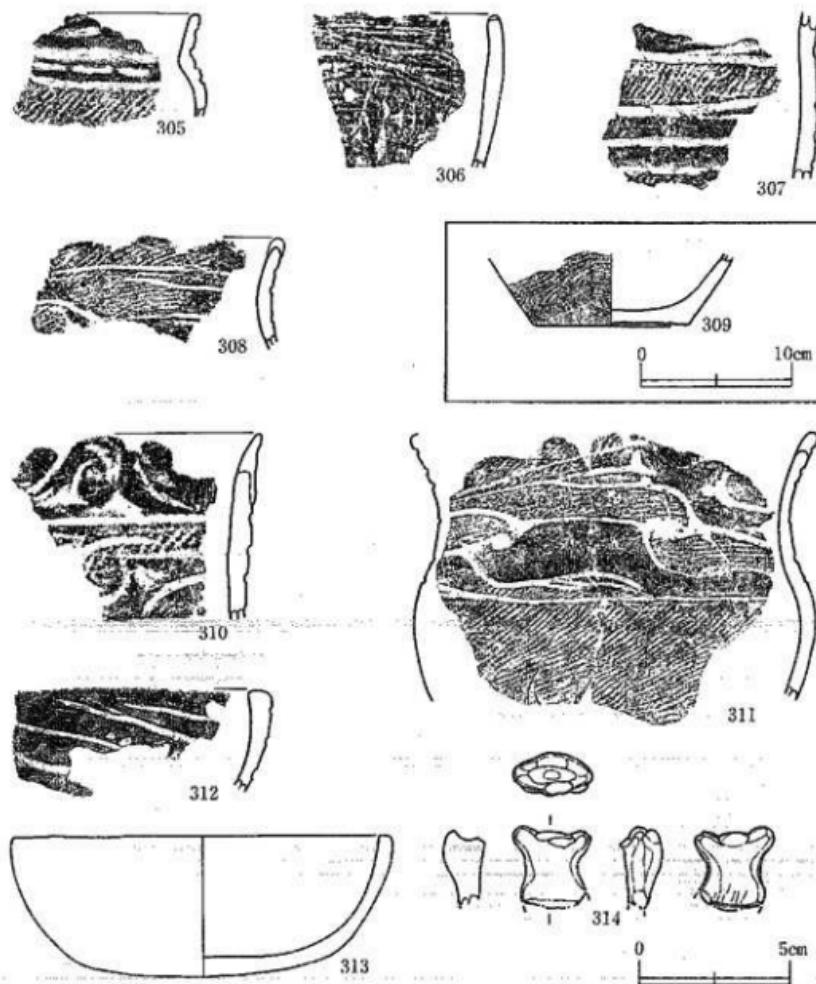


第81図 SX62・107性格不明造構



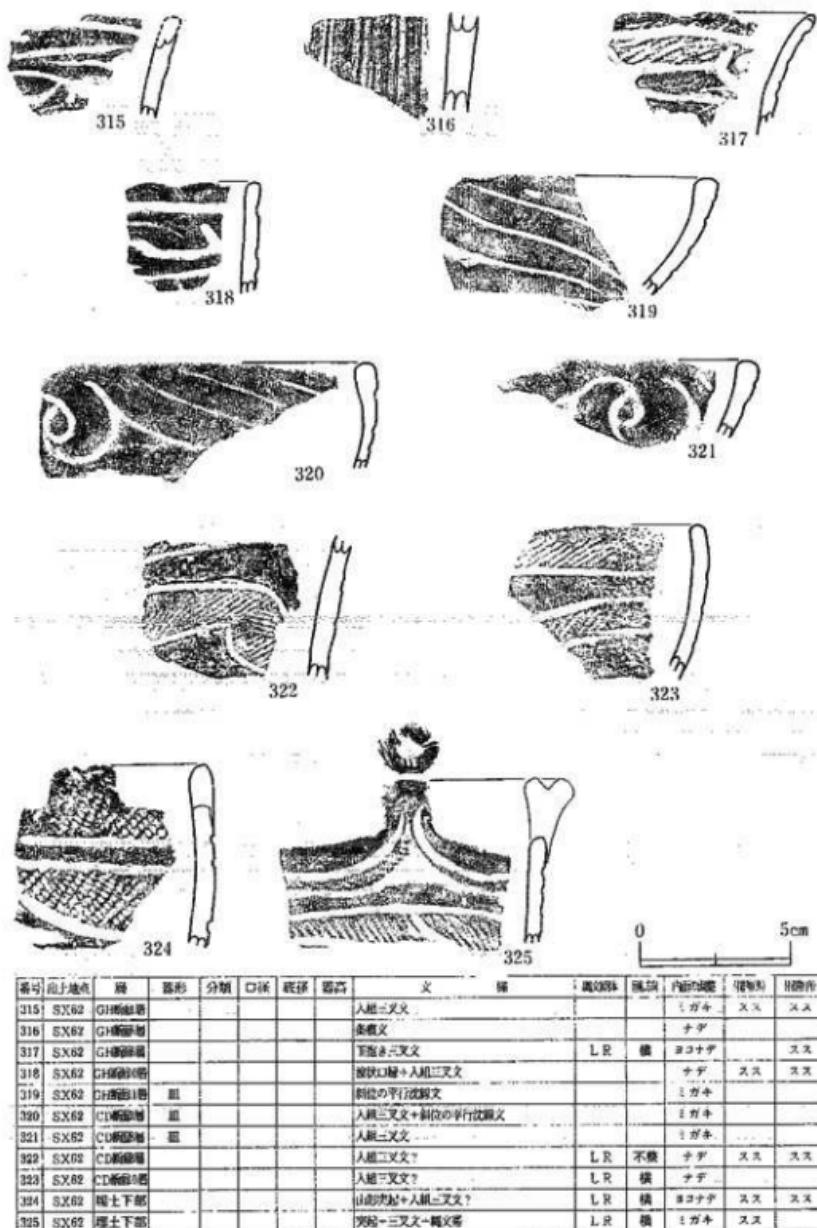
番号	出土地点	器	西形	分類	口径	底径	高さ	文様	施用部	既銘	内部装飾	外側形	参考先
298	SX62	埋土下部	台付鉢	H 3	16.8	7.3	18.7	被模印模+刻捺模三叉文	L R	横	上:模印下:刻	ヌヌ	ヌヌ
299	SX62	埋土中層	鉢	E	(13.4)		11.0	二叉文+刻印文			上:刻印下:模		
300	SX62	埋土上部	壺	L	8.2	6.9	20.8	平行成綱内に刻印模光模+網文	L R	横	上:模印下:模		
301	SX62	埋土下部	壺	D 1	8.5	6.4	15.7	網文	L R	不整	ナゾ		
302	SX62	埋土下部	壺	F 2	5.0	4.0	7.0	口付B突起+底部B突起+網文			上:模印下:模		
303	SX62	埋土下部	壺	D 2	6.7			4ガ年			ナゾ		
304	SX62	EP新合環	壺	L	11.2			ケヌリ			ケヌリ		

第82図 SX62性格不明遺構出土土器(1)

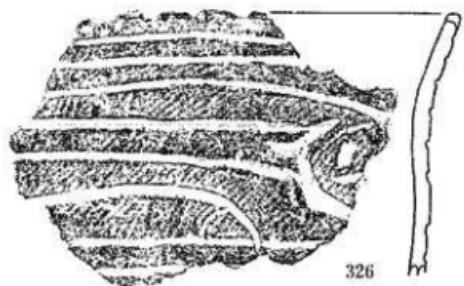


番号	出土地点	種	器形	分類	口径	底径	高さ	文			底形状	底鉢	内面の施	引物形	指標形
								様	文	様					
305	SX62	AB横縫器						平行波線内に短い波線を施す			LR	楕	ナデ	スヌ	スヌ
306	SX62	AB横縫器						横波波線文+ケズリ					ナデ	スヌ	スヌ
307	SX62	AB横縫器						人字三叉文?			LR	楕	ヨコナデ	スヌ	
308	SX62	AB横縫器						波状口縁+人字三叉文			LR	楕	ナデ	スヌ	スヌ
309	SX62	AB横縫器	鉢				10.5	波文			LR	楕	ナデ	スヌ	
310	SX62	EF横縫器						3層の波線のある波文+三叉文+人字三叉文			LR	楕	ナデ		スヌ
311	SX62	EF横縫器	鉢				(13.6)	平底人字三叉文			LR	楕	ナデ	スヌ	スヌ
312	SX62	AB横縫器						側面の平行波線					ミガキ		
313	SX62	林底	鉢		12.5	丸底	4.7	上部ナデ+下部ケズリ					ナデ		
314	SX62	AB横縫器	土偶												

第83図 SX62性格不明造構出土土器(2)



第84図 SX62性格不明造構出土土器(3)



326



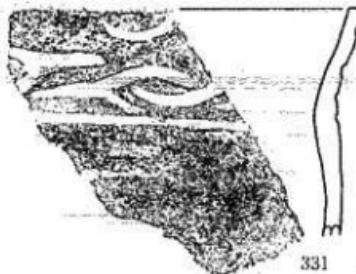
327



329



328



331



332



333

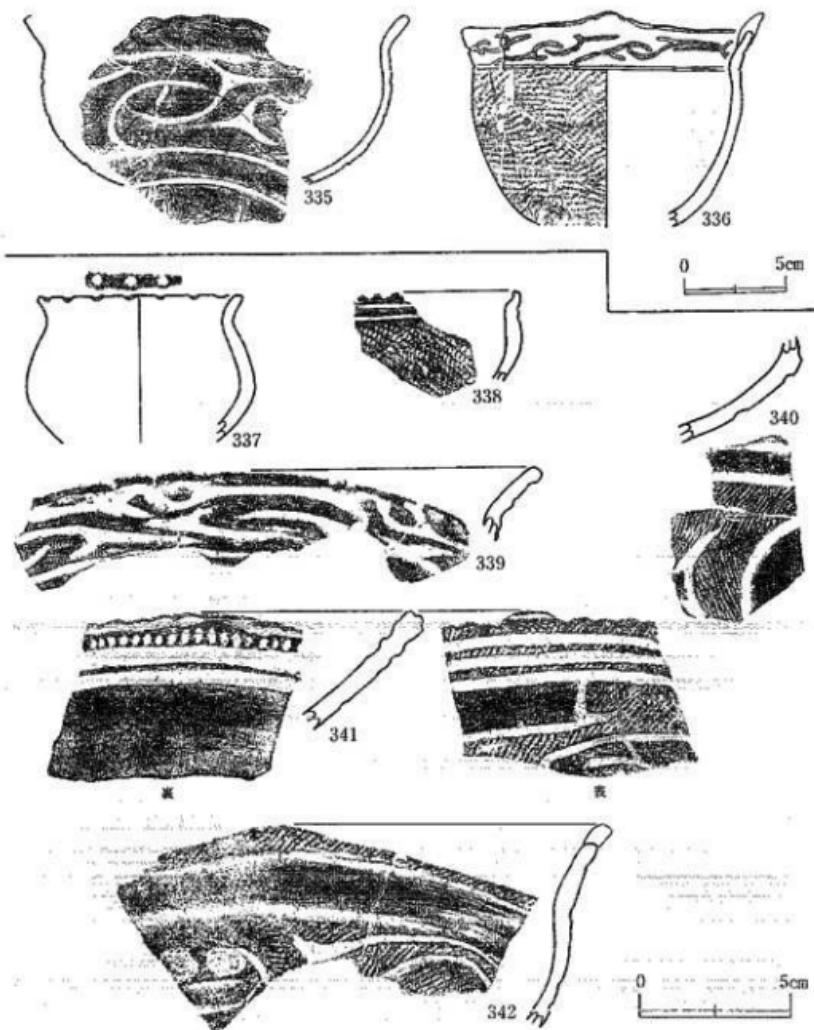
0 5cm



334

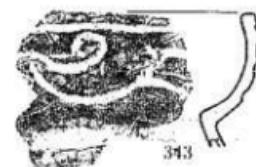
番号	出土地点	層	分類	LH径	壁厚	器高	文様	織紋跡	脈痕	内面の状態	目録記	目録記
326	SX62	埴土下部					玉ぬき三叉文	LR	横	ナヂ	スヌ	スヌ
327	SX62	埴土下部					玉ぬき三叉文	LR	横	ミガキ		
328	SX62	埴土上部					条文					
329	SX62	埴土下部					八鍵三叉文	LR	横	ナヂ	スヌ	
330	SX62	埴土下部					波状凸縁+口縁部に斜溝	LR	横	ミガキ		
331	SX62	埴土中					八鍵三叉文+圓綱文			ナヂ	スヌ	
332	SX62	埴土中					L形網目突起+連続網目文			ミガキ	スヌ	スヌ
333	SX62	埴土上部					八鍵三叉文?	LR	横	ナヂ	スヌ	スヌ
334	SX62	埴土上部					口縁部成形、側面斜削+手筋部に内に深い凹窓を有者			ミガキ	スヌ	スヌ

第85図 SK62性格不明遺構出土土器(4)

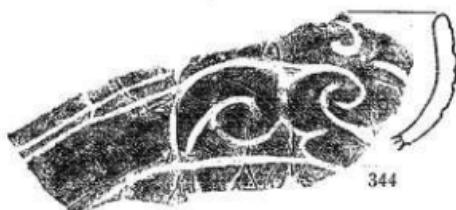


番号	出土地点	形	断面	口径	底径	高さ	火 線	高波跡	絞跡	内側凹部	外側凸部	内側凹
335	SX62	埴上部	鉢	(19.0)			人縹二叉文			ミガキ	スヌ	
336	SX62	埋土中	鉢	(18.4)			入縹三叉文	LR	不整	ヨコナデ	スヌ	スヌ
337	SX62	埴土上部	鉢	(6.8)			1周底に網状			ナデ		
338	SX62	埋土上部	鉢				口縁に1サク月一羽の波線+内部波線	LR	横	ミガキ	スヌ	スヌ
339	SX62	埋土上部	皿				波綱二叉文・人縹三叉文			ミガキ		
340	SX62	埋土上部	皿				火綫?	LR	不整	ミガキ		
341	SX62	埴土上部	皿				口縁網状+1サク月一羽の波線 背底波綱+人縹三叉文	LR	横	ミガキ		
342	SX62	埋土中	鉢				波状火綫+入縹三叉文	LR	横	ミガキ		

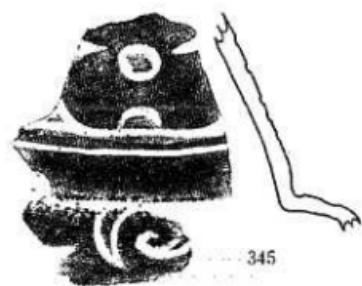
第86図 SX62性格不明遺構出土土器(5)



343



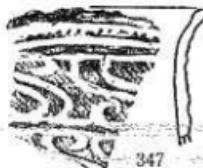
344



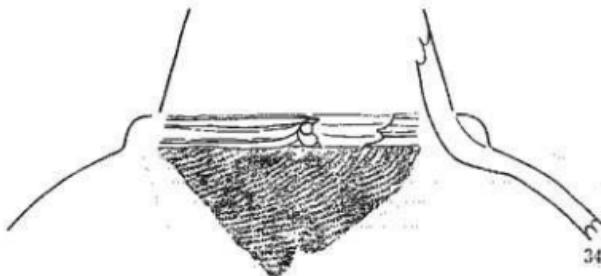
345



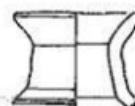
346



347



348



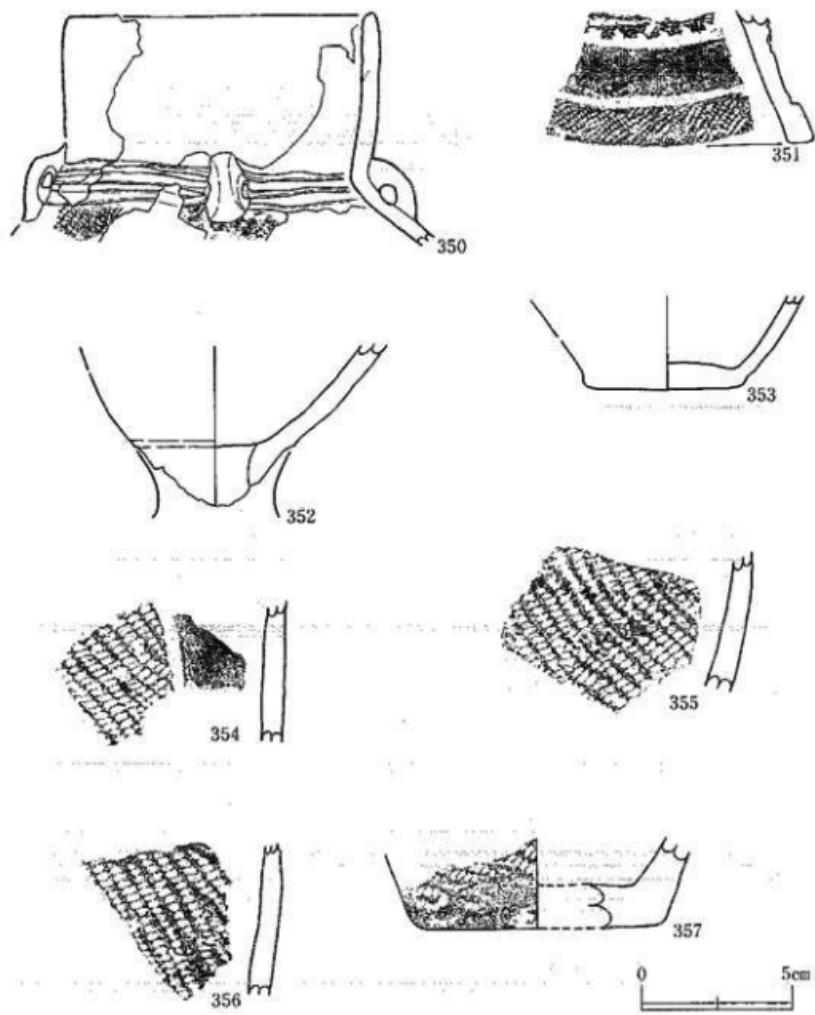
349

0

5cm

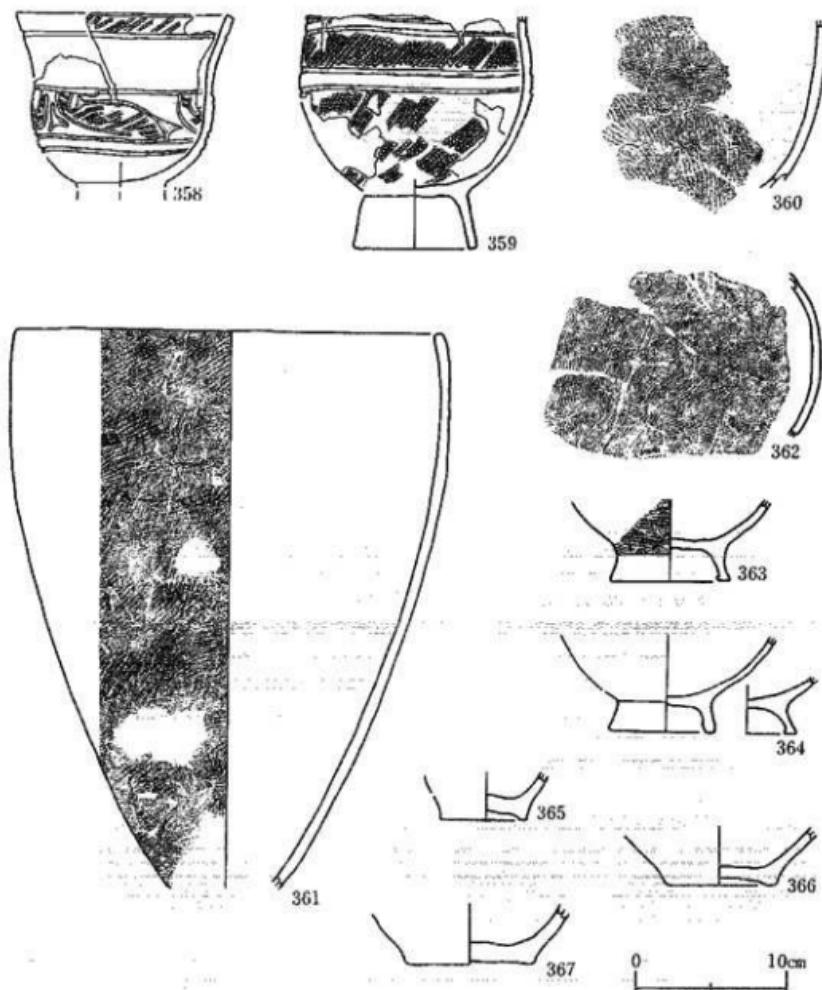
基号	出土地点	層	基形	分類	口部	底形	唇高	文様			輪廓線	輪郭	内部装飾	形状	用途
								入縫	二文義	十三文義					
343	SX62	埋土下部	疣口					入縫	二文義	十三文義			ミガキ		
344	SX62	埋土下部	疣口					入縫	二文義	十三文義			ミガキ		
345	SX62	埋土上部	疣口					繩形文?	円形文	入縫文			ミガキ		
346	SX62	埋土下部	壺					人頭三文義?			L.R	不整	ミガキ	青ウルシ	青ウルシ
347	SX62	埋土上部	壺					繩形文			L.R	整	ミガキ		
348	SX62	埋土上部	壺					平行線條+尖端點狀			L.R	整	ナデ		
349	SX62	埋土上部	壺				4.0	ミガキ					ミガキ	ベンカラ	ベンカラ

第87図 SX62性格不明遺構出土土器(6)



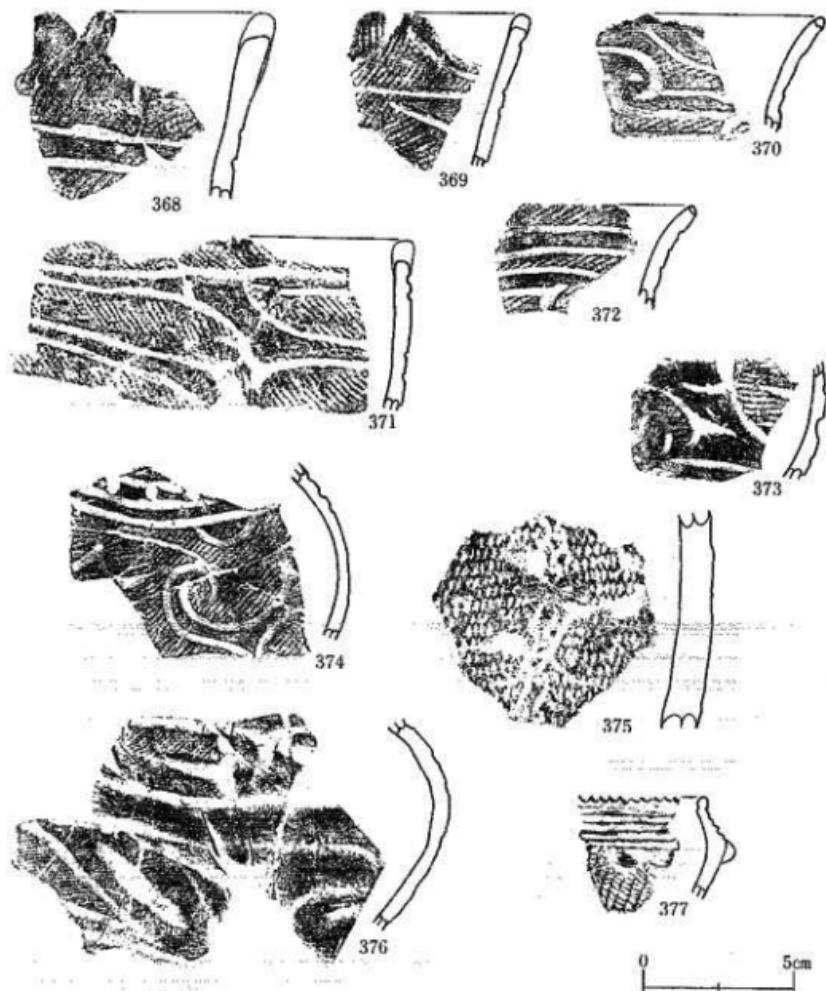
番号	出土地點	層	器形	分類	口径	縦径	高さ	文様	複数個体	既述	内面調査	指標孔	引物件
350	SX62	埋土下部	盃		10.2			平行縞線+ブリッジ状の突起	LR	横	ナデ		
351	SX62	埋土上部	台					網目列+圓文帶+圓文帶	LR	横	ナデ'		
352	SX62	埋土下部	一					ケズリ			ケズリ		
353	SX62	埋土下部	一			5.2					ナデ		
354	SX62	最下層	盃					波綱(内面)圓文	LR	横	ナデ	スス	
355	SX62	最下層	盃					圓文	LR	横	ナデ		
356	SX62	最下層	盃					圓文	LR	横	ナデ	スス	
357	SX62	最下層	盃		(8.0)			圓文	LR	横	ナデ		

第88図 SX62性格不明遺構出土土器(7)



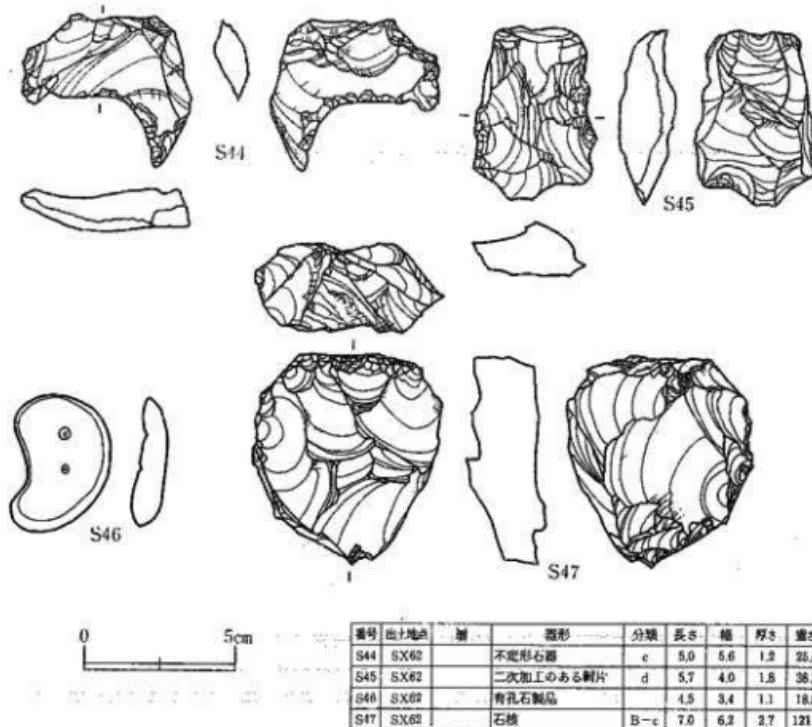
番号	出土地点	層	基形	分類	口径	底径	高さ	文様		裏面状	施用	内部の様	外側形	指標
								文	様					
358	SX107	台付鉢	F	15.8				幾文帯+入組三叉文+上交叉		LR	横	ナデ		ヌス
359	SX107	台付鉢	G	(7.0)				幾文帯+幾文帯+幾文帯		LR	横	ナデ	ヌス	ヌス
360	SX107							非輪廓羽状幾文(肩縁部特)		LR+RL	横	ナデ	ヌス	ヌス
361	SX107	深鉢		22.8				幾文		LR	不整	ナデ	ヌス	
362	SX107							幾文		LR	横	ナデ		
363	SX107	台付鉢			(3.9)			幾文		LR	横	ナデ		
364	SX107	台付鉢			6.2			一部幾文		LR	横	ナデ		
365	SX107	鉢			(2.7)			一部幾文		LR	斜	ナデ		
366	SX107	鉢			(3.7)							ナデ		
367	SX107	鉢			(4.3)							ナデ		

第89図 SX107性格不明遺構出土土器(1)

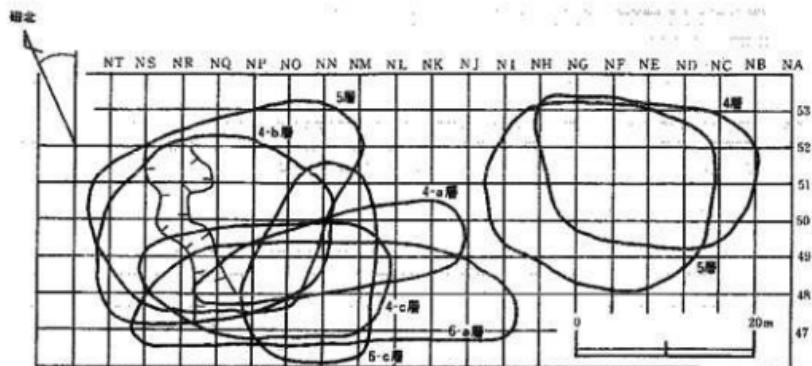


番号	出土地点	焼	器形	分類	口延	縫接	器高	又 種	肩突起	底, 桟	内部の溝	側面の 溝	底脚	底脚丸
368	SX107							側面斜 又なら山形斜+無突起+横文	LR	横	△ガキ	スス	スス	
369	SX107							圓錐形+丸み山形斜+入組三叉文?	LR	横	ナデ	スス	スス	
370	SX107							平底さ三叉文	LR	横	△ガキ	スス	スス	
371	SX107	縫						鉢状D形+入組三叉文	LR	横	ナデ	スス		
372	SX107							D形縫に斜斜+入組三叉文	LR	横	△ガキ	スス	スス	
373	SX107							玉掛け三叉文	LR	横	△ガキ	スス	スス	
374	SX107	縫						平行比較的斜斜光澤+入組文	LR	横	ナデ			
375	SX107	深鉢						多筋縫条山形斜文+繩維土唇						
376	SX107	縫						三叉文+入組三叉文	LR	横	ナデ			
377	SX107	縫						L形底部突起+平行縫路+B突起	LR	横	ナデ	スス	スス	

第90図 SX107性格不明造構出土土器(2)



第91図 SX62性格不明遺構出土石器



第92図 掘て場各層範囲図

第4節 遺構外出土遺物

遺構外からは土器・土製品90,094点、石器類5,155点が出土した。遺物は主に台地上と南側の斜面下の冲積地から出土した。斜面の遺物は台地上の平坦面からやや下までと、斜面下部に多く、最も傾斜の急な中位では比較的少ない。また、台地縁辺は波状に凹凸があって、凹部は堆積土が厚く多量の遺物が含まれているが、凸部は表土直下に地山漸移層があり、遺物包含層はほとんどない。特にNDラインからNIラインにかけての凹部と、NMラインからNTラインにかけての凹部は、遺物が多く、逆にNIラインからNMラインの間の凸部では、ほとんど遺物が出土しなかった。この2箇所の遺物集中出土地点は、台地縁辺の凹部（沢目）に形成された「捨て場」と考えられる。

各「捨て場」の基本的な層位は、第6図に示した。大湯浮石層より下位に2～6層の縄文時代の遺物包含層が形成されている。層の番号は各地点毎につけたものである。NFラインとNOラインの間の凸部は表土下の堆積土が薄く、層の連続性が確認できなかった。したがって、NFラインの4層、5層は必ずしもNOラインの4層、5層と同一層ではなく、層相互の対応関係は判然としない。NOラインとNMラインは対応関係が明らかである。地点別層位別遺物出土数は第93～95図に示すとおりである。

以下では、NFラインを中心とする4層、5層の遺物包含層の広がりを捨て場1、NOラインを中心とする4-a層～6-c層の遺物包含層の広がりを捨て場2として層位毎に遺物を掲載し、1～2層（大湯浮石より上位の層）及び2箇所の捨て場範囲外から出土した遺物を一括して表上及び捨て場以外出土遺物としてその後に掲載する。

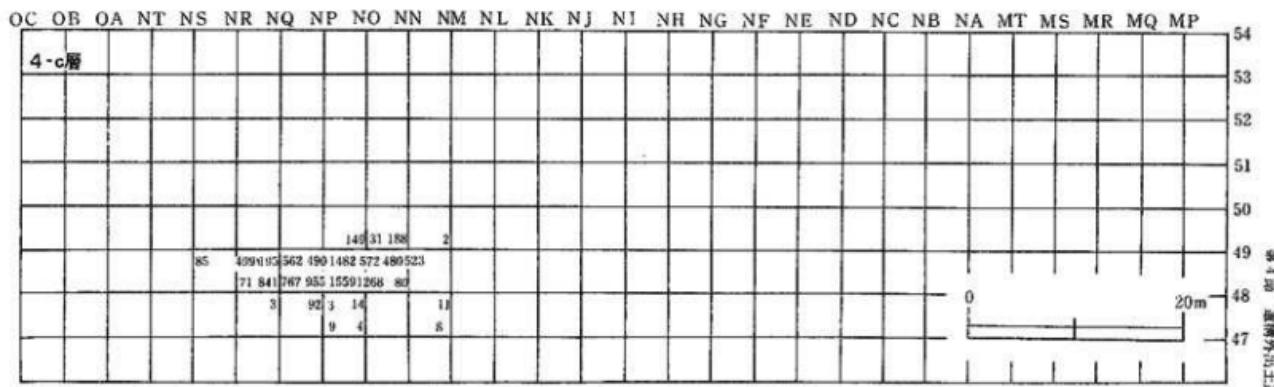
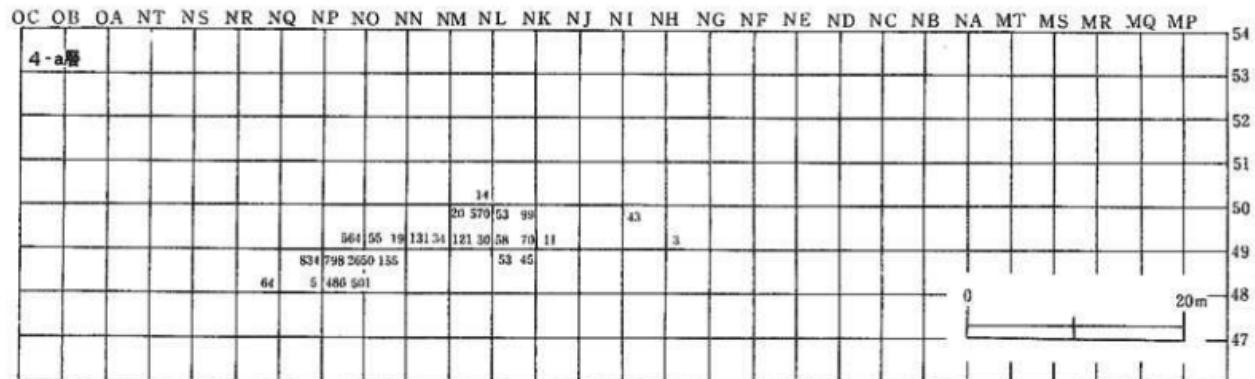
1. 捶て場出土遺物

捨て場1

NFラインを中心とし、台地縁辺部の凹部の急斜面に遺物が集中する。4層と5層に多量の遺物が含まれている。5層、4層とも遺物の集中する範囲はほぼ重なり、最も遺物の集中するのはNF51・52、NG51・52グリッドである。4層より5層のほうが、やや広い範囲に比較的多くの遺物が分布する。

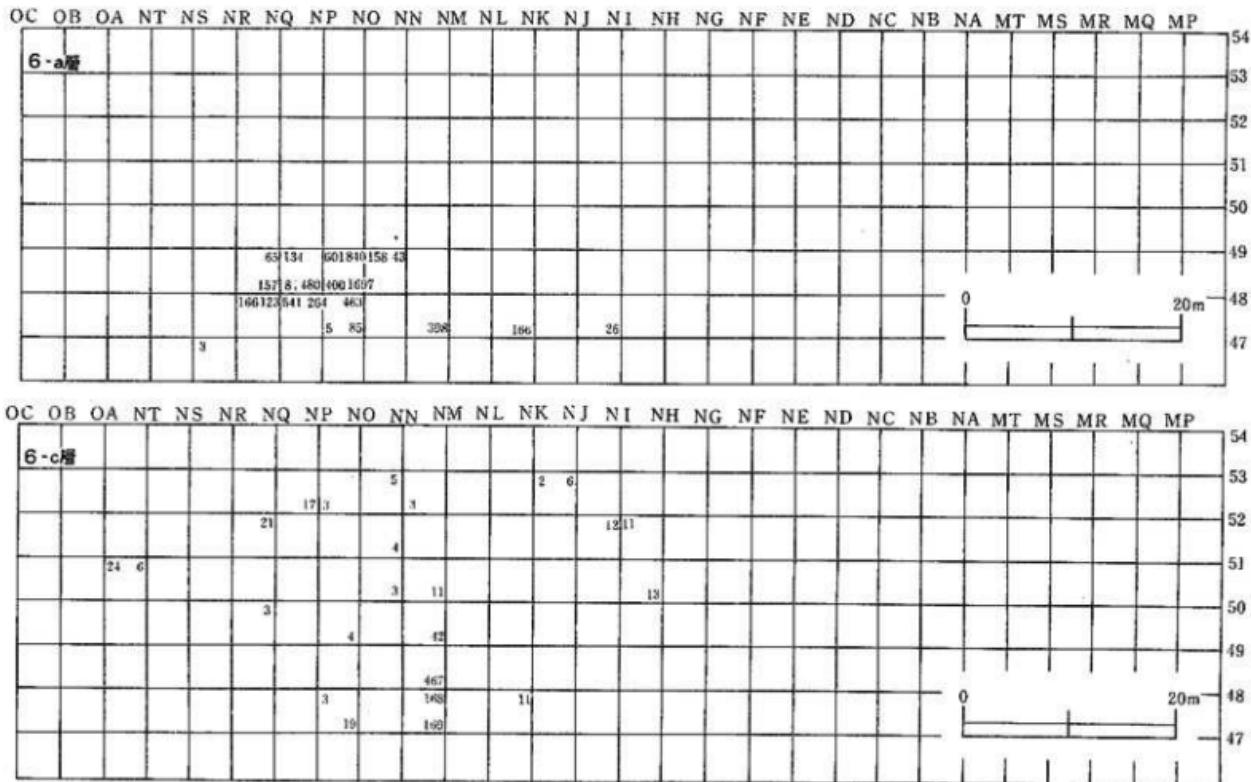
(1) 土器・土製品

土器の出土量は捨て場2からすると圧倒的に少ない。完形・復元土器は深鉢・台付鉢・壺の3種類が出土（101図387～389）した。また、土器片は深鉢を主体とし鉢なども出土（第115～121図）している。土器の年代は、縄文後期末～晩期前半を中心としている。



第93図 地点別層位別遺物出土数図(1)

第94図 地点別層位別遺物出土数図(2)



第95図 地点別層位別遺物出土数図(3)

(2) 石器

第4表に示すように、4層から436点、5層から429点とほぼ同数の石器類が出土した。石器の組成もほとんど類似し、大きな違いはない。ただ、5層で横型石匙の出土数が多いのが目を引く。

◎ 4層(第96・97図)

剝片石器と剝片で全体の86%を占め、疊石器は少ない。

S84は幅広の円基鎌で、捨て場2の5層と表上からも出土している(第151図S115、第166図S165)。S57は寸づまりの形態で、基部上端には剝離痕と敲打痕が著しい。S59は表裏両面の外、側面も磨かれている。

◎ 5層(第98・99図)

4層と同様に剝片石器、剝片の比率が高く、全体の86%を占める。剝片石器の中では横型石匙が8点出土し、4層及び捨て場2の各層とは際立った違いをみせている。S64は表裏両面に丁寧な二次加工を施して整形している。これに対しS66、S67は周縁とつまみ部分にのみ二次加工を施す。S65はつまみの位置が、上辺の右側にかたよってつけられている。この形態の石匙は、S65の1点のみである。S61はb類の石鎌である。b類はこの1点のみ出土した。S71は完形の石劍である。断面形が六角形に面取りされている。基部はやや細い。上端面と下端面は磨られておらず、敲打痕が残っている。S73は円鏨の上部3分の1程のところに横位に溝を刻み、だるま形に成形している。裏面は全体が凹んでいる。正面観は第148図S100の石冠に類似するが、裏面が大きく凹むこと、表面に溝をめぐらすことによって上下を区画すること、気泡の多く入る石質の素材を用いていることが、第148図S101、第157図S162と共通する。稀に晩期の遺跡から出土するようで、「凹部のある石製品」(手代森遺跡)、「有溝石製品」(九年橋遺跡)等と報告されている例もある。

第172図S213は岩版の小破片であるが、捨て場1からは、この1点のみが出土した。

捨て場2

NOLINEを中心とし、段丘崖の縁辺部に形成された自然の深い沢目を含む斜面と台地の冲積面に6枚の遺物包含層が重なる。この沢は台地上の調査区北端(NR51グリッド)で幅約7m、地表面からの深さ約2.8m、調査区斜面中腹(NQ49グリッド)で幅約3.4m、深さ約2.5m、調査区南端(NP47グリッド)で幅約3.3m、深さ約1.1mである。断面形はほぼU字形で底面の一部がV字形にえぐられている部分もある。台地上から斜面の肩にかけては二又に枝分かれしており、台地上の流路が、1本に集まって斜面を一筋に流れ下り、深く侵食したものと考えられる。沢の埋土は、地山のシラスと炭化物を含む黒褐色土が不規則な互層をなし、下部では鉄分の沈着によって固まった褐色の砂層及び小礫混じりの砂礫層が縞状に入る(図版11)。

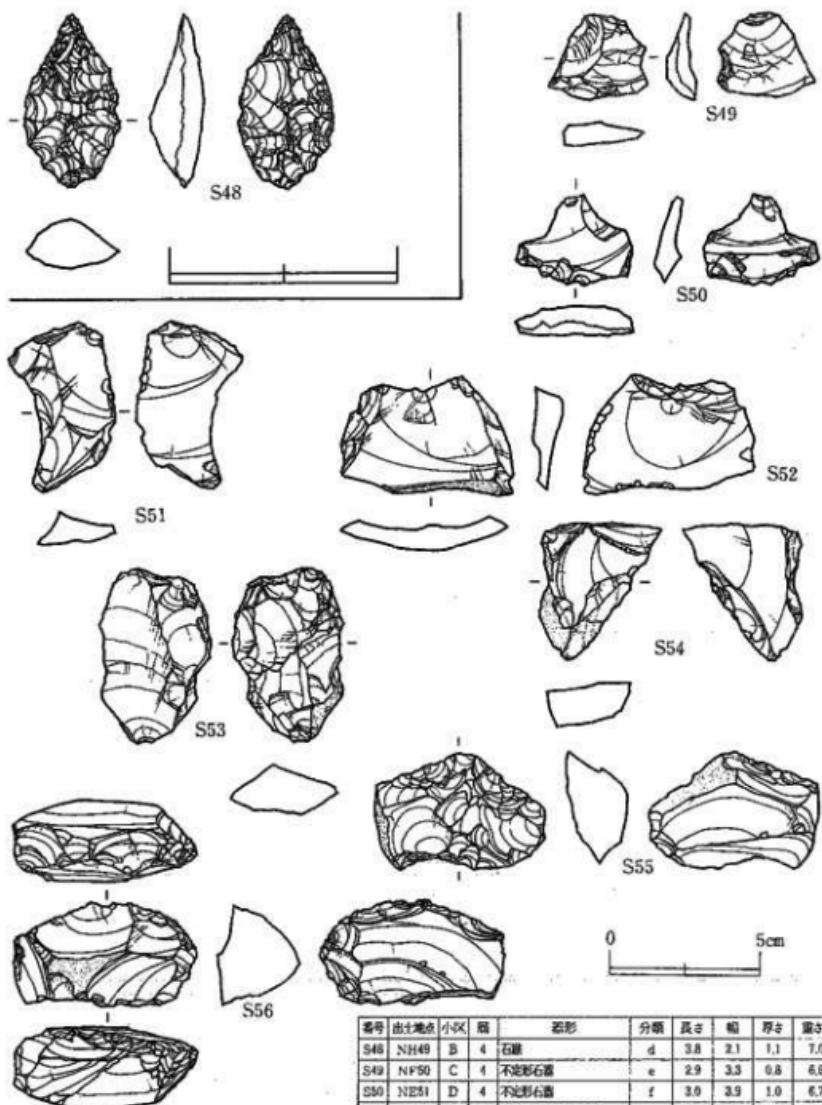
場所	部位	石器												器品												礫					
		刮片石器						礫石器						石製品						石合						礫					
		石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	礫	礫				
捨て場	4	1	1	2		1	3	1	32	55	2		1	1	19	11	2	1		1	14		15	252	9	424	2	4 6 436			
	5	1	1	1		2	3	8	29	46	1		1		24	12	1	2			9	1	18	245	7	412	1	12 4 429			
1	小計	2	2	3		1	3	5	9	61	101	3		2	1	43	23	3	3		1	23	1	33	497	16	836	3	16 10 865		
捨て場	4-a			2		1	1	1	22	36	3				27	18	1	4	1		1	34	9	145	10	316		5 6 327			
	4-c					1	3	1	33	27	3	1	3	2	45	31	3	14	2		4	49	1	3	17	140	13	396	1 2 13 6 418		
4-b		2	3	2		1	2	2	32	43	1	1	1	1	21	16	8			1	44		12	181	8	382	1	1 9 4 397			
5	1			3		1	2	1	51	79	1	3	2	3	32	28	12	5		11	59	13	377	11	695	1 1 1 9 4	711				
6-u	1					1	1		19	30	1	3		3	1	31	25	2	3	2	1	2	31	1	7	124	7	297		5 12 314	
6-c									5	5	3		2	1						1	6		2	4	2	31	1	3 35			
2	小計	2	2	5	5	5	9	5	162	220	2	16	4	12	2	3	156	138	6	41	10	1	1	18	1	223	1	4 60 971	51 2,117 3 4 2 44 32 2,202		
表土及び捨て場以外	5	5	4	2	4	9	5	141	200	3	9	4	1	18	2	5	204	113	1	47	9	1	2	2	1	135		77 914	57 1,979 12 5 67 25 2,068		
合計	9	9	12	7	1	12	23	19	364	521	5	28	8	1	32	4	8	403	254	7	91	22	1	1	3	21	2	381	1	5 170 2,382	124 4,632 18 9 2 127 67 5,155

第4表 層位別器種別石器類出土数一覧表

場所 層位	分類	石 集					石 槌					石 鋸					圓状石器					ビヌスク- エスキュー			縦型石器					不定形石器					磨製石斧											
		a	b	c	d	e	計	a	b	c	計	a	b	c	計	a	b	c	計	a	b	c	d	e	f	g	h	計	a	b	c	ab	b	bc	c	abc	計									
捨て場	4			1	1		1	1	1	2						1	1		1	2	1	1	1	3	6	4	3	3	8	1	7	32		1	1	3										
	5	1		1	1			1	1	1						1	1	2		1	1	1	2	5	8	4	3	3	5	4	29	1		1		1										
	小計	1	1	1	2	1	1	2	3	3						1	2	3		1	3	2	5	11	12	7	6	13	1	11	61	1	1	1	3											
捨て場	4-a							2	2							1	1		1		1	5	4	3	2	6	2	22	1		1	1	3													
	4-c															1	1		1	2	3	4	7	7	3	9	1	2	33	2	1		3													
	4-b							2	2	1	2	3				1	1	2		2	2	3	6	4	1	4	11	1	2	32			1	1												
	5	1	1									2				1	3		1	1	1	1	2	11	7	8	5	5	12	3	51	2	1	3												
	6-a		1	1												1	1		1		1	1	5	2	2	4	1	4	19	1	1	1	3													
	6-c																				1	2		1	1	5	1	1		1	3															
	小計	1	1	2	2	2	3	2	5		2	1	1	1	5	4	1	5	1	3	5	9	25	31	24	8	14	43	4	13	162	3	4	3	2	1	3	16								
表土及び捨て場以外		1	1	1	2	5	1	3	1	5	2	2	4	1	1			2	3	1	4	3	3	2	1	9	22	34	15	8	18	30	4	10	141	2	2	1	1	2	1	9				
合計		1	1	1	3	3	9	2	6	1	9	8	4	12	1	1	2	1	1	1	7	8	4	12	4	1	9	8	1	23	56	77	46	16	38	86	9	34	354	5	7	4	3	4	5	28

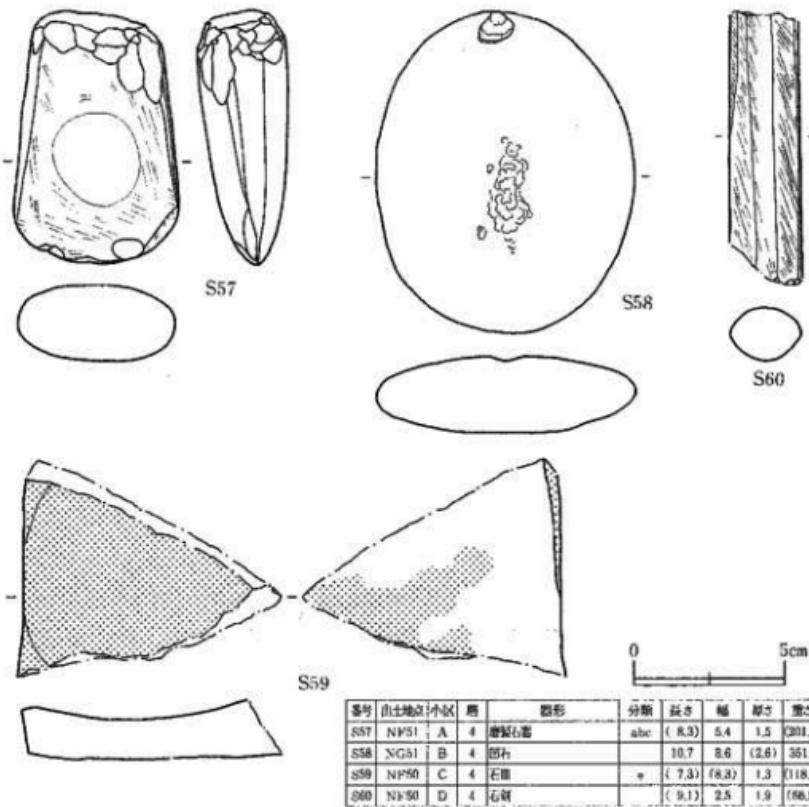
場所 層位	分類	石 集					岩 版					二次加工のある剥片					石 槌																						
		a'	b'	c'	d'	e'	計	a'	a'	a'	a'	b'	b'	b'	b'	b'	c'	c'	c'	c'	d'	d'	e'	f'	g'	計	B-a	B-b	B-c	B-d	B-e	S-a	S-b	S-c	K	R	計		
捨て場	4				1	1	2									1	1	1	2		1	6	5	15	1	3	2		1	1	1		9						
	5			1			1										2	1		1	8	6	18	1	1	2	1		2	7									
	小計				1	1	1	3								1	1	3	3		2	14	11	33	2	3	3	2	2	1	1	2		16					
捨て場	4-a	1	1		1	1	4										1	1	1	1	3	3	9	1	1	1	1	4		1		10							
	4-c	7	1		1	1	1	3	14	1		1	1			1	4	1	2	3	7	4	17	1	1	1	1	3	1	2	3	13							
	4-b	4	1	1		2	8			1						1	1	1	1	3	6	12	3	2		1	1	1		8									
	5	7	1	1		1	2	12	4	3	1	1	1	1		11	3	2		4	4	13	1	2	1	1	1	3	1	1	11								
	6-a	1			1		1	3								2	2	1			3	3	7		1		1	1	2	2	7								
	6-c																		1		2		1	1					2										
	小計	20	2	3	3	2	2	8	1	41	5	3	1	2	2	1	1	3	16	7	3	7	2	21	20	60	6	2	8	1	4	7	8	2	7	6	51		
表土及び捨て場以外	4	2	3	1	5	15	5	12	47	2							2	13	2	4	4	1	29	24	77	9	2	10	5	3	7	8	3	6	4	57			
合計		24	4	6	1	8	16	8	21	1	91	7	3	1	2	2	1	1	3	21	23	8	11	6	3	64	55	170	17	7	21	8	7	16	17	6	15	10	124

第5表 分類別石器出土数表



番号	出土地名	小名	種	形	分類	長さ	幅	厚さ	重さ
S48	NH49	B	4	石核	d	3.8	2.1	1.1	7.0
S49	NF50	C	4	不定形石器	e	2.9	3.3	0.8	6.6
S50	NE51	D	4	不定形石器	f	3.9	3.9	1.0	6.7
S51	NPS0	C	4	微小な縦溝のある剥片	g	5.6	3.7	1.1	19.7
S52	NG51	D	4	微小な縦溝のある剥片	h	4.0	5.7	1.1	23.6
S53	NE50	B	4	二次加工のある剥片	b	5.9	3.7	1.7	37.1
S54	NF50	A	4	二次加工のある剥片	f	4.5	4.0	1.5	25.8
S55	NG50	B	4	石核	s-b	3.9	5.7	2.0	46.9
S56	NG50	B	4	石核	s-c	2.7	6.1	2.7	58.7

第96図 掘て場1(4層)出土石器(1)



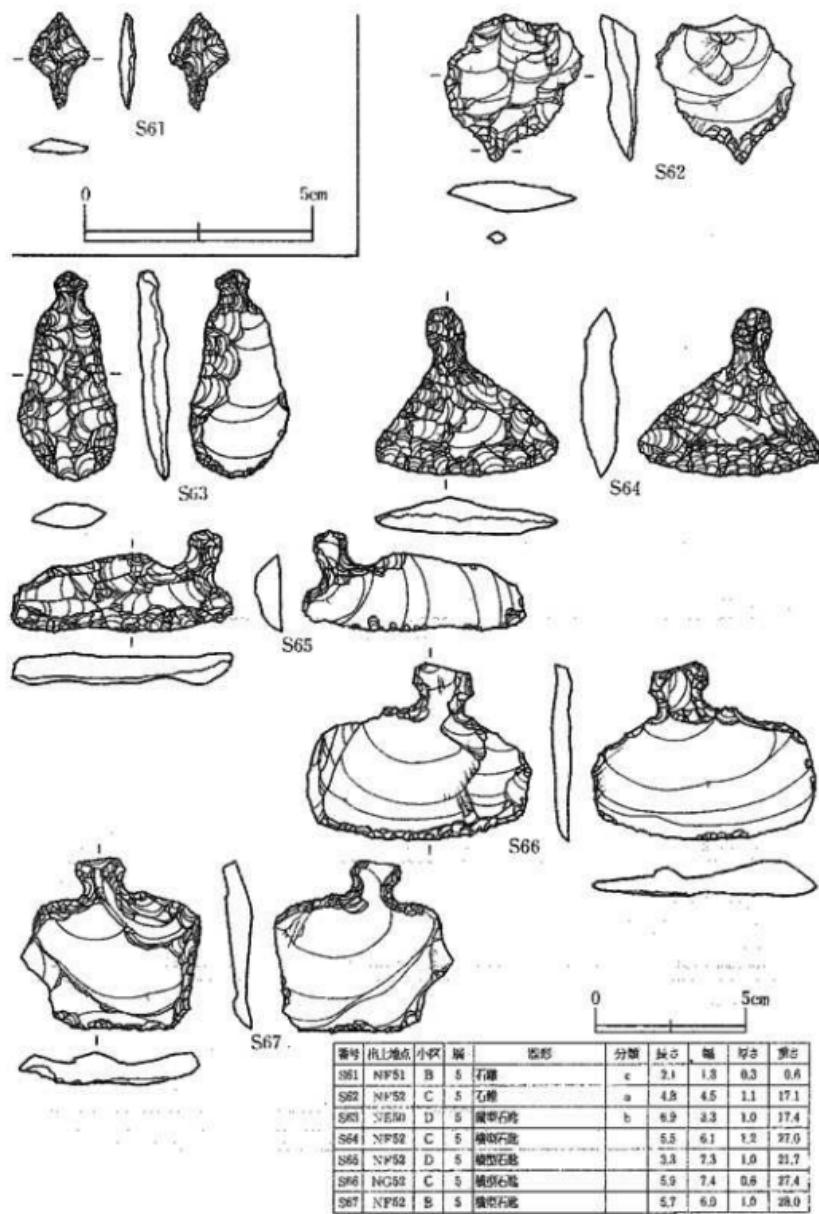
第97図 捨て場 1(4層)出土石器(2)

遺物包含層は斜面下の冲積面及びそれに連続する斜面最下部と、沢を中心とする斜面中腹から台地縁辺部に形成されている。上位から4-a層、4-c層、4-b層、5層、6-a層、6-c層で、その上を浮石粒を含む2層と表土層が覆っている。

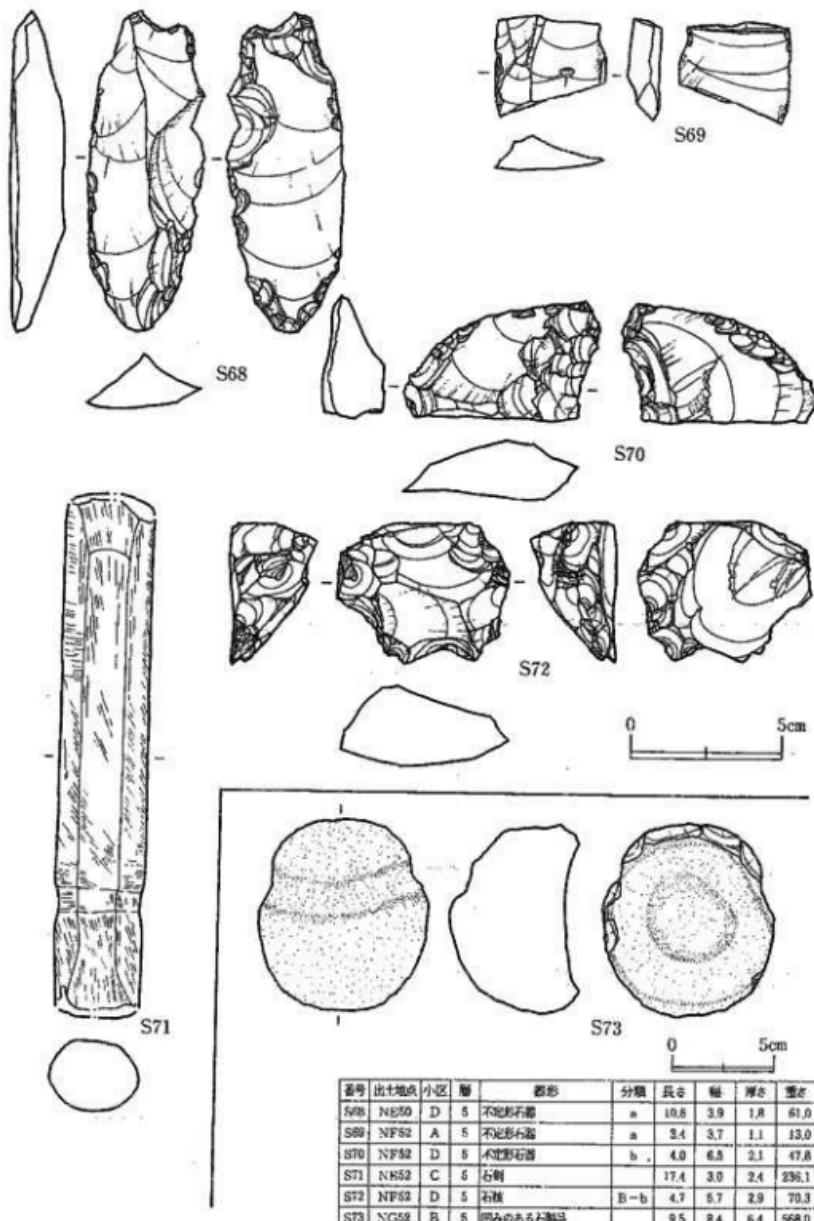
4-a層は斜面の下部から冲積面にかけての東西に広い範囲になるが、遺物が最も集中するのはNO48グリッドで、NL49グリッド付近でもややまとまって出土した。

4-c層は斜面の下部から冲積面にかけての東西に広い範囲に広がり、遺物が最も集中するのはNN~NQ48グリッドである。NP48グリッドの西側とNQ48グリッドは沢の下部で、冲積面への開口部にあたる。

4-b層は5層とほぼ同じ範囲に広がり、遺物が最も集中するのはNO48グリッドの北側半分からNO50グリッドの南側半分の範囲である。4-a層、4-c層にくらべて集中部がやや



第98図 捨て場1(5層)出土石器(1)



第99図 挖て場1(5層)出土石器(2)

斜面中腹寄りにずれる。

5層は台地上から斜面全体にかけて広がる。遺物はN O47・48・49グリッドと、N R51グリッドからN Q48グリッドにかけての沢に最も集中する。集中地点が沢にかかる点では4-b層と共通するが、沢の埋土中から出土した遺物は5層が主である。

6-a層は、斜面下部に東西に広がり、遺物の最も集中するのはN O47・48、N P47・48グリッドである。

6-c層は地山漸移層に対応し、N M47、48グリッドのトレーニング中に最も遺物が多い。6-a層より上層にくらべて、遺物集中箇所がやや東側にかたよる。

(1) 土器

捨て場2からは多量の遺物が出土した。このうち、土器はⅢ群土器が圧倒的に多い。第6表によって捨て場2の層別の土器組成比率を上位からみると以下のようなになる。

4-a層では28点中、壺が9点(32.1%)を占める。4-c層では鉢・台付鉢・壺で73点中、49点(67.1%)で、そのうち壺が23点(31.5%)を占めるが、鉢・台付鉢も26点(35.6%)と高率である。5層・6-a層では、壺の比率が相変わらず高いが、6-a層では、51点中、23点(45.1%)と非常に高率を示す。また、同じ6-a層で、注口上器の比率が、7点(13.7%)と高い。

以上をトータルでみると、壺は34%、鉢・台付鉢は28.6%で、全体の62.6%を占める。深鉢は9.7%で、浅鉢・台付浅鉢・皿・注口は5.8%~7.8%と比較的似たような数字であるが、香炉・ミニチュア土器は1%と極めて少なく、特殊な器形であることがわかる。

次に層毎の主な土器について観察してみる。4-a層からは香炉・ミニチュアを除く各種類が出土している。このうち397(第102図)は高台付浅鉢で胴部上半~口縁部には沈線間に刻目、口縁部は4単位の突起、台部には透かしが入る。400、401は盤形文を施文した皿である。397、400、401とも内外面を丁寧に仕上げている。この他、上偶(1024)・土面(1030)・腕輪(1047)が出土している。

4-c層でも4-a層と同じように香炉・ミニチュアを除く各種類の土器が出土している。696~703(第126・127図)のように胴部上半から口縁部が「S」字状に外反し、帯状入組文が三叉状に咬み合うものや、上記と同じ器形であるが、410(第104図)のように「玉抱き三叉文」風の文様を施文する土器もある。これらの土器は後期最終末~晩期初頭に位置付けられる土器である。また416も似たような器形の台付鉢形土器(H2類)であるが、口頭部は三叉状入組文を施文し、口縁部は「B」突起と刻目が入る。さらに、雲形文を施文した皿(第105図429-D類)・短頸長胴壺(第106図446-M類)なども散見される。この他、無文の台付浅鉢・皿・壺・注口土器なども出土している。台付浅鉢426(第105図-B類)はSK63で晩期前半の深鉢と共に

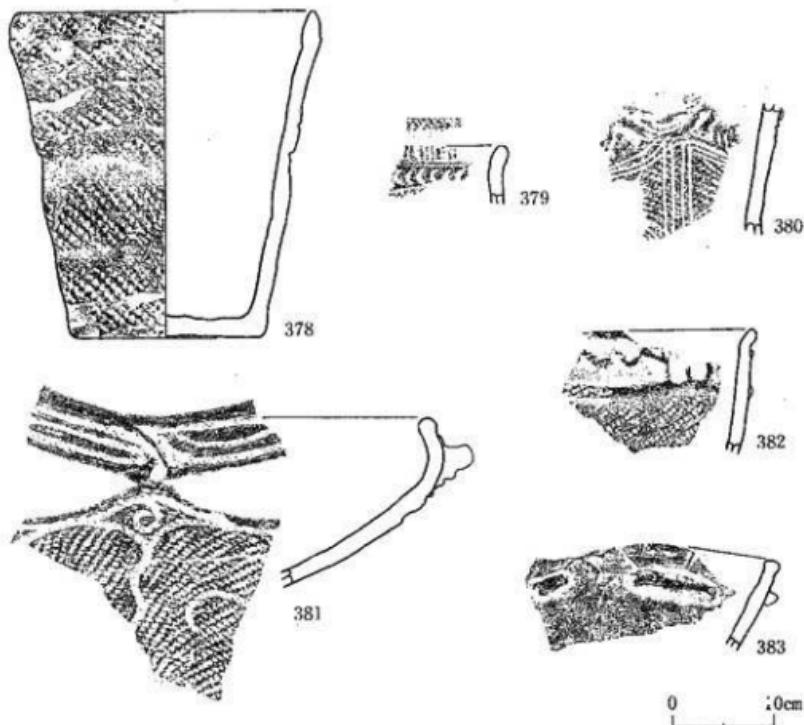
伴している台付浅鉢と同一器形であるが、426の方の台が薄手で外に開かず、真っすぐ立ち上がる台であることから、やや時期的に古いかも知れない。壺は数多く大きさ・器形ともバラエティがある。433(D1類)・447(L類)のような大型のもの、438(F2類)のような中型のもの、430(A2類)・436(E2類)・437(F2類)のような小型のものなどがある。430、434(A1類)は比較的長い口頸部がまっすぐ立ち上がるのが特徴的であり、胎土や焼成からすれば、これらの中でも古い段階に属すると思われる。注口土器は448(E類)・449(A類)のように後期末～晩期前葉のものが出土している。以上のように4-c層からは後期末葉から晩期中葉の土器が出土している。この他、土偶2点(1021・1027)・土製品(1045)が出土している。

4-b層からは、深鉢・鉢・台付浅鉢・壺・皿・ミニチュアなど各種の上器が出土している(第107図、第130～133)。完形・復原品ではI類とした、短かくまっすぐ立ち上がる口縁部で、口唇部に刻目を施した晩期中葉の深鉢(450)や、口縁部に4条の平行沈線、口唇部に刻目を施し、口縁部には「A」突起が4単位付くI類とした鉢(451)や、玉抱き三叉文を施した台付き浅鉢(452-D類)がある。この他、皿と思われる四足土器(454-H類)やミニチュア土器(455)も出土している。破片資料では、帯状入組文を施した深鉢(755～758)や、雲形文を施した皿(787)も出土している。以上のように4-b層からは後期末葉～晩期後葉の土器が出土している。

器種 層	深鉢	鉢	台付鉢	浅鉢	台付浅鉢	皿	壺	注口	その他 (香炉・ミニ チュア)	合計
4-a	2(7.1)	3(10.7)	3(10.7)	3(10.7)	3(10.7)	3(10.7)	9(32.1)	1(3.6)	1(3.6)	28
4-c	10(13.7)	16(21.9)	10(13.7)	4(5.5)	4(5.5)	3(4.1)	23(31.5)	3(4.1)	0	73
4-b	1(10.0)	1(10.0)	0	3(30.0)	2(20.0)	1(10.0)	1(10.0)	0	1(10.0)	10
5	5(12.2)	6(14.6)	7(17.1)	1(2.4)	2(4.9)	4(9.3)	13(31.7)	3(7.3)	0	41
6-a	2(3.9)	6(11.8)	6(11.8)	2(3.9)	4(7.8)	1(2.0)	23(45.1)	7(13.7)	0	51
6-c	0	0	1(33.3)	0	1(33.3)	0	1(33.3)	0	0	3
合計	20	32	27	13	16	12	70	14	2	206
各器形毎 の比率(%)	9.7	15.5	13.1	6.3	7.8	5.8	34.0	6.8	1.0	

※%以上に復原できた資料の集計(点数) ※()内は層毎の比率(%)

第6表 捨て場2 層別土器組成表

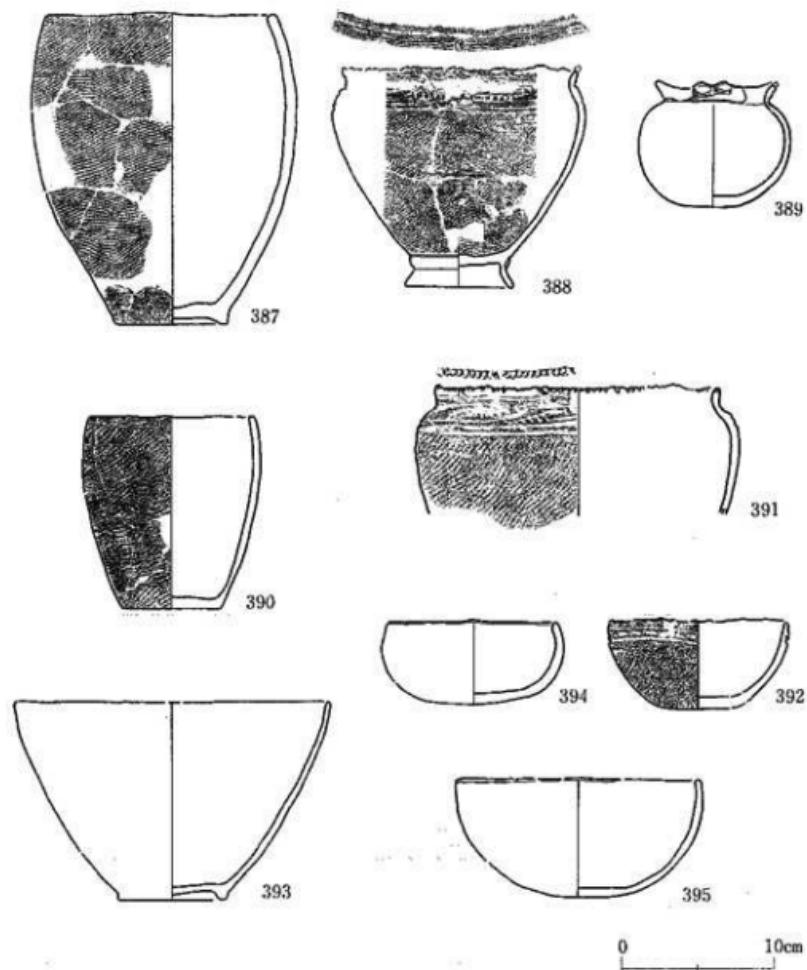


番号	出土場所	層	器形	分類	口径	底径	高さ	文様	施文跡	施文	内面の調査	付帯物	付帯物
378	NO49	A	1-h 縦縫	A				施文	RLR	縫	カギ	スヌ	スヌ
379	NO49	D	4-b 縦縫	B				云鶴紋・縫一反形文	RL	縫			
380	NO49	A	1-h	C				縦文・3→4条の平行文	R	縫			
381	NO49	B	5 縦縫	D				1縫・縫縫に沿う縦文の凸痕	RL	縫			
382	MR51	D	5 縦縫	E				地文縦文・縫と直線の交際	LR	縫	18ヤナテ		
383	NN49	A	2 縦縫	F				施文無し、柄上縫跡付			1ガキ		

第100図 出土II群土器

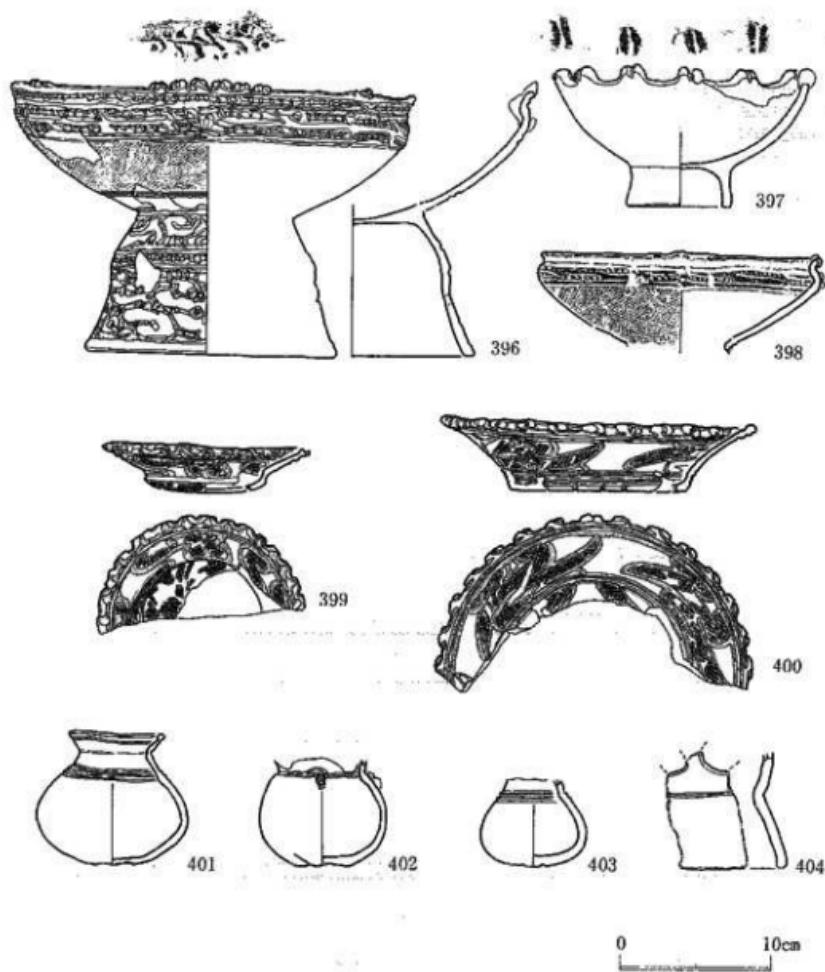
5階からはミニチュア、香炉を除く各種の土器が出土しているが、壺が多くしかも赤色塗彩されたものがほとんどで、大・小のバラエティがあり、三叉状入組文を施した土器が多い。皿の中では470（第108図-H類）のように4足のものも見られる。注口土器は478～480（第109図）などがあり、それぞれD・E・F類に分類したもので晩期前葉～中葉という変遷が考えられる。この他、土偶（1023）・円盤状土製品（1031）・耳飾り（1037）・腕輪（1053・1054）が出土している。

6～8層では4～C層と同じように多くの土器が出土し、器形もミニチュア・香炉を除く各種があり、バラエティに富む（第110～113・138～144図）。488は鉢（E類）で、口縁部の平行沈線間に4つの刻目帯を有し、そのうち1つの刻目帯にボタン状貼付文を2箇1対施文する



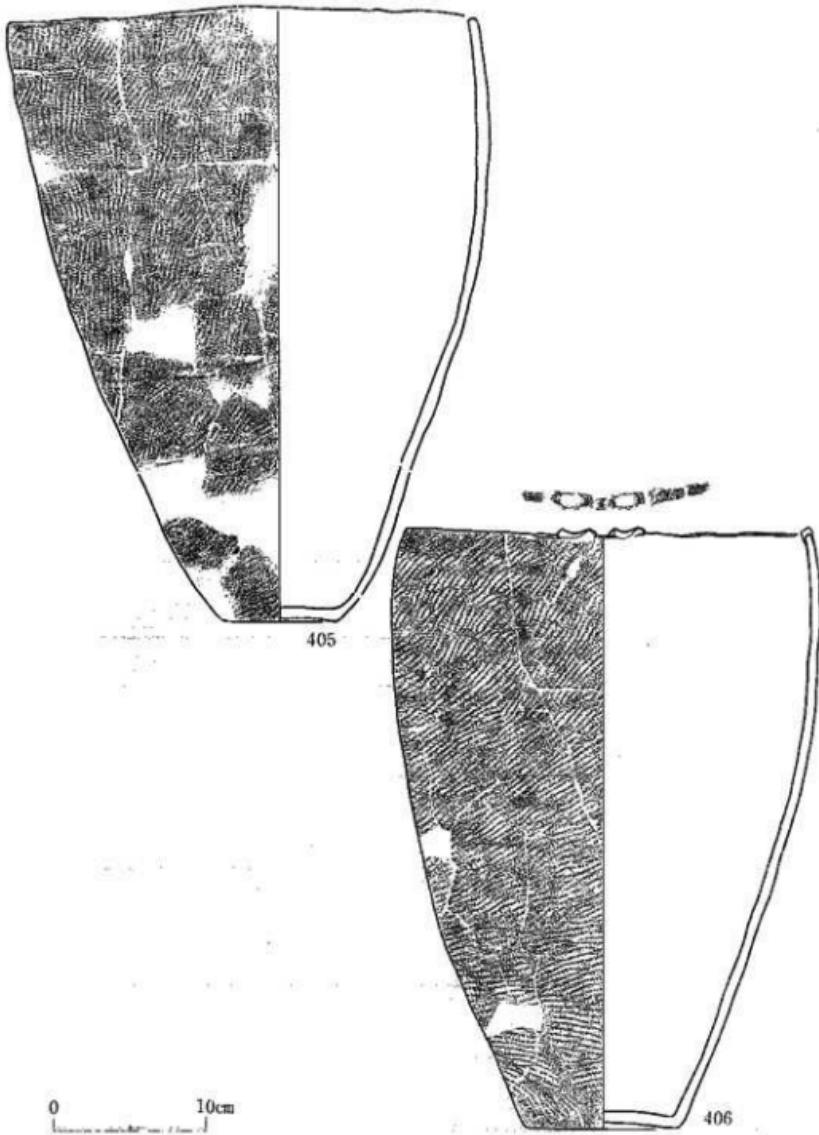
番号	出土地点	径	高	器形	分類	口径	底径	器高	文	様	造形法	底形	内面の施	外側形	内側形
387	NF52	D 5		深鉢	C I	18.5	5.1	20.8	縦文		LR	楕・斜	1ガキ	ヌヌ	
388	NQ48	B 5		台付鉢	J	15.3	6.6	12.5	縦文+平行波線+刻目		LR	楕		ヌヌ	ヌヌ
389	NV53	C 5		鉢	H		丸底	8.3	2回引付の突起				1ガキ		
390	NO48	A 4-a		深鉢	D 2	(11.2)	6.6	12.7	縦文		LR	楕	1ガキ+テテ		
391	NP48	B 4-a		深鉢	J	19.2	×	(8.6)	平縁付え口縁は斜め引付鉢		LR	楕	1ガキ	ヌヌ	ヌヌ
392	NO48	D 4-a		鉢	C	13.0	5.4	6.1	縦文+平行波線+開口文		LR	楕	1ガキ		
393	NO48	B 4-a		台付鉢	C	×	6.6	13.1					1ガキ		
394	NO48	D 4-a		深鉢	A	11.8	丸底	5.8					1ガキ		
395	NO48	4-a		浅鉢	B	(14.9)	丸底	7.8					1ガキ		

第101図 捨て場1 5層、捨て場2 4-a層出土土器(1)



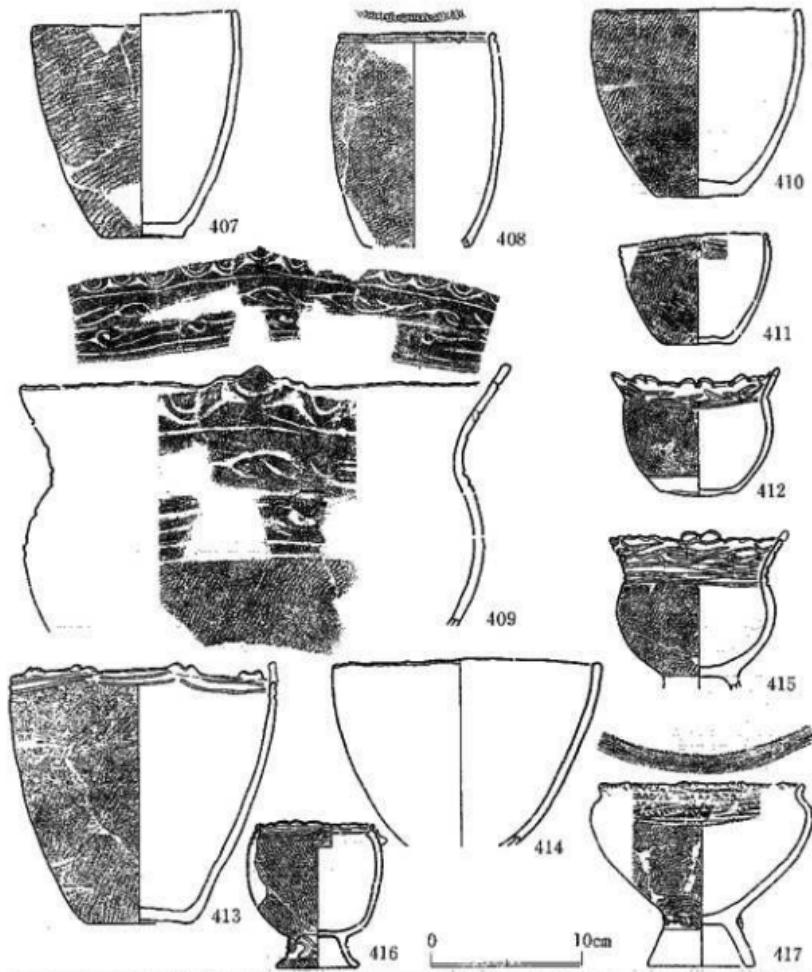
番号	出土地区	層	形	基形	分類	口径	底径	高さ	文	様	底	底内	底外	腹内	腹外	縁
396	N-748	A C-5 E-3	盤	盤	E	36.8	10.2	18.4	縦目付(内側)・縦目付(外側)・斜目付(内側)・斜目付(外側)	横	ミガキ					
397	N-748	B E-4-a	盤	盤	C	17.4	6.8	9.1	縦目付(内側)・縦目付(外側)	横	ミガキ					
398	N-748	B E-4-a	盤	盤	E	19.8	X	(6.1)	半周状文	横	ミガキ					
399	N-748	B E-4-a	盤	盤	E-2	(13.7)	X	(3.0)	縦目文・口縁に斜目	横	ミガキ					
400	N-748	B E-4-a	盤	盤	E-1	39.9	(11.4)	4.9	雲目文・口縫に斜目	横	ミガキ					
401	N-749	A E-4-a	盤	G-3	6.2	2.5	8.8		平行弦文	横	ミガキ					
402	N-748	B E-4-a	盤	H	X	4.6	(7.4)		平行一筋綱	横	ミガキ	墨色絞				
403	N-748	B E-4-a	盤	K	X	1.5	(5.7)		平行丸綱	横	ミガキ	墨色絞				
404	N-748	E-4-a	盤(?)						透し部に墨色絞		ナデ					

第102図 捄て場2 4-a層出土田畠土器(2)



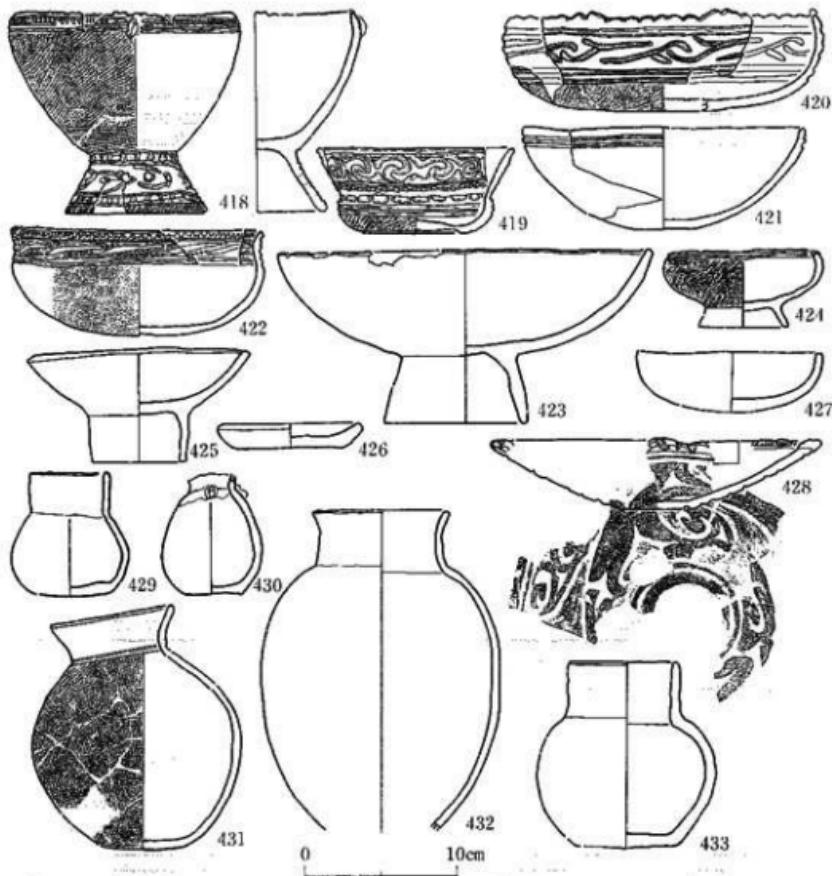
番号	出土地点	層	器形	分類	口径	底径	器高	文様	處理	縫隙	内面凹凸	胎泥	相手用
405	NQ48	A	4-c	無縫	D 2	31.2	7.7	40.7	縫欠	LR	不整	ナゲ	スヌ
406	NO48	A	4-c	縫跡	B 1	27.8	10.4	39.9	縫欠、口縫頭に2箇所のB頭起	LR	不整	ナゲ	スヌ

第103図 掛て場2 4-c層出土田群土器(1)



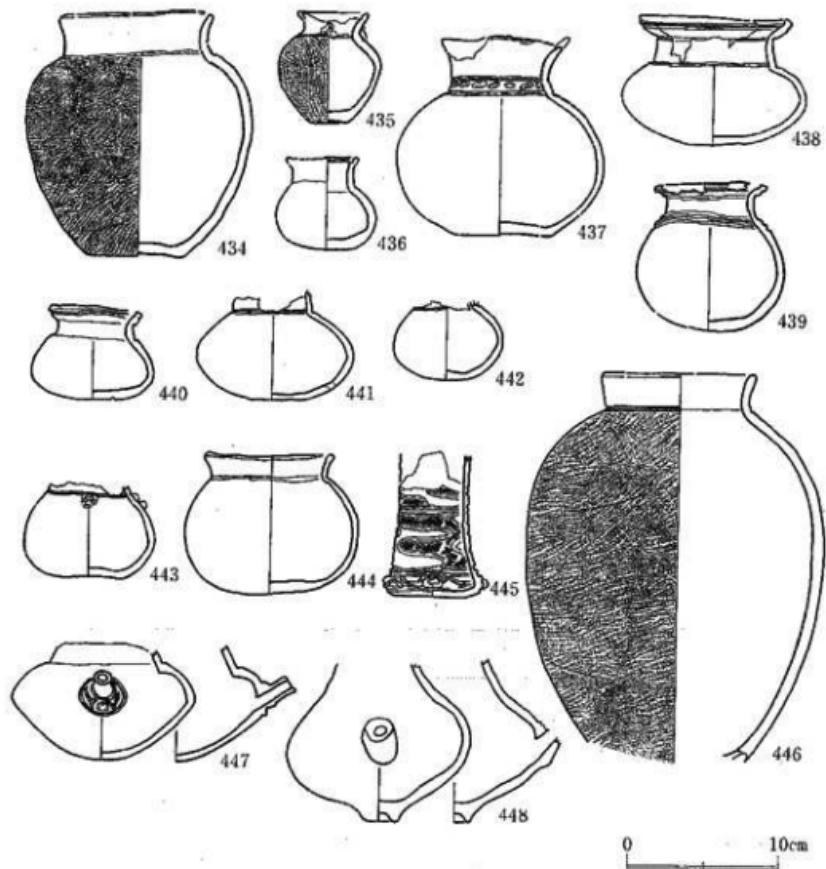
番号	出土地点	組	層	形態	分類	口径	底径	器高	文	標	頭部跡	底部	内面の模様	胎形	胎色
407	NQ48	C	4-c	深鉢	D 2	(12.2)	5.2	15.0	周文		LR	縫	ミガキ	スヌ	スヌ
408	NQ48	C	4-c	深鉢	E 2	(10.0)	(7.6)	(14.1)	平行波線、口内部に斜刺		LR	縫	ミガキ		
409	NQ48	D 2	4-c	深鉢	H	33.0	—	(17.3)	口部小波線+圓紋文+三叉狀入組文		LR	縫	ミガキ	スヌ	スヌ
410	NQ48	C	4-c	鉢	A	13.5	5.2	12.4	周文		LR	縫	ミガキ	スヌ	スヌ
411	NQ48	C	4-c	鉢	C	9.1	4.6	7.2	L型器A組、平行波線文に斜刺		LR	縫	ミガキ	スヌ	スヌ
412	NQ48	A	4-c	鉢	G	10.0	4.9	8.4	9甲のD 2、平行波線、一叉狀入組文		LR	縫	ミガキ	スヌ	スヌ
413	NQ48	A	4-c	鉢	H	18.0	7.1	17.0	6甲のD 2、平行波線、平行波線文		LR	縫	ミガキ	スヌ	スヌ
414	NQ48	D	4-c	台付鉢	C	(19.3)	—	(12.3)	4柱			ナギ			
415	NQ48	C	4-c	台付鉢	H 2	11.9	3.9	(6.5)	小波狀口縫、平行波線、周文		LR	縫	ナギ	スヌ	スヌ
416	NQ48	D	4-c	台付鉢	I	(8.0)	4.0	9.4	小波狀口縫、平行波線、周文		LR	縫	ミガキ		
417	NQ48	A	4-c	台付鉢	J	(15.4)	5.5	12.2	12甲のD 2、突起と斜刺、子齒状文		LR	縫	ミガキ	スヌ	スヌ

第104図 排出場2 4-c層出土土器(2)



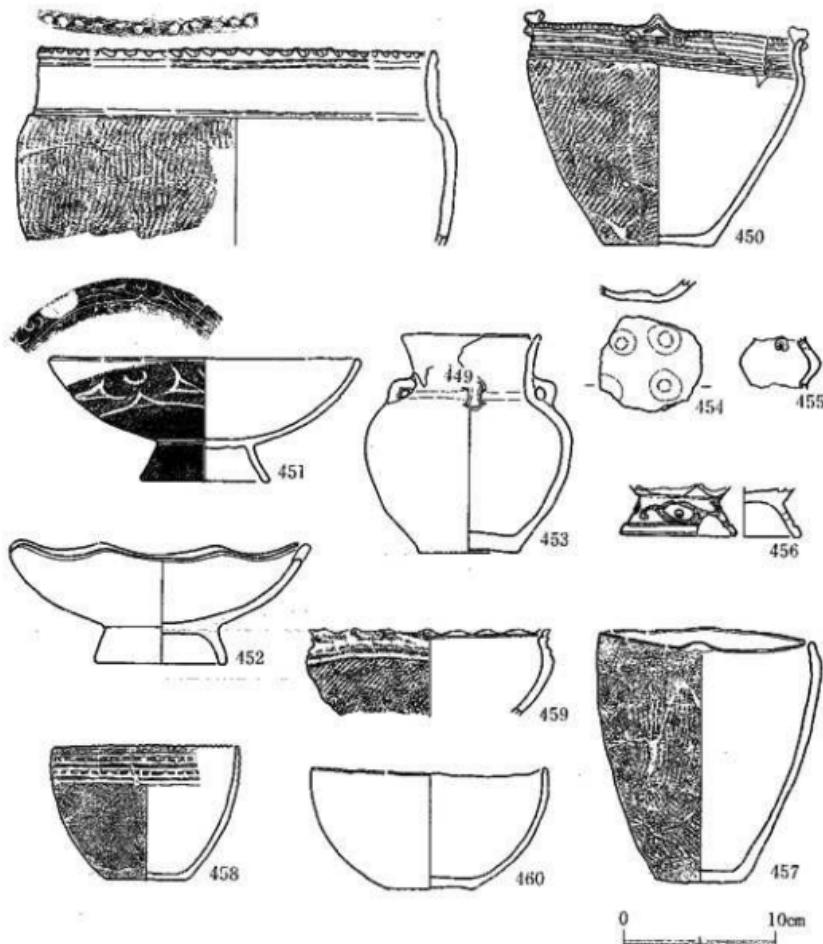
番号	出土地点	個	器種	分類	口径	底径	高さ	文様	縁欠缺	底状	内部の構造	指標形	指標色
418	NG48	D	4-c	台付鉢	K	14.3	5.6	18.4 U字縫合線、平行模線+斜め、内に網目と透し	L.R. 不整	ミガキ	ヌヌ	ヌヌ	
419	NG48	A	4-c	浅鉢	G	(13.0)	6.0	5.6 八筋文-判文式+平行模線	L.R. 破	ミガキ			
420	NG48	B	4-c	浅鉢	A	(19.8)	-	6.7 小波状縫合、平行模線+三叉状組文	L.R. 不整	ミガキ			
421	NG48	C	4-c	浅鉢	E 2	20.4	3.7	6.8 平行模線			1940内丸		
422	NG48	C	4-c	浅鉢	F	16.3	3.4	7.2 輪文式- 平面状文	L.R. 不整				
423	NG48	D	4-c	竹節瓶	D	24.8	7.8	11.3		ミガキ			
424	NG48	A	4-c	竹節瓶	E	-	5.5	(8.1) 竹節瓶- 瓶式	L.R. 破	ミガキ	1脚脚?	ヌヌ?	
425	NP48	B	4-c	筒型瓶	B	14.6	6.7	7.4 ミガキ					
426	NP48	D	4-c	筒型瓶	F	9.2	8.2	1.6 ミガキ		ミガキ			
427	NG48	A	4-c	筒	B	(12.4)	丸底	3.9 ミガキ		ミガキ			
428	NG48	C	4-c	筒	D	(19.0)	(4.4)	5.2 網目+平行模線+審形文	L.R. 不整	ミガキ	赤褐色	赤褐色	
429	NP48	D	4-c	壺	A 1	(5.0)	丸底	8.3		ナゲ			
430	NP48	D	4-c	壺	C 1	-	3.6	(8.1) 磨擦		ナゲ	赤褐色	赤褐色	
431	NG48	B	4-c	壺	D 1	8.2	5.4	16.2 鏡文、内外面赤褐色の付	L.R. 不整	ナゲ	赤褐色	赤褐色	
432	NP48	C	4-c	壺	D 1	(8.8)	-	(9.1)		1脚脚	赤褐色	赤褐色	
433	NG48	B	4-c	壺	A 1	(6.4)	6.6	12.3		ナゲ			

第105図 掛て場2 4-c層出土Ⅲ群土器(3)



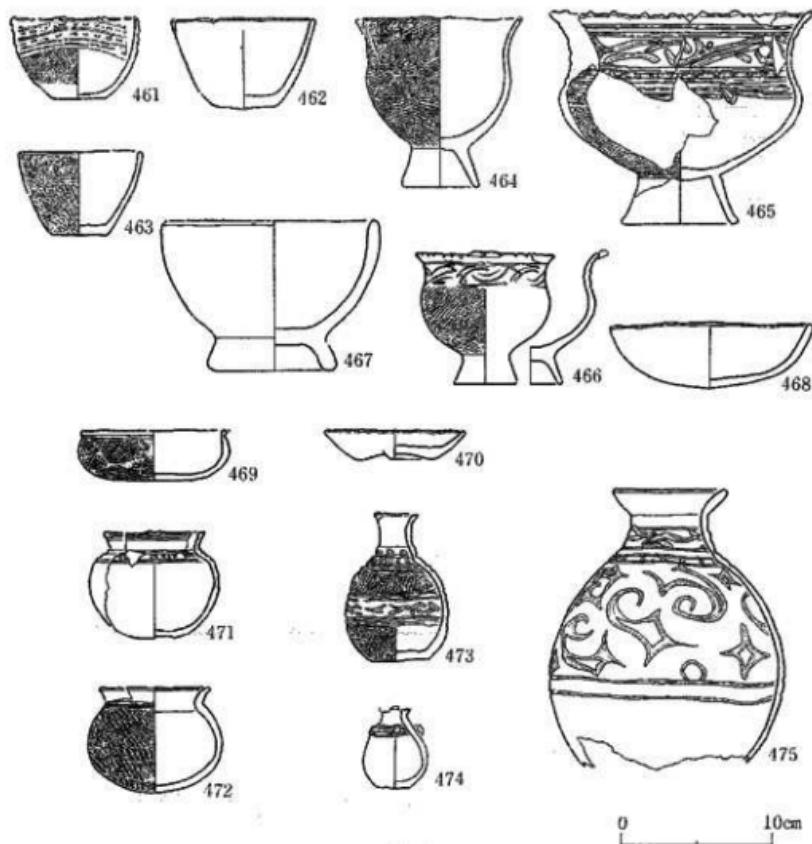
番号	出土場所	代	層	器種	分類	口径	底径	高さ	文様	周刃跡	既往	内面痕跡	特徴	年代表
434	NQ48	D	4-c	壺	E 1	(9.3)	5.7	16.4	幾文、口縁部に指の壓印痕あり	LR	絞	ミガキ		
435	NQ48	C	4-c	壺	E 2	(5.1)	2.4	7.8	口縁部幾文で把手跡付？+幾文	LR	不整	ナデ		
436	NQ48	D	4-c	壺	F 2	(4.0)	丸底	5.1	口縁部内面に1条の压痕					
437	NQ48	D	4-c	壺	F 2	(8.7)	(6.8)	18.1	斜刃鋸一列幾文					
438	NQ48	C	4-c	壺	G 1	(9.3)	3.8	8.4	平行比縫、ミガキ			ミガキ	平行比縫	上毛形
439	NP48	-	4-c	壺	G 2	7.2	3.3	9.9	" "			ミガキ	平行比縫	東毛形
440	NP47	B	4-c	壺	G 2	5.6	2.6	6.2	" "			ミガキ	平行比縫	東毛形
441	NQ48	C	4-c	壺	G	-	3.0	(6.9)	丸底、几字割			ミガキ		
442	NQ48	D	4-c	壺	H	-	丸底	(5.2)	圓形的刺痕			ナデ		
443	NQ48	A	4-c	壺	G	-	4.1	(6.8)	丸底			ナダ		
444	NQ48	A	4-c	壺	H	8.0	9.4	ミガキ			ミガキ			
445	NP47	B	4-c	壺	M	-	5.6	(9.8)	幾文	LR	絞	ナデ		
446	NQ48	C	4-c	壺	L	9.9	-	(25.8)	幾文	LR	不整	ミガキ		
447	NQ48	C	4-c	注口	E	-	丸底	(7.7)	無文、注口部は二重状入縫文			ミガキ		
448	NQ48	B	4-c	注口	A	-	1.9	(10.3)	方舟			ナデ		

第106図 排て場2 4-c層出土田群土器(4)



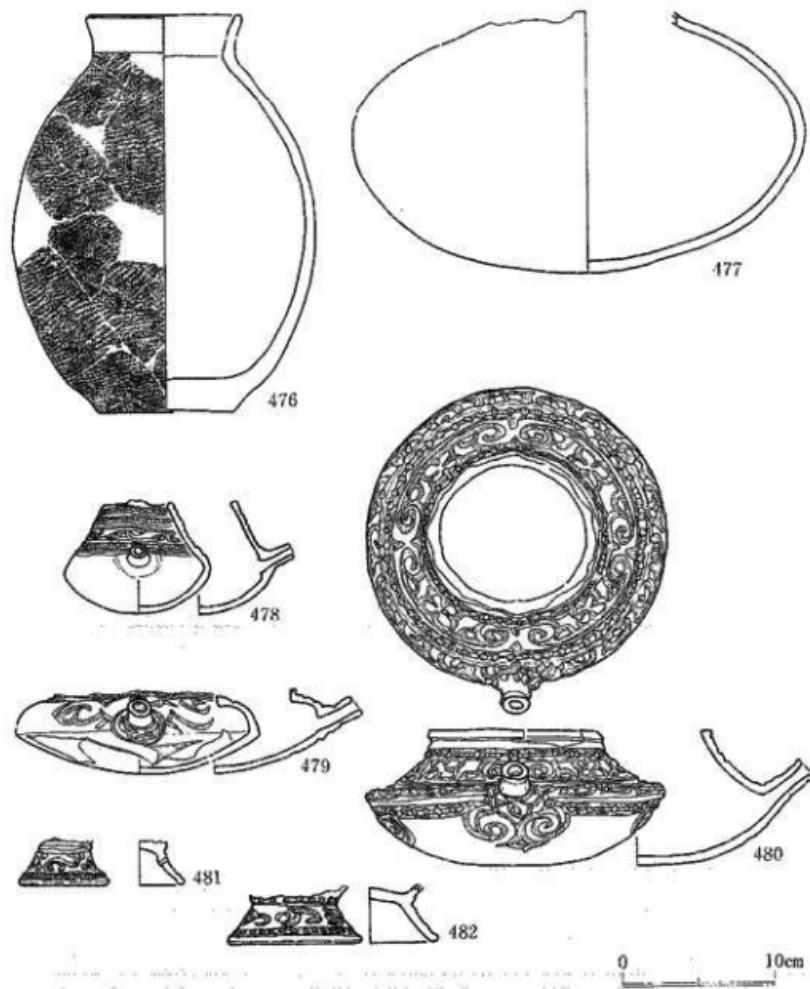
番号	出土地點	形	柄	表面	分類	口径	底径	底形	器高	文様	様	裏面跡	地模	手造の跡	火候	目録
449	山下地蔵	C	4-b	深鉢	I	27.0	-	(12.6)	口輪波状目+平行波状目文+槌文			L.R.	不整	ミガキ		
450	山下地蔵	C	4-b	鉢	I	19.6	7.2	15.4	4脚位のA型足+脚位、斜面に波状目			L.R.	横	ミガキ		スヌ
451	NG51	D	4-b	台鉢	D	(21.6)	6.5	8.2	入模文、ミガキ					ミガキ		
452	NG51	C	4-b	台鉢	D	20.6	7.5	8.0	波状目模、ミガキ					ミガキ		
453	NG49	D	4-b	盤	E.I	(9.0)	6.4	14.5	4脚位の楕円把手、ミガキ					ナデ		
454	NG50	B	4-b	盤	H	-	4.0	(1.3)	4足					指ナデ		
455	NG48	D	4-b	浅鉢	J	-	-	(3.2)	ミガキ、器底に穴アホ							
456	NG49	D	4-b	台		(3.4)	透かし									
457	山下地蔵	C	5	深鉢	D	24.9	5.8	16.8	圓文			L.R.	不整			
458	NG45	A	4-b	鉢	C	(12.6)	5.4	9.0	平行波状+判文			L.R.	横	ミガキ		
459	NG46	B	5	台鉢	J	18.6	-	(5.8)	小波状目縁、平行波状							
460	NG50	C	5	浅鉢	C	15.2	5.7	8.0	ミガキ				ミガキ	スヌか凹模	金芒形	

第107図 掘て場2 4-b層、5層出土山群土器(1)



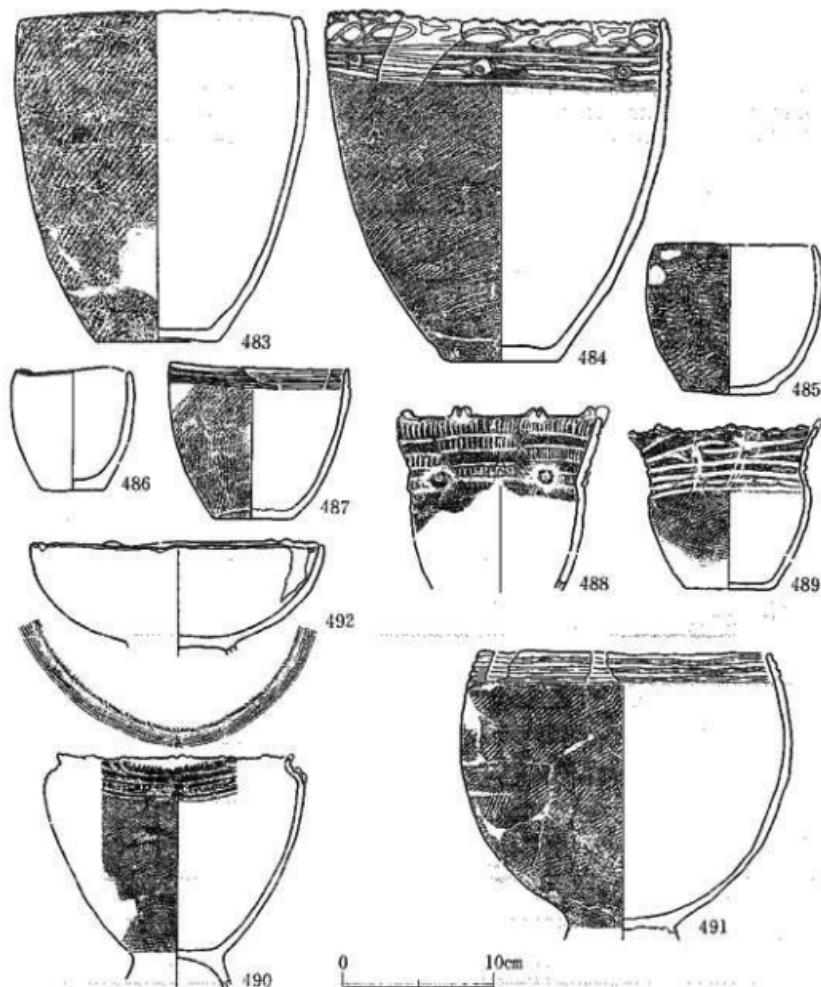
番号	出土地点	保	器	造形	分類	口径	底径	高さ	文	様	調理跡	施	内装	付属品	性質
461	NC50	A	5	鉢	C	8.1	3.6	5.1	山字記	平行の縦+横文	L.R	横	ミガキ		
462	NC50	C	5	鉢	D	8.9	4.3	6.0	ナデ			ミガキ			
463	NP58	A	5	鉢	D	7.2	3.4	5.5	圓文		L.R	不整	ミガキ		
464	NR50	B	5	台付鉢	G	(11.0)	3.5	11.9	圓文		L.R	不整	ナデ	ヌス	ヌス
465	NC50	C	5	台付鉢	H	17.4	6.5	14.1	山字記	山字記+二重人頭小判文	L.R	不整	ミガキ	ヌス	ヌス
466	NC49	A	5	台付鉢	G	(10.3)	3.1	(8.5)	山字記	山字記+二重人頭小判文	L.R	不整	ナデ	ヌス	ヌス
467	NC48	B	5	台付鉢	C	(18.3)	7.2	10.2	山字記			ミガキ		ヌス	
468	NC48	A	5	皿	B	13.0	9.5	4.4	ミガキ			ミガキ			
469	NC48	A	5	皿	C	(9.6)	(7.6)	3.3	無		L.R	不整	ミガキ		
470	NH50	H	5	皿	H	(9.4)	4足	1.0	山字記	山字記+4足					
471	NC48	A	5	皿	H	(6.6)	(3.0)	7.0	山字記	山字記+山字記+山字記+山字記			ミガキ		
472	NC48	A	5	皿	H	7.2	丸底	7.0	無文+沈締+楕文		R.L	横	ミガキ		
473	NR50	A	5	皿	J	(2.7)	3.7	9.0	山字記+山字記+楕文+人頭+青波綱+楕文	L.R	横	ナデ?	青波綱	青波綱	
474	NC49	D	5	皿	K	-	2.0	(5.4)	平行波線+透子+ミガキ			ミガキ	青波綱	青波綱	
475	NR50	H	5	皿	J	-	7.5	(18.5)	平行波線+二重狀入樹文			ミガキ	青波綱	青波綱	

第108図 排て場2 5層出土III群土器(2)



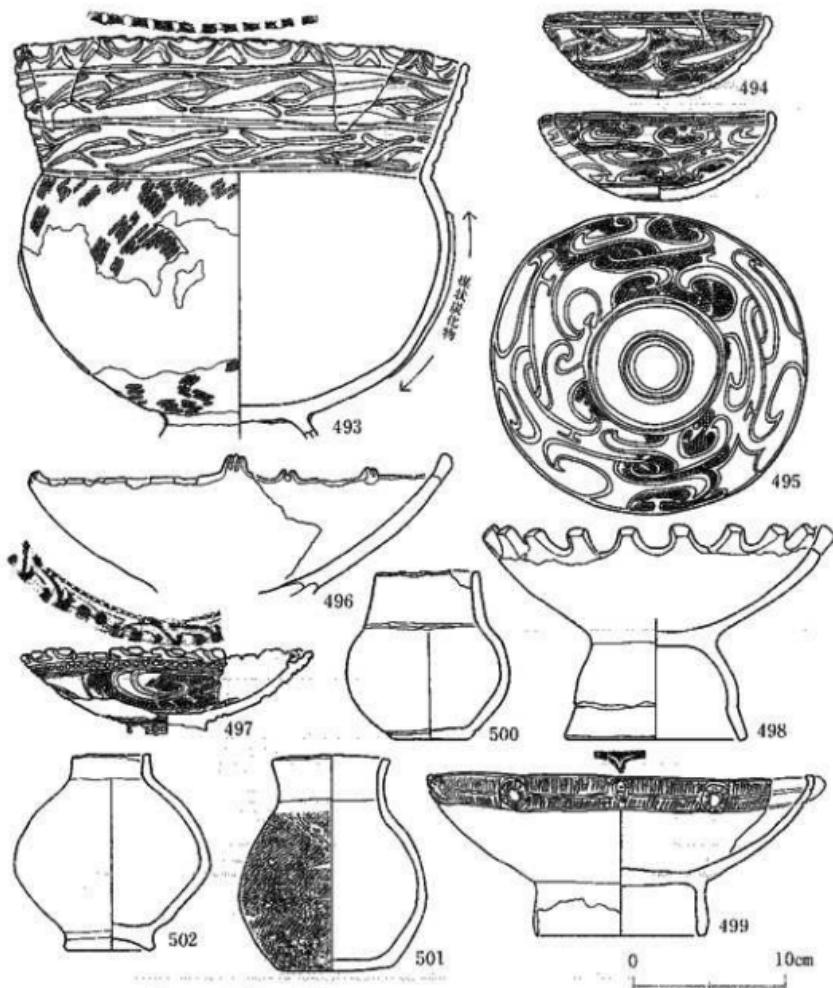
番号	出土地点	例	種	基形	分類	口径	底径	高さ	文	紐	銘文	底形	内底	内底模様	縦剖面	横断面
476	NQ49	C	5	壺	D1	-	9.0	26.4	幾文	LR	槽	三方半				
477	NQ49	C	5	金	G	-	4.3	(17.3)		LR	不規	三方半	青色絞り	青色絞り		
478	NR50	B	5	注口	D	4.3	丸底	7.5	日唐蛇(?)+半圓鼓文+幾文				ナメ			
479	NP51	D	5	注口	E	-	丸底	(8.5)	三叉秩入鏡文				ナデ			
480	NQ48	A	5	注口	F	11.1	丸底	9.0	日唐蛇+樹根編入鏡文+刻目				三方半	樹根編		
481	NQ49	A	5	合				(3.1)	透し入り				三方半			
482	NQ48	A	5	合				(3.7)	透し周刷毛				三方半			

第109図 捨て場2 5層出土III群土器(3)



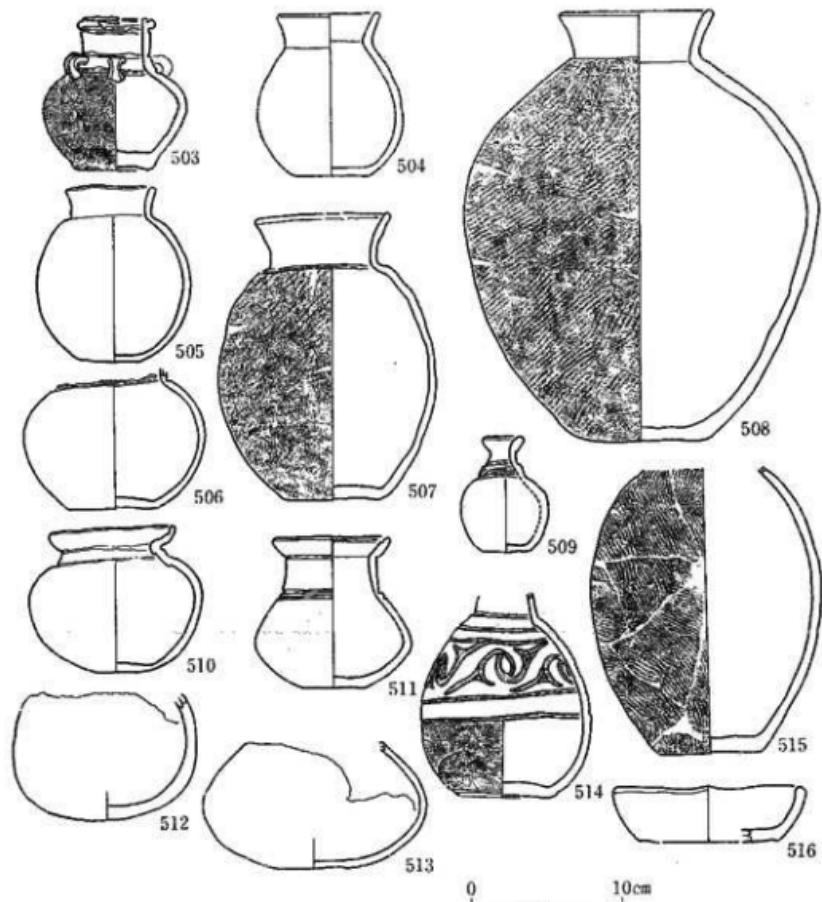
番号	出土地點	層	器形	分類	口径	底径	高さ	文様	施釉部位	底質	内面焼結	出灰跡	粘土質
483	NI-48	D	6-a	深鉢	D 2	18.6	8.3	21.6 绳文	LR	横	ミガキ	スス	スス
484	NI-48	D	HbB	深鉢	D 2	22.8	7.7	23.3 小網状C網+土入繩文+五輪土入文	LR	横	ミガキ	スス	スス
485	NI-48	D	6-a	鉢	A (10.9)	6.0	9.9	绳文	LR	不整	ミガキ	スス	スス
486	NI-48	D	6-a	鉢	B 1	8.7	4.5	8.5 ミガキ	-	-	ミガキ	スス	スス
487	NI-47	A	6-a	鉢	C	12.8	5.6	10.5 斜行沈線	LR	横	ミガキ	スス	スス
488	NI-48	D	6-a	鉢	E	14.0	-	(12.1) 小網狀C網+土入繩文+五輪土入文	-	-	ミガキ	-	-
489	NI-47	A	6-a	鉢	G	12.8	5.7	11.4 三火入繩文+绳文?+横文	LR	不整	ミガキ	-	スス
490	NI-47	H	6-a	台付鉢	J	15.3	6.0	(15.2) 平滑状文	LR	横	ミガキ	-	スス
491	NI-47	B	6-a	台付鉢	L	19.6	7.0	19.2 斜行沈線+绳文	LR	横	ミガキ	スス	スス
492	NI-48	D	FbD	鉢	D	19.1	7.3	(7.1) 小網狀C網+ミガキ	-	-	ミガキ	スス	スス

第110図 掘て場2 6-a層出土陶器群(1)



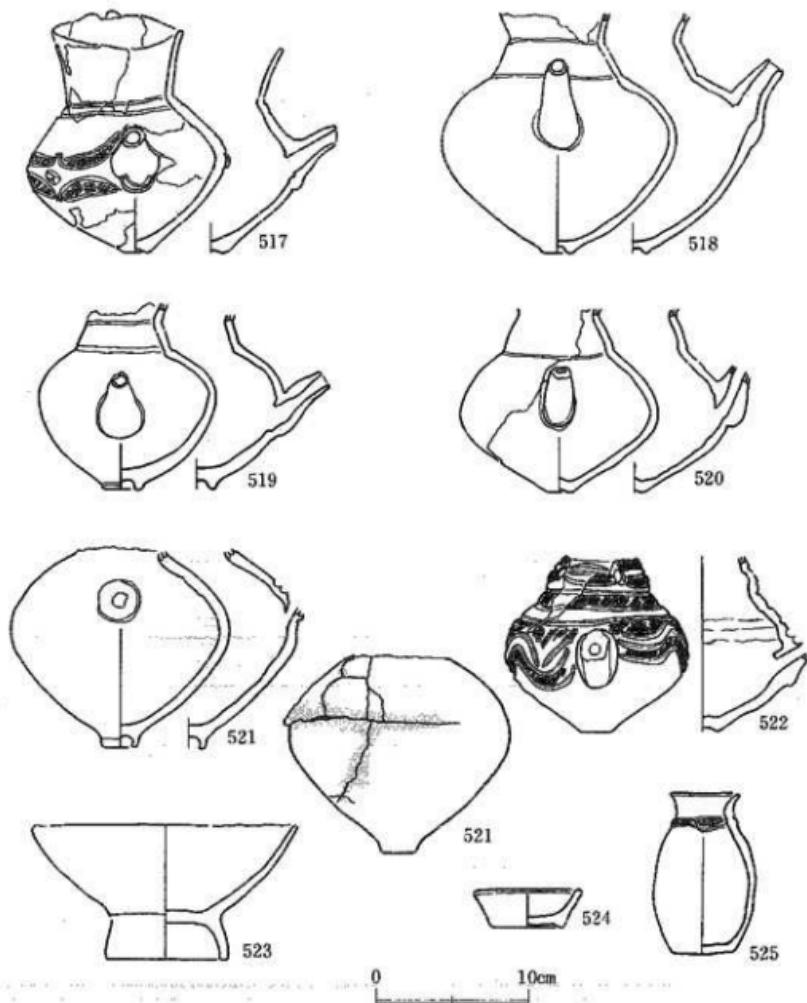
番号	出土地点	形	器形	分類	口径	底径	器高	文	縁	底	内底	底付	側面	側光
493	NM47	D	6-a	平付鉢	H.1	29.9	9.4	(26.3)	口縁部・縁内・二重模様文	L.R	縁	ミガキ	記・ヌヌ	ヌヌ
494	NM47	D	6-a	浅鉢	E.1	14.3	3.9	5.5	口縁部・縁内・二重模様文	L.R	縁	ミガキ	-	-
495	NM48	D	6-a	浅鉢	E.1	15.0	3.9	5.5	口縁部・縁内・圓環形文	L.R	縁	ミガキ	-	-
496	NM48	C	6-a	斜地鉢	A	(26.5)	(19.8)	(9.1)	内底に網目、ミガキ、ナデ	-	-	ナデ	-	-
497	NM47	B	6-a	平付鉢	D	16.6	5.3	(5.4)	平付鉢・斜地、網目文	L.R	縁	ミガキ	高色彩	高色彩
498	NM48	D	6-a	有孔鉢	A	(21.9)	8.0	14.2	山形突起、ミガキ	-	-	-	-	-
499	NM48	B	6-a	有孔鉢	A	27.0	11.5	10.9	口縁部に斜面窓・ドーナツ状輪付文	-	-	ミガキ	-	-
500	NN48	B	6-a	壺	A.2	(6.8)	4.7	11.2	ミガキ+ナデ	-	-	ナデ	高色彩	高色彩
501	NM48	A	6-a	壺	C.1	7.7	7.6	14.3	網目+網文	L.R	縁	ナデ	-	-
502	NM47	A	6-a	平付鉢	B	(4.8)	(5.0)	13.0	ミガキ	-	-	ミガキ	-	-

第1111図 捨て場2 6-a層出土土器群(2)



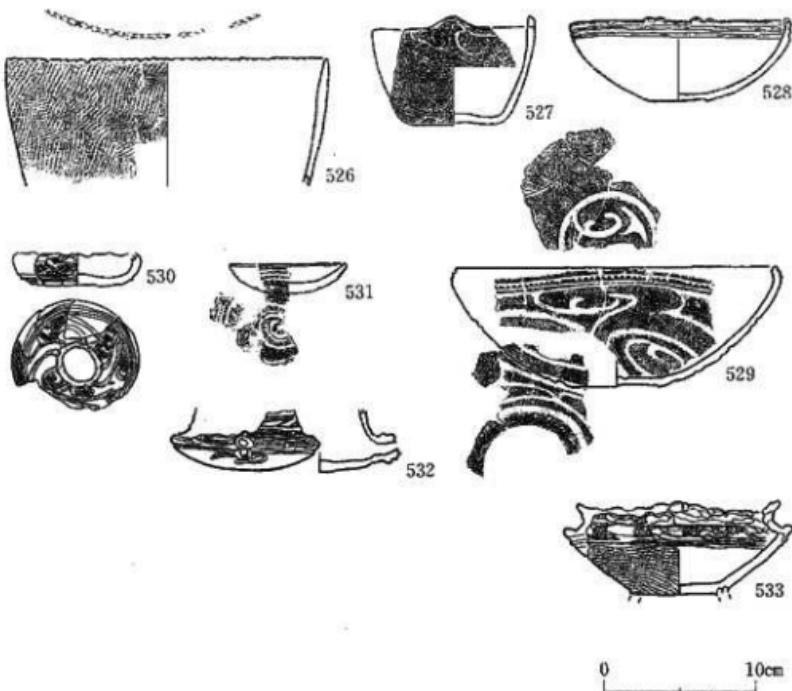
番号	出土地點	H.R.	器形	分類	口径	瓶径	高さ	文様	周囲状況	底状況	内面の状況	出土地	相関性
503	NQ47	A	6-a	壺	B	(5.4)	4.8	10.1 平行弦線、子口縦と印位の把手	LR	楕	ナデ		
504	NQ48	A	6-a	壺	C 2	6.4	5.1	10.8 ミガキ			ナデ		
505	NQ47	A	6-a	壺	F 1	5.6	5.6	11.7 ミガキ			ミガキ		
506	NQ48	D	6-a	壺	E	—	5.6	(9.1) ミガキ			ミガキ		
507	NQ47	B	6-a	壺	D 1	(7.5)	6.1	19.0 網文+繩文	LR	不整	ミガキ		
508	NQ48	C	6-a	壺	D 1	9.7	8.8	28.5 網文+繩文	LR	楕			
509	NQ48	A	6-a	壺	J	(1.9)	3.0	7.7 網文+平行弦線と手彌状文			ミガキ	青色地	青色地
510	NQ47	B	6-a	壺	G 3	8.0	3.0	9.7 ミガキ			ミガキ		
511	NQ47	B	6-a	壺	G 1	7.5	3.7	(10.0) 輪廓に平行弦線、ミガキ			ナデ	青色地	—
512	NQ48	D	6-a	壺	I	—	丸底	(6.4) ナデ			ナデ	—	
513	NQ48	D	6-a	壺	G	—	4.4	(6.5) ミガキ			ミガキ	青色地	—
514	NQ47-48	B	6-a	壺	J	—	6.0	(13.5) 平行弦線+文状入網文	LR	楕	赤漆?	赤漆?	
515	NQ47	B	6-a	壺	L	—	7.0	(19.0) 網文	LR	不整	ナデ		
516	NQ48	D	6-a	壺	T	(12.0)	(9.0)	F 3.7) ミガキ			ミガキ		

第112図 掘て場2 6-a層出土Ⅲ群土器(3)



番号	出土地点	状	器形	分類	口径	底径	高さ	文様	調査者	底	内面の模様	外側の模様	付属品
517	NN48	A	6-a	注口	L	(8.4)	1.6	15.4 網目・円筒縁・脚跡+レンガ状+瓦紋部-浅附	L.	横	ミガキ	ヌス	
518	NN48	A	6-a	注口	A	-	1.6	(15.8.) ミガキ			ナデ		
519	NO48	B	6-a	注口	A	-	2.2	(12.4) ミガキ			ナデ		
520	NO47	B	6-a	注口	A	-	1.3	(12.1)					
521	NO47	B	6-a	注口	A	-	2.2	(13.4) ミガキ(アスファルトでセヒヒの接着)			ナデ		
522	NN48	D	6-a	注口	A	-	1.9	(11.0) 網目-平行洗線-支脚窓文	L.R.	横縫			
523	NO47-48	D	6-b	台盤脚	B	17.4	-	9.4 ミガキ			ミガキ		
524	施場 2	4-C	盤	J	6.9	4.6	2.5	ミガキ(成田精作氏提供品)			ミガキ		
525	施場 2	4-C	壺	L	4.3	4.1	11.6	網目+斗縮式文(成田精作氏提供品)					

第113図 捨て場2 6-a層(4), 6-c層出土川群土器

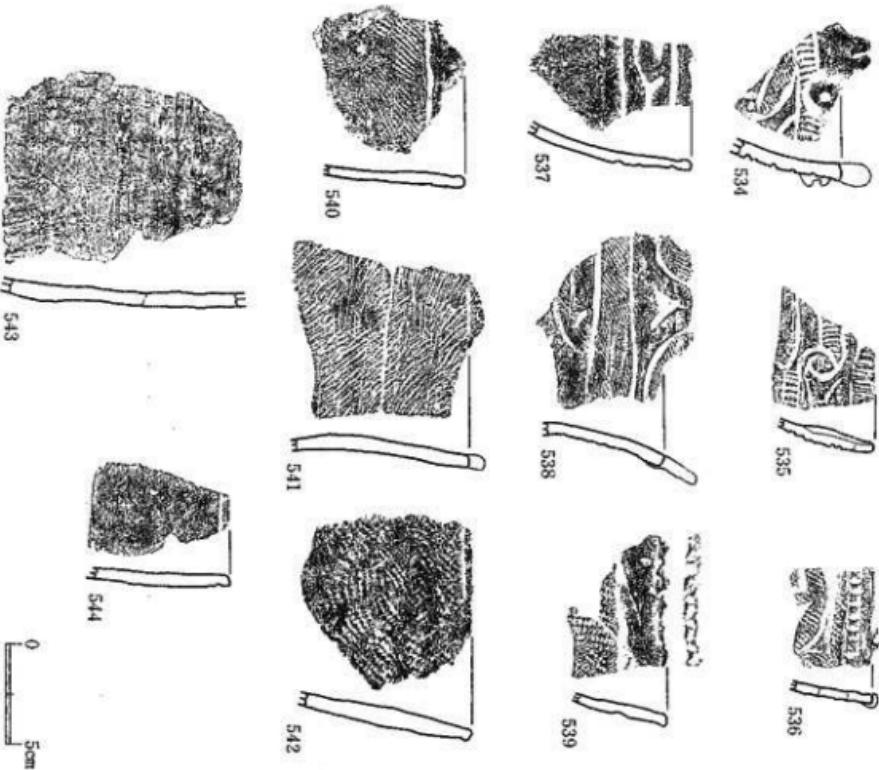


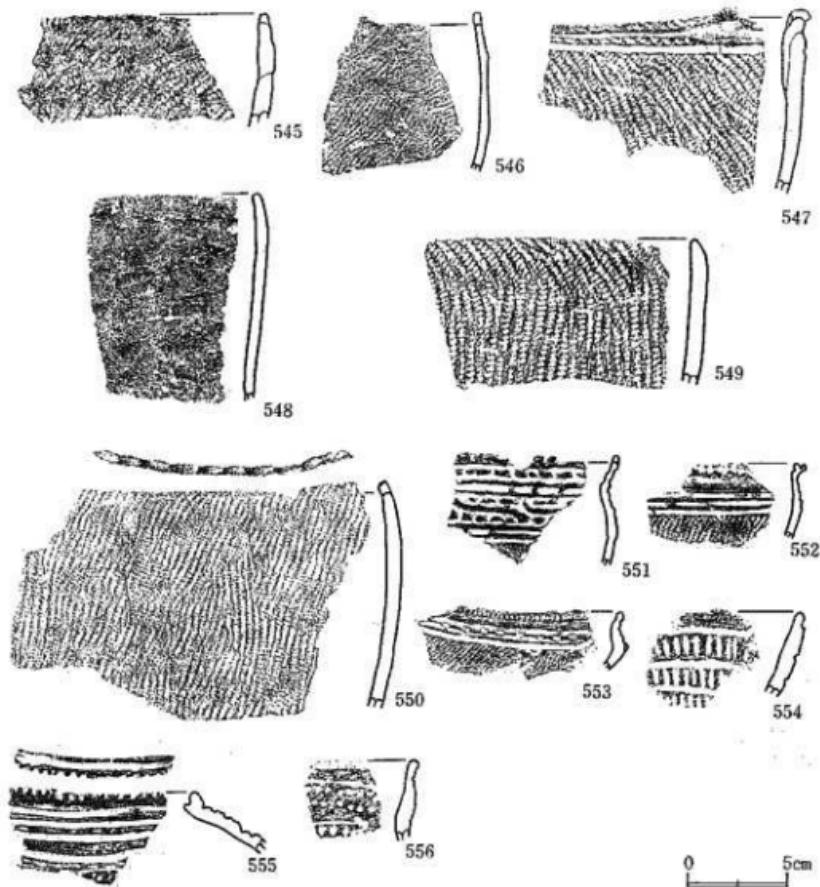
番号	出土地点	個	種	器形	分類	口径	底径	基高	文 様	既知形	既知 底	内面の特徴	既知形	特徴
526	NP50	C/A	深	深鉢	D	21.2	—	(8.8)	縄文、口縁部に刻目	L/R	不整	ナゲ	—	—
527	NN49	C	1-5	鉢	D 2	9.8	3.4	7.0	夷浜口縁、底面部に円形文	—	—	ナゲ	—	—
528	NC48	C	2	浅鉢	E 2	14.6	4.0	5.4	横縞(?)と直線文、平行沈線	—	—	ミガキ	化粧せ	化粧せ
529	不明(台輪のため)	—	浅鉢	E 1	21.2	5.6	7.9	口縁部平行沈線・底付帯下側面縦文	L/R	不整	ミガキ	—	—	
530	NC52	D	2	底	C	—	5.2	(2.1)	口縁部平行沈線・外底底部縫合	L/R	横	ナゲ	—	—
531	NP51	D	2	底	G	—	—	2.0	縄文(?)と斜面縫合部に縦文の入り混じ	—	—	—	—	—
532	NO49	D	2	注口	F	—	丸底	(4.0)	手縄文と入組文	—	—	—	—	—
533	NO48	D	2	香炉	—	14.2	6.0	(6.1)	底部上半は削りと2層の火口部	—	—	—	—	—

第114図 造構外出土III群土器

後期後半の土器である。499は台付浅鉢（A類）で、488と同じく、口縁部に平行沈線で区画する刻目帯を有する。483・484はいずれも深鉢（D 2類）で、484の口縁部には玉抱き三叉文が施文される。487（鉢-C類）、491（台付鉢-L類）は地文が縄文で、口縁部に3条の平行沈線が施文される平口縁の土器である。493は台付鉢（H 1類）で、口縁部が、大きく屈曲して外反し、三叉状入組文が施文される。胴部に泥が厚く塗られ、表面には煤が付着している。494・495は浅鉢で雲形文を施文する「寧な作り」の土器である。この層中でも壺の出土比率が高く、赤色塗彩の土器も多い。4-c層でも出土したが、500、502のように口縁部がほぼ真っすぐ立ち上がり、古い方に属すると思われる壺も出土している。517～522は注口土器で、丸底風の底部に小さな台が付くもので、いずれも後期後葉に属するものある。521は胴部の割れ目をアス

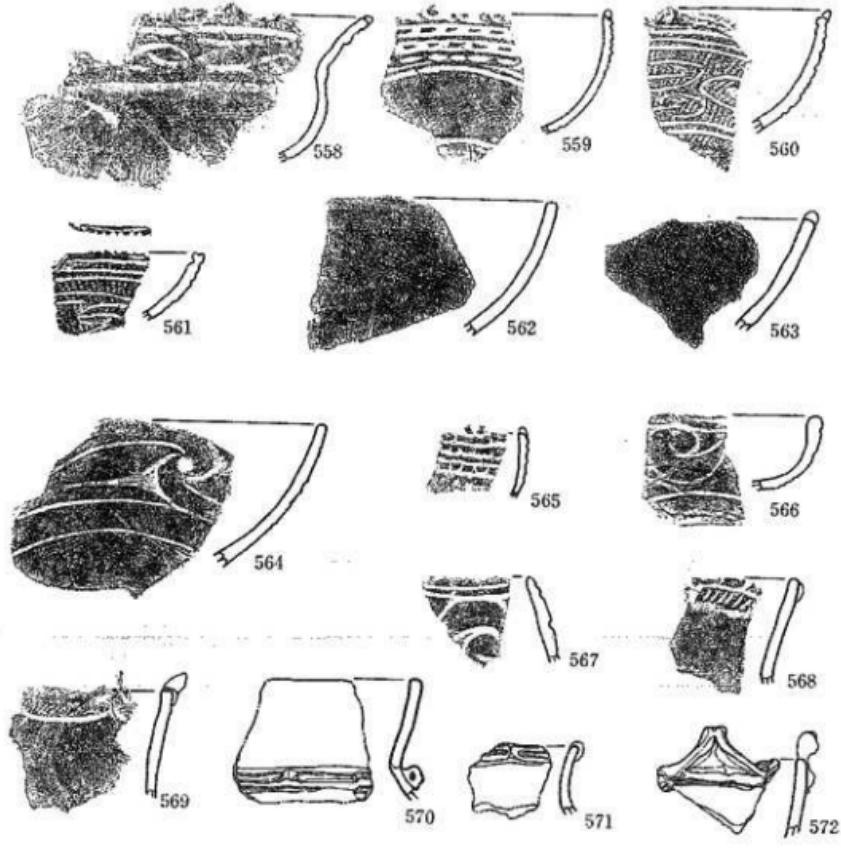
第115図 捜て場1 4層出土Ⅲ群土器(1)





番号	出土地点	小区分	縄	器形	分類	口径	底径	高さ	文様	様	裏文様	施法	内部構造	附着物	備考
545	ND50	A	4	深鉢					幾文	LR	横	ナガ	スヌ		
546	NG51	C	4	深鉢					山形突起+幾文	LR	横		スヌ	スヌ	
547	NG50	A	4	深鉢					山形突起+幾文+平行弦線	RL	横	ナガ	スヌ		
548	NG52	D	4	深鉢					上ガキ			ナガ	スヌ		
549	NP51	C	4	深鉢					幾文	RL	横+斜	ナガ			
550	NG51	C	4	深鉢					幾文	LR	横	ナガ	スヌ		
551	NG51	D	4	鉢					「JR」唐松・列田・列点文+半曲状文	LR	横	ミガキ	スヌ	スヌ	
552	NP50	C	4	鉢					「丁」唐松+列田、幾文+平行弦線	LR	横	ミガキ		スヌ	
553	NP50	D	4	鉢					「丁」唐松+列田、列点文+平行弦線	LR	横	ミガキ			
554	NP51	D	4	鉢					列点文			ミガキ			
555	NG51	C	4	鉢					「丁」唐松+列田、列点文+平行弦線	LR	横	ミガキ	スヌ	スヌ	
556	NG51	D	4	鉢					列点文+平行弦線+列田			ミガキ			
557	NG52	C	4	鉢					平行弦線+入組文+列田	LR	横	ミガキ			

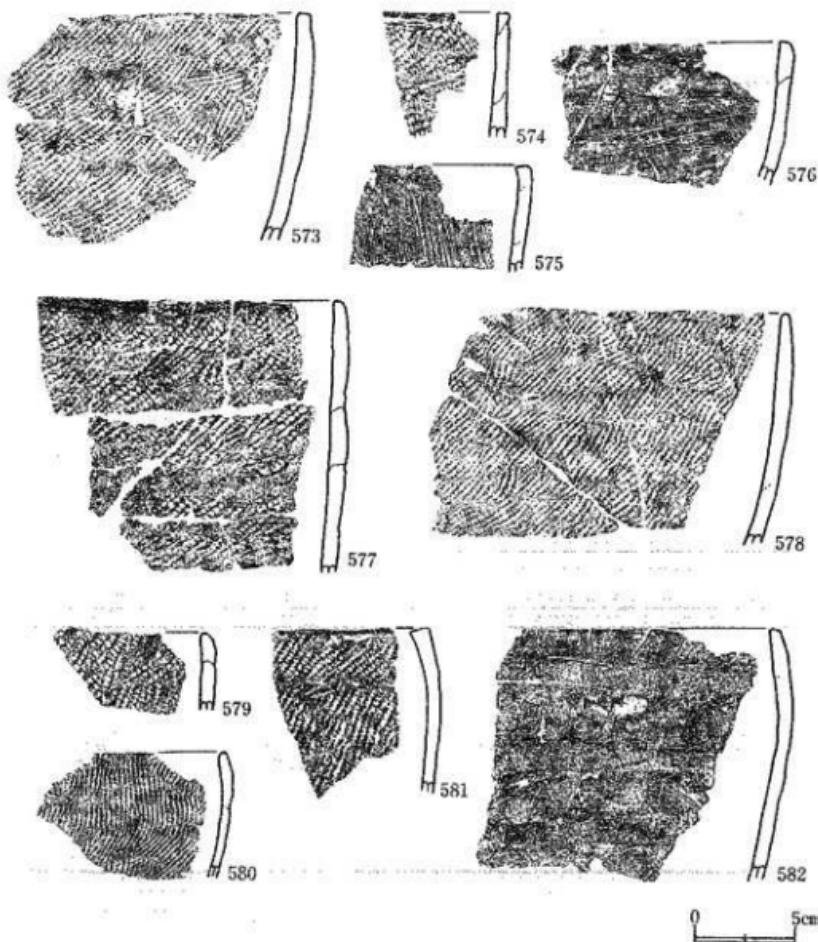
第116図 捨て場1 4層出土III群土器(2)



0 — 5cm

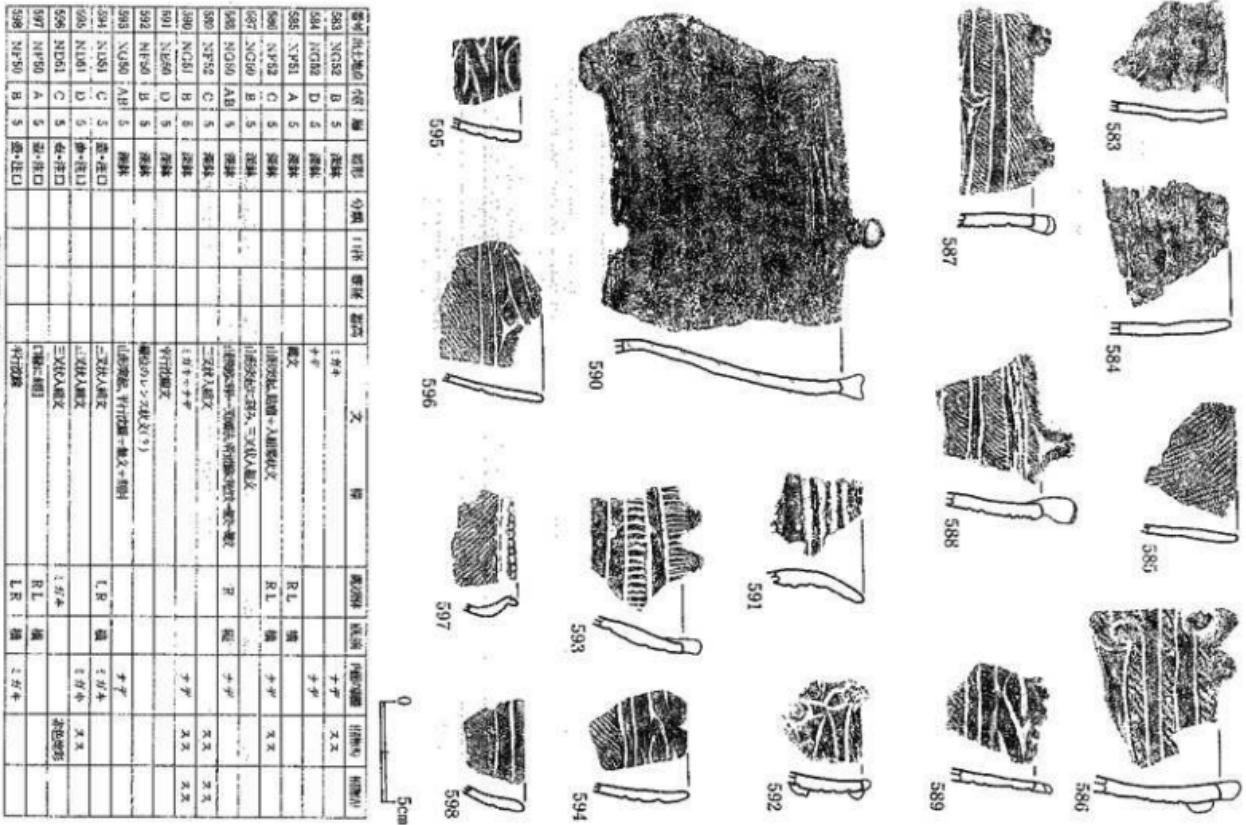
番号	出土地点	小名	器種	表面	分類	口径	底径	基高	文様	持立脚	脚形	内部構造	器形	備考
558	NC51	C-A	4	鉢					二重状入腹文+平行波線	LR	横	ミガキ	スヌ	スヌ
559	NF50	C	4	鉢					「H」型足+車輪状文+列点文	LR	横	ミガキ	スヌ	スヌ
560	NF52	D	4	浅鉢・皿					「H」型足+車輪状文+平行波線+波形文	LR	不整	ミガキ		
561	NF51	B	4	浅鉢・皿					口縁斜み+輪文+斜行波線+人字文	LR	横	ナデ		
562	NF52	C	4	浅鉢・皿					「H」型足			ミガキ		
563	NB51	C	4	浅鉢・皿					小波状口縁+「H」型足			ミガキ		
564	NC51	D	4	浅鉢・皿					五面角三叉文			ミガキ		
565	NG51	D	4	唐・往口					列点文+「H」型足			ミガキ		
566	NC51	C-A	4	唐・往口					人字二叉文			ミガキ		
567	NC51	A-A	4	唐・往口					人字二叉文			ミガキ		
568	NF52	A	4	唐・往口					斜行波+無文(1万キ)			ナデ		
569	NF51	A	4	唐・往口					山形突起+輪文+「H」型足	LR	横	ミガキ		
570	NF50	A	4	唐・往口					口底部に斜行波付+棒状把手					
571	NF51	C	4	唐・往口					山形突起+三叉形足+無文			ミガキ		
572	NF51	B	4	唐・往口					山形突起+三叉形足+無文			ミガキ		

第117図 捨て場1 4層出土Ⅲ群土器(3)

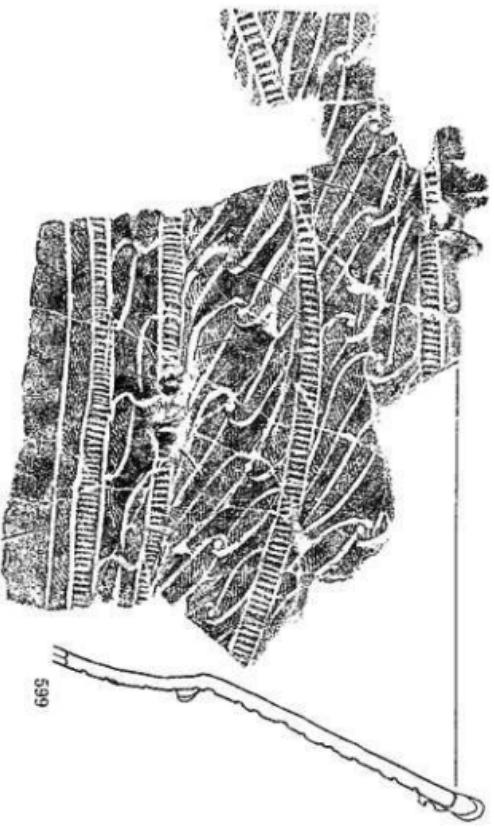


番号	出土地点	小区	層	器形	分類	口径	底径	高さ	文		特徴		内面	側面
									種類	様	種類	様		
573	NPS1	D	5	深鉢					陶文		LR	横	±万キ	スス
574	XPS2	C	5	深鉢					陶文		LR	横		
575	NPS2	A	5	深鉢					条痕文					
576	ND51		5	深鉢					±ガキ+ナデ				±ガキ	
577	ND52	C-D	5	深鉢					陶文		LR	横		
578	XPS1	D	5	深鉢					陶文		LR	横	±万キ	
579	NGS2	B	5	深鉢					陶文		LR	横	ナデ	スス
580	NPS2	B	5	深鉢					陶文		LR	横	ナデ	スス
581	NG50	B	5	深鉢					陶文		LR	横	ナデ	スス
582	NPS2	A	5	深鉢					±ガキ				±ガキ	スス

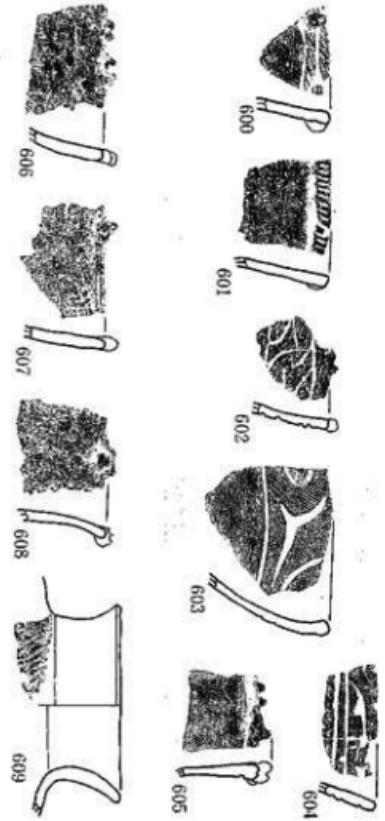
第118図 掘て場1 5層出土III群土器(1)



第119図 掘立場1 5層出土III群土器(2)



599



605

600

601

602

603

604

605

606

607

608

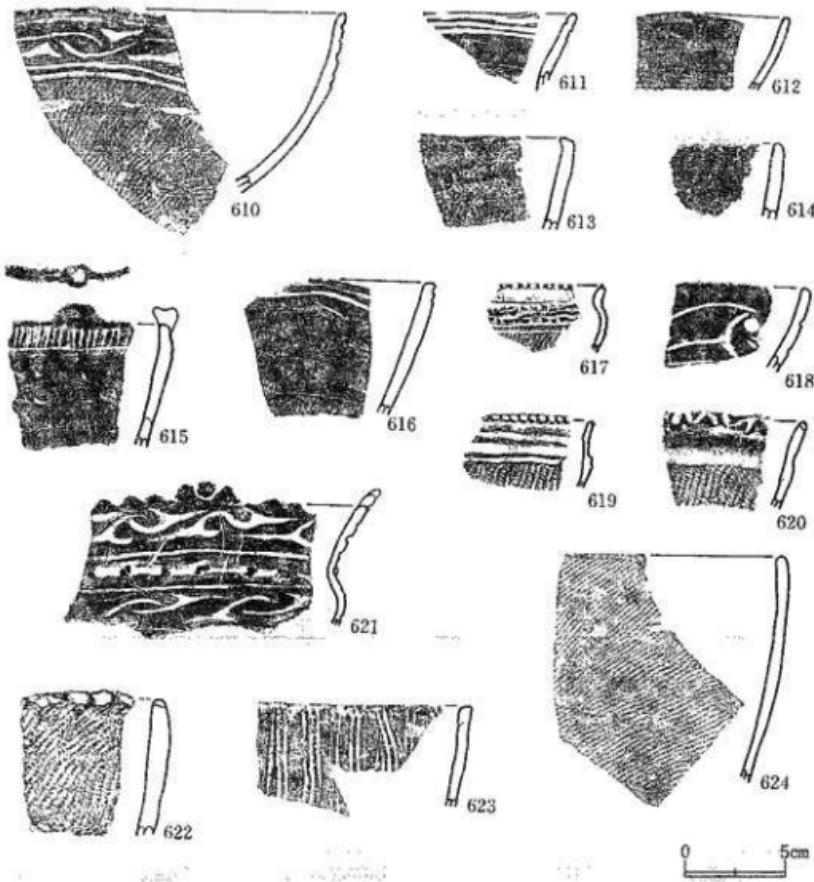
609

番号	出土地點	層	形	分類	口径	底径	高さ	文	様	前縁	後縁	側縁	側縫	側縫
599	NGB12	A	5	深鉢										
600	NGB12	C	5	舟・口付										
601	NGB12	C	5	舟・口付										
602	NGB12	H	5	舟・口付										
603	不明		5	舟・口付										
604	不明		5	舟・口付										
605	NGB12	B	5	舟・口付										
606	NGB12		5	舟・口付										
607	NGB12	H	5	舟・口付										
608	不明		5	舟・口付										
609	NGB12	C	5	舟										

0

5cm

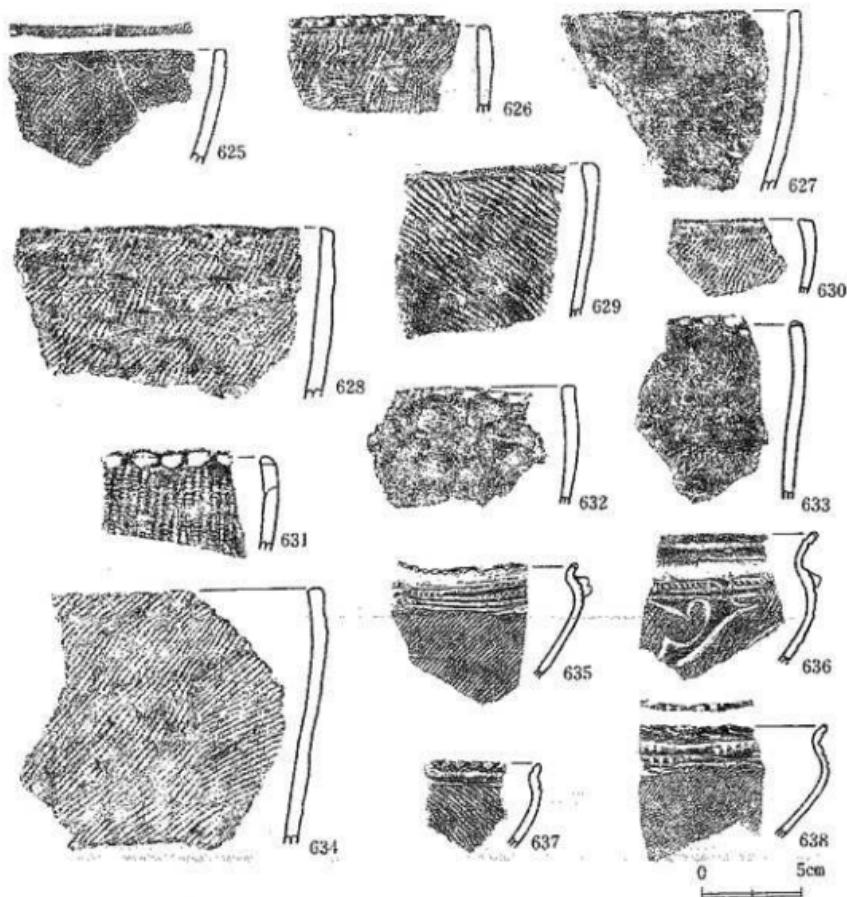
第120圖 掘て場1 5層出土四輪土器(3)



0 5cm

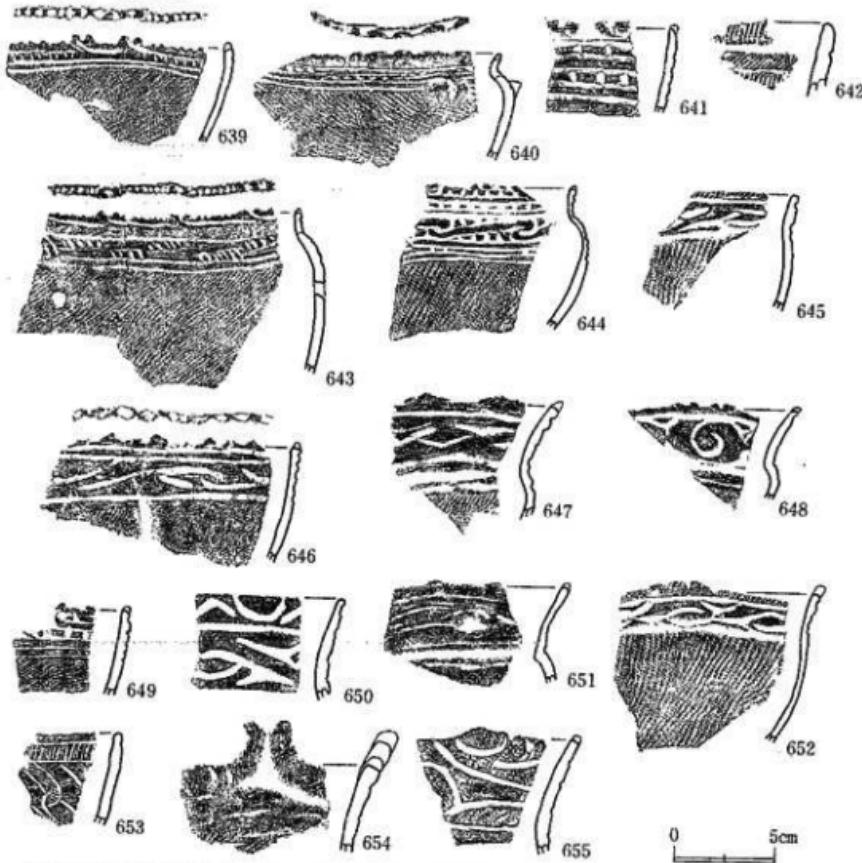
番号	出土地点	小号	器種	形態	分類	L/T作	底模	基高	文様	地質	地質層	内面状況	表面形	特徴
610	ND60	C	5	浅鉢・皿					三叉状人字文+平行波線+圓文	LR	横	1ガキ	赤褐色	褐色帶
611	NO51	B	5	浅鉢・皿					平行波線			1ガキ		
612	NP52	B	5	浅鉢・皿					ナデ			ナデ		
613	NP52	B	5	浅鉢・皿					ミガキ			ミガキ		
614	NP52	C	5	浅鉢・皿					ミガキ			ミガキ		
615	NG52	C	5	浅鉢・皿					1層に密着、その下に網目帯			ナデ	スス	
616	NI52	D-A	5	浅鉢・皿					平行波線文+ミガキ			ミガキ		
617	ND51	D	5	鉢					丁字状文	RL	横		スス	スス
618	NP		5	鉢					飛翔鳥+二叉文			1万年		
619	NP52	C	5	鉢					口縁部に斜削、その下に波線	LR	横	ミガキ	スス	スス
620	NP57	A	5	鉢					口縫部+山形状波線+波文	LR	横	ナデ		
621	NC51	C	5	鉢					山形状+二叉文+斜波文+二叉文			スス	スス	
622	NO48	B	4-a	深鉢					口縫部波線+波文	LR	横	ミガキ		
623	KL49	B	4-a	深鉢					垂直文			ナデ		
624	NO49	D	4-a	深鉢					通文	LR	横	1ガキ	スス	スス

第121図 捨て場1 5層(4)・捨て場2 4-a層出土田畠土器(1)



番号	出土地点	小区分	部	器形	分類	口径	底径	器高	文	様	施文部位	張額	内底調査	特徴	性質
625	NO18	B	4-a	深鉢					網文+縦條文		LR	横	ナデ	スヌ	
626	NO19	D	4-a	深鉢					白陶器約4.8mm		LR	不整	ミガキ	スヌ	
627	NO18		4-a	深鉢					ナデ				ナデ	スヌ	
628	NO18	C	—	深鉢					網文		LR	横	ナデ	スヌ	
629	NO19	D	4-a	深鉢					網文		RL	横	ミガキ	スヌ	
630	NO	—	4-a	深鉢					網文		LR	横	ナデ	スヌ	
631	NO	—	4-a	深鉢					口縁部斜面		LR	斜	ナデ	スヌ	スヌ
632	NO18	C	4-a	深鉢					網文				ナデ	スヌ	
633	NO	—	4-a	深鉢					LR表面に網目、ミガキ				ナデ	スヌ	
634	NO18	B	4-a	深鉢					網文		L	横	ナデ	スヌ	
635	NO	—	4-a	深鉢					半周丸久「B」字起		LR	横	ミガキ	スヌ	スヌ
636	NT49	D	4-a	鉢					網口器入過渡状態						
637	NT48	B	4-a	鉢					LR表面に網目、網文+施文		RL	横	ミガキ	スヌ	スヌ
638	NT48	B	4-a	鉢					半周網文+施文		LR	横	ミガキ	スヌ	スヌ

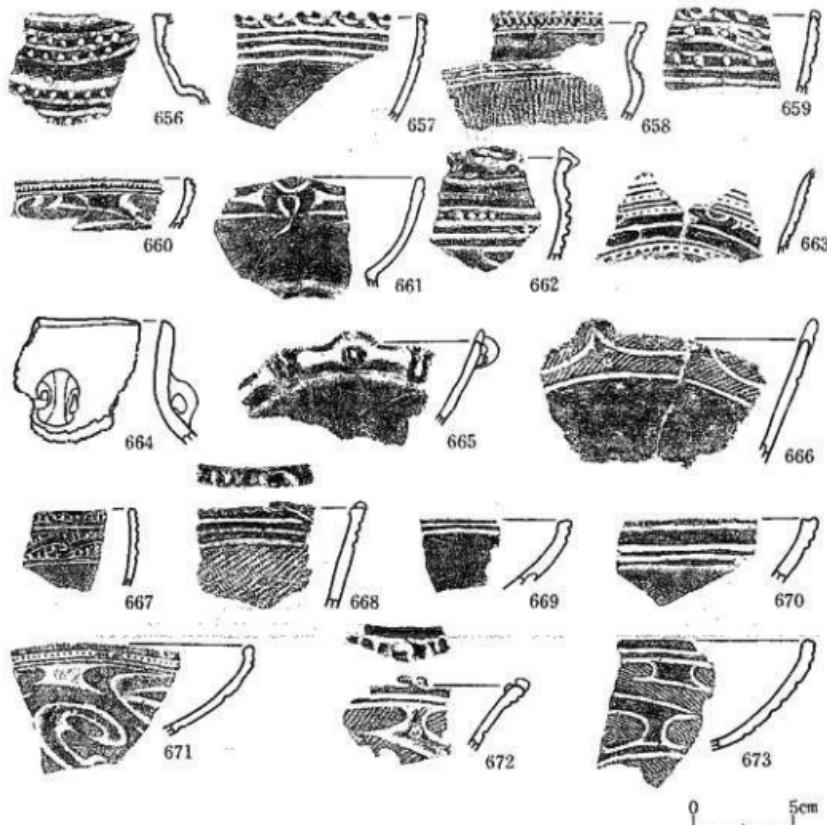
第122図 掘て場2 4-a層出土田群土器(2)



0 5cm

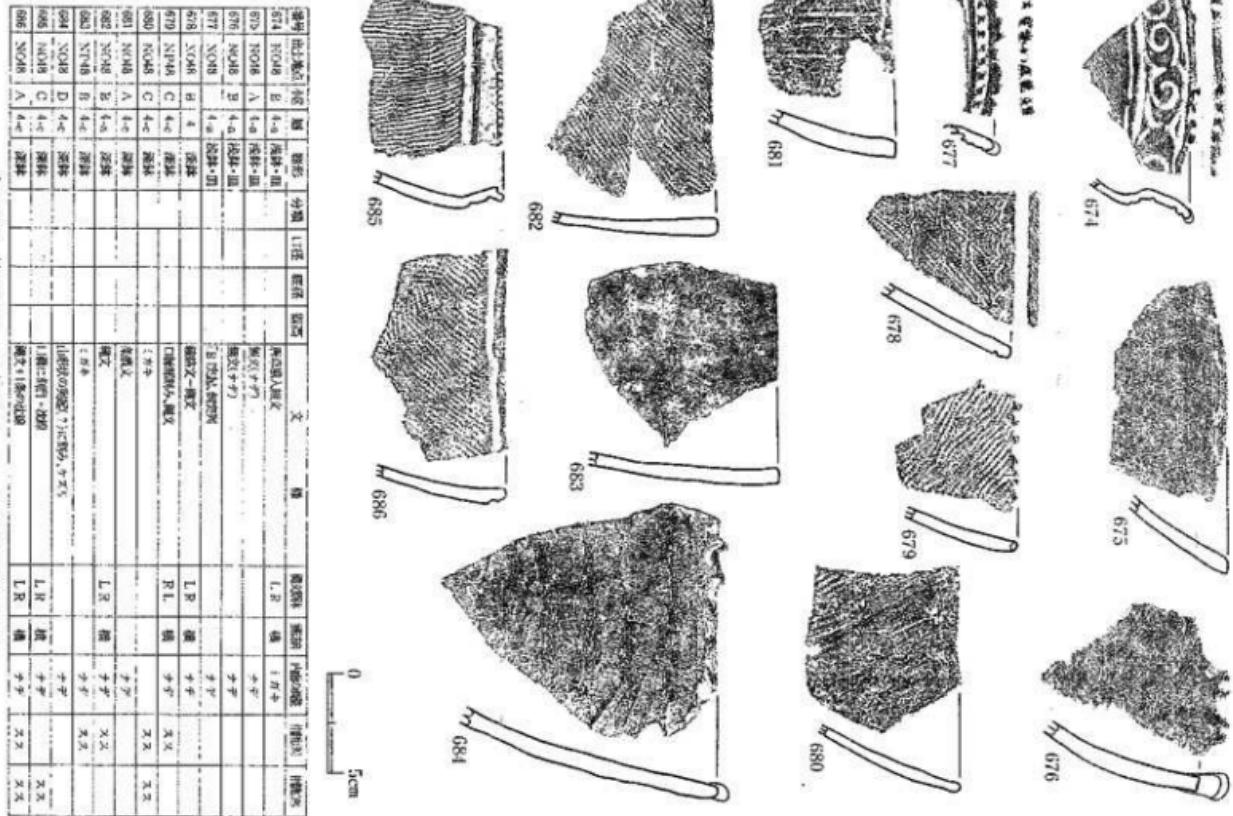
番号	出土地点	形状	分類	口径	底形	器高	文		規則性	施法	内面・網目	外側面	背面
							横	縦					
639	NO	4-a	縦				「B」突起+手縫伏文+繩文		L R	横	ミガキ	スス	スス
640	NO48	C	縦				手縫伏文+繩文		R L	横	ミガキ		
641	NO	4-a	縦				判文、「B」突起				ミガキ		
642	NN48	A	縦				手縫伏文+手縫+繩文		L R	横			
643	HO48	C	縦				手縫伏文+縫文		L R	横		スス	
644	NO	4-a	縦				手縫伏文+縫文		L R	横	ミガキ	スス	
645	NN48	A	縦				三叉状入縫文(?)+縫文		L R	横	ミガキ		
646	NO48	4-a	縦				三叉状入縫文+縫文		R	横	ミガキ		
647	NK48	B	深鉢				三叉状入縫文+縫文		L R	横	ミガキ		
648	NO48	B	深鉢				三叉状入縫文+縫文		L R	横	ミガキ		
649	NO	4-a	深鉢				牛頭状文+平行波線+縫文		L	横	ミガキ		
650	NO48	D	深鉢				三叉状入縫文				ミガキ		
651	NO48	B	深鉢				三叉状入縫文(?)						
652	KN48	A	4-a				三叉状入縫文						
653	NO48	B	深鉢				網目状+人字縫帶伏文		R	横			
654	NO48	D	4-a				山形口縁+三叉状削去+平行波線					スス	スス
655	NO48	B	4-a				人字縫伏文		L R	横	ミガキ	スス	

第123図 掘て場2 4-a層出土Ⅲ群土器(3)



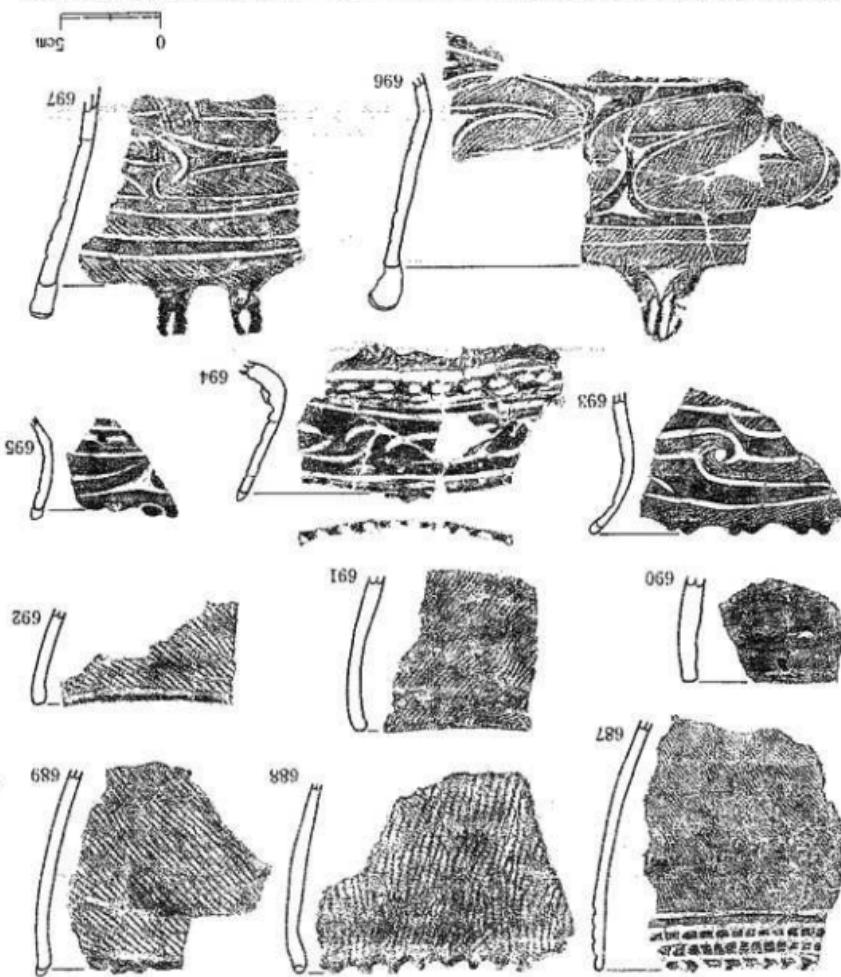
番号	出土地点	年代	層	器形	分類	口径	底径	高さ	文様	縁	複数形	彫刻	内面の状態	相手形	相手縁
656	NO		4-a	壺・注口					網目文+無文+判子				ナデ		
657	NO48	D	4-a	壺・注口					平行波線文				ミガキ		
658	NL48	B	4-a	壺・注口					判子+波線+無文+判子文		LR	横	ナデ	ヌス	ヌス
659	NO		4-a	壺・注口									ミガキ		
660	NO		4-a	壺・注口					網目文		LR	横	ミガキ		
661	NN49	A	4-a	壺・注口					-叉状入底文、黑色磨擦				ミガキ		
662	NP48	E	4-a	壺・注口					網目文+平行波線文				ミガキ		
663	NT48	D	4-a	壺・注口					網目文+平行波線文				ミガキ		
664	NO48	B	4-a	壺・注口					無文+橫状把手				ナデ		
665	NO48	B	4-a	壺・注口									ナデ		
666	NN48	A	4-a	壺・注口					網狀波線文+無文						
667	NO48	D	4-a	浅鉢・皿					丁字状文		LR	横			
668	NO48	D	4-a	浅鉢・皿					平行波線文+無文		LR	横	ミガキ	赤色磨擦	赤色磨擦
669	NK48	A	4-a	浅鉢・皿					平行波線文+無文				ミガキ	赤色磨擦	赤色磨擦
670	NK49	A	4-a	浅鉢・皿					平行波線文+無文				ミガキ	赤色磨擦	赤色磨擦
671	NN49	D	4-a	浅鉢・皿					網目文+雲形文		LR	横	ナデ	赤色磨擦	
672	NO48	H	4-a	浅鉢・皿					雲形文		LR	横	ミガキ		
673	NM49	C	4-a	浅鉢・皿					均す刷毛文				ミガキ		

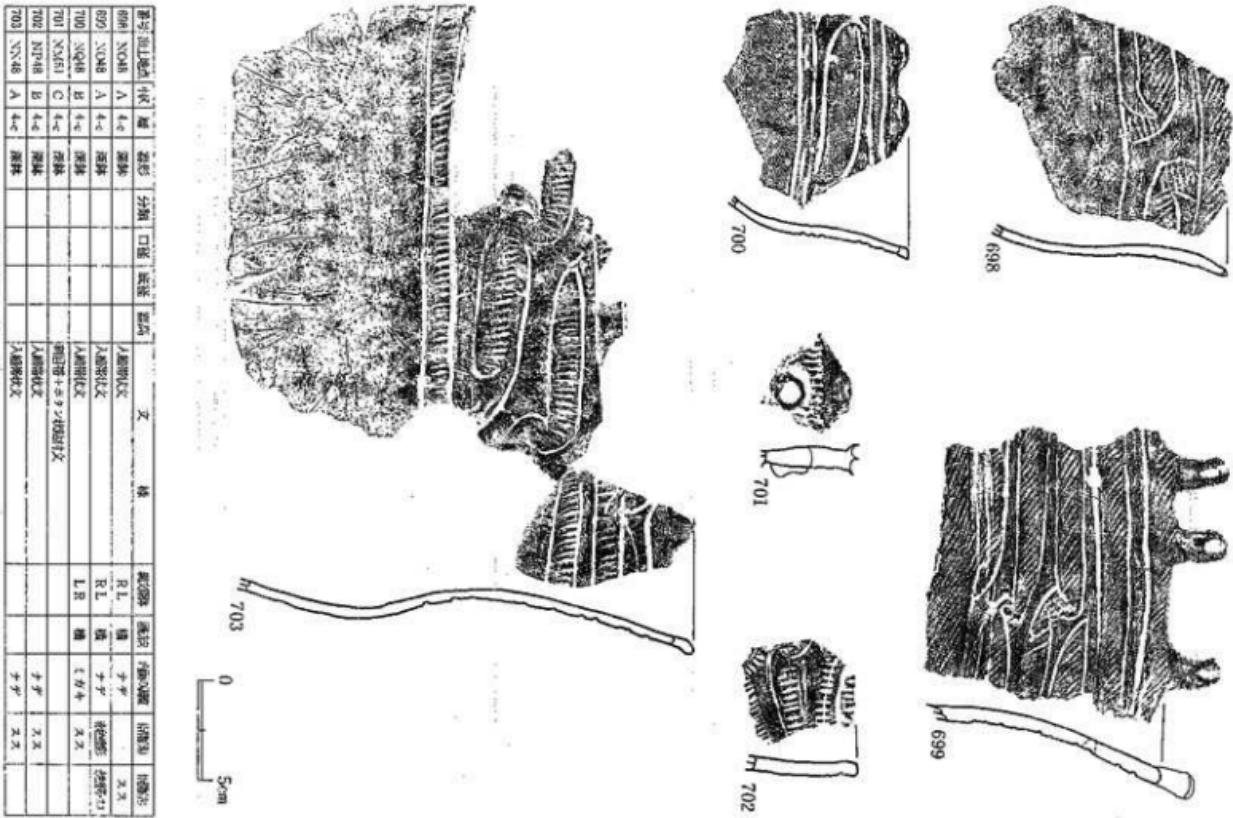
第124図 掘て場2 4-a層出土田群土器(4)



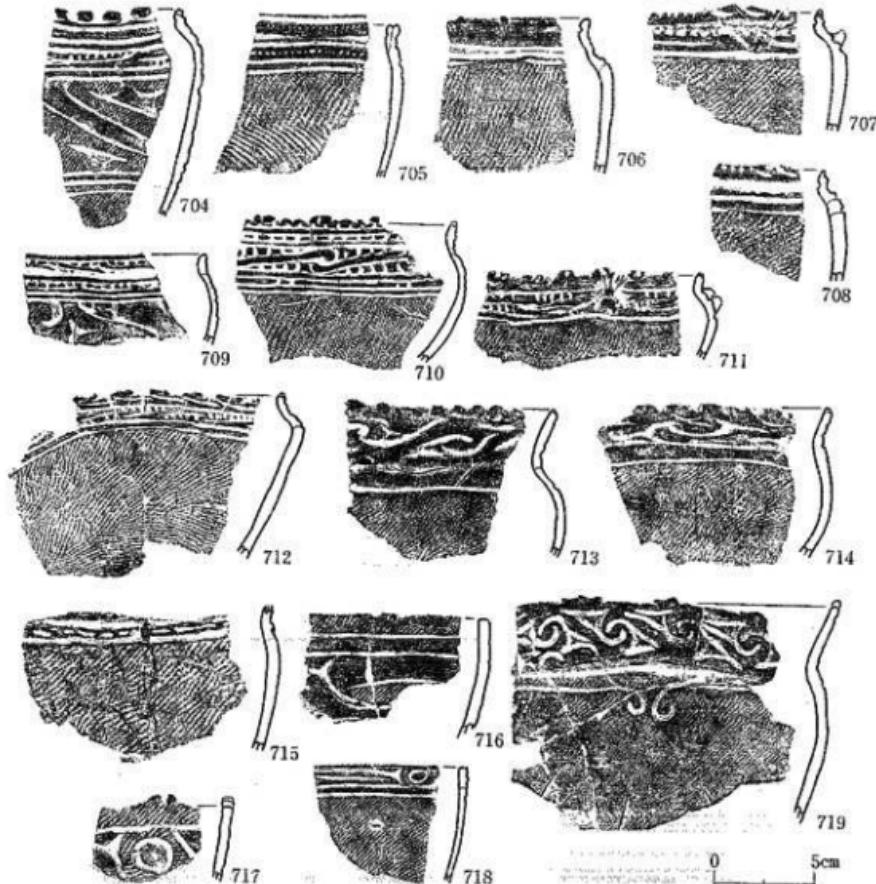
第125図 挿て場2 (4-a種5)・4-c種1器出土土器(1)

圖126圖 猪之鑄2 4-2器出土王世興藏(2)



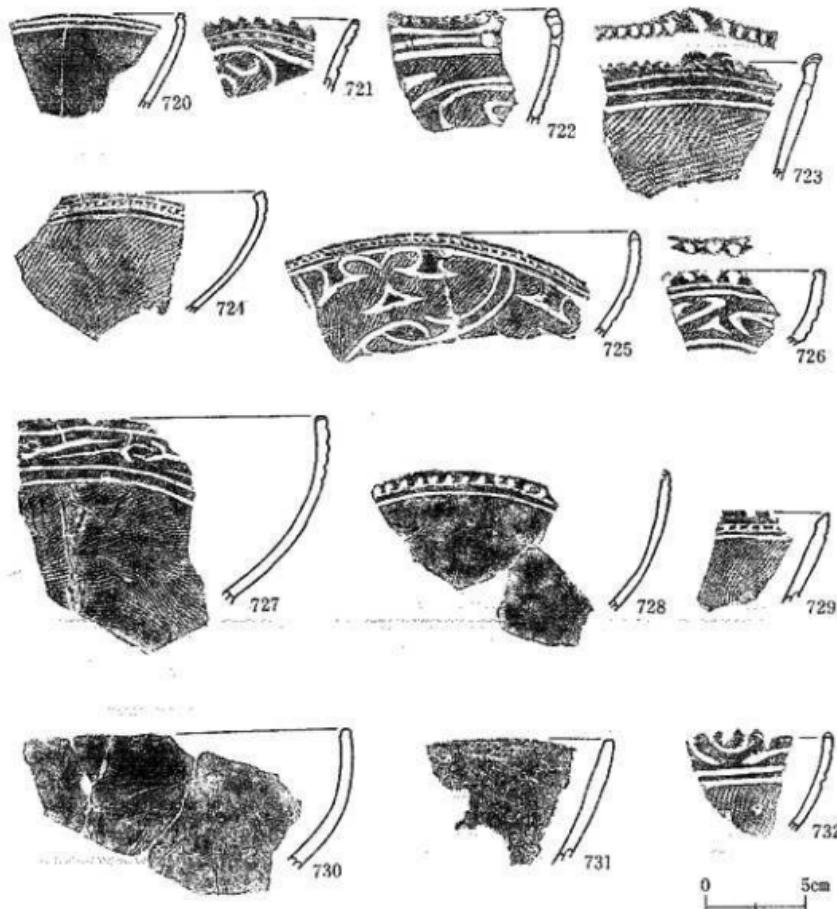


第127図 桂田場2 4-cu層出土川群土器(3)



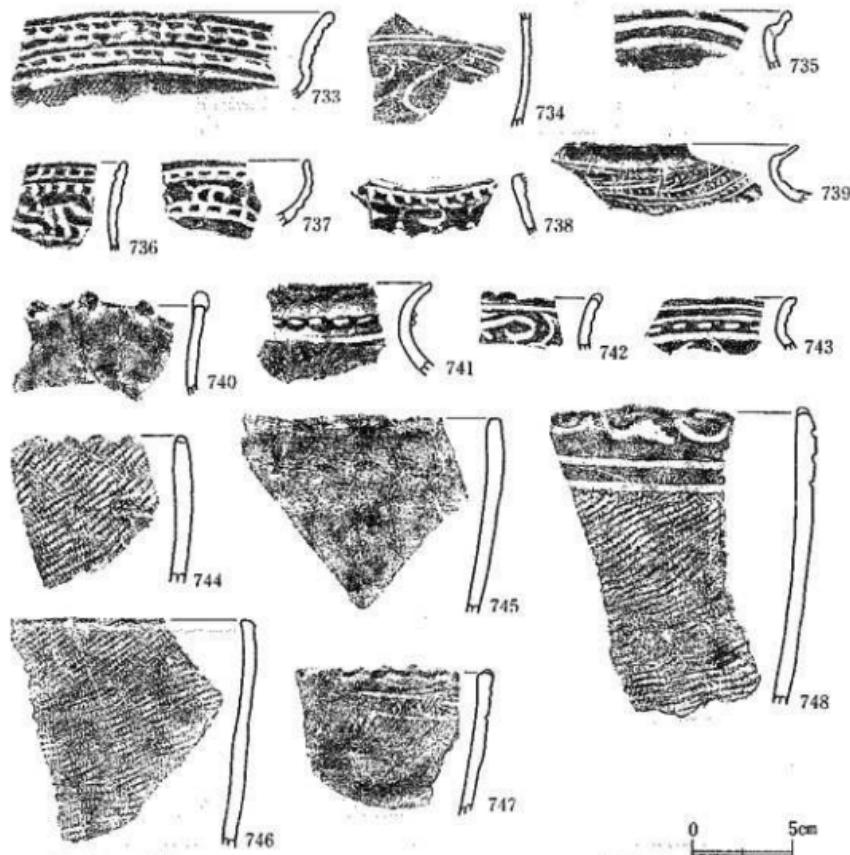
番号	出土地点	小字	層	器形	分類	口径	底径	高さ	文様	様	施面部	底部	内面の跡	側面形	縫合跡
704	NO48	A	4-c	鉢					手ぬ伏文+蔓状文	横	L.R.	ミガキ	スヌ	ヌヌ	
705	NM47	B	4-c	鉢					平行枕線+刻文+矛状網文	横	LR	ミガキ	ミガキ	スヌ	
706	NM47	D	4-c	鉢					平行枕線+蔓文	横	L.R.	ミガキ	スヌ	ヌヌ	
707	NP48	C	4-c	鉢					手ぬ伏文	横	L.R.	ミガキ	スヌ	ヌヌ	
708	NP48	C	4-c	鉢					手ぬ伏文	横	L.R.	横	?	スヌ	
709	NQ48	D	4-c	鉢					手ぬ伏文+三叉文	横	L.R.	ミガキ	スヌ	スヌ	
710	NO48	C	4-c	鉢					手ぬ伏文	横	L.R.	ミガキ	スヌ	スヌ	
711	NP48	C	4-c	鉢					手ぬ伏文	横	L.R.	ミガキ	スヌ	スヌ	
712	NP48	B	4-c	鉢					手ぬ伏文	横	L.R.	ミガキ	スヌ	スヌ	
713	NP48	C	4-c	鉢					三叉状入罫文	横	L.R.	ミガキ	スヌ	スヌ	
714	NN48	B	4-c	鉢					三叉状入罫文+平行枕線	横	L	横	?	スヌ	
715	NO48	B	4-c	鉢					平行枕線+列文	横	L	横	ナデ	スヌ	
716	NQ48	A	4-c	鉢					三叉状入罫文	横	L.R.	ミガキ	スヌ	スヌ	
717	NO48	A	4-c	鉢					重ね身+二叉文	横	L	横	ミガキ	スヌ	
718	NO48	A	4-c	鉢					玉掛け文	横	L.R.	ミガキ	スヌ	スヌ	
719	NO48	B	4-c	鉢					唐草蔓+網文	横	L.R.	ミガキ	スヌ	スヌ	

第128図 捨て場2 4-c層出土田群土器(4)



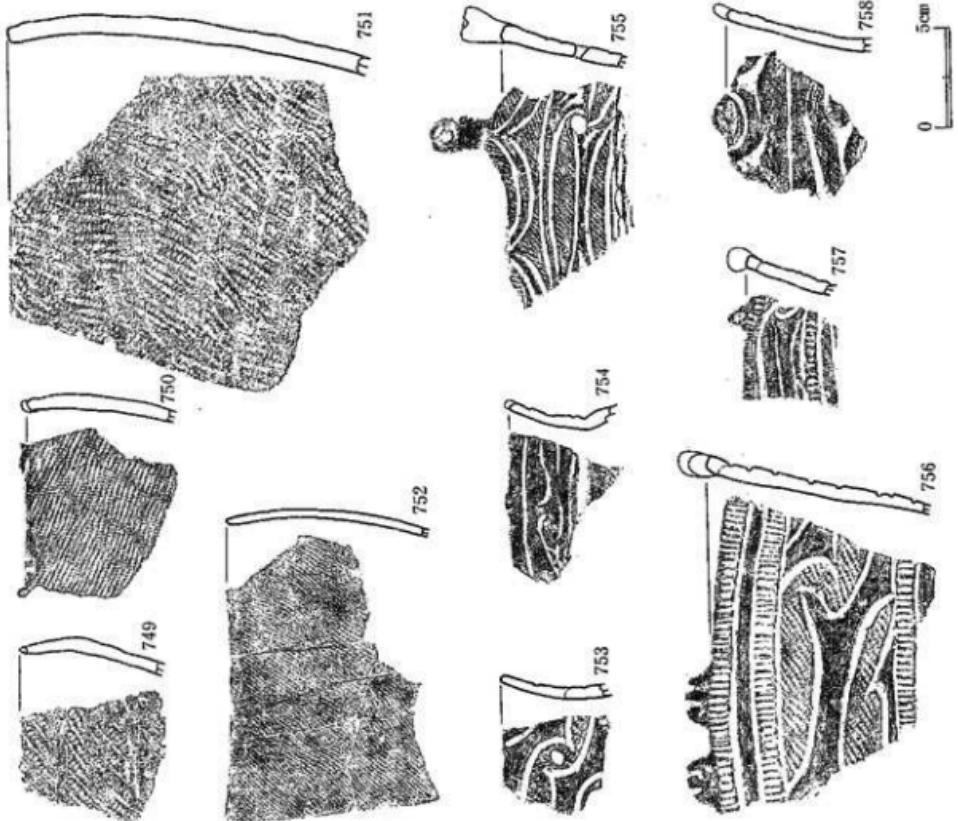
番号	出土地点	小区	層	器種	分類	口径	底径	高さ	文	標	輪郭線	底状	内面調査	外側形	内側形	出発地
720	NO48	B	4-c	浅鉢・皿					平行波線+ミガキ		細	ミガキ	一	ミガキ	ミガキ	
721	NP48	D	4-c	浅鉢・皿					列点文+蜜形容		細	ミガキ	一	ミガキ	ミガキ	
722	NO48	C	4-c	浅鉢・皿					列目+入輪周状文(?)		細	ミガキ	一	ミガキ	ミガキ	
723	NP48	B	4-c	浅鉢・皿					列目+平行波線		細	ミガキ	一	ミガキ	ミガキ	
724	NP47	B	4-c	浅鉢・皿					列点文		細	ミガキ	スス	スス	スス	
725	NO48	B	4-c	浅鉢・皿					列目+蜜形容		細	ミガキ	一	ミガキ	ミガキ	
726	NO48	B	4-c	浅鉢・皿					列目+蜜形容		?	?	ミガキ	ミガキ	ミガキ	
727	NO48	C	4-c	浅鉢・皿					二叉状入屈文+平行波線		不整	ミガキ	一	ミガキ	ミガキ	
728	NO48	C	4-c	浅鉢・皿					1横筋列目		?	?	一	ミガキ	ミガキ	
729	NO47	B	4-c	浅鉢・皿					口輪周列		細	ミガキ	一	ミガキ	ミガキ	
730	NO48	B	4-c	浅鉢・皿					ミガキ		?	?	ミガキ	ミガキ	ミガキ	
731	NO48	D	4-c	浅鉢・皿					ミガキ		?	?	ミガキ	ミガキ	ミガキ	
732	NP48	4-c	浅鉢・皿						平行波線+蜜文		LR	精	ミガキ	ミガキ	ミガキ	

第129図 捨て場2 4-c層出土田土器(5)



番号	出土地点	小区	層	器種	分類	口径	底径	高さ	文様	環状	瓶	片口瓶	出筋	鉢形
733	NP48	C	4-c	壺洗・口					内波文	L, R	横	ミガキ		
734	NP48	D	4-c	壺洗・口					網目文(?)	L	横			
735	NR48	C	4-c	壺洗・口					平行波線文(赤色顔料)			ミガキ		
736	NO48	D	4-c	壺洗・口								ミガキ		
737	NO48	C	4-c	壺洗・口								ミガキ		
738	NO47	D	4-c	壺洗・口								ミガキ		
739	NO48	B	4-c	壺洗・口					手形状文			ミガキ		
740	NO48	B	4-c	壺洗・口					菊文(ミガキ)			ミガキ		
741	NR48	D	4-c	壺洗・口					網目文			ミガキ		
742	NO48	A	4-c	壺洗・口								ミガキ		
743	NR48	C	4-c	壺洗・口					平行波線+菊文			ミガキ		
744	NT51	D	4-b	深鉢					小波状口縁、波文	L, R	横			
745	NR51	D	4-b	深鉢								ナデ	スヌ	
746	NR49	D	4-b	深鉢								ナデ	スヌ	
747	NO48	A	4-b	深鉢					網目文+平行波線	L, R	横	ナデ	スヌ	スヌ
748	NO49	C	4-b	深鉢					網目文+斜縫、ミガキ	L, R	横	ナデ	スヌ	

第130図 捨て場2 4-c層(6)・4-b層(1)群土Ⅲ群土器(1)

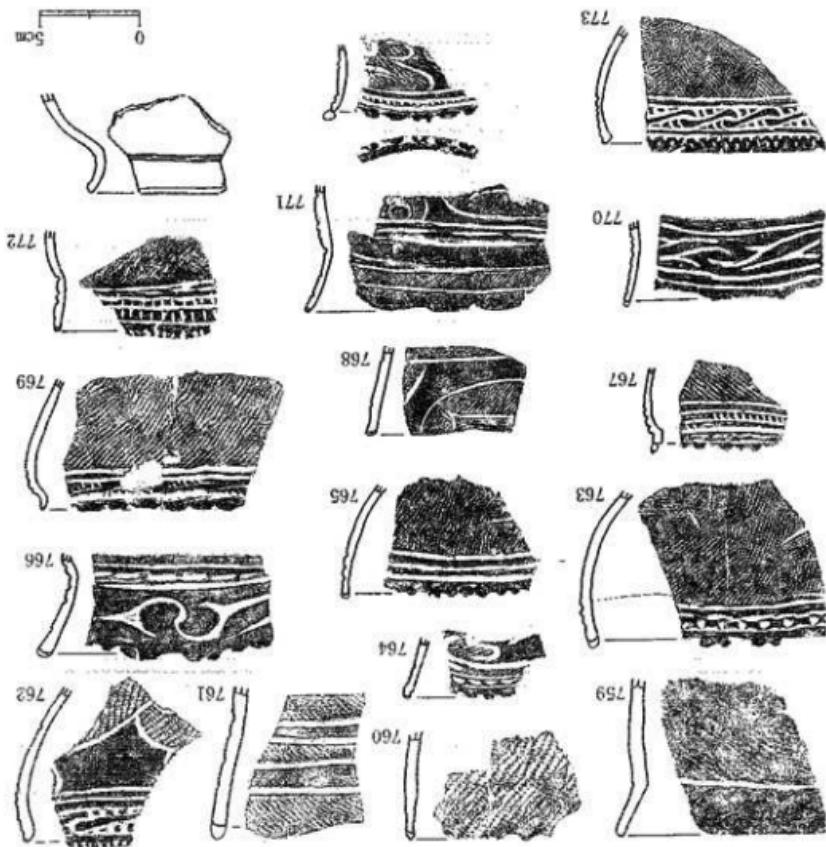


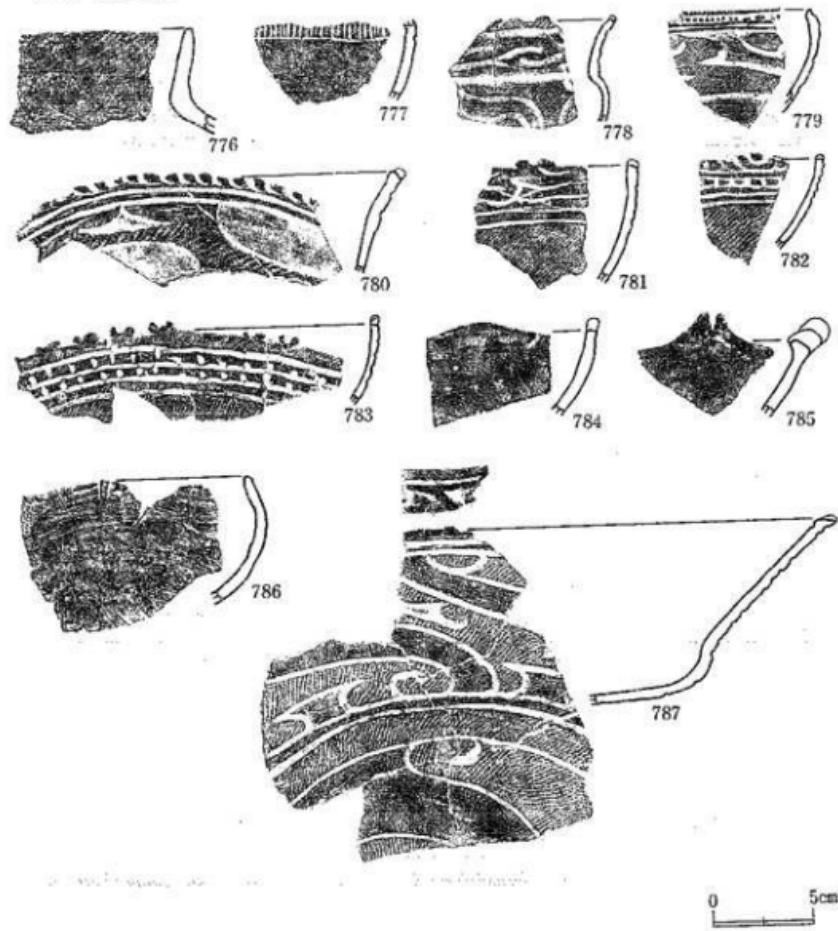
番号	出土地点	層	断面	分類	口径	底径	高さ	性質	形	測定者	測定日	備考
749	M(6.60)	C 4-b	直筒					陶文	筒	ミガキ	3.2.5	
750	25060	C 4-b	直筒					陶文	筒	ミガキ	3.2.5	
751	M746	D 4-b	直筒					陶文	筒	ミガキ	3.2.5	
752	M750	D 4-b	直筒					陶文	筒	ミガキ	3.2.5	
753	M760	C 4-b	直筒					陶文	筒	ミガキ	3.2.5	
754	S706	A 4-b	直筒					二重弦文	筒	ミガキ	3.2.5	
755	M049	D 4-b	直筒					小底收斂+人頭形鉢文	筒	ミガキ	3.2.5	
756	S760	C 4-b	直筒					肩縫+人頭形鉢文	筒	ミガキ	3.2.5	
757	M049	D 4-b	直筒					肩縫+人頭形鉢文	筒	ミガキ	3.2.5	
758	M749	D 4-b	直筒					輪文+三足丸入脚	筒	ミガキ	3.2.5	

第131図 挖て場2 4-b層出土土器(2)

第132图 措2-4-6层出土陶器(3)

器物种类	器形	纹饰	尺寸	说明
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	766 NQ98 A 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	767 NQ98 B 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	768 NQ98 C 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	769 NQ98 D 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	770 NQ98 E 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	771 NQ98 F 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	772 NQ98 G 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	773 NQ98 H 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	774 NQ98 I 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	775 NQ98 J 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	776 NQ98 K 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	777 NQ98 L 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	778 NQ98 M 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	779 NQ98 N 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	780 NQ98 O 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	781 NQ98 P 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	782 NQ98 Q 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	783 NQ98 R 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	784 NQ98 S 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	785 NQ98 T 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	786 NQ98 U 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	787 NQ98 V 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	788 NQ98 W 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	789 NQ98 X 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	790 NQ98 Y 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	791 NQ98 Z 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	792 NQ98 A 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	793 NQ98 B 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	794 NQ98 C 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	795 NQ98 D 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	796 NQ98 E 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	797 NQ98 F 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	798 NQ98 G 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	799 NQ98 H 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	800 NQ98 I 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	801 NQ98 J 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	802 NQ98 K 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	803 NQ98 L 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	804 NQ98 M 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	805 NQ98 N 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	806 NQ98 O 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	807 NQ98 P 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	808 NQ98 Q 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	809 NQ98 R 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	810 NQ98 S 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	811 NQ98 T 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	812 NQ98 U 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	813 NQ98 V 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	814 NQ98 W 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	815 NQ98 X 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	816 NQ98 Y 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	817 NQ98 Z 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	818 NQ98 A 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	819 NQ98 B 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	820 NQ98 C 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	821 NQ98 D 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	822 NQ98 E 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	823 NQ98 F 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	824 NQ98 G 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	825 NQ98 H 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	826 NQ98 I 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	827 NQ98 J 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	828 NQ98 K 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	829 NQ98 L 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	830 NQ98 M 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	831 NQ98 N 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	832 NQ98 O 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	833 NQ98 P 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	834 NQ98 Q 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	835 NQ98 R 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	836 NQ98 S 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	837 NQ98 T 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	838 NQ98 U 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	839 NQ98 V 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	840 NQ98 W 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	841 NQ98 X 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	842 NQ98 Y 4.5cm 口径
陶罐	深腹罐	绳纹	15.5cm	843 NQ98 Z 4.5cm 口径





番号	出土地点	小区分	層	器種	分類	口径	底径	高さ	文 様	施 工	施 工	内 部 構 造	外 形	材 質
776	NOMB	D	4-5	灰・灰口					ナゲ					
777	NOMB	D	4-5	灰・灰口					菱形					
778	NP48	D	4-5	青・灰口					二段状入縫文	L.R.	横	1万年		
779	NOMB	A	4-5	淡青・青					二段状入縫文	L.R.	横	4万年	赤色地	赤色地
780	NP48	B	4-5	淡青・青					波形文	L.R.	横	1万年		
781	NP48	B	4-5	淡青・青					二段状入縫文+円筒状	L.R.	横	3万年		
782	NP48	B	4-5	淡青・青					斜縫文+斜縫+円筒状	L.R.	横	1万年		
783	NOMB	D	4-5	淡青・青					四段文	L.R.	横	2万年		
784	NOMB	C	4-5	淡青・青								1万年		
785	NOMB	B	4-5	淡青・青								3万年		
786	NOMB	C	4-5	淡青・青								1万年		
787	NOMB	D	4-5	淡青・青					雷形文	L.R.	不詳	3万年		

第133図 挹て場2 4-b層出土田群土器(4)

圖134 圖 片乙 5層出王田舞王(1)

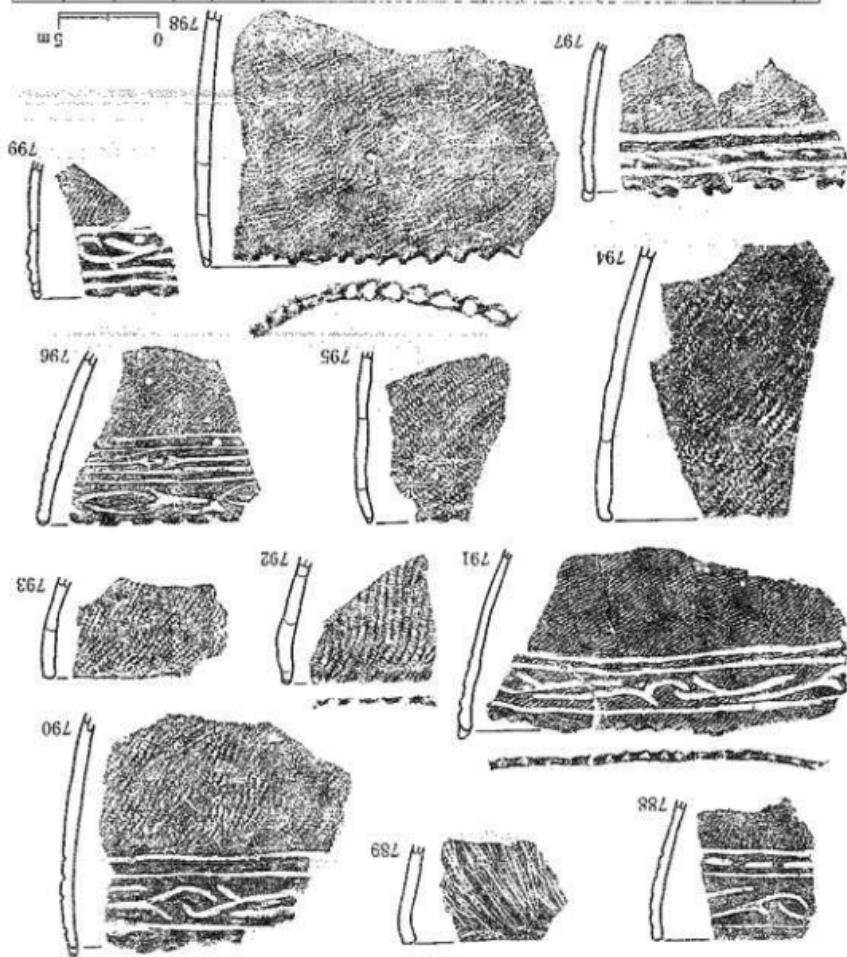
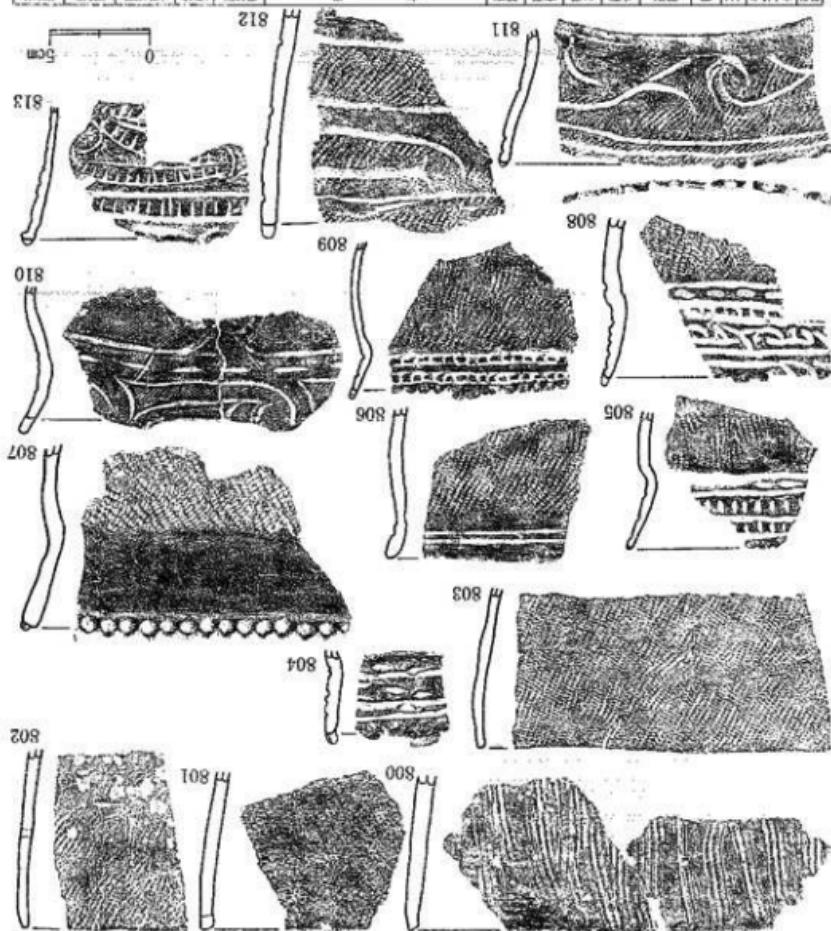
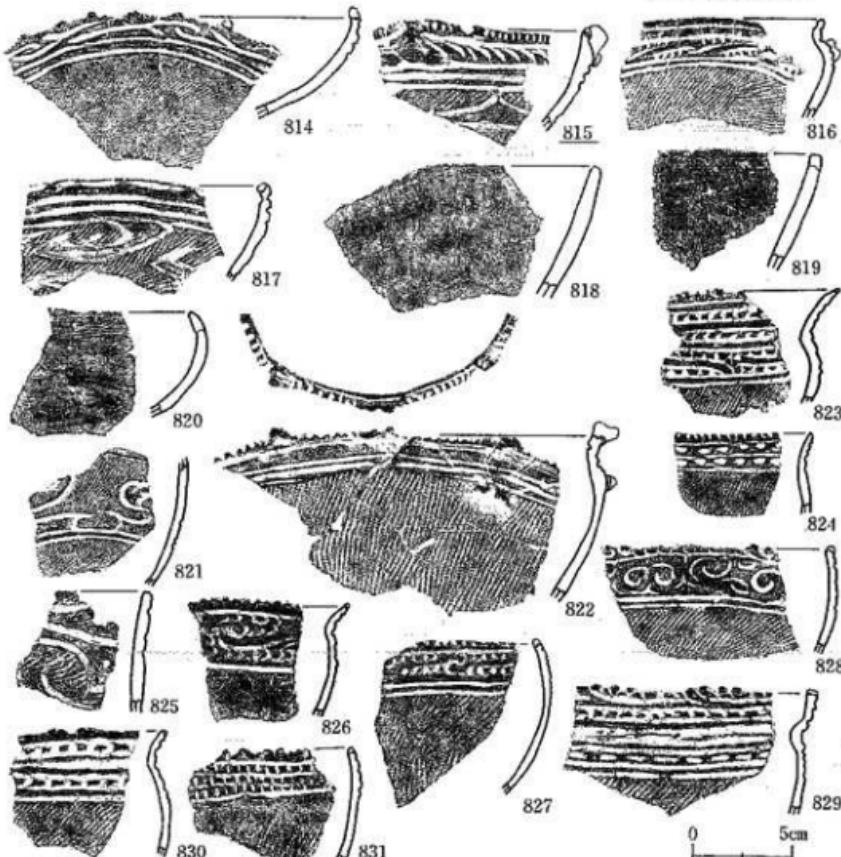


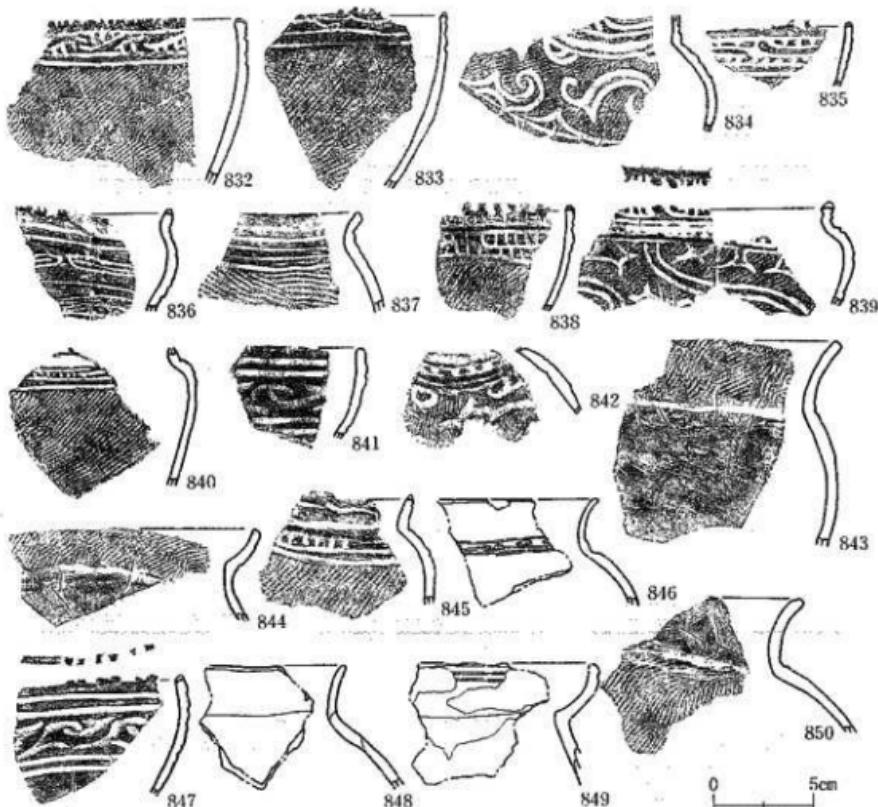
圖135 五層田王頭骨(2)





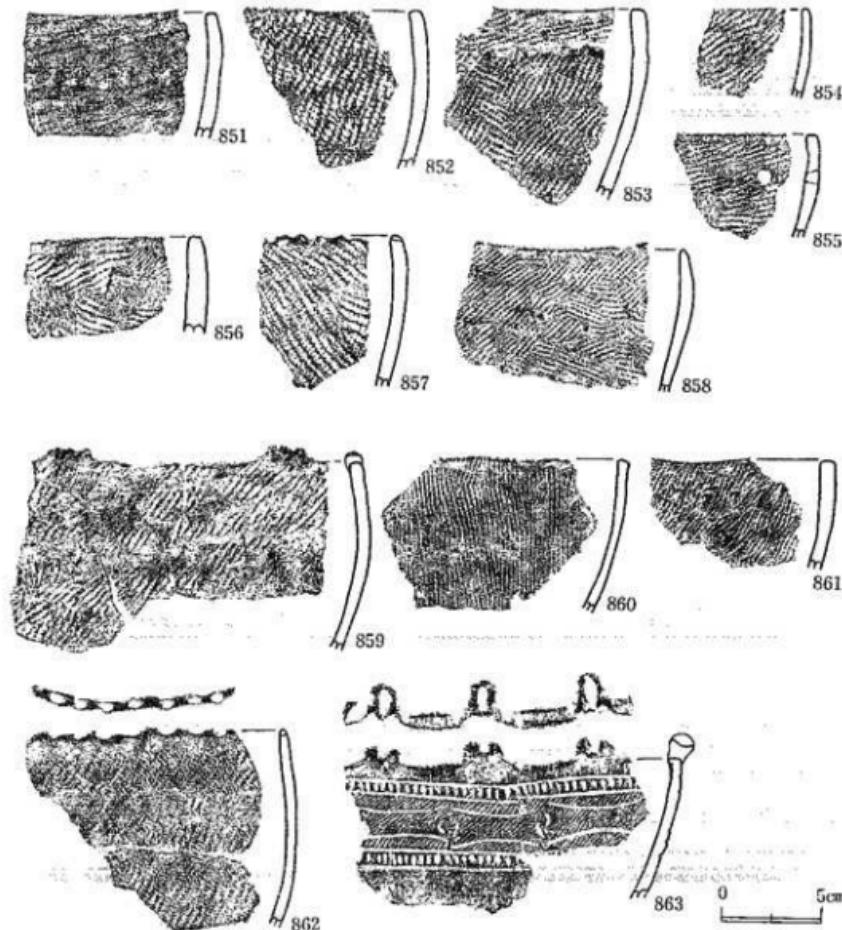
番号	出土地点	小札	器	形態	分類	口径	底径	高さ	文	様	施刻痕	縫隙	内凹凹部	凸出部	開口部
814	NP50	B	5	浅鉢					三叉状入縁文		LR	不鮮	ミガキ		
815	NH51	A	5	浅鉢							LR	穢	ミガキ		
816	NO49	A	5	浅鉢					半曲状文		LR	穢	ミガキ		
817	NO49	A	5	浅鉢					平行状線+點彫文		LR	穢	ミガキ	黒漆?	黒漆?
818															
819	NN49	A	5	浅鉢									ナデ		
820	NN49	A	5	浅鉢									ナデ		
821	NO49	D	5	浅鉢									LR	穢	ミガキ
822	NR51	D	5	浅鉢					口H部に斜口、斜直溝+斜十字割れ		LR	穢	ミガキ	スヌ	
823	NO49	A	5	浅鉢								LR	穢	?	スヌ
824	NR50	B	5	浅鉢					無文		LR	穢	?	スヌ	スヌ
825	NM51	B	6	浅鉢							LR	穢	?		
826	NR51	D	5	浅鉢					半曲状文		LR	穢	?	スヌ	スヌ
827	NR51	D	5	浅鉢					半曲状文		LR	穢	?	スヌ	スヌ
828	NR51	D	5	浅鉢					底部進入縁文+平行状線		LR	穢	?	スヌ	スヌ
829	NP51	B	5	浅鉢									?		
830	SC50	C	5	浅鉢					輪目格		LR	穢	ミガキ	スヌ	スヌ
831	NR50	B	5	浅鉢					輪目格			ナデ	スヌ		

第136図 捨て場2 5層出土田群土器(3)



番号	出土地点	小区	層	器形	分類	口様	底形	蓋高	文 様	周辺形	底形	内部の施	当物類	参考
832	NN48	D	S	浅鉢					斜側紋	LR	縦	ミガキ	スヌ	スヌ
833	NN49	A	S	浅鉢					斜側紋	LR	縦	ミガキ	スヌ	スヌ
834	NR50	D	S	壺+注口						LR	不整	ミガキ		
836	NR50	A	S	壺+注口					平底状文			ミガキ	白地彫	
838	NN45	A	S	壺+注口								ナヂ	スヌ	
837	NR50	B	S	壺+注口					平行状の圓筒彫文	LR	縦	ナヂ		
838	NN48	A	S	壺+注口					斜口器	LR	縦	ナヂ		
839	NN49	D	S	壺+注口						LR	縦	ミガキ	スヌ	
840		C	S	壺+注口					斜側状文	LR	縦	ミガキ	スヌ	スヌ
841	NR51	C	S	壺+注口					平行彫線+「又狀人頭文」	LR?	不整?			
842	NN56	A	S	壺+注口						LR	不整	ナヂ		
843	NP40	B	S	壺+注口						LR	不整	ミガキ		
844	NR50	B	S	壺+注口						LR	縦	ナヂ		
845	ND48	A	S	壺+注口						LR	縦	ミガキ	スヌ	
846	NP51	B	S	壺+注口								ミガキ		
847	NN50	A	S	壺+注口					口唇部山形+「三文狀人頭文」			ミガキ		
848	NO49	A	S	壺+注口					ナヂ					
849	NO48	A	S	壺+注口					ミガキ			ミガキ		
850	NO49	A	S	壺+注口					ミガキ+圓文	LR	縦			

図137(4) 掘て場2 5層出土Ⅲ群土器(4)

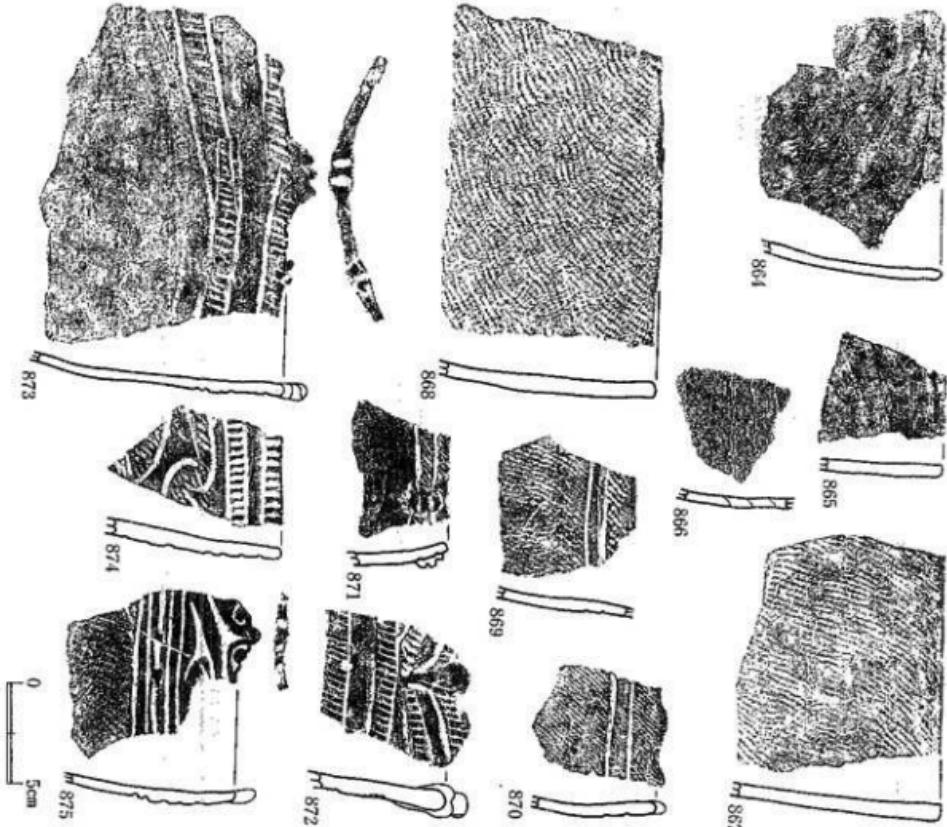


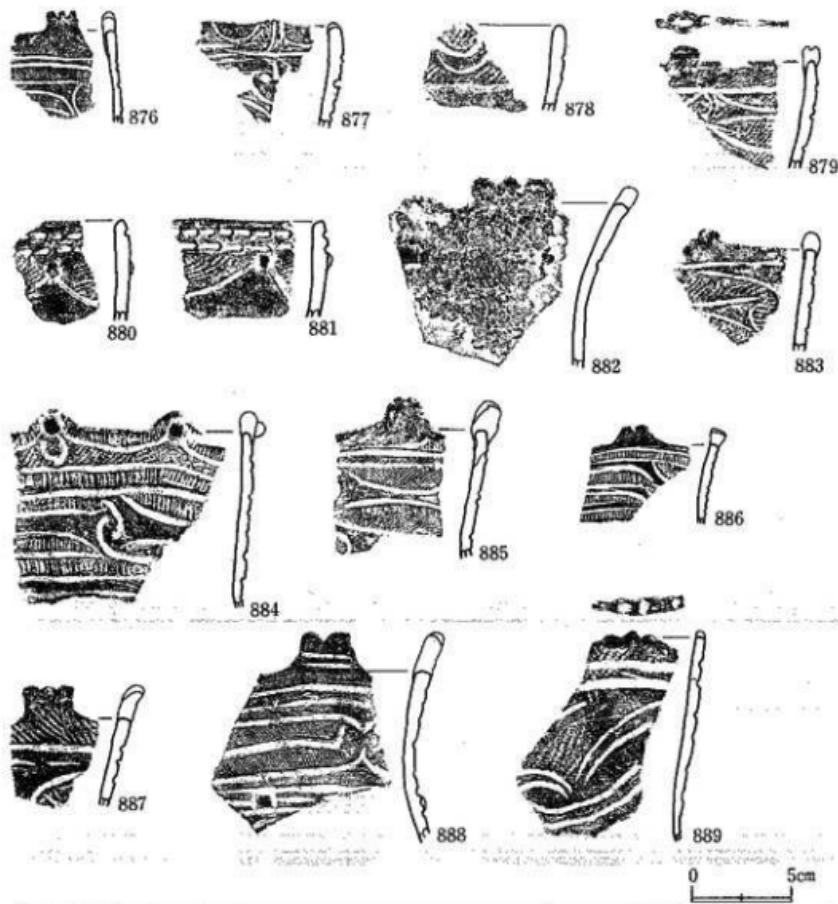
番号	出土地点	小区分	器形	分類	口部	底面	高さ	文様	施釉	施釉	内装の跡	形状	状態
851	NO46	B	6-a	深鉢				ミガキ			ミガキ	スヌ	
852	NO47	H	6-a	深鉢				織文	LR	横		スヌ	
853	NO48	L	6-a	深鉢				織文	LR	不整	ナデ	スヌ	
854	NP47	B	6-a	深鉢				織文	LR	横		スヌ	
855	NP47	B	6-a	深鉢				織文	LR	横		スヌ	
856	NO48	H	6-a	深鉢				織文	L	横			
857	NP47	A	6-a	深鉢				織文	RL	横	ミガキ		
858	NP48	B	6-a	深鉢				織文	RL	不整	ミガキ		スヌ
859	NO48	D	6-a	深鉢				小波状口縁	L	横	ナデ	スヌ	スヌ
860	NO47	B	6-a	深鉢					RL	斜	ナデ	スヌ	
861	NO48	A	6-a	深鉢					LR	横	ナデ		
862	NO48	A	6-a	深鉢				口縁に突起	LR	横	ミカモ	スヌ	スヌ
863	NM47	D	6-a	深鉢				小波状口縁	LR	横	ナデ	スヌ	スヌ

第138図 捨て場2 6-a層出土III群土器(1)

第139図 挿て場2 6-a層出土土器(2)

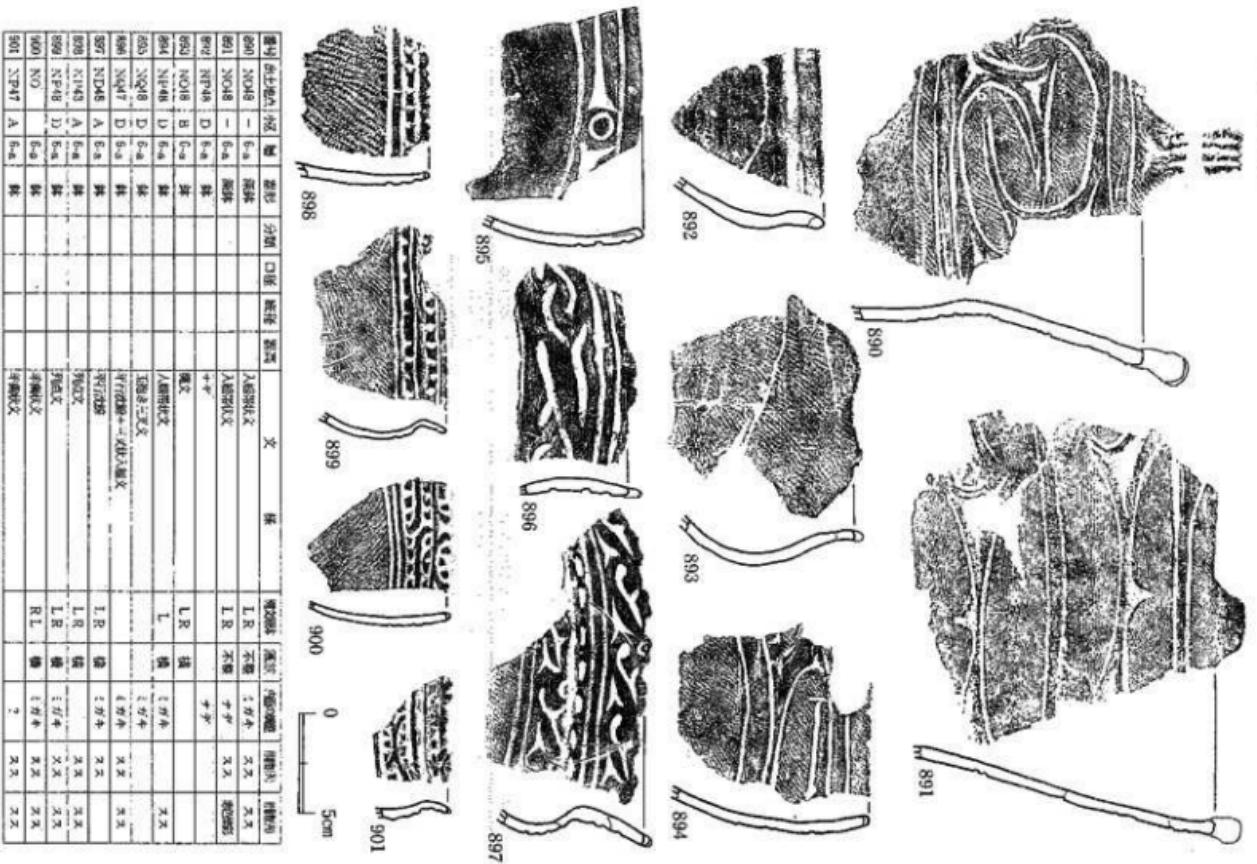
866	母母母	母母母	母母母	母母母	母母母	母母母	母母母	母母母
867	NOMAR	D	6-4	兩株	兩株	兩株	兩株	兩株
868	NOMAR	A	6-4	兩株	兩株	兩株	兩株	兩株
869	NOMAR	B	6-4	兩株	兩株	兩株	兩株	兩株
870	NOMAR	C	6-4	兩株	兩株	兩株	兩株	兩株
871	NOMAR	D	6-4	兩株	兩株	兩株	兩株	兩株
872	NOMAR	E	6-4	兩株	兩株	兩株	兩株	兩株
873	NOMAR	F	6-4	兩株	兩株	兩株	兩株	兩株
874	NOMAR	G	6-4	兩株	兩株	兩株	兩株	兩株
875	NOMAR	H	6-4	兩株	兩株	兩株	兩株	兩株



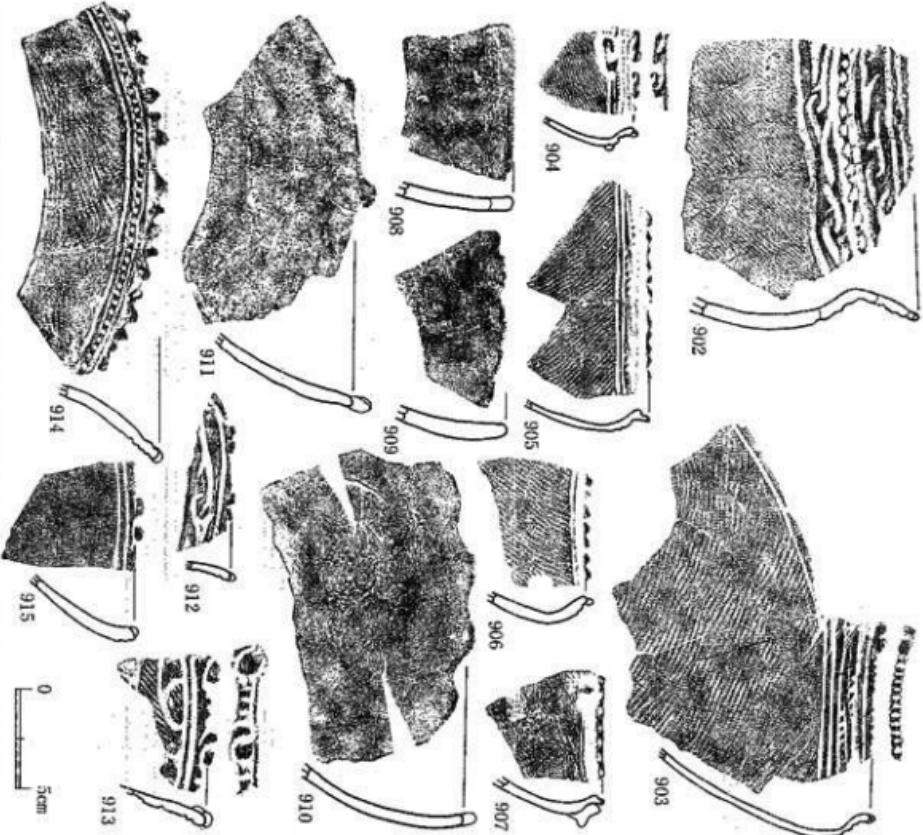


番号	出土地点	小名	層	器形	分類	口径	底径	高さ	文様	周縁部	底端	内部構造	外側面	内側面
876	NO47	D	6-a	深鉢					平行比線+三叉状入組文	RL	横	ミガキ	スヌ	スヌ
877	NO48	D	6-a	深鉢					平行比線+三叉状入組文	?	?	ミガキ	スヌ	
878	NK47	D	6-a	深鉢						?	?	ナデ	スヌ	
879	NK47	A	6-a	深鉢						LR	横	ナデ	スヌ	
880	NP48	D	6-a	深鉢					列波文	LR	横		スヌ	
881	NO48	D	6-a	深鉢					列波文	LR	横		スヌ	
882	NO48	B	6-a	深鉢					外縁にスヌが厚き3ミリほど付着	?	?	ミガキ	スヌ	スヌ
883	NO48	C	6-a	深鉢					入組波状文	LR	横	?	スヌ	
884	NO48	B	6-a	深鉢					入組波状文	LR	横			
885	NK47	D	6-a	深鉢					入組波状文	L	横	ナデ		
886	NO48	D	6-a	深鉢					入組波状文		ミガキ	スヌ	スヌ	
887	NP48	A	6-a	深鉢					入組波状文	RL	横		スヌ	スヌ
888	NO48	D	6-a	深鉢					入組波状文	RL	横	ミガキ	スヌ	
889	NO48	D	6-a	深鉢					入組波状文	R?	横?	ミガキ	スヌ	

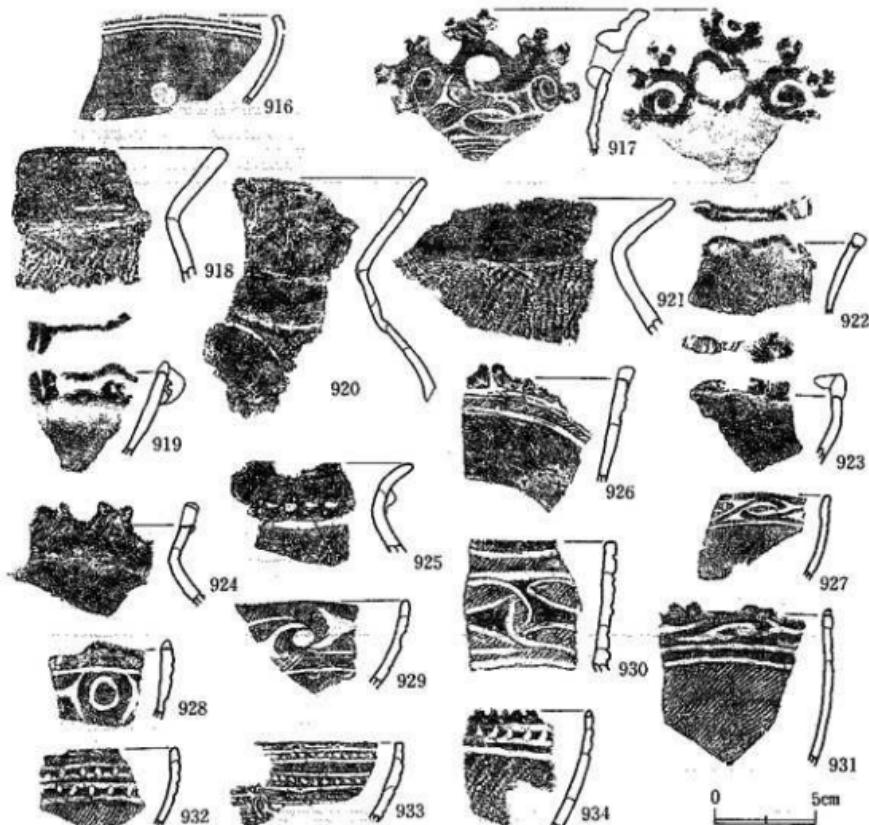
第140図 排て場2 6-a層出土Ⅲ群土器(3)



第141図 柄て場2 6-a層出土Ⅲ群土器(4)

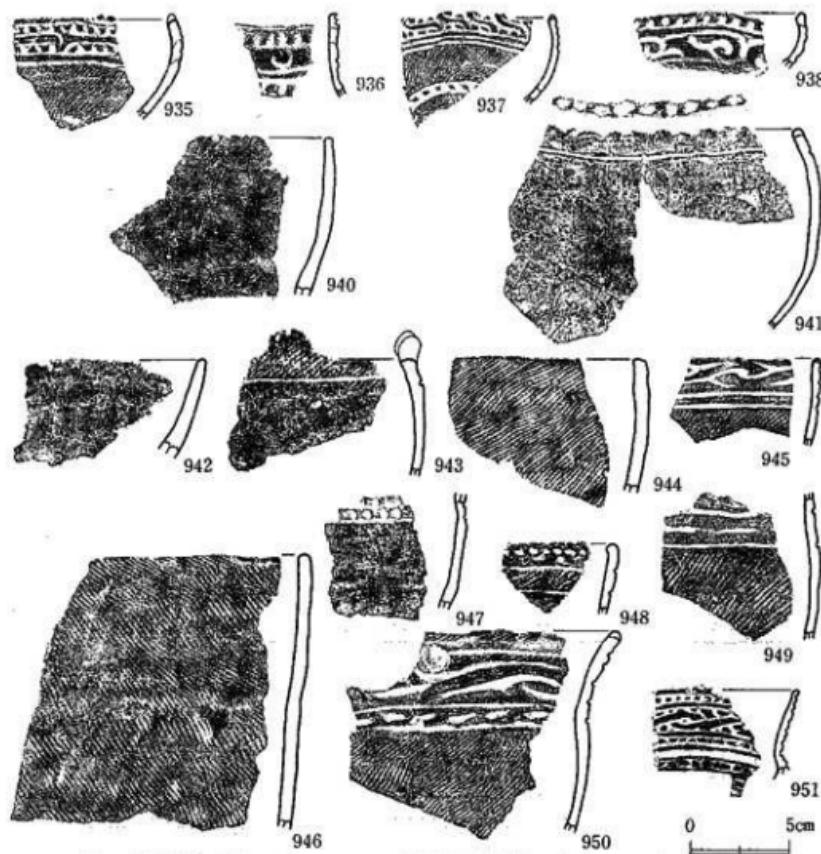


第142図 楊廷場2 6番層出土瓦器(5)



番号	出土地點	小区	層	器形	分類	口径	底径	高さ	火	様	裏面焼	施釉法	内面装飾	外側装飾	特別記
916	NK47	D	6-a	浅鉢・皿					平行沈線+ミガキ				ナデ	赤色装飾	朱色装飾
917	NP48	D	6-a	浅鉢・皿					把(?)、通し(円孔)、三叉状形凸、三叉文	L	横		ミガキ		
918	NO48	C	6-a	壺・注口					ナデ+網文	L	横		ナデ		
919	NO48	B	6-a	壺・注口					ミガキ				ミガキ		
920	NO47	B	6-a	壺・注口					ミガキ				ミガキ		
921	NO47	D	6-a	壺・注口					ナデ+網文	LR	横				
922	NO48	B	6-a	壺・注口					ナデ				ナデ		
923	ND48	D	6-a	壺・注口					ミガキ				ナデ		
924	NM47	D	6-a	壺・注口					ミガキ				ナデ		
925	NO47	B	6-a	壺・注口					ナデ				ナデ		
926	NO48	B	6-a	壺・注口					ミガキ				ミガキ		
927	NO48	C	6-a	壺・注口					ナデ+網文	LR	横		ミガキ		
928	NP48	D	6-a	壺・注口					三文						ヌヌ
929	NP48	D	6-a	壺・注口					三文	LR	横		ミガキ		
930	NO48	C	6-a	壺・注口					人面像状文、下端にアスフカル付帯	LR	横				ヌヌ
931	NK47	A	6-a	壺・注口					玉泡き三叉文(?)	LR	横		ミガキ	ヌヌ	ヌヌ
932	NK47	B	6-a	壺・注口					鈍文	LR	横		ミガキ		
933	NO48	C	6-a	壺・注口					鈍文				ナデ		
934	NP47	A	6-b	壺・注口					鈍文	LR	横		ナデ	ヌヌ	ヌヌ

第143図 挿て場2 6-a層出土田群土器(6)



番号	出土地点	小区	器形	分類	口沿	底接	表面	文様	肩刃跡	底筋	内面の溝	側面の溝	側面の
935	NP46	D	6-a	盤・注口				「B.波紋+平行状文+繩文」	LR	横	ミガキ		
936	NP46	D	6-a	盤・注口				「B.波紋+平行状文」			ナデ		
937	NP47	A	6-a	盤・注口				「B.波紋+平行状文+平行弦線+繩文+斜目」	LR	横	ミガキ		
938	NO		6-a	盤・注口				入組三叉文			ミガキ		
940	NM48	D	6-c	鉢				ナデ			ナデ	スス	
941	NM47	D	6-a	鉢				口縁部に斜み、ナデ+芯線			ナデ		
942	NM48	D	6-c	盘・注口				ナデ			ナデ		
943	NM48	D	6-c	深鉢				山形突起部に斜み、繩文+花壁+ミガキ	L	横	ナデ		スス
944	NM48	D	6-c	鉢?				繩文	L	横	ミガキ	スス*	
945	NM48	D	6-a	歩・注口				二叉状入組文+平行弦線+繩文	LR	横	ミガキ	スス	スス
946	NM48	D	6-c	深鉢				繩文	RL	横	ナデ	スス	
947	NM48	D	6-c	深鉢				列波文+ナデ			ナデ		
948	NM48	D	6-c	鉢?				列波文+平行弦線+繩文	L	横			
949	NM48	D	6-c	鉢?				平行弦線+繩文	LR	横	ミガキ		
950	NM48	D	6-c	深鉢				波状弦線+平行弦線+三叉状入組文+繩文	LR	横	ミガキ	スス	スス
951	NM48	D	6-c	深鉢				半曲状文			ミガキ		

第144図 挟て場2 6-a(7)、6-c層出土陶器

ファルトで補修している。

523は台付鉢（B類）で、同一器形の土器はSK63から、晩期初めの深鉢とともに、出土している。以上のように6-a層からは後期後半～晩期中葉までの土器が出土している。この他、土偶（1022・1026）・円盤状土製品（1032・1033）・腕輪（1051・1052）が出土している。

（2）石器

各層毎の器種別出土数は第4表に示した。調査区内から出土した石器類の39%（2,202点）がこの捨て場に集中する。

層別の出土数では、5層が最も多く、次いで4-c層と4-b層、さらに4-a層と続き、6-c層はわずかに31点である。礫を除いた石器2,117点のうち46%は剝片で、石器と石核は1,146点である。

捨て場1と比べて、模型石匙、微小剝離痕のある剝片、2次加工のある剝片、剝片の比率は低く、凹石、石皿、岩版、円盤状石製品の比率が高い。また、出土量は少ないが、石鍤、打製石斧、砥石、敲打痕のある礫などは捨て場1では出土せず、捨て場2でのみ出土している。すなわち、捨て場1出土石器は剝片石器、剝片が多く、捨て場2では、礫石器類が比較的多く出土したといえる。特に岩版や円盤状石製品がきわめて多い。このような、石器の出土状況は、2つの捨て場が形成されるに至る背景が異なることに由来するものと考えられる。

捨て場2の中でも器種別、層位別の出土状況には多少の偏りが認められる。以下に各層毎の石器の特徴と層別に比較した特徴を記す。

◎4-a層（第145図）

S74は錐部の先端が欠落している。表裏面ともにつまみ部から錐部までアスファルトが付着している。アスファルトの付着した石錐はこの1点のみである。

この層からは打製石斧、礫器、砥石、擦石が1点も出土せず捨て場2の他の層と異なる。石皿も4点で特に多いわけではない。S81は、盤状の大礫のごく一部のみを使用している。

S78は棒状の円礫の全面に縦方向の刻線がある。刻線礫は捨て場2ではこの1点のみ出土した。

◎4-c層（第146～148図）

磨石、凹石、石皿、岩版、円盤状石製品の比率が高い。微小剝離痕のある剝片、剝片の比率は低い。この層は捨て場2の石器組成の特徴が顕著である。

石皿は14点出土したが、半数が明瞭な土手のある3類である。完形品はない。S90の表面中央部は、平滑に研磨されている。S92は表裏両面に凹部がある。S94は、主に側面にベンガラが付着している。ベンガラを磨りつぶす際に用いられたものであろう。岩版は、図示した4点が出土した。いずれも小片で、泥岩製である。S101は外形が三角形に近く、厚みがやや薄い。

捨て場1の5層出土の第99図S73よりも捨て場2の6-a層出土の第157図S162に近い形態である。

◎4-b層（第149・150図）

5層とともに、捨て場2の各層の中では剝片石器、剝片の比率が比較的高い。石皿と円盤状石製品も多い。S105はつまみ部が長く、この部分にアスファルトが付着している。不定形石器はf類が最も多い。S107はh類で、表面右側にc類、末端側にb類の刃部が作出されている。磨製石斧は1点（S108）のみ出土した。刃部から基部まで縦に欠損部分がある。刃部も使用による剝離痕が著しい。S112は土手をつくり出さず、中央部のみが凹む形態で、4-c層出土のS91などと同類である。S114は4-b層から他の遺物と共に出土した。自然石であるが特異な形態で、他にこのような跡はなく、縄文時代の人々が採集し、使用したものと考えられるので遺物として掲載した。

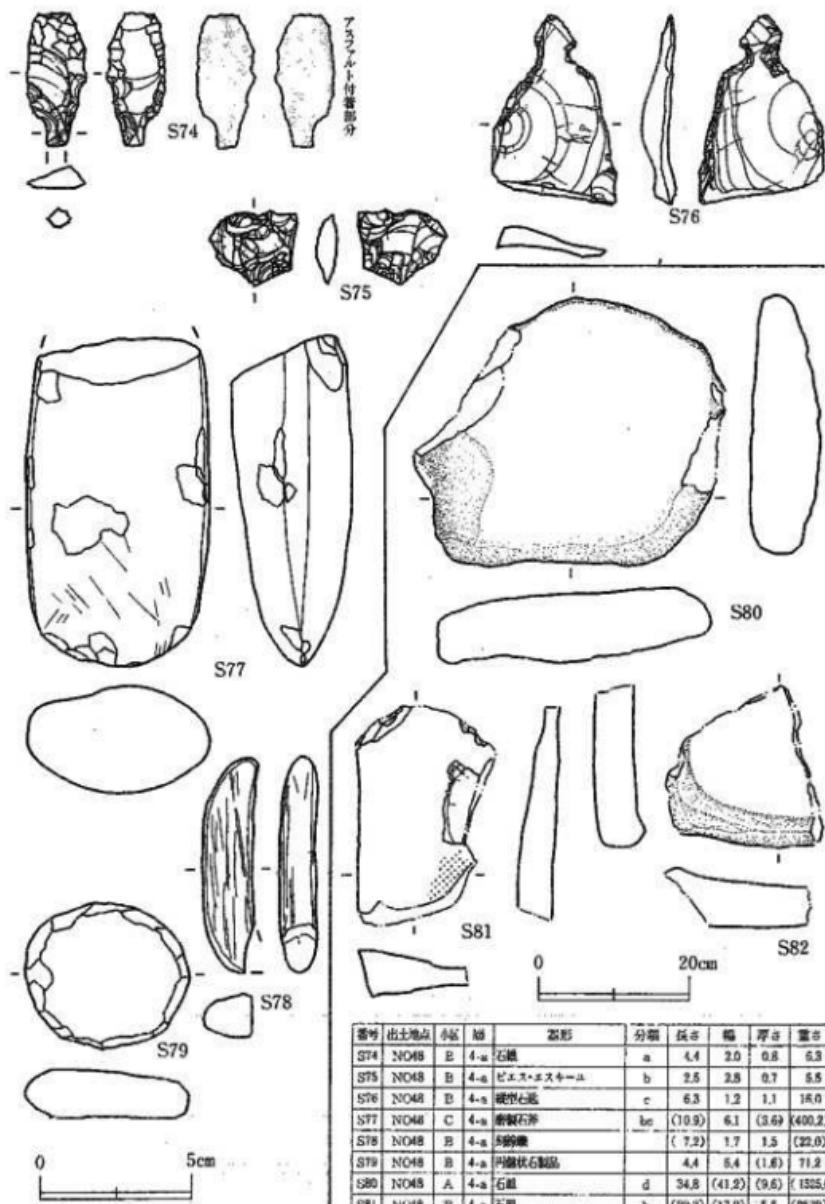
◎5層（第151～155図）

4-b層と同様に剝片石器、剝片が捨て場2の中では比較的多く出土した。また、石皿、石劍、岩版、円盤状石製品も多く、特に岩版は、全出土数の半数が5層出土である。不定形石器は、a類とf類が多い。S120は図の下側に、S122は上側に刃部がある。他の側縁にも二次加工が施されている。S131はバチ形の打製石斧で、基部のくびれ部は両側とも磨滅している。柄に装着して使用したものであろう。S133は大型の石皿で本来は土手が全周するものであろう。裏面の一部も整形のためか平滑に磨られている。岩版はS141が砂岩製の他はすべて軟質の泥岩製である。S141、S142、S143は完形である。S144、S145、S146は同一個体と思われるが、接合しない。S141は側面を面取りし、橢円形に仕上げられている。表裏両面とも刻線のみである。S143は左右非対称で、下部になるほど厚く、出土した岩版の中では、特異である。S145の表面は上部の中心坑から垂下する中心線を軸として左右対称に渦巻文様が描かれていたものと推測される。S137、S139、S140も渦巻文が主モチーフと思われる。S147も表面は中心線を軸として左右対称に近い文様構成であるが、入組文の組み合わせ方向が左右とも同一で、完全な対称とはなっていない。裏面は中心を軸とする点対称の文様構成である。入組文、菱形文は晩期初頭の精製土器の文様と共通する。S136は、石英の自然礫である。4-b層出土のS114と同様に特異な形態で、縄文時代の人々に採集されたものであろう。

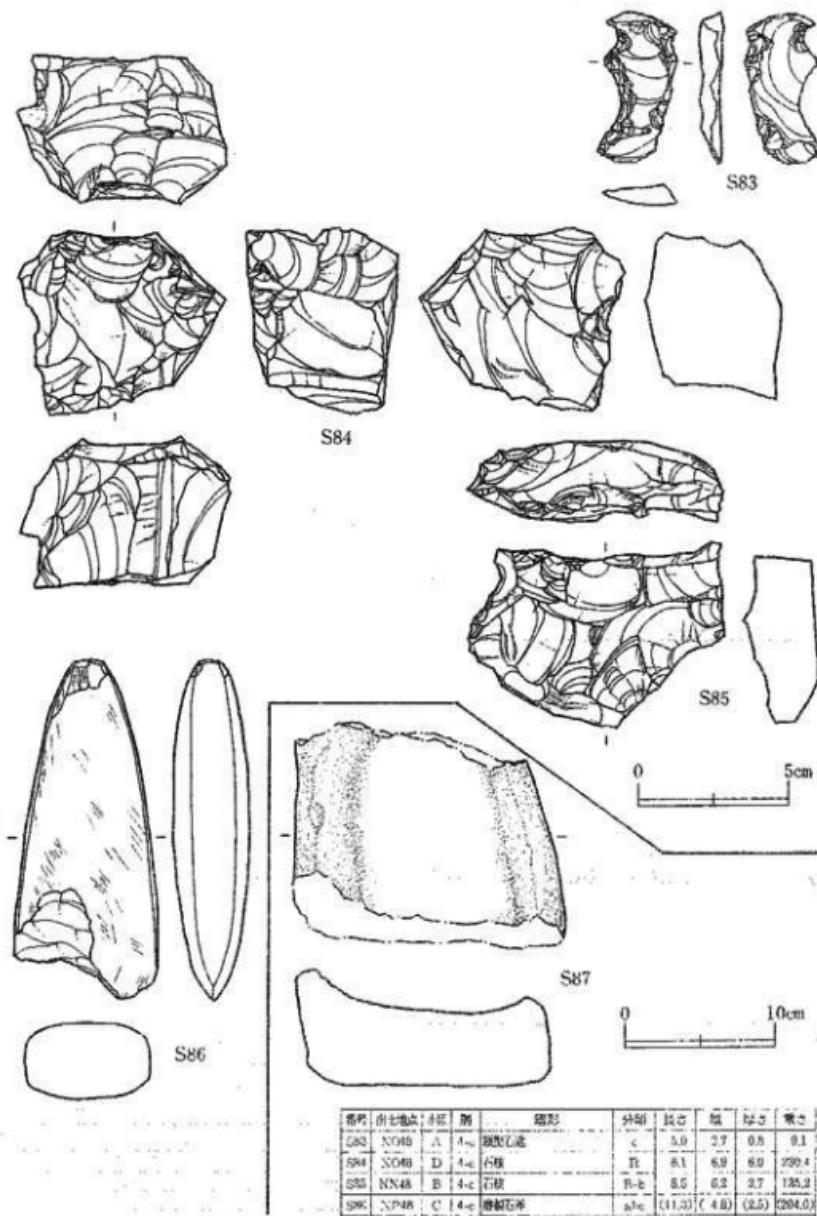
◎6-a層（第156・157図）

剝片石器、剝片が比較的少なく、磨石、凹石、円盤状石製品が多いのは、4-c層とやや共通する。しかし、石皿は3点しか出土せず、4-c層、4-b層、5層とは大きく異なっている。岩版は2点とも刻線による文様がない。

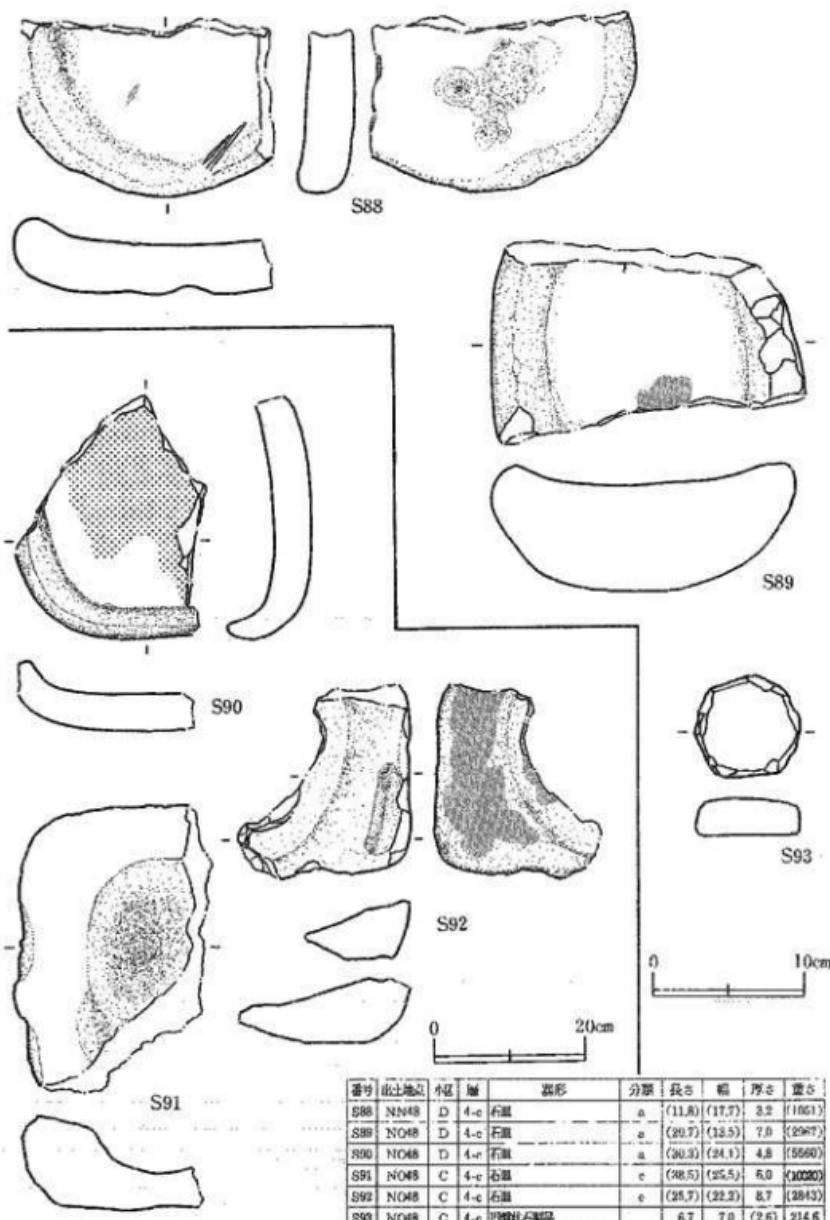
S156は中高石皿である。周囲の土手は一部のみ残存し、それから推測すれば、上面は長さ



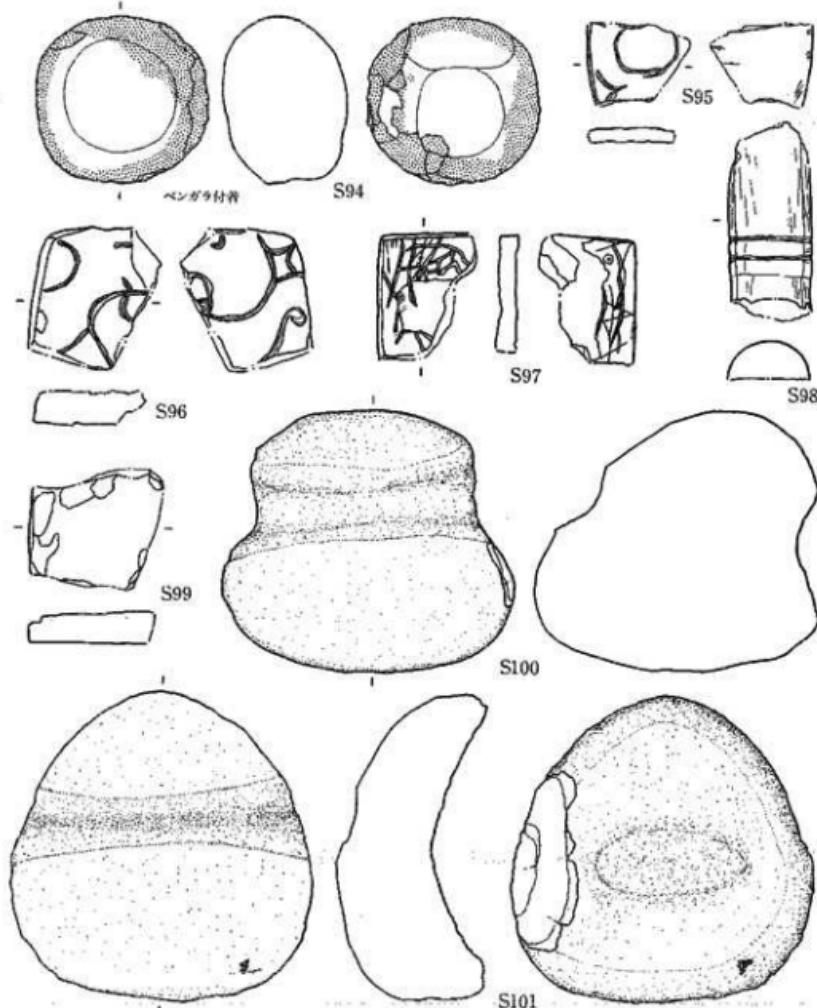
第145図 挖て場2(4-a層)出土石器



第146図 掘て場2(4-c層)出土石器(1)



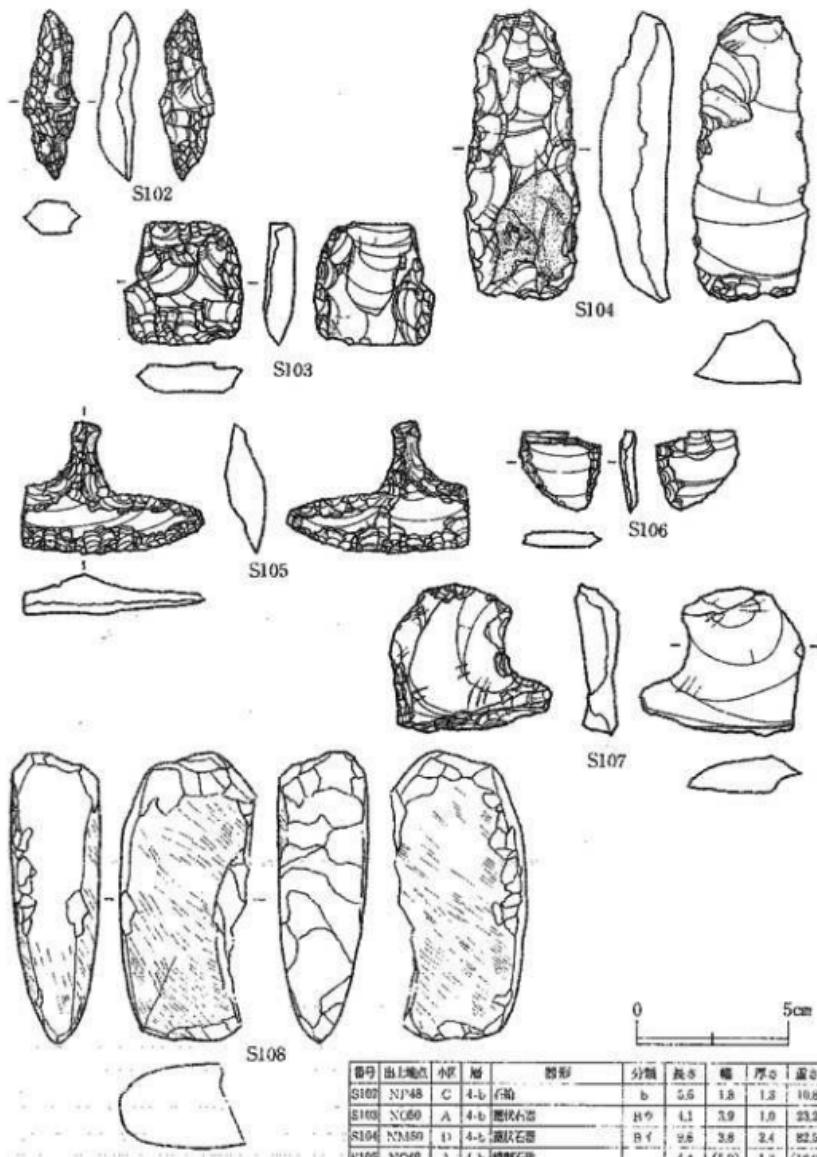
第147図 挿て場2(4-c層)出土石器(2)



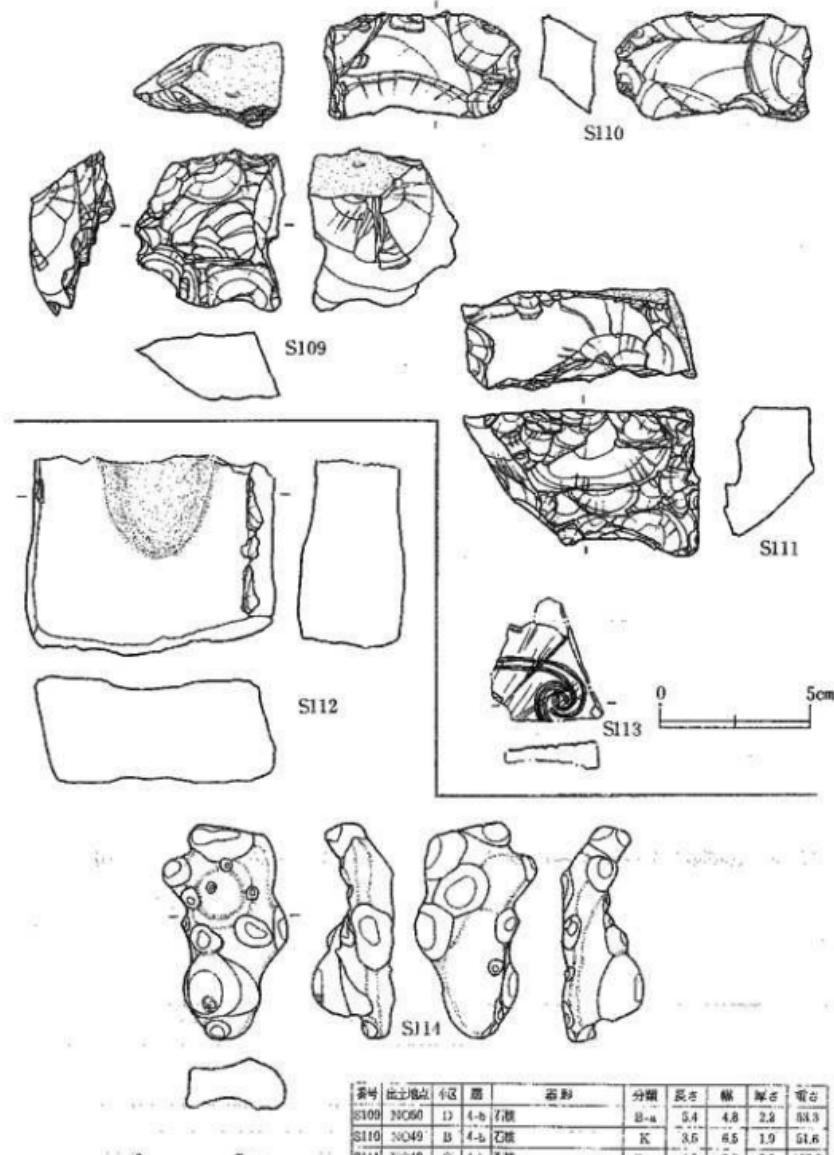
0 5cm

番号	出土地点	小区	層	器形	分類	長さ	幅	厚さ	重さ
S94	N048	C	4-c	磨石		5.5	(3.7)	4.3	(0.71)
S95	N048	D	4-c	岩版	b?	(2.8)	(3.4)	(0.6)	(0.4)
S96	N048	C	4-c	岩版	a?	(5.3)	(4.4)	1.1	(16.6)
S97	N048	A	4-c	岩版	a?	4.3	(3.3)	0.7	(9.8)
S98	N048	-	4-c	石剣	c	(6.6)	2.9	(1.3)	(38.7)
S99	N048	D	4-c	岩版	c	(4.1)	(4.5)	1.1	(21.5)
S100	N148	C	4-c	石冠		8.3	7.4	9.4	1040.1
S101	NP48	-	4-c	圓らのある石器		10.2	9.1	2.6	512.0

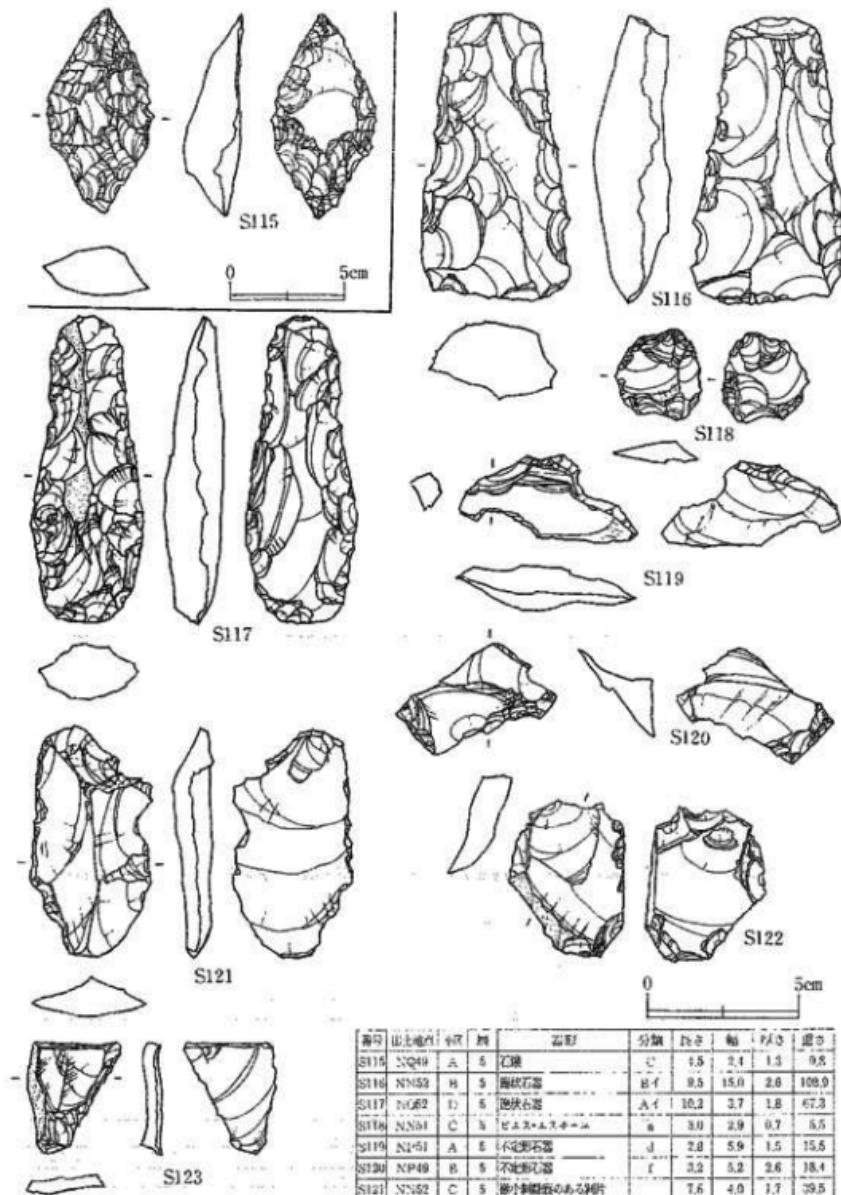
第148図 挖て場2(4-c層)出土石器(3)



第149図 挖て場2(4-b層)出土石器(1)

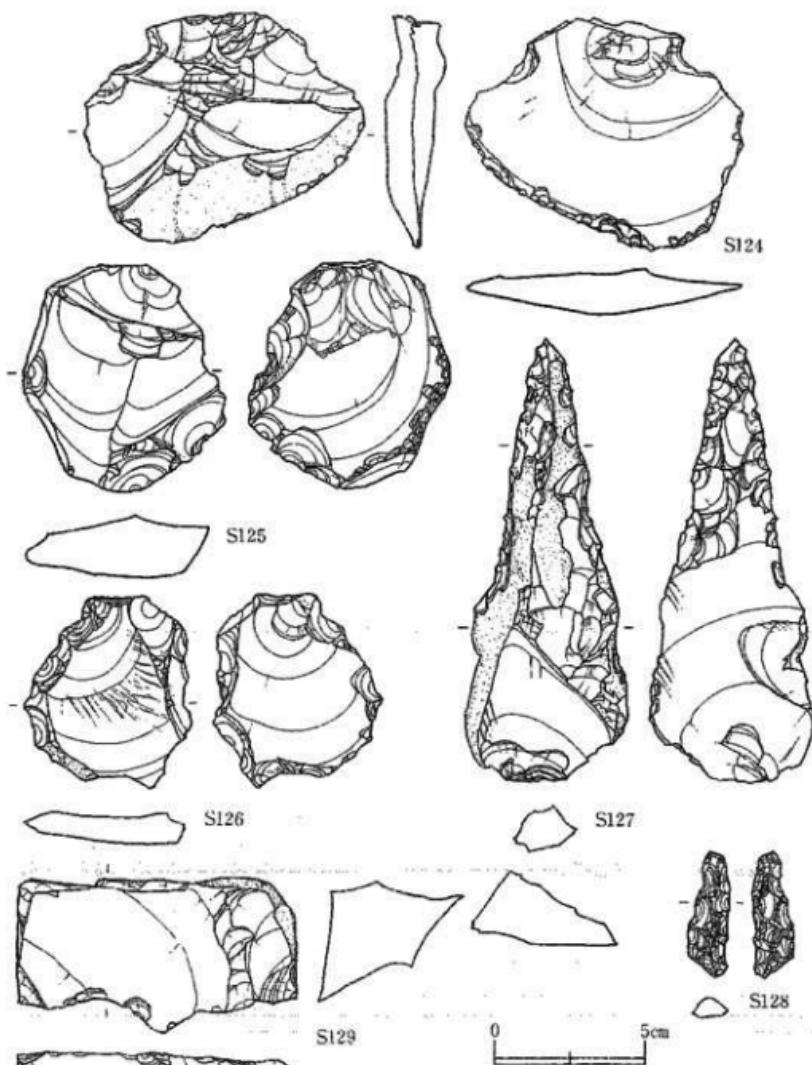


第150図 捜て場2(4-b層)出土石器類(2)



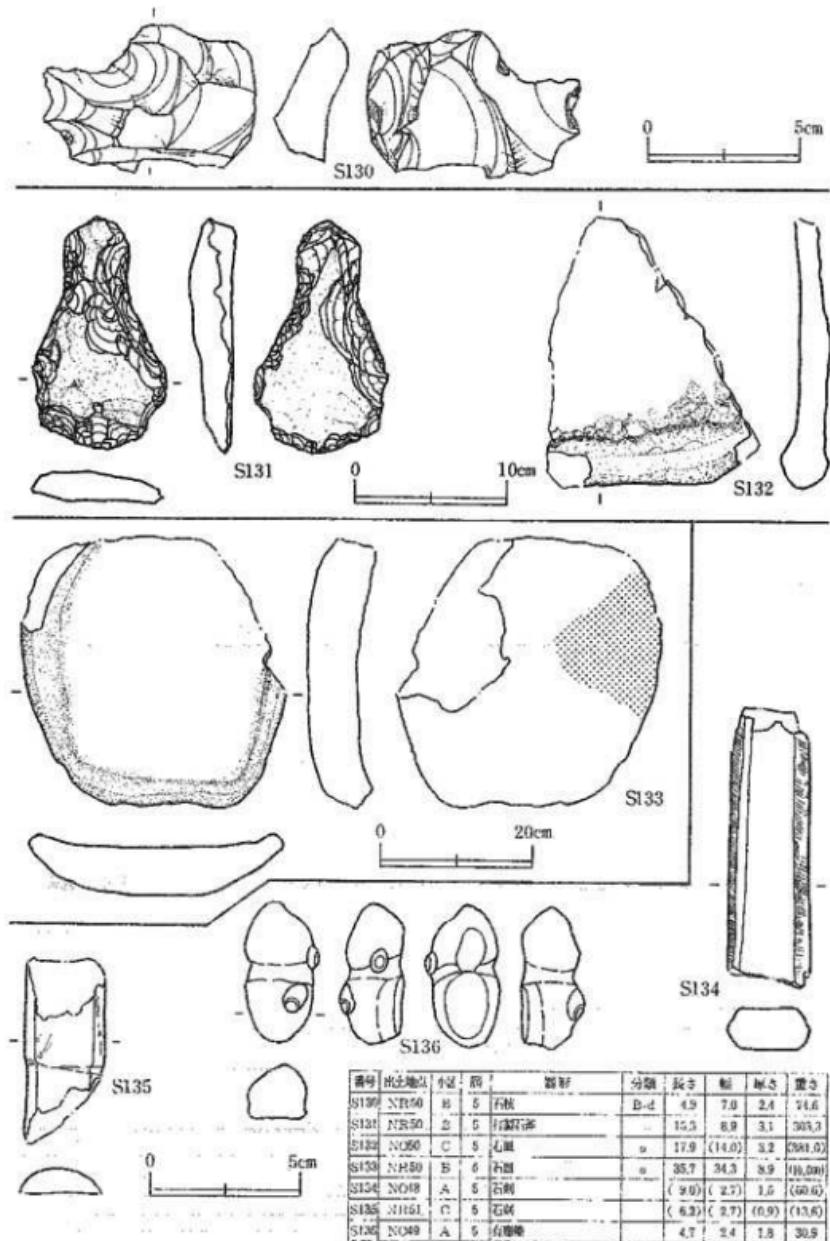
番号	出土場所	層	性	石形	分類	大きさ	幅	厚さ	重さ
S115	NN49	A	5	石核	C	4.5	2.4	1.5	9.8
S116	NN52	B	5	扁状石器	D	9.5	15.0	2.0	108.0
S117	NO62	D	5	逆狀石器	Aイ	10.2	3.7	1.8	67.3
S118	NN41	C	5	ビュヌ・スキー	E	3.0	2.9	0.7	5.5
S119	NI-51	A	E	小形石器	F	2.8	5.9	1.5	15.6
S120	NP49	B	5	不規則石器	G	3.2	5.2	2.6	18.4
S121	NN52	C	5	微小剥離面のある片	H	7.6	4.0	1.7	39.5
S122	NO49	D	5	不定形石器	I	3.1	3.9	1.1	24.9
S123	NP52	A	5	微小剥離面のある片	J	3.7	3.1	0.8	5.0

第151図 捨て場2(5層)出土石器(1)

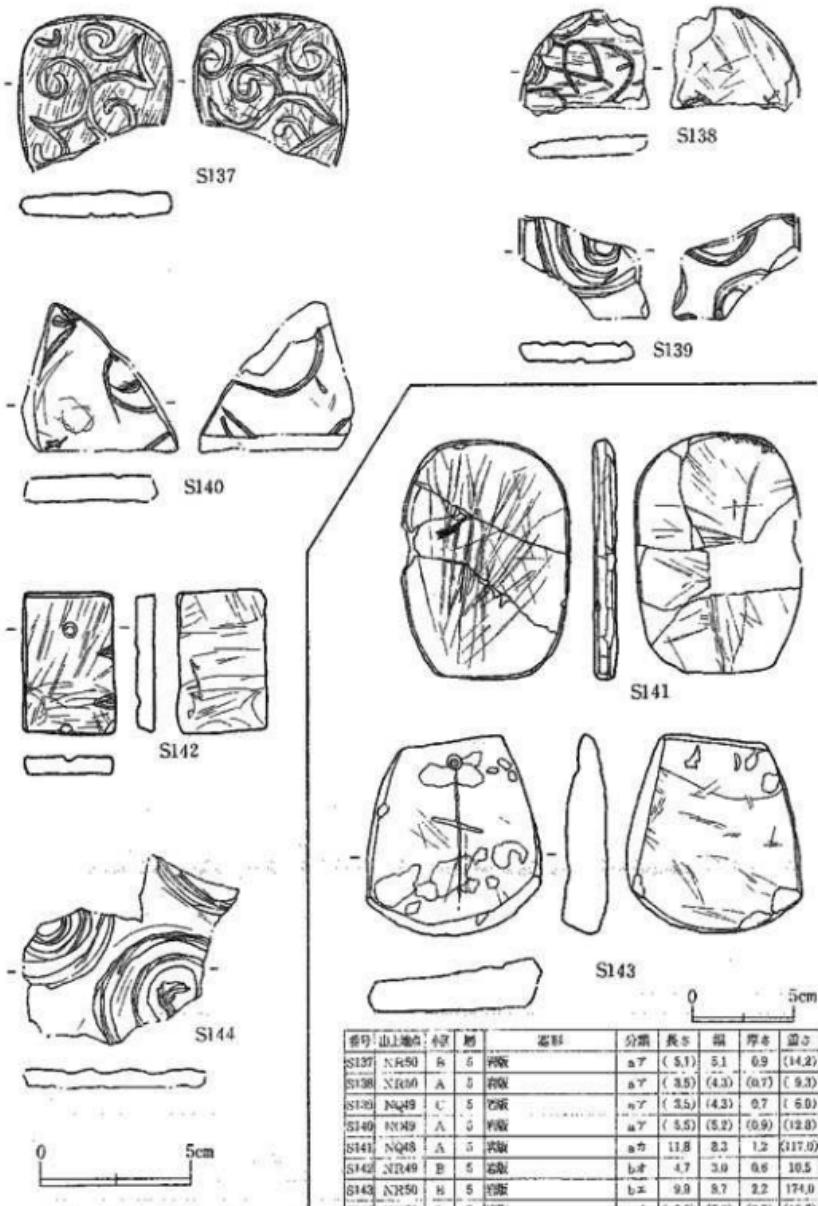


番号	出土地図	小名	圖	器形	分類	長さ	幅	厚さ	重さ
S124	2050	A	5	複合剥離面のある剥片		7.7	9.3	2.8	88.4
S125	NQ40	C	5	二次加工のある剥片	g	7.6	6.8	2.1	103.6
S126	NQ40	C	5	二次加工のある剥片	f	6.1	5.6	1.1	43.9
S127	NQ51	B	5	二次加工のある剥片	r	14.8	5.5	2.8	131.7
S128	NTB51	D	5	二次加工のある剥片	c	4.9	1.4	1.7	4.4
S129	NQ49	C	5	石核	s-b	9.3	5.1	4.1	229.1

第152図 振て場2(5層)出土石器(2)



第153図 捨て場2(5層)出土石器類(3)



第154図 掘て場2(5層)出土石器(4)